

WSS2008R2_2_V07

Network Storage System

ソフトウェアマニュアル

ロジテックツール Ver2.6 対応版

 Windows Storage Server 2008 R2

Logitec

目次

はじめに

1 使用上の注意	1
2 警告	2
3 注意	3
4 よりよくお使いいただくために	5
5 安全にお使いいただくために	6
6 RAID レベルの説明	7

第 1 章 Windows Storage Server 2008 R2 の概要

マルチプラットフォーム対応	8
Windows ネットワークとの親和性	9
SMB2.1 対応	9
ファイルサーバー、プリントサーバー	9
バックアップ、復元、レプリケーション	10
ストレージ管理ツール	10

第 2 章 基本設定/管理機能

Logitech Host Explorer のインストール	12
Logitech Host Explorer について	13
Logitech Host Explorer 経由での管理画面へのアクセスについて	16
ストレージ管理ツールについて	18
ネットワークの設定	20
コンピュータ名変更、ドメイン/ワークグループ参加設定	22
電源 OFF(シャットダウン)方法	24
管理者パスワードの変更	25

第3章 ディスク・ボリュームの管理

RAID 構成の変更	27
暗号化と自動ロック/アンロック設定	30
iSCSI ドライブの構成	65

第4章 共有フォルダの作成・管理

ファイルサーバー機能とは	71
ユーザの作成	71
グループの作成	74
新しい共有フォルダを作成する	78
共有フォルダアクセス権の設定変更(SMB/CIFS)	89
フォルダアクセス権の設定変更(NTFS)	92
共有フォルダアクセス権の設定変更(NFS)	94
クォータ について	96
クォータ の設定(FSRM クォータ/フォルダクォータ)	96
クォータ の設定(NTFS クォータ/ユーザクォータ)	98
ユーザー数制限の設定	100
ファイルスクリーンの管理	103
記憶域レポートの管理	105
ファイル分類管理(FCI)	109
分散ファイルシステム(DFS)について	114
分散ファイルシステム(DFS)のインストール	114
DFS/名前空間の作成	117
DFS/名前空間へのフォルダの追加	120
DFS/レプリケーションの設定	121
WebDAV 共有フォルダの利用	126
WebDAV 利用の準備	126
WebDAV 共有フォルダの作成	134

第5章 バックアップ・メンテナンス

RAID エラーアラートの停止	139
RAID の再構築(ディスクの交換)	141
データフォルダバックアップツール	145
バックアップ(WindowsServer バックアップ)	150
バックアップ用HDフォーマッタ	158
共有フォルダのシャドウコピー(SCSF)	162
Windows Update	164

第6章 その他管理機能・サーバ設定

お知らせメール設定	167
電源設定(スケジュール電源管理/パワーボタン設定)	174
ステータスパネル	179
フォルダアナライザ	181
ナスコール	183
その他設定	185
アプリケーションのインストール	188
プリントサーバー機能	190

第7章 各 OS から共有フォルダへのアクセス

Windows 8.1/8/7/Vista からのアクセス(SMB 共有)	194
WindowsXP からのアクセス(SMB 共有)	195
Windows2000 からのアクセス(SMB 共有)	196
Windows(Storage)Server2008/R2 からのアクセス(SMB 共有)	197
Windows(Storage)Server2003/R2 からのアクセス(SMB 共有)	198
MacOS Xからのアクセス(SMB 共有)	200
Linux からのアクセス(NFS 共有)	200

付録

トラブルシューティング	A
設定制限表	B

はじめに

1. 使用上のご注意

- 本製品を安全に使用するために
 - ・本書では製品を正しく安全に使用するための重要な注意事項を説明しています。必ずご使用前にこの注意事項を読み、記載事項にしたがって正しくご使用ください。
 - ・本書は読み終わった後も、必ずいつでも見られる場所に保管してください。
- 表示について
 - ・この「使用上のご注意」では以下のような表示(マーク)を使用して注意事項を説明しています。内容を理解してから、本文をお読みください。

警告

- ・この表示を無視して取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重症を負う危険性がある項目です。

注意

- ・この表示を無視して取扱いを誤った場合、使用者が障害を負う危険性、もしくは物的損害を負う危険性がある項目です。



- ・三角のマークは何かには注意しなければならないことを意味します。三角の中には注意する項目が絵などで表示されます。例えば、左図のマークは感電に注意しなければならないことを意味します。



- ・丸に斜線のマークは何かを禁止することを意味します。丸の中には禁止する項目が絵などで表示されます。



- ・塗りつぶしの丸のマークは何かの行為を行わなければならないことを意味します。丸の中には行わなければならない行為が絵などで表示されます。例えば、左図のマークは電源コードをコンセントから抜かななければならないことを意味します。

※マニュアルに記載されている以外の操作や動作は行わないでください。装置について何か問題が発生した場合は、電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあと、お買い求めの販売店へご連絡いただくか、弊社テクニカルサポートまでご連絡ください。

2.警告



- 万一、異常が発生したとき。
本体から異臭や煙が出た時は、ただちに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご相談ください。



- 異物を入れないでください。
通気孔などから、金属類や燃えやすいものなどを入れないでください。そのまま使用すると感電や火災の原因になります。
※万一、異物が入った場合は、ただちに電源を切り、販売店にご相談ください。



- 分解しないでください。
本書の指示に従って行う作業を除いては、自分で修理や改造・分解をしないでください。感電や火災、やけどの原因になります。また、自分で改造・分解を行った機器に関しましては、弊社では一切の保証をいたしかねます。

※特に電源内部は高電圧が多数あり、万一、触れると危険です。



- 表示された電源で使用してください。
電源ケーブルは必ず AC100V のコンセントに接続してください。



- 電源コードを大切に。
電源コードは必ず本製品付属のものを使用し、以下の点に注意してください。取扱いを誤ると、感電や火災の原因になります。
「物を載せない」「引っ張らない」「押し付けない」「折り曲げない」「加工しない」「束ねない」「熱器具のそばで使用しない」



- 電源コンセントの扱いは慎重に。
電源コンセントはアース付き 3ピンコンセントをご使用ください。その他のコンセントを使用すると感電や火災の原因になります。
コンセントの接地極は、感電防止のために、アース線を専門の電気技術者が施工したアース端子に接続してください。接続しないと電源の故障時などに感電するおそれがあります。
コンセントは、活性導線 (L: Line)、接地導線 (N: Neutral)、接地 (G: Ground) から成ります。ご使用前に、接地導線と接地が同電位であることをご確認ください。



- 電源プラグの抜き差しには注意してください。
電源プラグをコンセントに差し込むとき、または抜くときは必ず電源プラグを持って行ってください。無理に電源コードを引っ張るとコードの一部が断線してその部分が過熱し、火災の原因になります。
休暇や旅行などで長期間ご使用にならないときは、電源プラグをコンセントから抜いてください。使用していないときにも通電しているため、万一、部品破損時には火災の原因になります。
電源プラグをコンセント抜き差しするときは、乾いた手で行ってください。濡れた手で行うと感電の原因になります。

- 電源プラグの接触不良やトラッキング。
電源プラグは次のようにしないと、トラッキングの発生や接触不良で過熱し、火災の原因になります。
電源プラグは根元までしっかり差し込んでください。
電源プラグはほこりや水滴が付着していないことを確認し、差し込んでください。付着している場合は、乾いた布などで拭き取り、差し込んでください。
グラグラしないコンセントをご使用ください。
- ケースカバーは取り外さないでください。
思わぬ接触など作業の不具合発生時に故障や劣化による火災の原因になります。
- 装置の上に物を置かないでください。
本製品の上に重いものや、水の入った容器類、または虫ピン、クリップなどの小さな金属類を置かないでください。故障や感電、火災の原因になります。
- 揮発性液体の近くの使用は避けてください。
マニキュア、ペディキュアや除光液などの揮発性液体は、装置の近くで使わないでください。装置の中に入って引火すると火災の原因になります。
- 日本国以外では使用しないでください。
この装置は日本国内専用です。電圧の違いや環境の違いにより、国外で使用すると火災や感電の原因になります。また他国には独自の安全規格が定められており、この装置は適合していません。

3.注意

- 電源コードはなるべくコンセントに直接接続してください。タコ足配線や何本も延長したテーブルタップの使用は、火災の原因となります。
- 電源コードは必ず伸ばした状態で使用してください。束ねた状態で使用すると、過熱による火災の原因となります。
- 通気孔はふさがらないでください。過熱による火災、故障の原因となります。また、通気孔には埃が付着しないよう、定期的に点検し、清掃してください。
- 高温・多湿の場所、長時間直射日光の当たる場所での使用・保管は避けてください。屋外での使用は禁止します。また、周辺の温度変化が激しいと内部結露によって誤動作する場合があります。
- 本体は精密な電子機器のため、衝撃や振動の加わる場所、または加わりやすい場所での使用・保管は避けてください。



- ラジオ・テレビ等の近くで使用しますと、ノイズを与えることがあります。また、近くにモーター等の強い磁界を発生する装置があるとノイズが入り、誤動作する場合があります。必ず離してご使用ください。



- 浴室、洗面台、台所の流し台、洗濯機など水を使用する場所の近傍、湿気の多い地下室、水泳プールの近傍やほこりの多い場所では使用しないでください。電気絶縁の低下によって火災や感電の原因になります。



- 装置の梱包用ポリ袋はお子様の手が届くところに置かないでください。かぶったりすると窒息するおそれがあります。



- コネクタなどの接続端子に手や金属で触れたり、針金などの異物を挿入したりしないでください。また、金属片のある場所に置かないでください。発煙や接触不良などにより故障の原因になります。



- ケーブルは足などをひっかけないように配線してください。足をひっかけるとケガや接続機器の故障の原因になります。また、大切なデータが失われるおそれがあります。ケーブルの上に重量物を載せないでください。また、熱器具のそばに配線しないでください。ケーブル被覆が破れ、接続機器などの故障の原因になります。



- 地震対策について
地震などによる振動で装置の移動、転倒あるいは窓からの飛び出しが発生し、重大な事故へと発展するおそれがあります。これを防ぐため、地震・振動対策を保守会社や専門業者にご相談いただき、実施してください。



- ディスク障害が発生した場合は
本製品内蔵のハードディスクドライブに障害が発生すると、警報音となり、LCD にディスク障害情報が表示されます。このような状態の場合は、直ちに障害ドライブをスペアドライブと交換してください。ドライブトレイの交換方法につきましては、CD-ROM 収録のハードウェアマニュアル「第 3 章 ディスク障害からの復旧」をご参照ください。

4.よりよくお使いいただくために



- 本製品とシステム装置やハブ等のネットワーク装置を接続する際には、指定および制限事項を確認の上、ご使用ください。指定および制限事項を考慮しなかった場合、ネットワーク環境全体の伝送能力に問題が生じるおそれがあります。

【廃棄・譲渡時のデータ消去に関するご注意】

ご利用の弊社製品を廃棄・譲渡等される際には、以下の事項にご注意ください。

- パソコンおよび周辺機器を廃棄あるいは譲渡する際、ハードディスクに記録されたお客様のデータが再利用され、データが流出してしまうことがあります。
- ハードディスクに記録されたデータは、「削除」や「フォーマット」を行っただけではデータが消えたように見えるだけで、特殊なソフトウェアなどを使うことにより、消したはずのデータが再生されることがあります。
ハードディスクのデータが第三者に流出することがないように全データの消去の対策をお願いいたします。また、ハードディスク上のソフトウェアを消去することなくパソコンおよび周辺機器を譲渡しますと、ソフトウェアライセンス使用許諾契約に抵触する場合がありますので、ご注意ください。

【ハードディスクを廃棄する場合】

ご使用のハードディスクを廃棄する場合は、お住まいの地方自治体で定められた方法で廃棄してください。

なお、弊社では、ハードディスク上のデータを電氣的に強磁気破壊方式(※)により完全に消去するサービスを有償にて行っております。重要なデータを消去後に廃棄する場合などにご利用ください。

※磁気記録装置に強磁界を印加し、物理破壊を伴わずに磁気データを破壊します。磁気ヘッドを制御するためのサーボ情報や駆動用のマグネットの磁気も消去しますので、ディスクを再利用することはできません。データ消去サービスの詳細につきましては、弊社ホームページ (<http://www.logitec.co.jp/>) をご参照ください。また、お問合せは、下記窓口までお願いいたします。(技術的なお問合せは、弊社テクニカルサポートにお願いいたします。)

■データ消去のご相談窓口

ロジテック INA ソリューションズ株式会社

データ復旧技術センター データ消去サービス係

TEL: 0800-888-6409

受付時間: 9:00 ~ 12:00 / 13:00 ~ 17:00

月曜日～金曜日(祝祭日、夏期、年末年始特定休業日を除く)

5.安全にお使いいただくために

本製品を安全にご利用いただくために、以下の事項を遵守いただきますようお願いいたします。

■本製品について

本製品は、人命に関わる設備や機器、および高い信頼性や安全性を必要とする設備や機器(医療関係、航空宇宙関係、輸送関係、原子力関係等)への組み込み等は考慮されていません。これらの設備や機器で本製品を使用したことにより人身事故や財産損害等が発生しても、弊社ではいかなる責任も負いかねます。

万一、本製品内のデータが消失した場合、データの復旧につきましては、弊社ではいかなる保証もいたしかねます。

■データのバックアップ(複製)

本製品には RAID 機能が搭載されておりますが、これはハードディスクの冗長性を高めるものであり、データの保証をするものではありません。本製品を安全にご利用いただくためには、データのバックアップ(複製)を欠かさず行っていただきますよう、お願いいたします。

■ソフトウェアについて

NAS セキュリティ修正パッチを Windows Update にて更新することができます。ただし、本製品の出荷時設定では WindowsUpdate は「自動ダウンロード」は行いますが、「自動アップデート」は行いません。ご了承ください。

■UPS への接続

本製品を UPS(無停電電源ユニット)に接続することにより、予期せぬ停電による障害より回避できる可能性が高くなります。是非、UPS の導入・接続をお勧めいたします。

(UPS の運用には UPS 管理ソフトウェアが別途必須です)

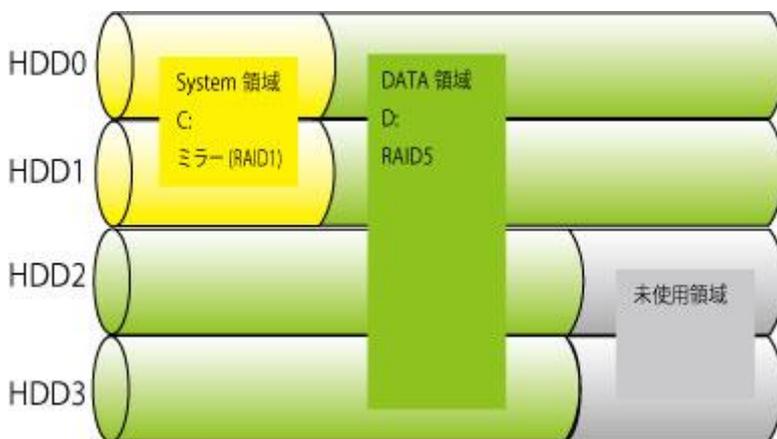
6.RAID レベルの説明

- RAID-5 耐障害性の向上と高速化、大容量化の全てを実現できる RAID 技術です。ディスク故障時に記録データを修復する為に「パリティ」と呼ばれる冗長コードを全ディスクに分散して保存します。
- RAID-1 ミラーリングとも呼ばれる 2 台のディスクにまったく同じデータを同時に書きこむ方式です。片方が破損しても、もう一方からデータを読み出せるので、システムは問題無く稼動しつづけることができます。両方に同じデータを書き込むことになるため、実際に使用できる容量は本来のディスク容量の半分になります。
- RAID-0 ストライピングと呼ばれる、高速性に特化した RAID 技術です。複数のディスクに均等にデータを振り分け、同時並行で記録することで、データの読み書きを高速化したもので、冗長性はありません。

RAID LEVEL	機能・特徴	冗長性	データ有効容量
RAID-0	転送速度が速い	×	$H \times n$
RAID-1	ミラーリング	◎	$H \times n \div n$
RAID-5	パリティ方式	○	$H \times (n-1)$

※ H:1 台あたりの HDD 容量 n:RAID を構成する HDD 台数

◎ 本製品の出荷時 RAID 構成



第 1 章 : WindowsStorageServer2008R2 の概要

Windows Storage Server 2008 R2 は、マイクロソフト社が提供するストレージ(NAS)専用の OS です。Windows Storage Server 2008 R2 は、高い信頼性とパフォーマンスで定評のある Windows Server 2008 R2 をベースとし、ファイルサーバーに特化した機能の追加とパフォーマンスの最適化がおこなわれています。

Windows Storage Server 2008 R2 では、クライアントが Windows Storage Server 2008 R2 の共有リソースにアクセスするためのライセンス(クライアントアクセスライセンス : CAL)を用意する必要がありません。(但し、モデルによってはユーザ登録数が制限されています) そのため、企業では、導入コストを大幅に削減することができます。

Windows Storage Server 2008 R2 は、ファイルサーバー専用機であるため、あらかじめ、ファイルサーバーに特化したセットアップがおこなわれています。これにより、ネットワークに接続するだけで、すぐに使用を開始することができます。

本製品の IP アドレス、コンピュータ名、ワークグループ名、管理者のパスワードなどの既定値は以下の通りです。



IP アドレス: DHCP サーバより取得

ワークグループ名: Workgroup

管理者パスワード: admin (管理者ユーザ名: admin)

リモートデスクトップと管理コンソールを使用してネットワーク経由で容易に管理することができます。さらに Windows Storage Server 2008 R2 は Windows Server 2008 R2 をベースとしているため、Windows Server の知識がある管理者は、Windows Storage Server 2008 R2 の操作を学習することなく使用できます。

○マルチプラットフォーム対応

Windows Storage Server 2008 R2 はマルチプラットフォームに対応しており、SMB (Server Message Block)、NFS (Network File System)、をサポートしています。そのため、Windows クライアントだけでなく、UNIX/Linux クライアントや MacOS X クライアントからも、Windows Storage Server 2008 R2 の共有リソースにアクセスすることができます。また、これらの異機種クライアントと Windows クライアント間でデータの交換も可能です。

○Windows ネットワークとの親和性

Windows Storage Server 2008 R2 は、ベースが Windows Server 2008 R2 であるため、そのまま、高度な Windows ネットワークを活用することができます。例えば、Windows Storage Server 2008 R2 は、Active Directory ドメインに参加することで、アカウント管理を容易にすることができます。また、ウイルス対策やバックアップソフトウェアなどの ISV アプリケーションをインストールすることも可能です。(本製品で動作確認済みのアプリケーションの情報は弊社 WEB で公開しています。)

○SMB2.1 対応

Windows Storage Server 2008 R2 に搭載されたファイル転送プロトコル SMB は最新の 2.1 に対応しています。これにより、ファイル転送の際のパケットのデータ構造やコマンド体系が見直され、転送速度が向上しています。クライアントが SMB2.1 に対応した OS(Windows7)であれば、高速データストレージ環境が実現できます

※SMB2.0 以前を搭載した OS との通信も可能ですが、接続した OS に搭載された SMB バージョンに合わせた通信速度になります。

○ファイルサーバー、プリントサーバー

Windows Storage Server 2008 R2 の使用用途は、ファイルサーバーだけではなく、Windows Storage Server 2008 R2 には、次の展開シナリオがあります。

- ・ ファイルサーバー
- ・ プrintサーバー

組織の規模に関わらず、Windows Storage Server 2008 R2 を専用のファイル サーバーおよびプリント サーバーとして展開することができます。Windows Storage Server 2008 R2 は高度な共有リソースサービスを実装する Windows Server 2008 R2 がベースであるため、シャドウコピーやオフラインファイル、クォータ、ファイルスクリーンなどの大容量のデータを効率的に管理するための機能が使用できます。また、Windows Storage Server 2008 R2 は、ファイルサーバーに特化した OS であり、ファイルサービスと無関係なサービスの実行を省いているため、安定したサービスとデータの提供が可能となっています。また、充実したリモート管理機能とブランチオフィス機能により、管理者のいない支社や支店への導入にも最適です。

<注意>

Windows Storage Server 2008R2 Standard Edition 搭載モデルにはユーザ登録可能数に制限はありません。

Windows Storage Server 2008R2 Workgroup Edition 搭載モデルの各シリーズで運用可能なアカウントは 50 までです(ローカルユーザ/ドメインユーザ合計して)。別のユーザにアカウントを割り当て直す場合は 90 日以上非利用期間が必要です。

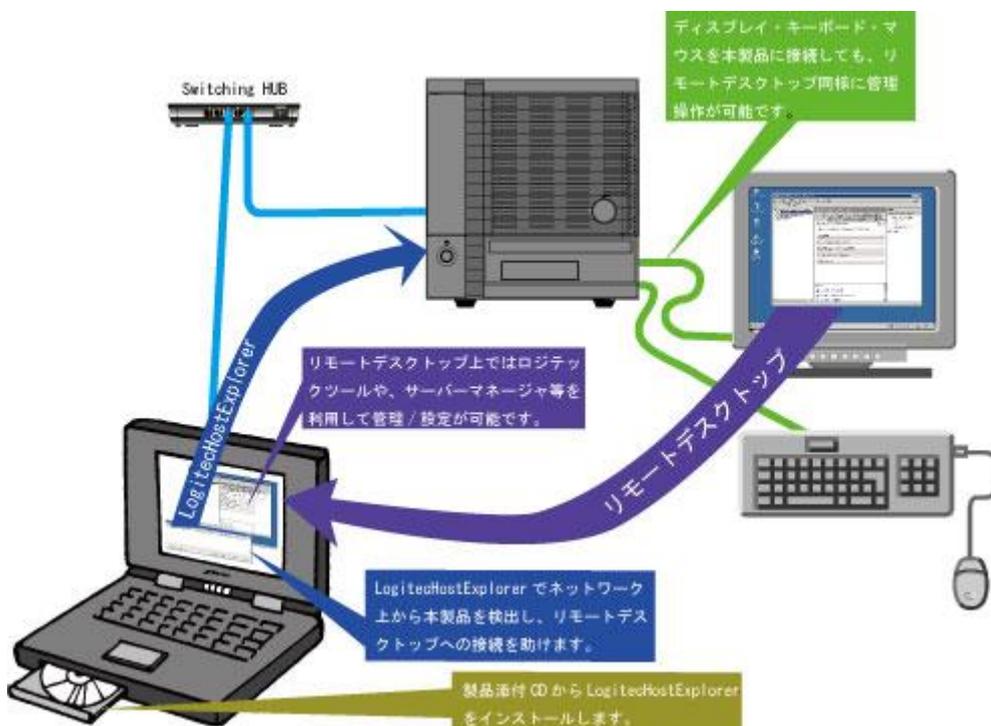
○バックアップ、復元、レプリケーション

運用サーバーの可用性を向上するために、Windows Storage Server 2008 R2 を導入します。この環境では、運用サーバーから Windows Storage Server 2008 R2 へデータベースの複製をおこないます。これにより、運用サーバーで障害が発生した場合に、Windows Storage Server 2008 R2 が引き継ぎ、処理を継続します。さらに企業 WAN を介して、Windows Storage Server 2008 R2 間でデータの複製をおこなえば、メンテナンスによる停電などで支店サイト全体が使用できない場合でも、別の支店サイトで処理を継続することができます。

○ストレージ管理ツール

通常、NAS には、モニタやキーボード、マウスが接続されていないため、Windows Storage Server 2008 R2 の管理も、次のリモート管理を使用しておこないます。

- ・ LogitechHostExplorer(ネットワーク上からの NAS の検出)
- ・ リモートデスクトップ
- ・ サーバーマネージャー(リモートデスクトップ上で操作)
- ・ ロジテックツール(リモートデスクトップ上で操作)





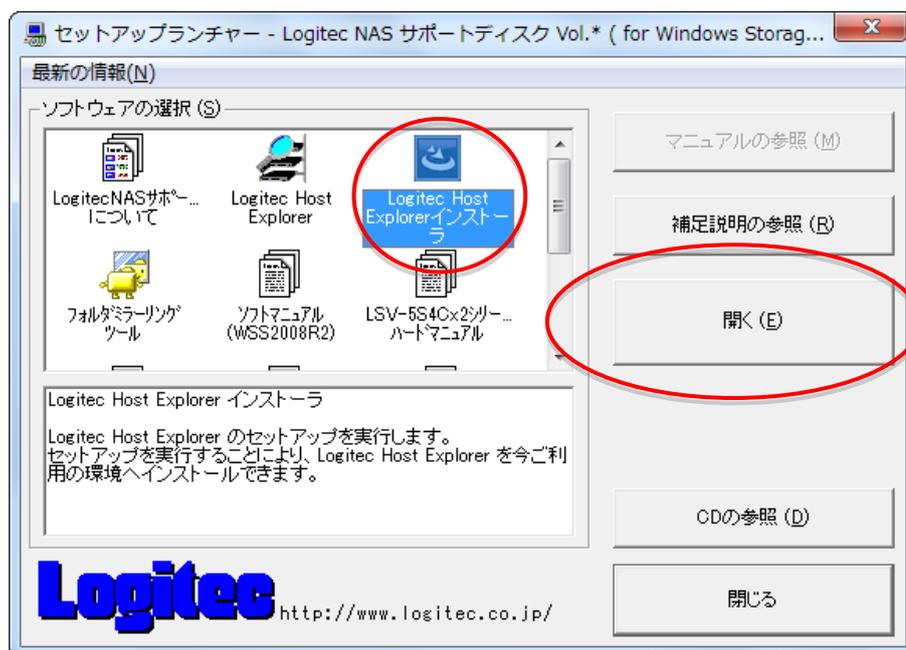
本製品に直接、ディスプレイ、キーボードおよびマウスを接続して、ローカル管理をおこなうこともできますが、ディスプレイ、キーボード、マウスを使用して本製品を操作するのは管理・設定時のみに限られます。それ以外の用途でディスプレイ、キーボード、マウスを使用して本製品を操作した場合、オペレーションシステムのレギュレーション違反となりますのでご注意ください。

各ツールの操作方法等は第 2 章にてご確認ください。

第2章 基本設定/管理機能

○ Logitec Host Explorer のインストール

Logitec Host Explorer は、LSV-シリーズのセットアップソフトです。添付の CD を管理用 PC にセットし、起動したランチャの「Logitec Host Explorer インストーラ」アイコンを選択し、「開く(E)」ボタンをクリックすることでインストールをする事ができます。



○LogitechHostExplorer について

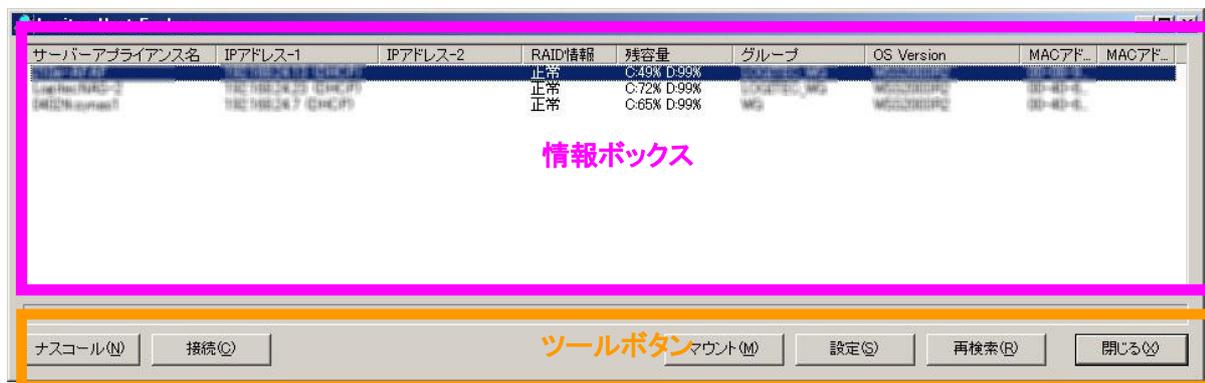
Logitech Host Explorer は、インストールが終了すると、「スタート」メニュー内の「すべてのプログラム」→「ロジテック株式会社」→「LogitechHostExplorer」に登録されます。



画面上に現在ネットワークで接続中の機器が表示されます。ネットワークに複数の LSV シリーズが存在する場合は複数表示されますので、設定する NAS を選択します。

- ※ 機器が表示されない場合は、「再検索」を押してください。それでも表示されない場合は、NAS 機器のケーブルなどの接続状況を確認してください。
- ※ 複数のネットワークインターフェース(無線 LAN と有線 LAN など)が搭載されている管理用 PC の場合、NAS が接続されている以外のネットワークインターフェースを「無効」にしてください。
- ※ 複数の機器が画面上に表示された場合は、本製品前面の液晶パネルに表示されている情報を照合して選択してください。

<LogitechHostExplorer 画面の説明>

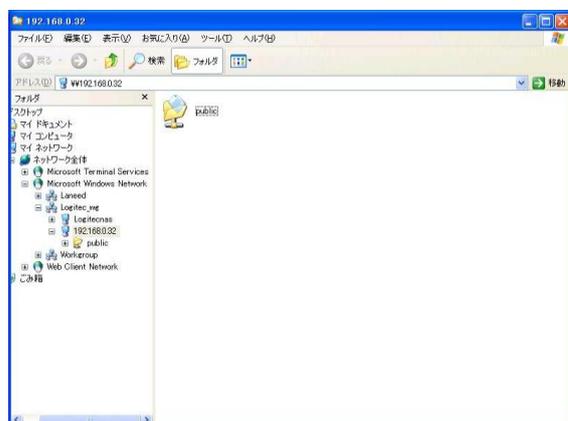


<情報ボックス>

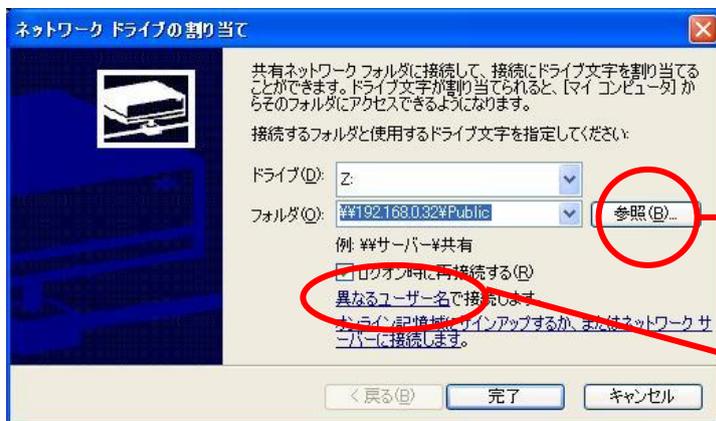
- ・ **サーバアプライアンス名**: NAS に命名されたサーバアプライアンス名(コンピュータ名)が表示されます。出荷時状態では「LogitechNAS」と表示されます。
- ・ **IPアドレス-1**: 本製品の LAN ポート 1 に設定された IP アドレスが表示されます。括弧内には DHCP 割当か、固定 IP かを表示します。
- ・ **IP アドレス-2**: 本製品の LAN ポート 2 に設定された IP アドレスが表示されます。
- ・ **RAID 情報**: RAID 機能搭載機種に関して、搭載された RAID の状態が表示されます。
- ・ **残容量**: NAS 内の各ドライブの残容量がパーセントで表示されます。
- ・ **グループ**: NAS が所属しているワークグループ名が表示されます。
- ・ **OS Version**: NAS に搭載されている搭載されている OS が確認できます。
- ・ **MAC アドレス-1**: 本製品の LAN ポート 1 の LAN I/F の MAC アドレスが表示されます。
- ・ **MAC アドレス-2**: 本製品の LAN ポート 2 の LAN I/F の MAC アドレスが表示されます。

<ツールボタン>

- ・ **ナスコール**: このボタンをクリックすると選択された NAS がビープ音を発し、NAS 本体の LCD 画面に「NAS Calling」と表示されます。
- ・ **接続(C)**: このボタンをクリックすると Explorer が起動し、共有フォルダにアクセスできます



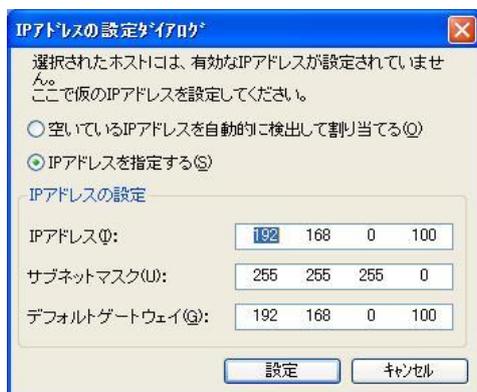
- ・ **マウント(M)**:このボタンをクリックすると、NAS の共有フォルダをネットワークドライブとしてマウントできます。



既定の共有フォルダ以外をマウントする場合は参照をクリックしてフォルダを指定します。

Windows ログインに指定しているユーザ以外で NAS にアクセスする場合は別ユーザを指定可能です。

- ・ **設定(S)**:このボタンをクリックすると選択した NAS の設定画面にアクセスできます。DHCP サーバの無い環境で、NAS に IP アドレスが未設定の場合は、管理画面にアクセスする前に IP アドレスの設定画面が表示されます。



○空いている IP アドレスを自動的に検出して割り当てる
ネットワーク内を検索し、割り振られていない IP アドレスを自動的に検出します。ネットワーク内の機器が全て機能している状態で選択してください。

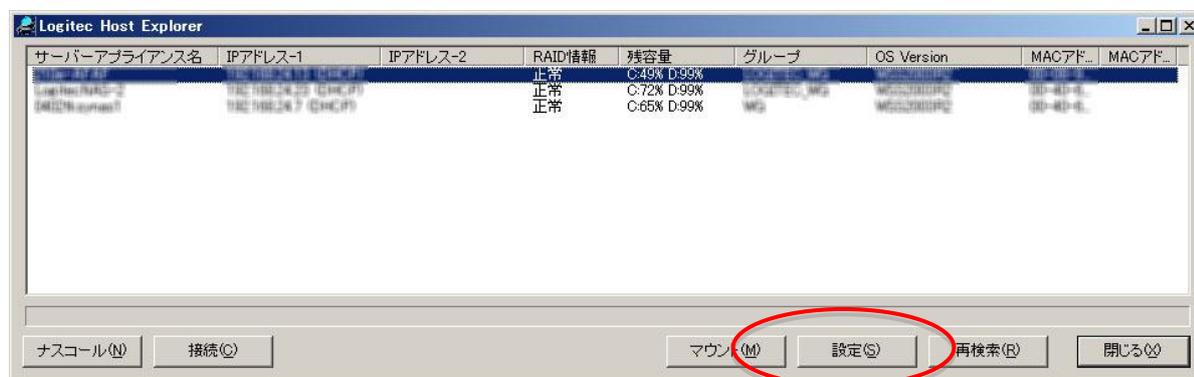
○IP アドレスを指定する
手で IP アドレスを設定します。

- ※ サブネットマスクを正しく入力しないと、動作に支障をきたす場合があります。
- ※ エラーメッセージが表示された場合は、もう一度正しい IP アドレスとサブネットマスク値を入力してください。

管理画面へのログイン方法などについては「Logitech Host Explorer 経由での WindowsStorageServer へのアクセスについて」を御参照ください。

- ・ **再検索(R)**:このボタンをクリックするとネットワーク内から LSV シリーズを再度検索します。
- ・ **閉じる(X)**:このアプリケーションを終了します。

○LogitcHostExplore 経由での管理画面へのアクセスについて



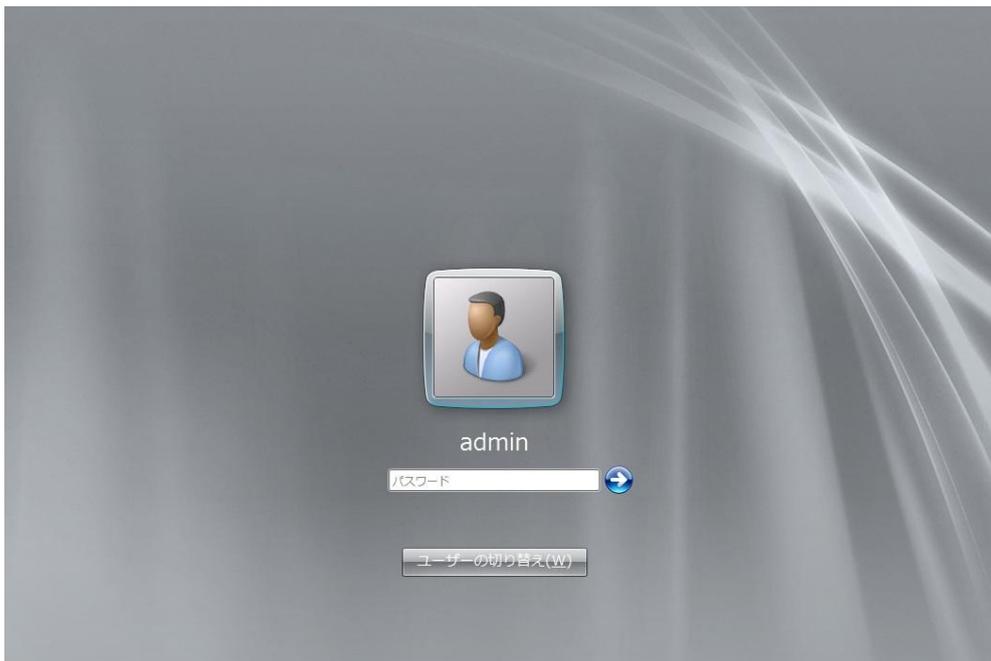
Logitec Host Explorer を起動すると、上記画面が表示されます。

画面上に現在ネットワークで接続中の機器が表示されます。設定する NAS を選択し、「設定」ボタンを押してください。

- ※ 機器が表示されない場合は、NAS 機器のケーブルなどの接続状況を確認し、「再検索」を押してください。また、複数の LAN ポートがある PC の場合(無線 LAN+有線 LAN など)、NAS が接続されているネットワーク以外の LAN ポートを無効にしてください。
- ※ 複数の機器が画面上に表示された場合は、本製品前面の液晶パネルに表示されている情報を照合して選択してください。



Windows Storage Server 2008 R2 では、一度に2つのクライアントからしか管理画面にアクセスできません。3 つ以上のセッションを確立しようとすると、「ターミナルサービスの最大接続数を超過しています」というメッセージが表示され、セッションは切断されます。



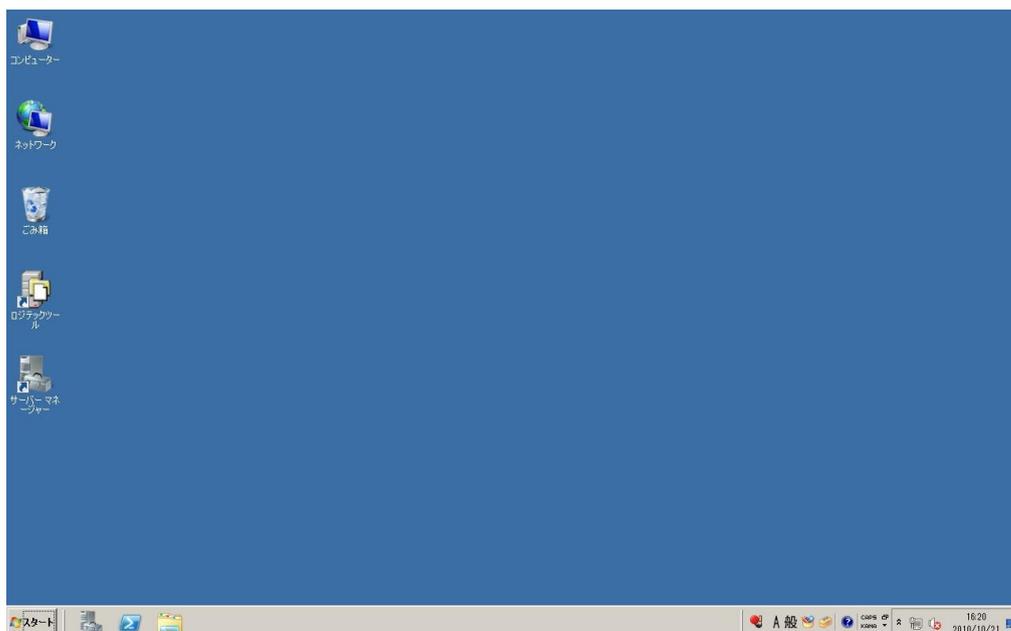
管理者名を選択し、パスワードを入力して OK を押します。

※ デフォルトの管理者名とパスワードは以下の通りです。

管理者名: admin

パスワード: admin

(パスワードは大文字・小文字を判別します。)



設定が完了すると、リモートデスクトップが立ち上がり、管理画面が起動します。

○ストレージ管理ツールについて

本製品には管理用のツールとしてリモートデスクトップ上から「サーバーマネージャ」と、「ロジテックツール」を利用することができます。「サーバーマネージャ」は、Windows Server 2008 R2 標準のサーバ機能管理用コンソールです。「ロジテックツール」は本製品の拡張管理機能になります。

・サーバーマネージャ

サーバーマネージャでは、以下の項目が管理できます。(リモート)デスクトップ上のサーバーマネージャアイコンをダブルクリックして起動します。

- ・ 役割 (Web サーバー、ファイルサービス設定、印刷とドキュメントサービス)
- ・ 機能 (機能の追加と削除)
- ・ 診断 (イベントビューアー、パフォーマンス、デバイスマネージャ)
- ・ 構成 (タスクスケジューラ、ファイアウォール、サービス、ローカルユーザとグループ)
- ・ 記憶域 (WindowsServer バックアップ、iSCSI 設定、ディスクの管理)



・ロジテックツール

ロジテックツールでは、以下の項目が管理できます。(リモート)デスクトップ上のロジテックツールアイコンをダブルクリックして起動します。

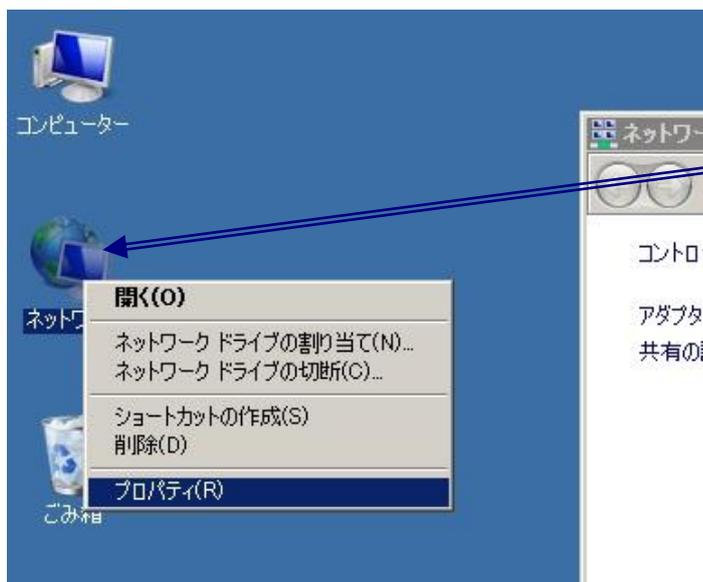
- ・ お知らせメール
- ・ 電源設定 (LSV-5S4CES/5S4CEW/5S4CS2/5S4CW2 シリーズのみ)
- ・ ステータスパネル (LSV-5S4MS/5S4MW/5S4R1S/5S4R1W シリーズのみ)
- ・ RAID ビルダー
- ・ 暗号化と自動ロック/アンロック設定 (LSV-5S4CES/5S4CEW/5S4CS2/5S4CW2 シリーズのみ)
- ・ ナスコール
- ・ フォルダアナライザ
- ・ Windows Server バックアップ
- ・ データフォルダバックアップツール
- ・ バックアップ用 HD フォーマッタ
- ・ その他設定
- ・ ローカルユーザとグループ(ローカル)
- ・ ロジテックサポート



○ネットワークの設定

※ NASのネットワークの設定は、ネットワーク経由ではなく、コンソールから行う事を推奨します。

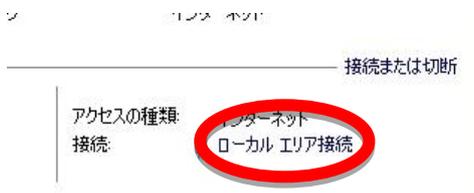
①本製品の(リモート)デスクトップ上のネットワークを右クリックして、プロパティ(R)を選択してください



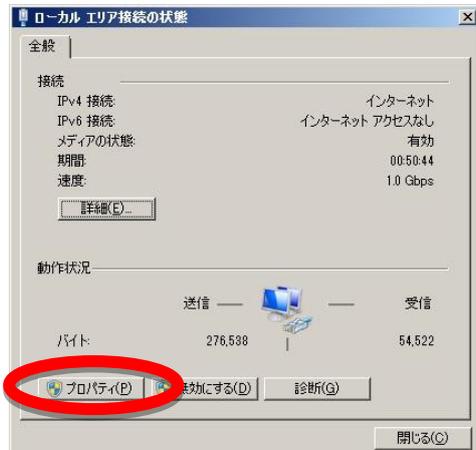
マイネットワークの表示がデスクトップに無い場合は、デスクトップより右クリックし、プロパティを選択しデスクトップ内のデスクトップのカスタマイズを選択しマイネットワークにチェックを入れる事により表示されます。
※マイコンピュータも同様です

②ネットワークと共有センターが表示されますので、接続または切断より、ローカルエリア接続をクリックしてください。(2つのLANポートが両方ネットワークに接続されている場合は、二つのローカルエリア接続が表示されます。この場合、実際の接続ポートと画面上では次のような関係性になります。

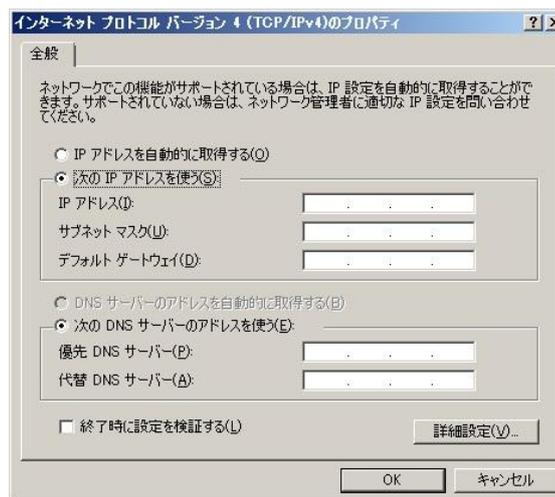
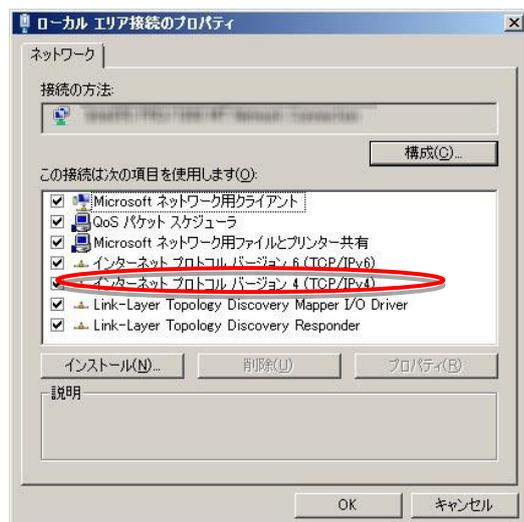
- LAN ポート 1(背面、向かって左側) ローカルエリア接続
- LAN ポート 2(背面、向かって右側) ローカルエリア接続 2



③ローカルエリア接続の状態が表示されますので、プロパティをクリックしてください。



④インターネットプロトコルバージョン4(TCP/IPv4)を選択しプロパティ(R)を選択してください。



各項目を環境に合わせて設定してください。

<注意>

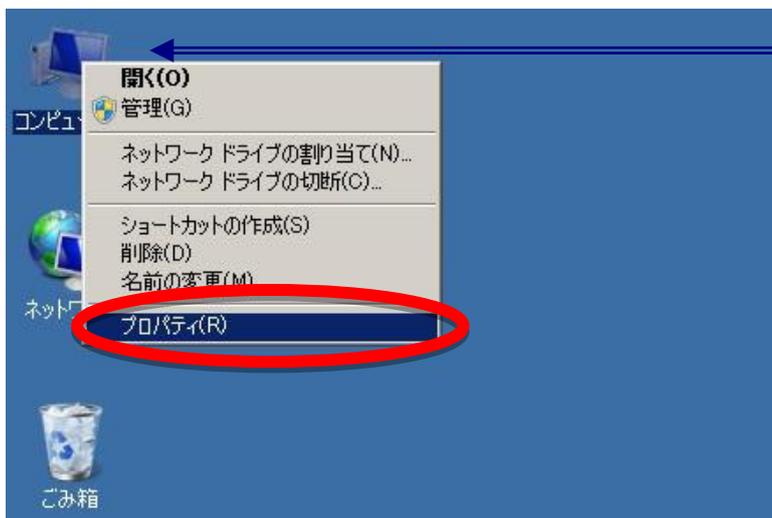
ネットワーク経由で設定を変更する場合、変更する項目によっては変更した時点で管理画面との接続が解除されてしまいます。引き続き変更する場合は再度管理画面にアクセスしなおしてください。

○コンピュータ名変更、ドメイン/ワークグループ参加設定

※NASのコンピュータ名の設定は、ネットワーク経由ではなく、コンソールから行う事を推奨します。

※コンピュータ名の変更は NAS の再起動を伴います。

①本製品の(リモート)デスクトップ上のコンピュータを右クリックして、プロパティ(R)を選択してください

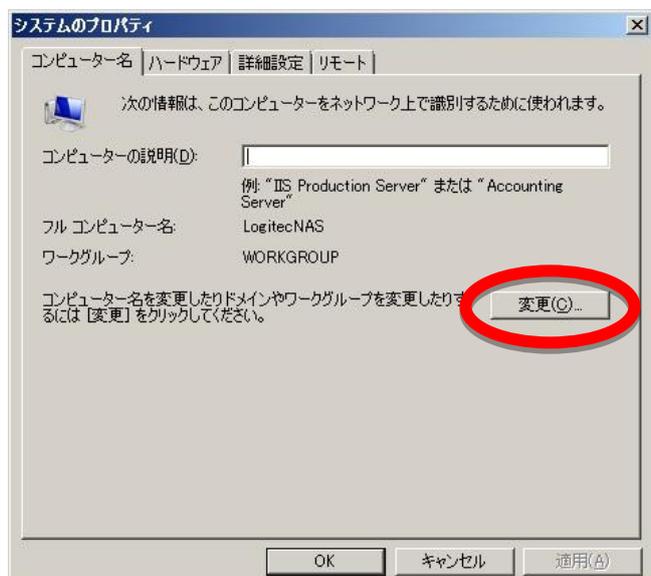


マイコンピュータの表示がデスクトップに無い場合は、デスクトップより右クリックし、プロパティを選択しデスクトップタブ内のデスクトップのカスタマイズを選択しマイネットワークにチェックを入れる事により表示されます。
※マイネットワークも同様です

②システムウィンドウが表示されますので、コンピュータ名、ドメインおよびワークグループの設定より設定の変更をクリックしてください



③システムのプロパティが表示されますので、コンピュータ名タブを選択し、変更ボタンをクリックします。



④コンピュータ名/ドメイン名の変更が表示されます。



1)コンピュータ名の変更

コンピュータ名欄に本製品のコンピュータ名を入力して OK をクリックします。

2)ワークグループ名の変更・参加

所属するグループのワークグループラジオボタンを選択し、ワークグループ欄にワークグループ名を入力して OK をクリックします。

3)ドメインへの参加

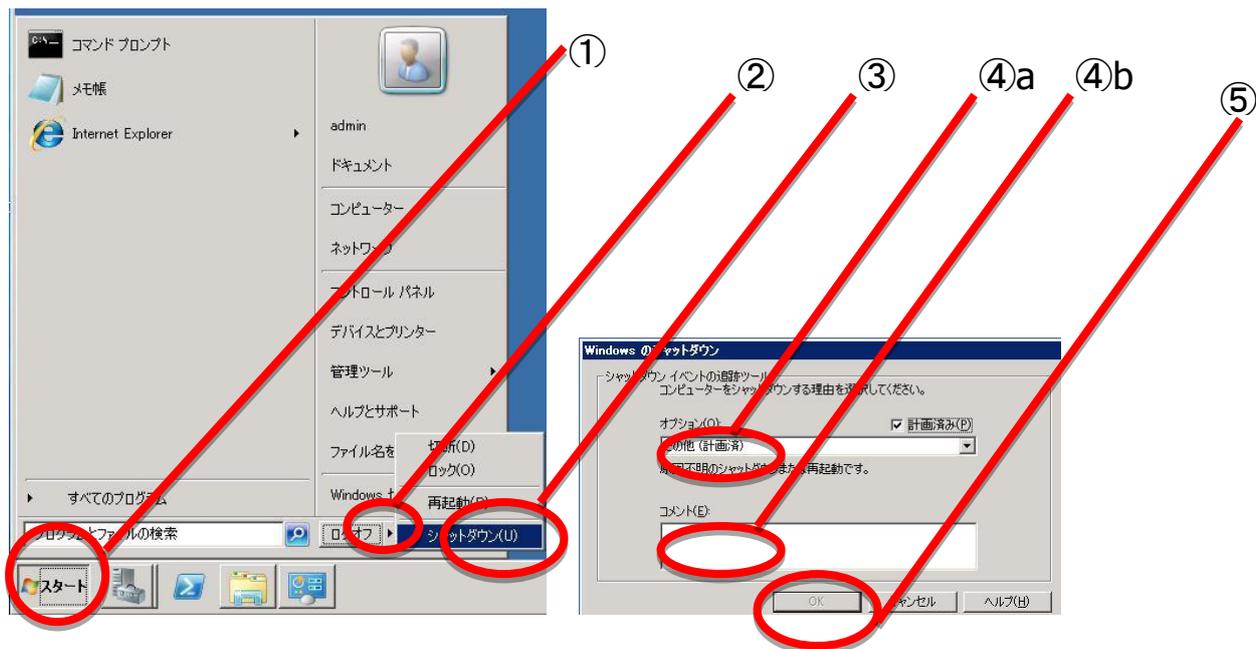
所属するグループのドメインラジオボタンを選択し、ドメイン欄に参加するドメイン名を入力して OK をク

リックします。ドメイン参加に必要な(ドメイン参加の権限を持つ)ユーザ名とパスワードの入力を要求されますので、正しく入力して OK をクリックします。

変更後、再起動が要求される場合は NAS を再起動します。

○電源 OFF(シャットダウン)方法

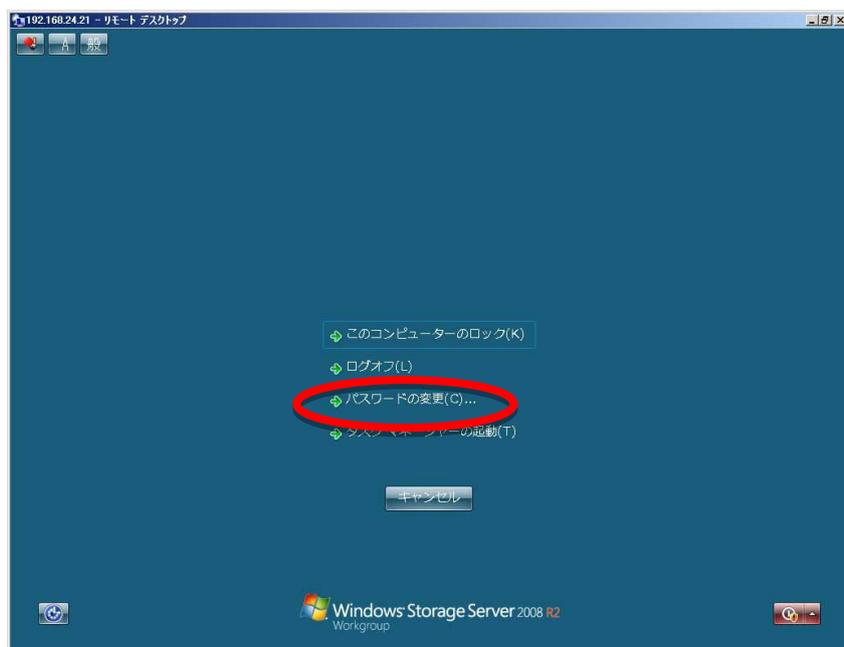
本製品は電源ON時は本体パワースイッチにて行いますが、電源OFFに関しては管理画面よりシャットダウン処理を行います。管理画面のスタートボタン:①より ログオフの隣の▲:②を選択し、「シャットダウン」:③をクリックします。シャットダウン画面が表示されたらオプションを選択するか:④a、説明:④b に入力して、OK ボタン:⑤をクリックします。



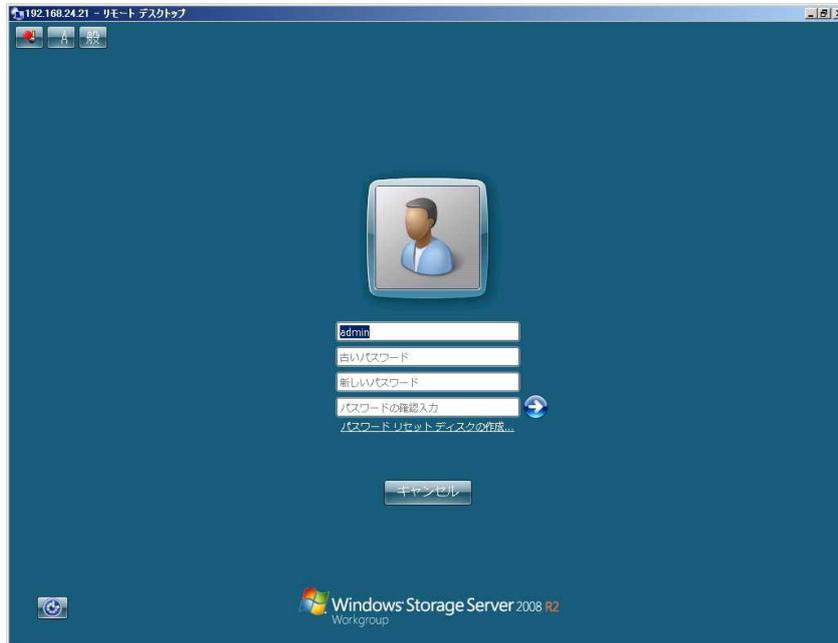
○管理者パスワードの変更

本製品はデフォルトで「admin」と管理者パスワードが設定されていますが、セキュリティ上変更することをお勧めします。ただし、変更したパスワードは紛失することの無いように厳重に管理してください。パスワードを紛失すると、本製品の設定の変更などができなくなります。(管理者パスワードを紛失すると、システムリカバリーが必要となります)

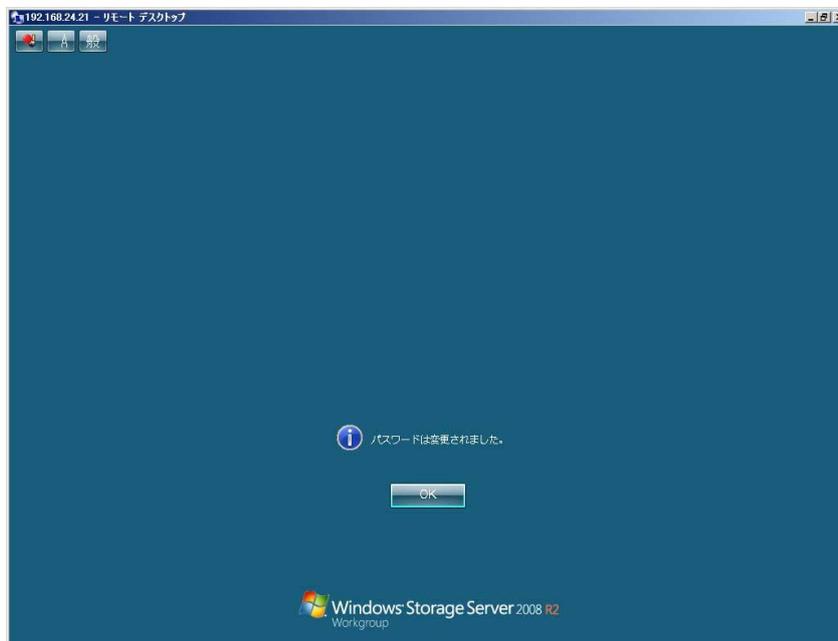
- 1) 管理画面上で「ctrl」+「alt」+「end」キーを同時に押します。(リモートデスクトップ管理画面ではなく、直接本製品にキーボード、マウス、モニタを接続して設定している場合は「ctrl」+「alt」+「del」キーを同時に押します)
- 2) 以下の画面が表示されますので、「パスワードの変更」をクリックします。



- 3) パスワードの変更画面が表示されますので、現在のパスワード、新しいパスワード、新しいパスワードの確認を入力し、「→」ボタンをクリックします。



- 4) パスワードがされた旨を案内する画面が表示されますので、「OK」ボタンをクリックします。以上でパスワードは変更されました。



第3章 ディスク・ボリュームの管理

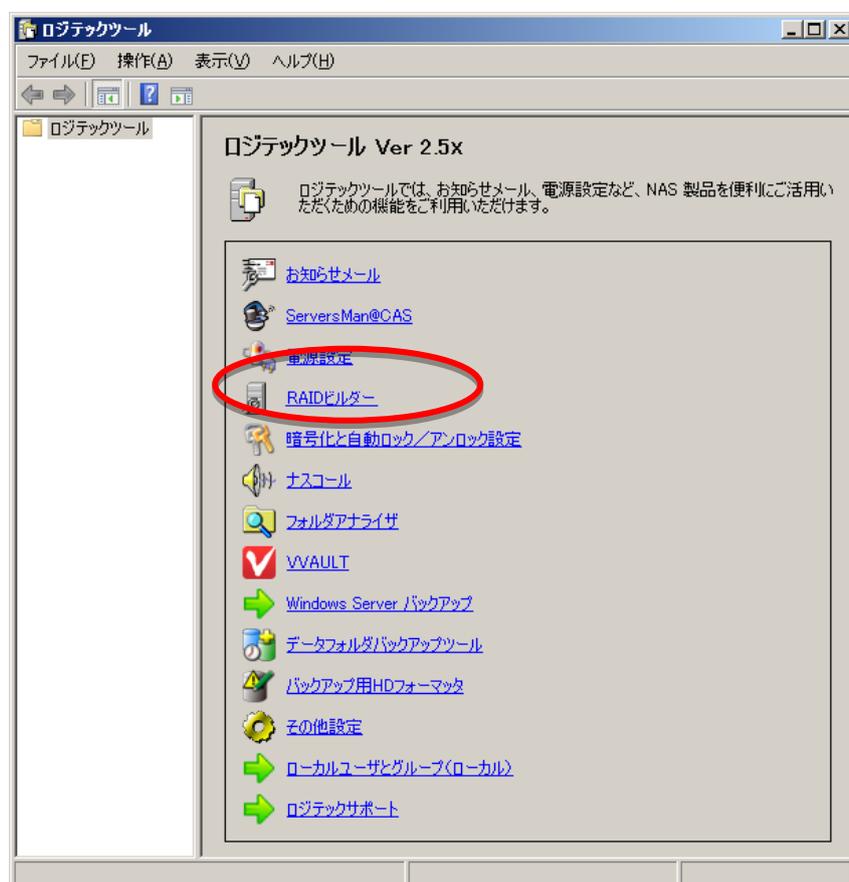
ORAIID 構成の変更

ソフトウェア RAID 構築に不整合が発生した際や HDD 交換に不具合ドライブの特定と、簡単に確認及び修復を行うことが可能です。また、プリセットされた他の RAID パターンに構成を変更する事が可能です。

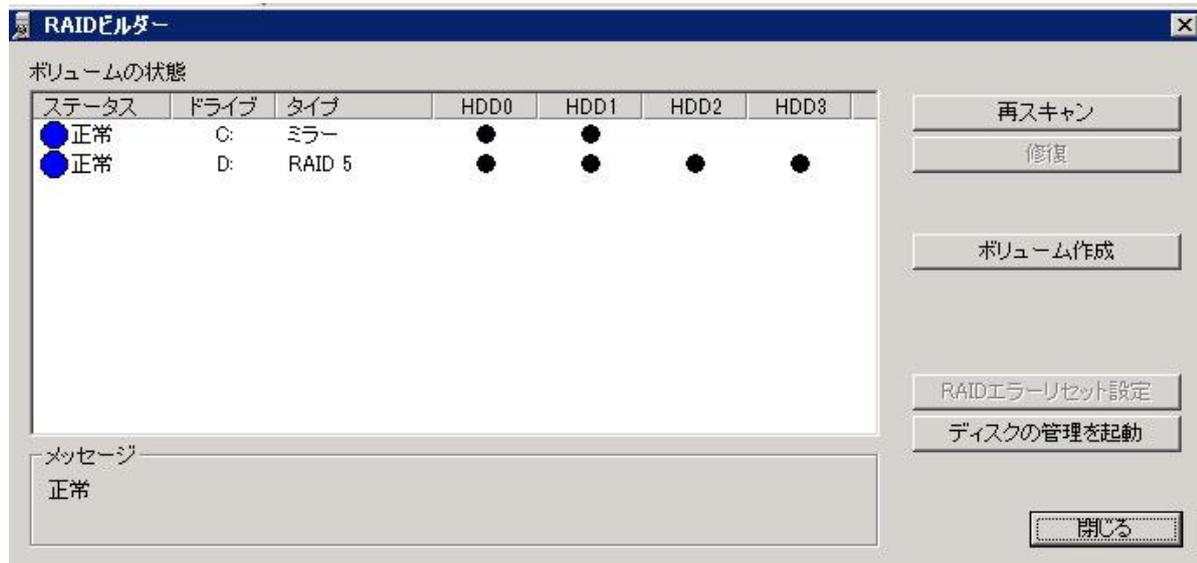
※ RAID パターンを変更する場合、データエリア上の情報は消去されますので、ご注意ください。

プリセットされたパターン以外のボリューム構成はサポート外ですのでご了承ください

- ①ロジテックツールの RAID ビルダーをクリックしてください。



②新しくRAIDビルダーのウィンドウが表示されます。



③「ボリューム作成」ボタンをクリックします。RAID パターンの選択画面が表示されますので、目的に応じたパターンを選択し、「RAID ボリュームを作成する」をクリックしてください。

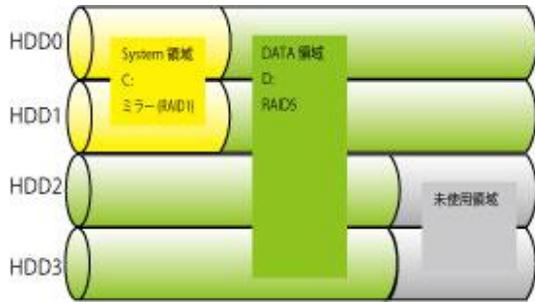
※「RAID ボリュームを作成する」を実行した後、10分～20分程度応答がなくなる事がありますが、これは異常ではありません。

<!! 注意 !!>

RAID ボリュームの変更/作成を行うと、該当のボリュームのデータは消去されます。ボリューム作成の際はバックアップなどを忘れずに行ってください。データ以外の共有設定やアクセス権の設定もクリアになります。



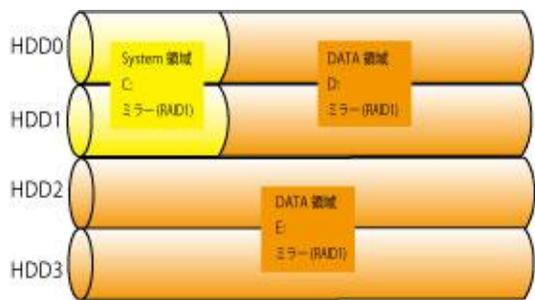
選択できる RAID パターンは以下の通りです。



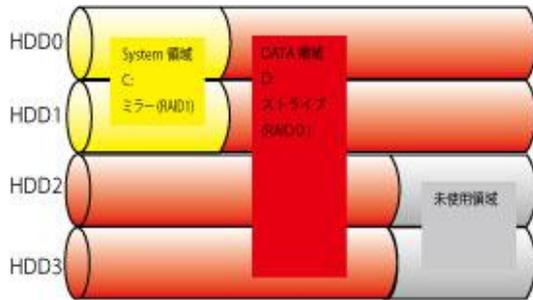
パターン1: 出荷時構成



パターン2: RAID5+シングル



パターン3: ミラーx2



パターン4: ストライピング

○暗号化と自動ロック/アンロック設定

(LSV-5S4CES/5S4CEW/5S4CW2/5S4CS2 シリーズのみ)

本製品がまるごと盗難にあった場合、あるいは内蔵のハードディスクユニットが持ち出された場合などに、本製品に保存されているデータの漏洩リスクを低減する事を目的とした機能です。

本機能では、本製品のデータ領域をボリューム単位でまるごと暗号化してデータを保護する事を基本とした上で、暗号化データへのアクセスを禁止(ロック)および許可(アンロック)する事が可能です。

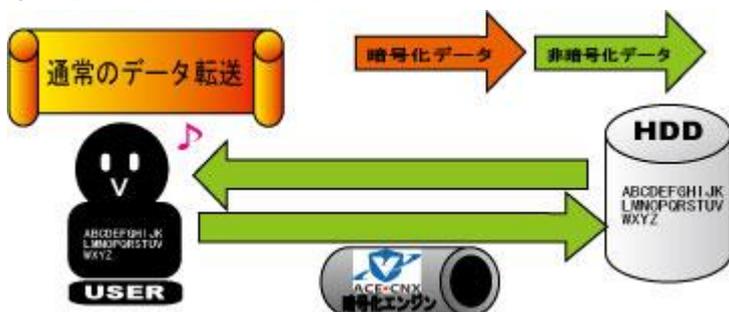
■■■■■注意■■■■■

- 本機能は拡張機能として提供されますので、初期状態ではインストールされていません。本機能をご利用になるためには、管理画面より「Logitec 暗号化拡張機能」のセットアップを実行する必要があります。
- 暗号化を施す単位はボリューム単位になります。
- 本暗号化機能は、NFS 共有との併用はできません。
- 本暗号化機能は、ボリュームシャドーコピーとの併用はできません。
- 本暗号化機能は、起動用システムボリュームには適用できません。

■ディスク暗号化の概要と運用の流れ

暗号化の概要と運用の流れを図と共に説明します。

① 初期状態(非暗号化状態):



「Logitec 暗号化拡張機能」のセットアップを行っただけの状態では、データは暗号化されません。データの暗号化機能をご利用になるためには、論理ドライブにマウントされたボリュームを選択して、暗号化ドライブの設定を行う必要があります。

② ディスクの暗号化:



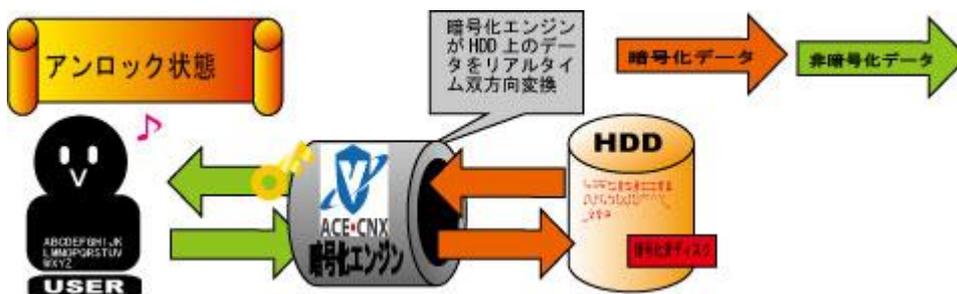
HDD 内のデータを暗号化します。オプションにより既存の HDD 内の非暗号化データを読み込み、暗号化してから HDD に書き込む事も可能です。暗号化の際にパスワードを登録します。このパスワードが暗号化した HDD にアクセスするための「キー(鍵)」となりますので、厳重に管理してください。

③ ロック状態:



暗号化ドライブに保存されているデータは、そのままでは読み取る事ができません。この状態を「ロック状態」といいます。

④ アンロック状態:



パスワードを入力する事により、暗号化ドライブに保存されているデータを自動的に復号して読み取る事ができるようになります。この状態を「アンロック状態」といいます。アンロック状態の間は、ユーザーは暗号化／復号を意識せずにデータへアクセスできます。パスワードを入力する代わりに、パスワードをデータ化したファイルを指定してアンロックすることも可能です。パスワードをデータ化したファイルのことをキーファイルといいます。

⑤ディスクの暗号化解除:

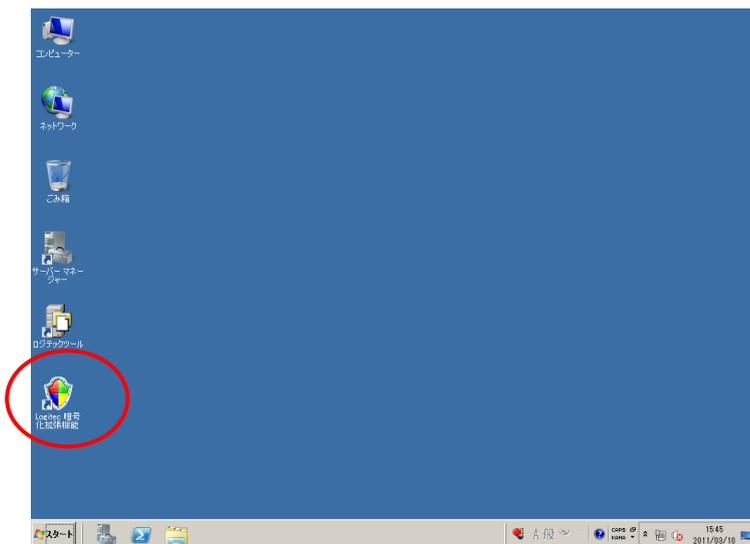


暗号化済データが書き込まれた HDD を非暗号化データで書きし、通常のドライブに戻します。

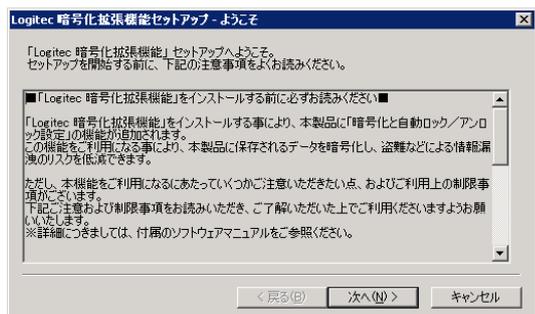
■「Logitec 暗号化拡張機能」のインストール

※暗号化機能を利用しない場合はインストールをしないでください。データ転送パフォーマンス等に影響を及ぼします。

1. 管理画面にアクセスし、デスクトップ上の「Logitec 暗号化拡張機能」アイコンをダブルクリックします。

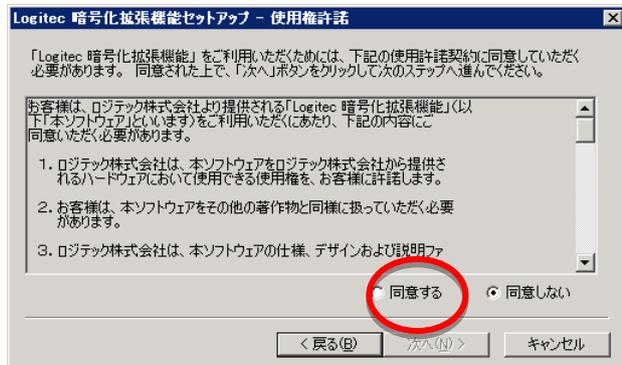


2. 「Logitec 暗号化拡張機能」のセットアップを開始する前に知っておいていただきたい注意事項などが表示されます。よくお読みいただき、「次へ」ボタンをクリックしてください。

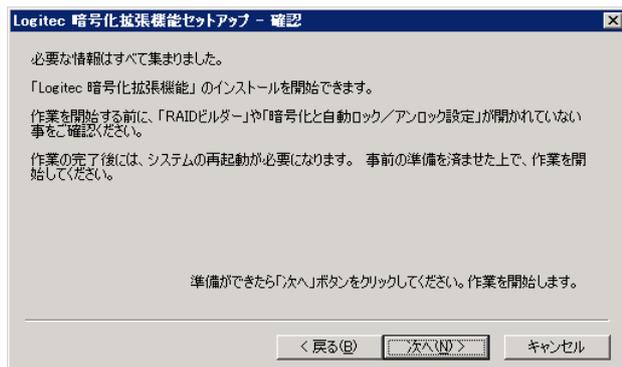


3. 使用許諾契約に関する文書が表示されます。内容をよくお読みいただき、同意される場合のみ、「同意する」ラジオボタンを選択して「次へ」ボタンをクリックしてください。

同意されない場合には、「キャンセル」ボタンをクリックしてインストールを中止してください。



4. インストールを実行するための確認メッセージが表示されます。「次へ」ボタンをクリックすると、セットアップ作業が開始されます。



5. セットアップ作業が完了するまで、しばらくお待ちください。



6. セットアップ作業が完了するとシステムの完了を案内するダイアログが表示されます。
「完了」ボタンをクリックしてインストールを完了してください。



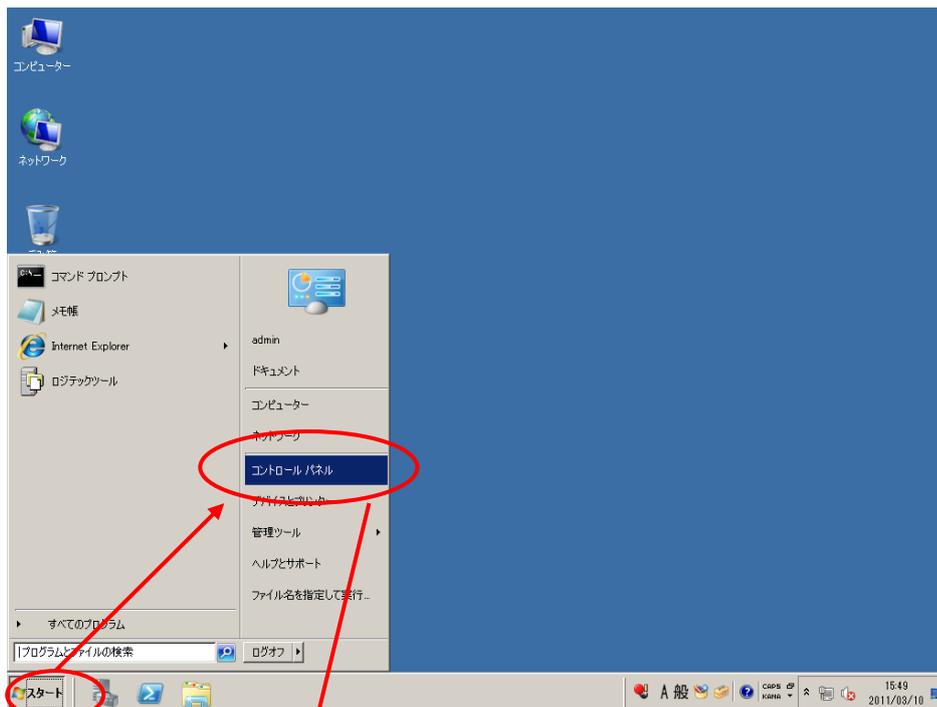
- ※ インストールが完了すると、デスクトップ上の「Logitech 暗号化拡張機能」ショートカットは削除されます。

■「Logitec 暗号化拡張機能」のアンインストール

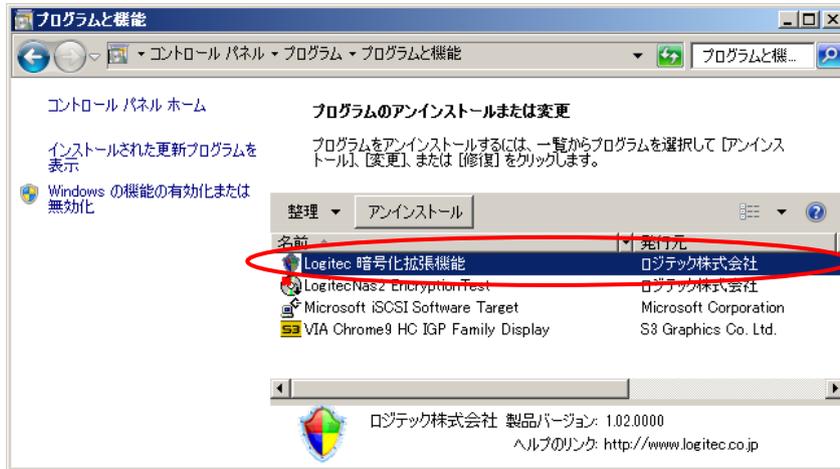
※本アンインストール作業には NAS の再起動を伴います。NAS の再起動が可能な状態で作業を開始してください。

※アンインストール作業を開始する前に、全てのドライブの暗号化を解除しておいてください。

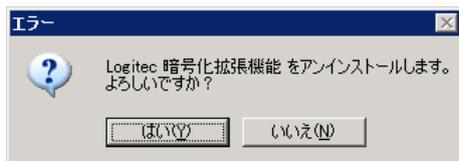
1. 管理画面にアクセスし、コントロールパネルから「プログラム」を起動してください。



2. 「プログラムと機能」で「Logitec 暗号化拡張機能」を選択して、「アンインストール」ボタンをクリックしてください。



3. 確認のメッセージボックスが表示されますので、「はい」ボタンをクリックしてください。アンインストール作業が開始されます。

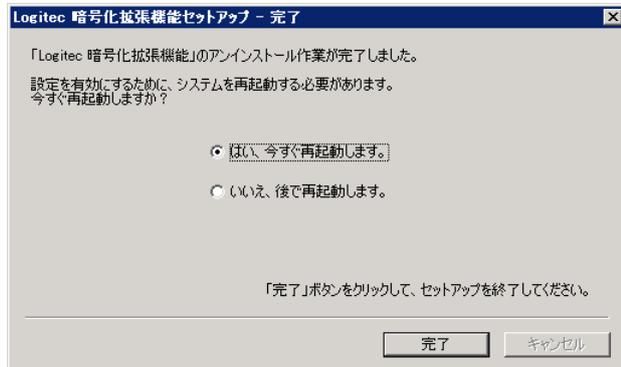


4. アンインストール作業が完了するまで、しばらくお待ちください。



5. アンインストール作業が完了するとシステム再起動を促すメッセージが表示されます。

「はい、今すぐ再起動します。」ラジオボタンを選択して「完了」ボタンをクリックしてください。システムが再起動します。

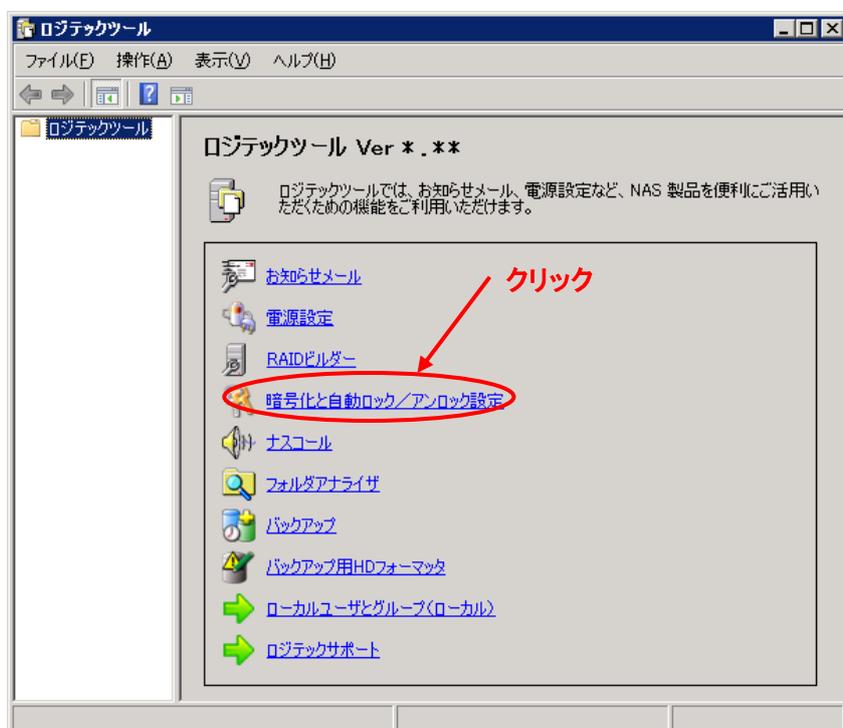


以上で「Logitec 暗号化拡張機能」のアンインストールは完了です。

アンインストールが完了すると管理画面のデスクトップ上に「Logitec 暗号化拡張機能」アイコンが作成されます。

■暗号化管理ツールの説明

ロジテックツールメニュー内の「暗号化と自動ロック／アンロック設定」をクリックすると「暗号化と自動ロック／アンロックの設定」ダイアログが起動します。



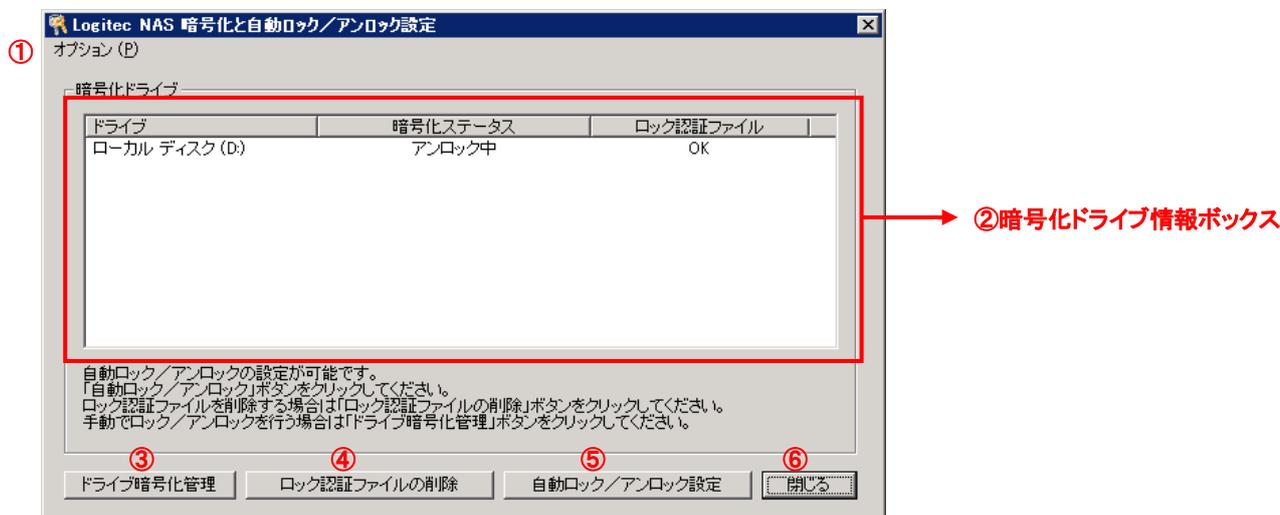
■暗号化と自動ロックアンロック設定の起動

ロジテックツールメニュー内の「暗号化と自動ロック／アンロック設定」をクリックすると、「暗号化と自動ロック／アンロック設定」ダイアログが起動します。

※「Logitec 暗号化拡張機能」のインストールが完了していない場合、ロジテックツールメニューで「暗号化と自動ロック／アンロック設定」をクリックするとエラーを示すメッセージボックスが表示されます。本機能をご利用になる場合は、必ず事前に「Logitec 暗号化拡張機能」のインストールを完了しておいてください。

<暗号化と自動ロック／アンロック設定ダイアログについて>

ここでは、「Logitec NAS 暗号化と自動ロック／アンロック設定」ダイアログ内の情報について説明します。



① :オプション:

オプションをクリックし、「ロック認証ファイル保存先の設定」を選択することにより、「ロック認証ファイル保存先リスト」ダイアログボックスが開きます。

② :暗号化ドライブ情報ボックス:

システムドライブを除いた、論理ドライブの一覧を表示します。それぞれ、ボリュームラベル(ドライブレター)、暗号化ステータス、ロック認証ファイルの状態についての情報が表示されます。

③ :ドライブ暗号化管理ボタン:

ドライブの暗号化/暗号化解除を行うために、暗号化管理ダイアログを起動します。

④ :ロック認証ファイルの作成ボタン:

暗号化済みドライブの自動ロック／アンロックのために必要な「ロック認証ファイル」の作成と登録を行います。「ロック認証ファイル」登録済みのドライブが選択されている場合は、「ロック認証ファイルの削除」ボタンに名称が変わります。この場合、このボタンをクリックする事により、自動ロックアンロック用に登録されたロック認証ファイルを削除(登録解除)できます。ロック認証ファイルが登録されていないドライブは、自動ロック／アンロックの対象から外れます。

⑤ :自動ロック／アンロック設定ボタン:

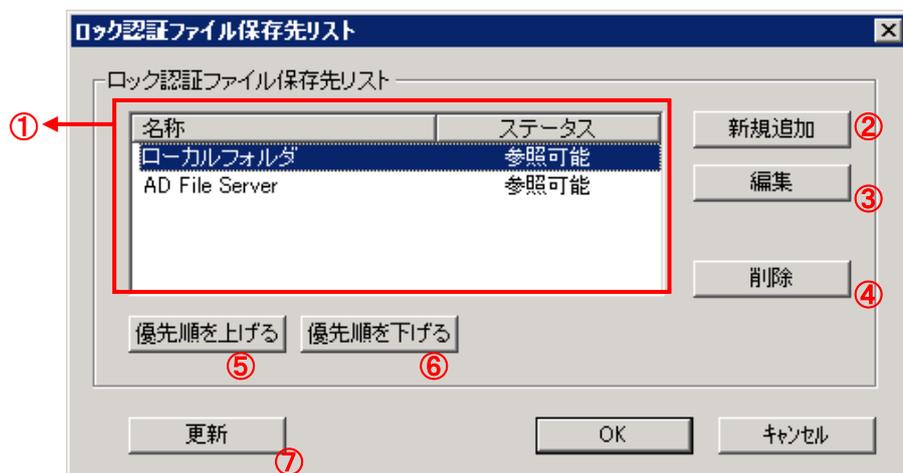
暗号化済みドライブのロック／アンロック状態を自動的に切り替える設定を行うための、「自動ロック／アンロック」設定ダイアログを開きます。「ロック認証ファイル」が登録された暗号化ドライブが一つ以上存在する場合のみ有効になります。

⑥ :閉じるボタン:

設定ダイアログを終了します。

■ロック認証ファイル保存先リストダイアログについて

「Logitec NAS 暗号化と自動ロック／アンロック設定」ダイアログでオプションメニュー内の「ロック認証ファイル保存先の設定」をクリックすると「ロック認証ファイル保存先リスト」ダイアログボックスが開きます。「ロック認証ファイル保存先リスト」ダイアログでは、ロック認証ファイルの保存先を管理することができます。



①: ロック認証ファイル保存先リスト情報ボックス:

ロック認証ファイルの保存先として登録されている設定の一覧が表示されます。参照先として優先順の高い設定が上から表示されます。アンロックの認証時には基本的に一番上位に登録されている保存先の認証ファイルにアクセスしますが、何らかの理由でアクセスできない場合、次の順位の保存先の認証ファイルにアクセスします。

②: 新規追加ボタン:

ロック認証ファイルの保存先を新規に追加します。最大で5つまでの保存先を登録可能です。このボタンをクリックすると「ロック認証ファイル保存先の設定」ダイアログが開きます。

③: 編集ボタン:

既存の保存先設定情報を編集します。このボタンをクリックすると「ロック認証ファイル保存先の設定」ダイアログが開きます。

④: 削除ボタン:

情報ボックスから既存の設定を選択してからこのボタンをクリックすると設定情報が削除されます。

⑤: 優先順を上げるボタン:

情報ボックスから既存の設定を選択してからこのボタンをクリックすると優先順位が一つ上に上がります。

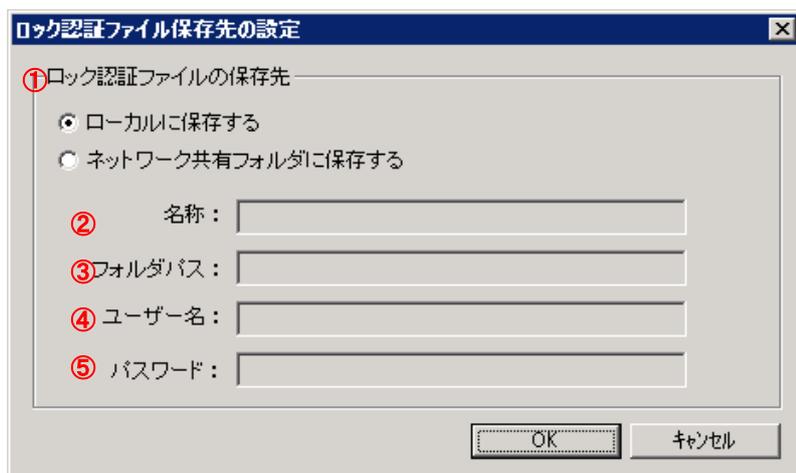
⑥: 優先順を下げるボタン:

情報ボックスから既存の設定を選択してからこのボタンをクリックすると優先順位が一つ下に下がります。

⑦: 更新ボタン:

保存先リストの現在のステータスを更新します。

■ロック認証ファイル保存先の設定ダイアログについて



① :ロック認証ファイルの保存先:

ロック認証ファイルの保存先を選択します。

- ・ローカルに保存する:NAS のローカルフォルダに保存します。(C:¥ProgramFiles¥VIA¥VEDS¥ulk)
 ※この場合、NAS 製品がまるごと盗難にあった場合、盗難先でも自動的にアンロック状態へ移行してしまいます。
- ・ネットワーク共有フォルダに保存する:NAS から参照可能なネットワーク共有フォルダに保存します。NAS 製品本体が盗難にあった場合でもロック認証ファイルは本体に含まれないため、自動的にアンロック状態へ移行することはありません。

保存先としてネットワーク共有フォルダを選択した場合は、以下の②、③、④、⑤を設定する必要があります。

② :名称:

設定項目を識別するために、わかりやすい任意の名前を入力してください。

③ :フォルダパス:

NAS からアクセス可能な共有フォルダのパスを指定します。(フォルダはあらかじめリード、ライトが可能な状態で作成しておく必要があります。)

例> ¥¥192.168.2.10¥Public¥KeyFile

④ :ユーザー名:

共有フォルダにアクセス可能なユーザ名を指定します。

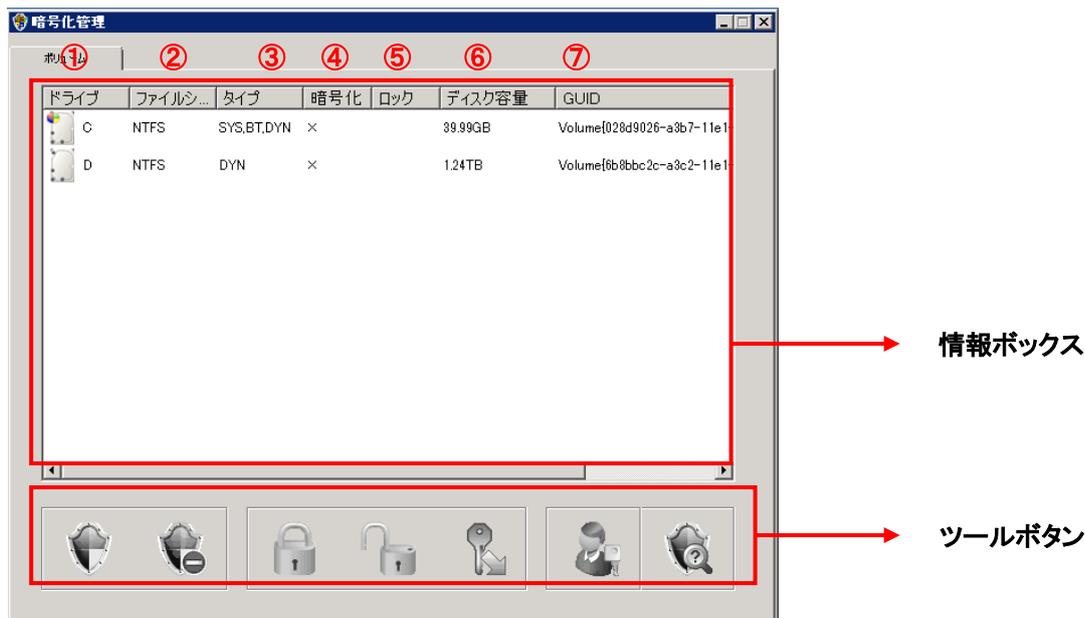
例> DomainName¥admin

⑤ :パスワード:

共有フォルダにアクセス可能なユーザーのパスワードを指定します。

■暗号化管理ダイアログについて

「Logitec NAS 暗号化と自動ロック／アンロック設定」ダイアログで「ドライブ暗号化管理」ボタンをクリックすると「暗号化管理」ダイアログが開きます。「暗号化管理」ダイアログでは、暗号化ドライブの作成、暗号化ドライブの解除、暗号化ドライブのロックおよびアンロック、パスワードの変更、キーファイルの作成を行うことができます。ここでは、「暗号化管理」ダイアログ内の情報について説明します。



○情報ボックス

情報ボックスには NAS 内で現在利用可能なボリュームの一覧と、各ボリュームに関するパラメータが表示されます。各パラメータについては以下ようになります。

- ①ドライブ : 現在 NAS に登録されている論理ドライブ(ドライブレター)をリストアップしています。
- ②ファイルシステム : ファイルシステム:論理ドライブのフォーマット形式を表示します。未フォーマットや暗号化ドライブがロック中の場合は表示されません。
- ③タイプ : 論理ドライブのタイプを表示します。下記の略称で表示されています。
SYS:システムボリューム BT:ブートボリューム DYN:ダイナミックボリューム
- ④暗号化 : 各論理ドライブが暗号化済みかを表記しています。○が暗号化済み、×が非暗号化ドライブとなります。また、暗号化が完了していない(暗号化処理を途中でキャンセルした等)場合には未完了と表示されます。
※但し、該当ドライブの暗号化が未完了の場合でも、ロック状態の場合は常に○が表示されますのでご注意ください。
- ⑤ロック : 暗号化された論理ドライブがロック状態にあるかを表示します。ロック状態の場合が○、アンロック状態の場合が×となります。
- ⑥ディスク容量 : 選択された論理ドライブの全体容量を表示します。
- ⑦GUID : 選択された論理ドライブの GUID を表示します。

○ツールボタン

暗号化に関する操作をツールボタンで行います。各ボタンの説明は以下をご参照ください。ボタンが該当する操作に対してボリュームが対応していない状態の場合はボタンがグレーアウトします。



:暗号化ボタン／ 暗号化ドライブを作成します。 暗号化されていないか、暗号化が完了していないドライブが選択された場合に有効になります。 暗号化が完了していない暗号化ドライブを選択してこのボタンをクリックすると、暗号化を継続する事ができます。



:暗号化解除ボタン／ 暗号化ドライブの暗号化を解除します。 暗号化ドライブか、暗号化が完了していないドライブが選択された場合に有効になります。



:ロックボタン／ 暗号化ドライブをロックします。アンロック状態の暗号化ドライブを選択している場合に操作することが可能です。



:アンロックボタン／暗号化ドライブをアンロックします。 ロック状態の暗号化ドライブを選択している時に操作することが可能です。



:パスワード変更ボタン／暗号化ドライブのパスワードを変更します。 ロック状態の暗号化ドライブを選択した場合に有効になります。



:キーエクスポートボタン／パスワードをデータ化したファイル「キーファイル」を作成します。暗号化ドライブを選択した時に表示されます。



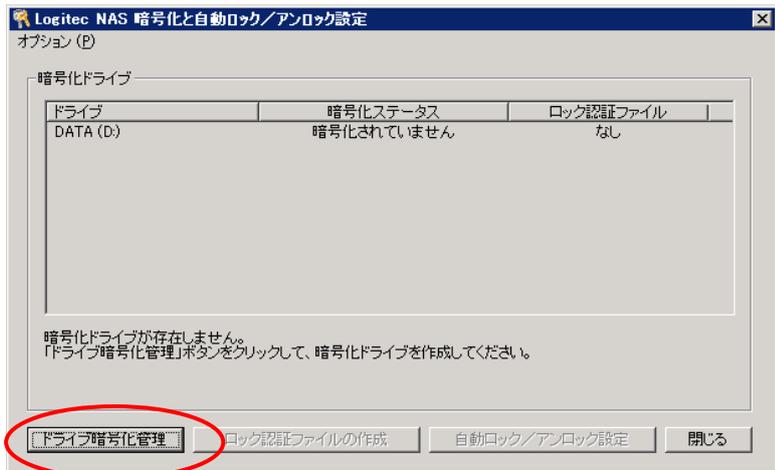
:ボリューム修復ボタン／暗号化システムから認識されない暗号化ボリュームを修復するときに利用します。

■ディスク暗号化の手順

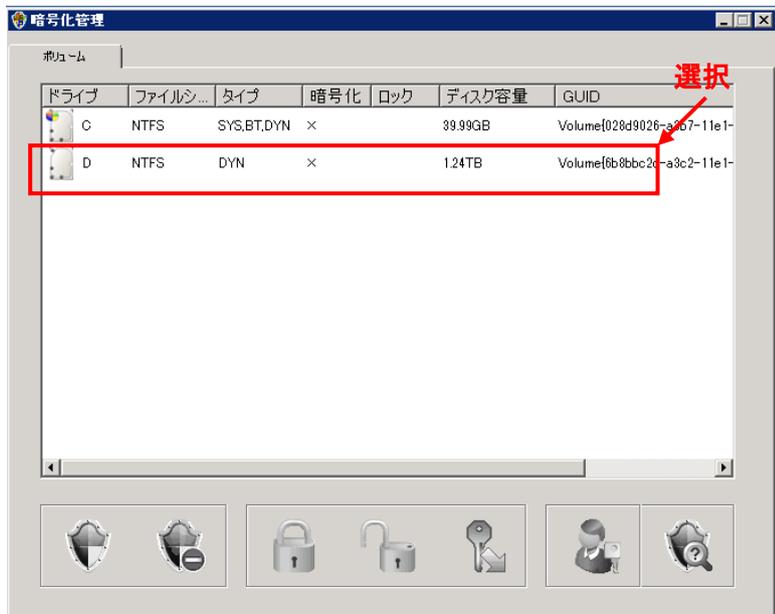
★注意★

ディスク暗号化作業は完了までに時間を要します。暗号化作業中に電源障害等で不正シャットダウンが発生すると暗号化作業中のボリューム全体のデータが破損する危険性があります。UPS(無停電電源ユニット)等で電源対策を行うことを強くお勧めします。

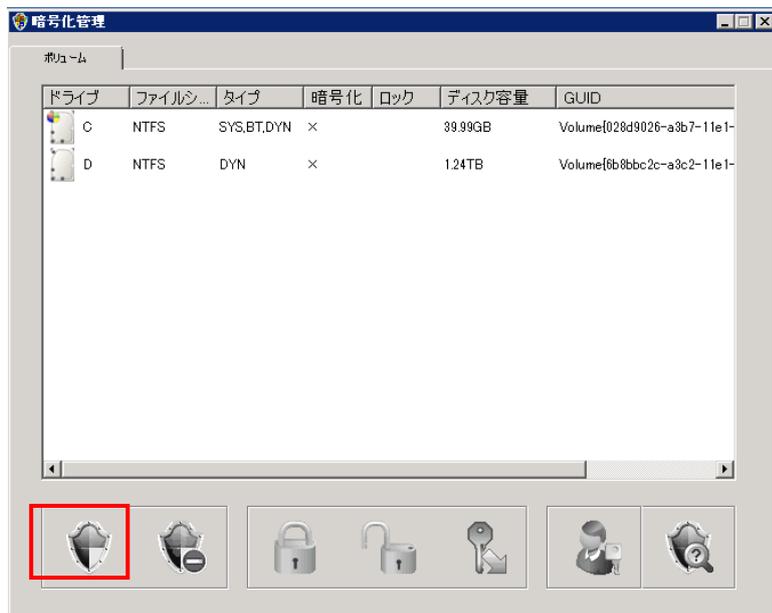
①暗号化管理ダイアログを起動します。



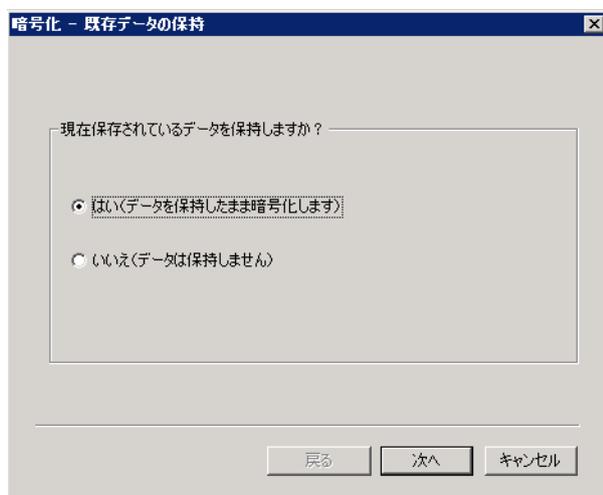
②暗号化するドライブを情報ボックスより選択します。



③暗号化ボタンをクリックします。



② 選択したドライブのデータを保持したまま暗号化を行うかの確認ダイアログが表示されます。



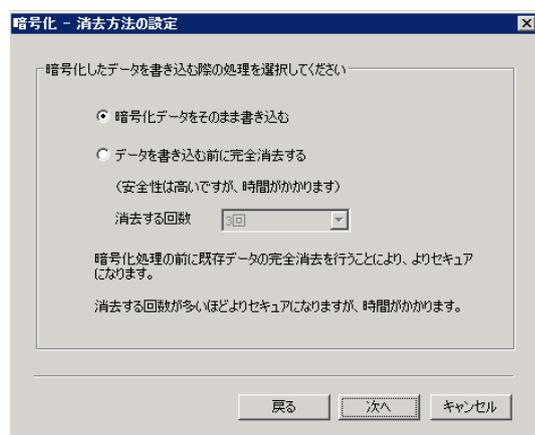
・現在ボリュームに保存されているデータを暗号化し、ドライブに上書き保存する場合は、「はい」を選択して「次へ」をクリックしてください。(⑤に進んでください)

・現在ボリュームに保存されているデータを消去して、暗号化ドライブとする場合は、「いいえ」を選択し、「次へ」をクリックしてください。(⑥に進んでください)

★ポイント★

データを保持したまま暗号化をする場合、保存してあるデータの量に関わらず、完了までに非常に時間を要します(数十時間)。暗号化の対象ボリュームにデータが存在しない場合、又は機密度の低いデータの場合にはあらかじめデータをバックアップした上で、「データを保持しない」を選択し、クイックフォーマットを選択してください。「クイックフォーマットによる暗号化作業は数分で完了します」。

⑤ (「はい」を選択した場合) 暗号化したデータを書き込む際の処理を選択するダイアログが表示されますので、処理内容を選択して「次へ」をクリックします(⑦に進んでください)



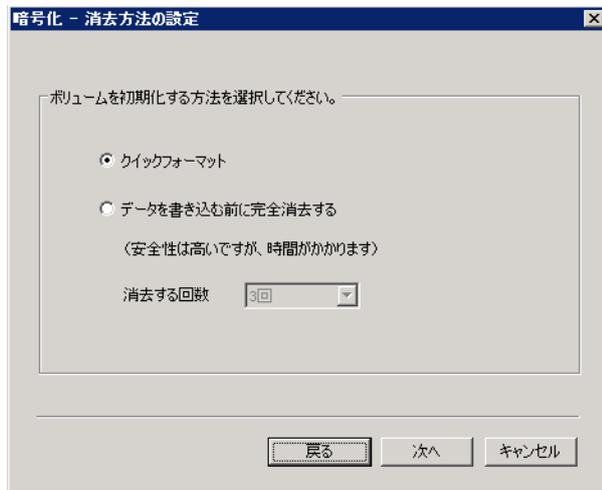
・ 暗号化データをそのまま書き込む:

暗号化データを上書きする際にそのままデータを上書きします。セクタ単位で残った残留データの消去を行わないので、暗号化以前のデータの読み出しができてしまう可能性が在ります。

・ データを書き込む前に完全消去する:

データを書き込む際に、以前に書き込まれているデータを完全消去します。消去する回数は1回から3回の間で設定可能で、消去回数を重ねることにより、元データの読み出しは、より困難になります。

⑥（「いいえ」を選択した場合）消去方法の設定ダイアログが表示されますので、データの消去方法を選択して「次へ」をクリックします(⑦に進んでください)



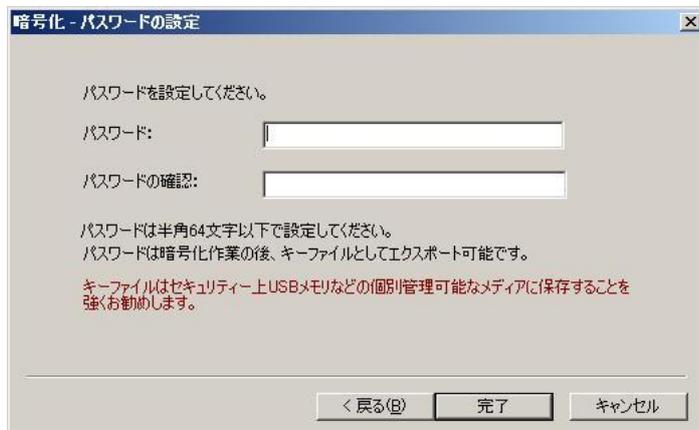
- ・クイックフォーマット

高速にデータ消去ができますが、ハードディスク上に残留データが残る可能性があります。また、初回の利用でまだデータを書き込んでない場合は、特に危険性は無いので、有効です。

- ・データを書き込む前に完全消去する

既に HDD 上に書き込まれているデータを完全に消去します。残留データを残さないので、よりセキュアな環境を構築できます。

⑦パスワードを設定します。

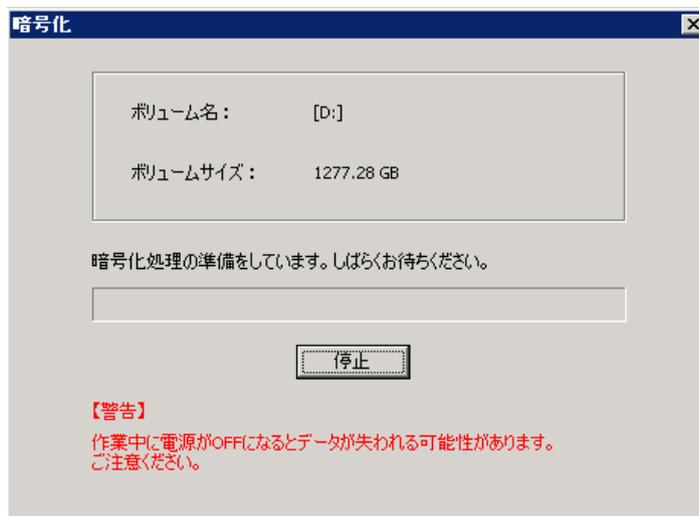


暗号化ドライブをアンロックする場合に必要なパスワードを設定します。パスワードは半角 6 文字以上 64 文字以下で指定します。パスワードを設定後、「完了」ボタンをクリックすると暗号化が開始されます。

★★重要★★

このパスワードは今後この暗号化ドライブにアクセスするために必要になります。忘れない様に控えておき、厳重に管理してください。パスワードを紛失すると、暗号化ドライブに保存されているデータにはアクセスできなくなります。この場合、データ復旧サービス等でも復旧は不可能となりますので、ご注意ください。

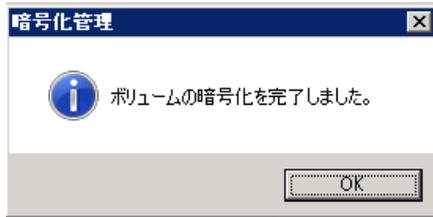
⑧暗号化作業が開始されます。



暗号化作業の進捗状況が表示されます。

「停止」をクリックすると、暗号化作業を中断する事が可能です。作業を中断した場合、残りの領域はデータが暗号化されませんのでご注意ください。中断した場合でも、必ず最後まで暗号化作業を完了しておいてください。暗号化完了までの時間は選択した処理内容、暗号化レベル、ドライブ容量等により異なります。

⑨暗号化処理が完了すると以下のダイアログが表示されますので、「OK」をクリックします。これで暗号化処理は完了です。



データを保持しない設定で暗号化を実行した場合、ボリューム上の既存の共有フォルダは全て削除されますが、共有フォルダ自体の設定はシステム上に残存していますので、必ず再起動を行ってください。

<参考:暗号化作業にかかる時間>

ドライブ内のデータを保持した状態で暗号化を行う場合、データボリュームの全セクタのデータ書き換えを行うので、完了までに時間を要します。以下に各容量モデル毎の所要時間の目安を記載しますので、ご参照ください。

※ 本数値は無負荷時のものになります。

○2TB モデル	約 29 時間
○4TB モデル	約 57 時間
○8TB モデル	約 114 時間
○12TB モデル	約 172 時間

■■ 暗号化ドライブのお取り扱いに関する重要なご注意 ■■

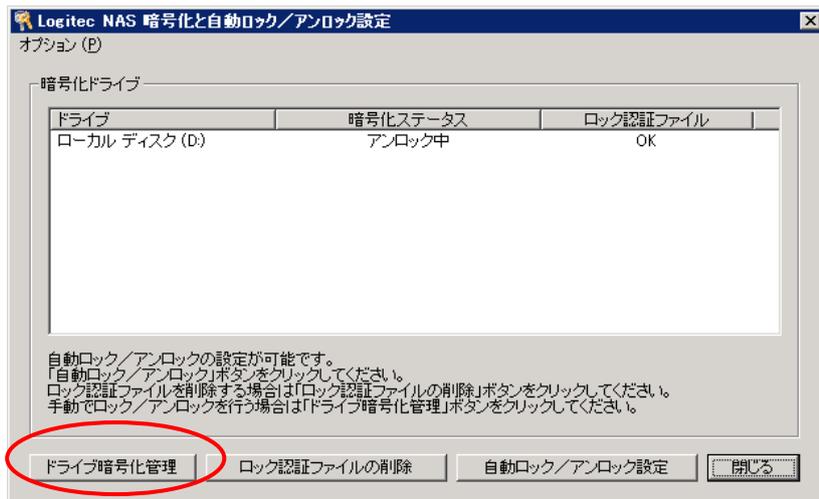
- 暗号化作業中、WindowsUpdate などによりシステムが再起動されることの無いようにあらかじめ設定を行ってください。
- 暗号化作業中は電源 OFF やスリープ、再起動をしないでください。データが失われる可能性があります。
- 「電源設定」で自動終了/自動起動を設定されている場合は、暗号化作業中に作動しないよう、設定を解除しておいてください。
- 暗号化作業中は「自動ロック/アンロック機能」を無効にし、暗号化作業中に該当ボリュームがロック状態にならないようにしてください。
- 暗号化ドライブの RAID 構成を変更する場合は、必ず暗号化を解除した状態で行ってください。ロックされた状態や、暗号化されたままの状態での RAID 構成を変更した場合、正常に反映されない場合があります。
- 暗号化ドライブをロックした状態では論理フォーマットを行わないでください。

■暗号化ドライブのアンロック方法(手動アンロック)

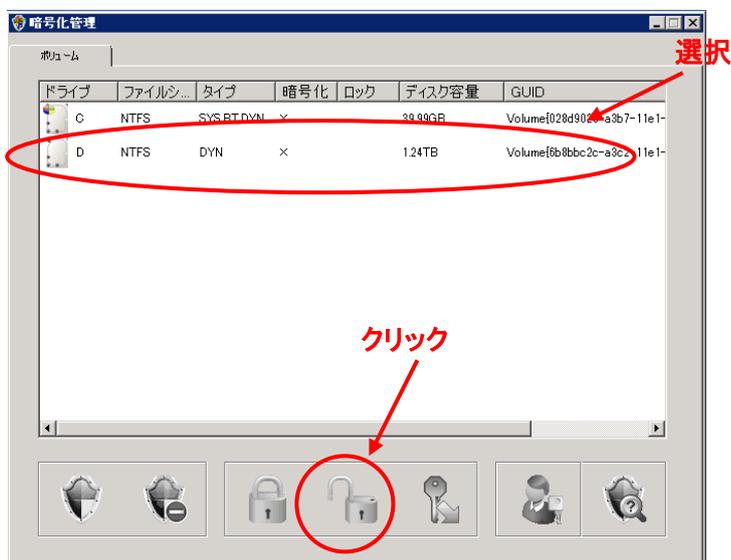
暗号化ドライブに保存されているデータへアクセスするためには、アンロックする必要があります。自動ロック/アンロックが設定されていない場合、起動時はすべての暗号化ドライブがロック状態です。

アンロックは以下の手順で行ってください。

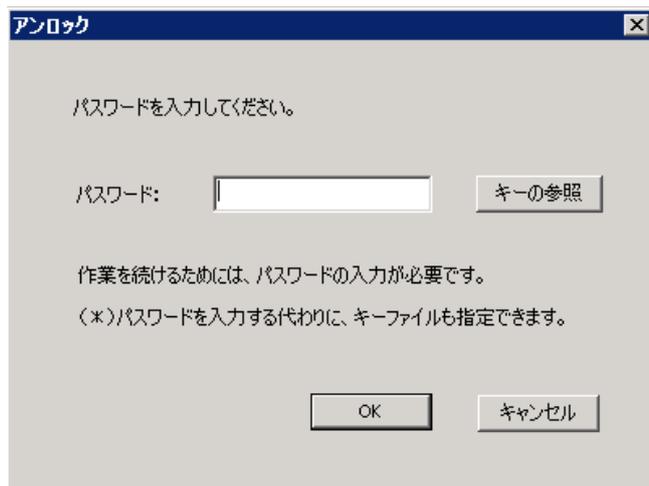
①暗号化管理を起動します



②アンロックする暗号化ドライブを選択して、「アンロックボタン」をクリックしてください。



③パスワードの入力が要求されます。



パスワードを入力して「OK」ボタンをクリックする事により、アンロックが可能です。この画面で、「キーの参照」ボタンをクリックしてキーファイルを指定すると、パスワード入力ボックスに自動的にパスワードが読み込まれます。そのまま「OK」ボタンをクリックしてアンロックする事も可能です。

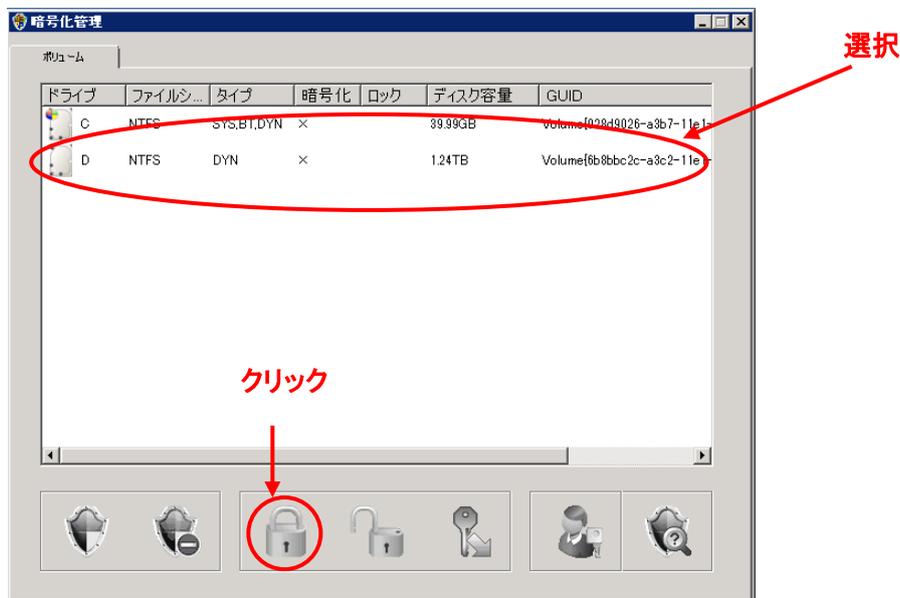
④②で「キーによるアンロックボタン」をクリックした場合、キーファイルの選択画面が表示されますので、正しいキーファイルを選択して「開く」をクリックするとキーが読み込まれ、ドライブがアンロックされます。



■暗号化ドライブのロック方法(手動ロック)

アンロック状態の暗号化ドライブをロックする場合は、以下の手順で行ってください。

①暗号化管理を起動し、ロックするドライブを選択。ロックボタンをクリックします。



確認メッセージが表示されます。「OK」をクリックすると暗号化ドライブはロックされます。

※暗号化ドライブに保存されているファイルが使用中の場合など、ロックできない場合があります。

暗号化ドライブがロックされた状態でも、「ディスクの管理」や diskpart コマンドによりボリュームを削除する事が可能です。パスワードを忘れてしまった場合など、暗号化ドライブへアクセスできなくなってしまった場合には、これらの方法でボリュームを削除してください(保存されていたデータは削除されます)。反対に、誤ってアンロック中のボリュームを削除しないようご注意ください。

■自動ロック／アンロックの設定方法

暗号化ドライブのロック／アンロックはセキュリティ上、原則的には手動で行う事をお勧めいたします。

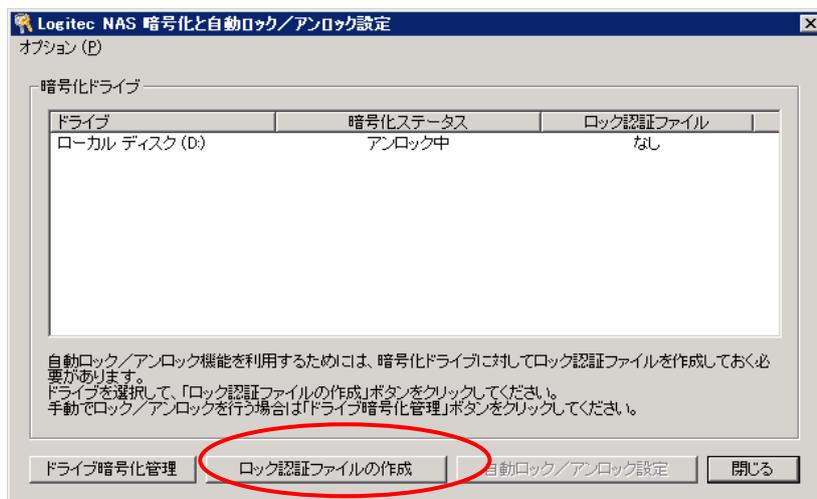
本ソフトウェアでは、暗号化ドライブを自動アンロックする機能があります。

自動ロック／アンロックの機能をご利用になるためには、暗号化ドライブの「ロック認証ファイル」を用意する必要があります。ロック認証ファイルの登録された暗号化ドライブが一つ以上存在する場合、「自動ロック／アンロックの設定」が可能になります。ロック認証ファイルは、NAS ローカルとネットワーク共有フォルダのどちらかへ保存できます。NAS ローカルへ保存した場合、NAS 製品がまるごと盗難にあった場合に盗難先でも自動的にアンロック状態へ移行してしまいます。この条件でも問題ない場合のみ、NAS ローカルへ保存してください。

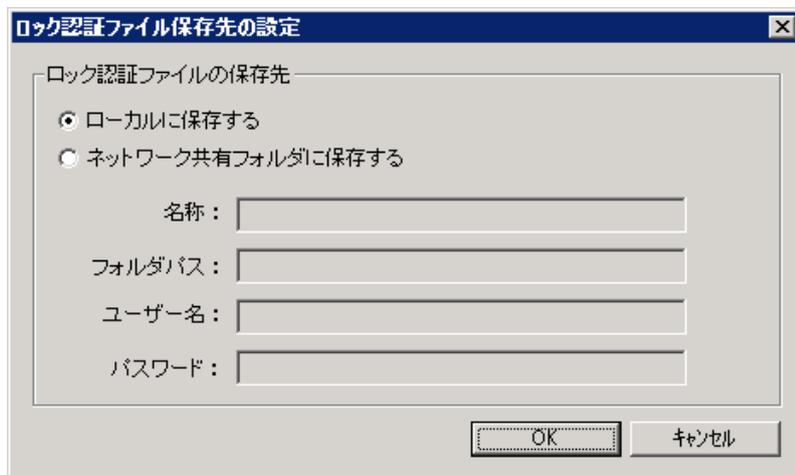
まずは、「ロック認証ファイル」を作成します。

1. ロック認証ファイルの作成

①「暗号化と自動ロック／アンロック設定」ダイアログで、ロック認証ファイルを作成する暗号化ドライブを選択して、「ロック認証ファイルの作成」ボタンをクリックします。

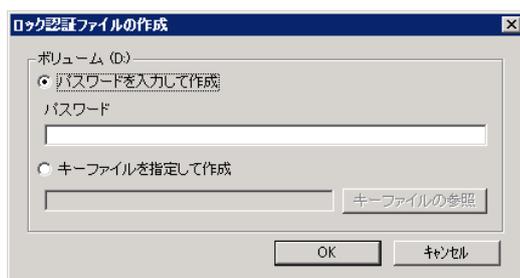


②「ロック認証ファイルの作成」ボタンをクリックした時点でロック認証ファイルの保存先が確定していない場合、「ロック認証ファイル保存先の設定」ダイアログが開きます。



③「ロック認証ファイルの作成」ダイアログが開きます。

ここで、アンロックするためのパスワードを入力するか、キーファイルを指定します。



「OK」ボタンをクリックする事により、NAS 内部に「ロック認証ファイル」が作成されます。これで、自動ロック／アンロックを設定するための準備が整いました。続いて、自動ロック／アンロックの設定を行います。

※「ロック認証ファイル」が登録されている暗号化ドライブを選択した場合、「ロック認証ファイルの作成」ボタンは「ロック認証ファイルの削除」ボタンに切り替わります。「ロック認証ファイルの削除」ボタンをクリックして、ロック認証ファイルを削除する事により、その暗号化ドライブを自動ロック／アンロックの対象から外す事ができます。

ロック認証ファイルについてのご注意

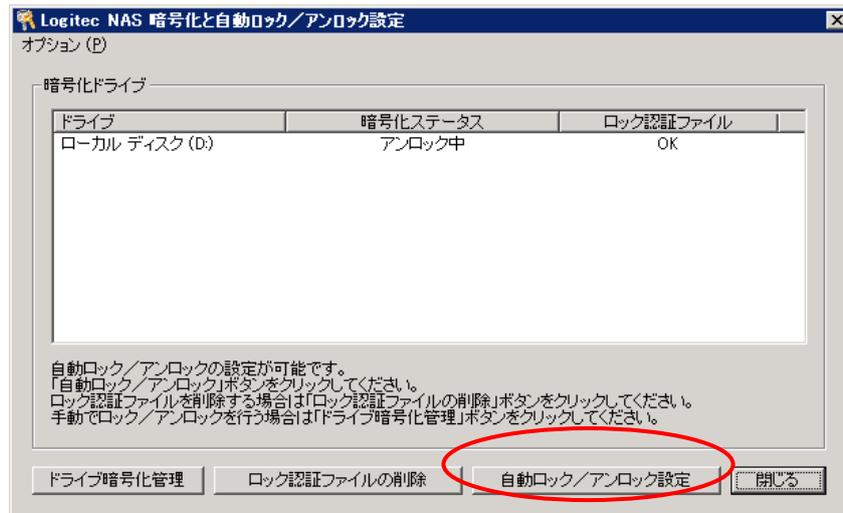
ロック認証ファイルは、マザーボードが変わると無効になります。このため、本製品の修理などでマザーボードが交換された場合、自動ロック／アンロックが機能しなくなります。

※ この場合、「暗号化と自動ロック／アンロック設定」ダイアログのロック認証ファイルステータスが「エラー」または「なし」になります。この場合、新しいマザーボード上で再度ロック認証ファイルを作成する事により、再び自動ロック／アンロックが機能するようになります。

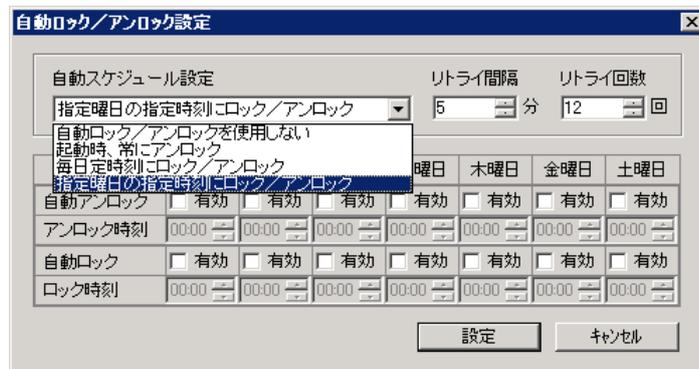
2. 自動ロック／アンロックの設定

暗号化ドライブのロック／アンロックをスケジュール構成し、自動的にロック／アンロックを行うようにします。本設定を行うには前述の「ロック認証ファイル」の作成が必要です。

- ①「暗号化と自動ロック／アンロック設定」ダイアログで「自動ロック／アンロック」ボタンをクリックします。
 ※「自動ロック／アンロック」ボタンは「ロック認証ファイル」の準備ができていない暗号化ドライブが一つ以上存在する場合に有効になります。



- ②「自動ロック／アンロック設定」ダイアログが表示されます。



・自動スケジュール設定

自動スケジュールに関する設定を以下の中から選択します。

- 自動ロック／アンロックを使用しない : 手動でのロック／アンロックのみを行う場合に指定します。
- 起動時に常にアンロック : NAS 起動時にアンロックし、NAS シャットダウン時に自動ロックする設定です。
- 毎日定時刻にロック／アンロック : 毎日指定の時刻にロック／アンロックする設定です。

- 指定曜日の指定時刻にロック／アンロック : 一週間の各曜日ごとにロック時刻／アンロック時刻を設定します。

- ・リトライ間隔とリトライ回数

自動ロック／アンロック時に他のタスクの影響などでコマンドが実行できない際に、再度コマンドを実行するまでの間隔と回数を指定します。ここで指定した回数の再試行を行っても失敗した場合、「お知らせメール」機能によりメールが配信されます(設定されている場合)。

- ・自動アンロック／アンロック時刻

自動アンロックを実行する時刻を指定します。

曜日ごとに指定する場合は実行する曜日のチェックボックスをチェックします。

- ・自動ロック／ロック時刻

自動ロックを実行する時刻を指定します。

曜日ごとに指定する場合は実行する曜日のチェックボックスをチェックします。

※自動アンロックの時刻と自動ロックの時刻は、両方とも必ず一つ以上設定しておく必要があります。

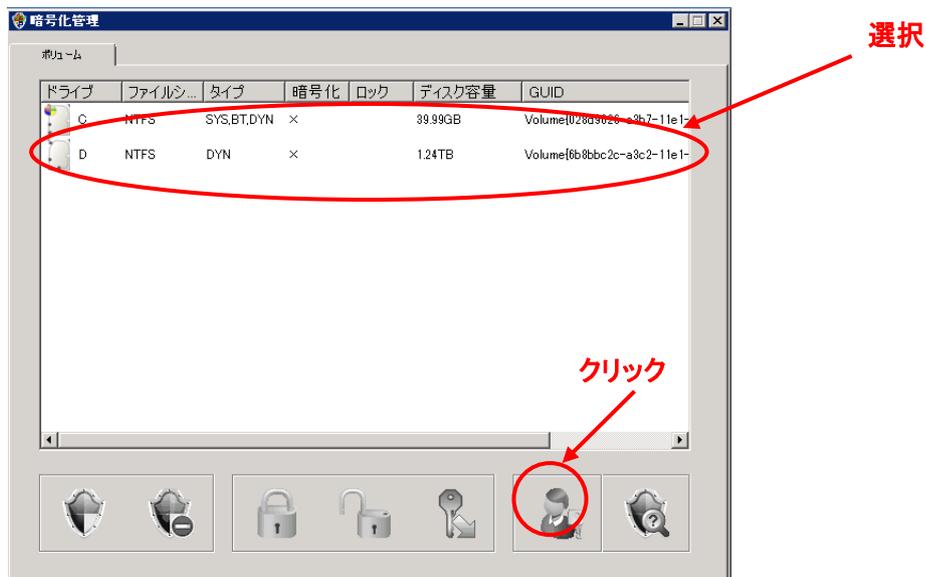
- ・暗号化ドライブがロックされた状態でも、「ディスクの管理」や diskpart コマンドによりボリュームを削除する事が可能です。パスワードを忘れてしまった場合など、暗号化ドライブへアクセスできなくなってしまう場合には、これらの方法でボリュームを削除してください(保存されていたデータは削除されます)。反対に、誤ってアンロック中のボリュームを削除しないようご注意ください。
- ・リモートデスクトップなどでログオン中に自動アンロック機能が働いた場合、ログオン中のユーザーからは暗号化ドライブが消えたように見える場合があります。「コンピュータ」から暗号化ドライブを参照できなくなった場合には、一度ログオフし、再度ログオンすることによってドライブを参照できるようになります。

■パスワードの変更

セキュリティの為に定期的に暗号化パスワードを変更したい場合には以下の手順を参照してください。

① 暗号化管理ダイアログを起動します。

② パスワードを変更する暗号化ドライブを情報ボックスで選択して、「パスワード変更ボタン」をクリックします。アンロック状態の暗号化ドライブを選択した場合、「パスワード変更ボタン」は無効になります。パスワードを変更する前に、あらかじめ暗号化ドライブをロック状態にしておいてください。



③確認メッセージボックスが表示されます。内容をご確認の上、「はい」ボタンをクリックしてください。「パスワードの変更」ダイアログが表示されます。

パスワードの変更

現在のパスワード: キーの参照

新しいパスワード:

新しいパスワードの確認:

新しいパスワードで再暗号化します。

ご注意:
パスワードを変更すると、以前にエクスポートしたキーファイルは無効になります。
キーファイルの管理にご注意ください。

OK キャンセル

確認のため、現在のパスワードを入力します。パスワードを入力する代わりに「キーの参照」ボタンをクリックしてキーファイルを指定する事もできます。続いて、確認用も含めて新しいパスワードを2回入力します。ここで、「新しいパスワードで再暗号化します。」チェックボックスをチェックする事により、新しいパスワードを元に、暗号化ドライブを再暗号化できます。

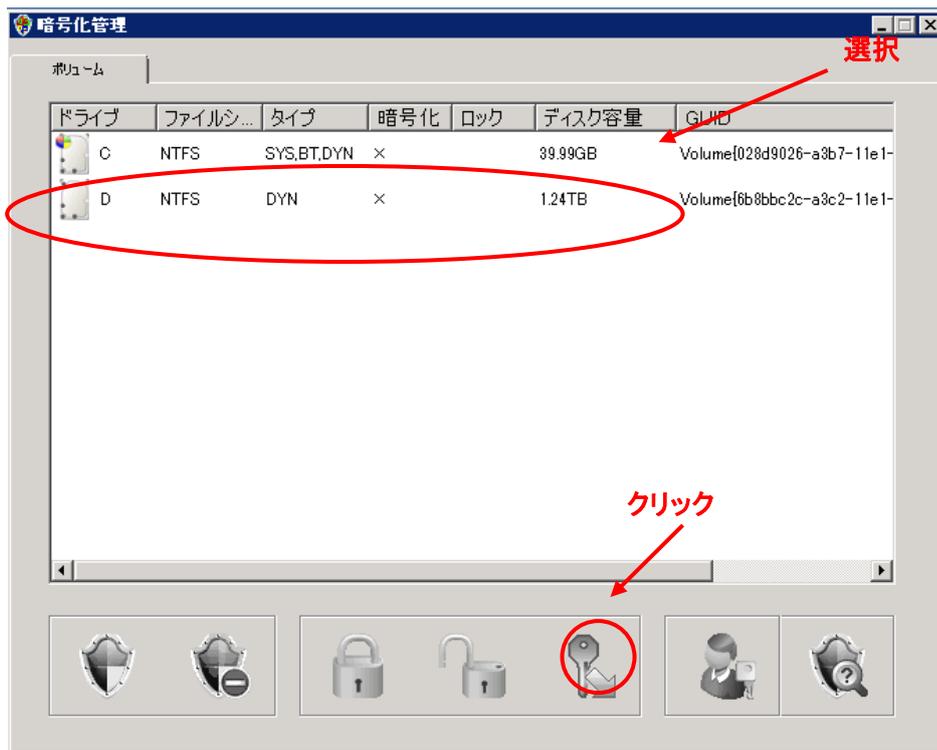
□注意□

パスワードを変更すると前のパスワードで作成したキーファイルは無効になりますので、再度キーのエクスポート機能を利用してキーファイルを作成してください。

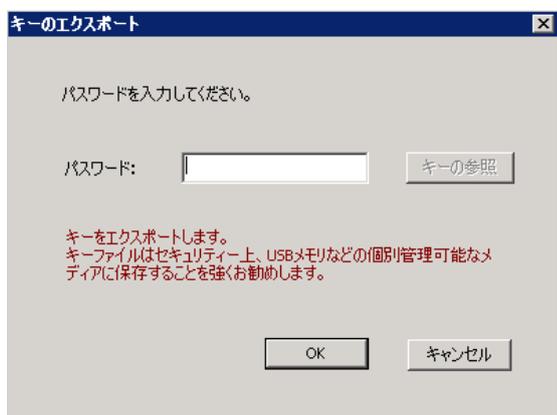
■キーのエクスポート(キーファイルの作成)

暗号化したドライブをセキュアに管理するためにパスワードの代わりにパスワードより生成したキーファイルを作成することが可能です。キーのエクスポート(キーファイルの作成)手順は以下を参照してください。

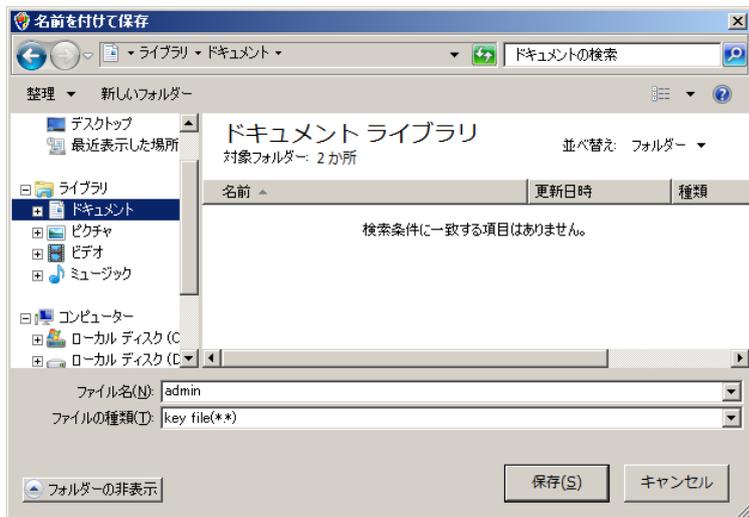
①暗号化管理を起動、キーをエクスポートする対象の暗号化ドライブを選択し、キーエクスポートボタンをクリックします。



②暗号化の際に入力したパスワードを入力します。



③キーファイル保存先を選択し、ファイル名を入力後保存ボタンをクリックします。



確認アラートが表示されるので、はい(Y)をクリックすれば、キーファイルの作成は完了です。

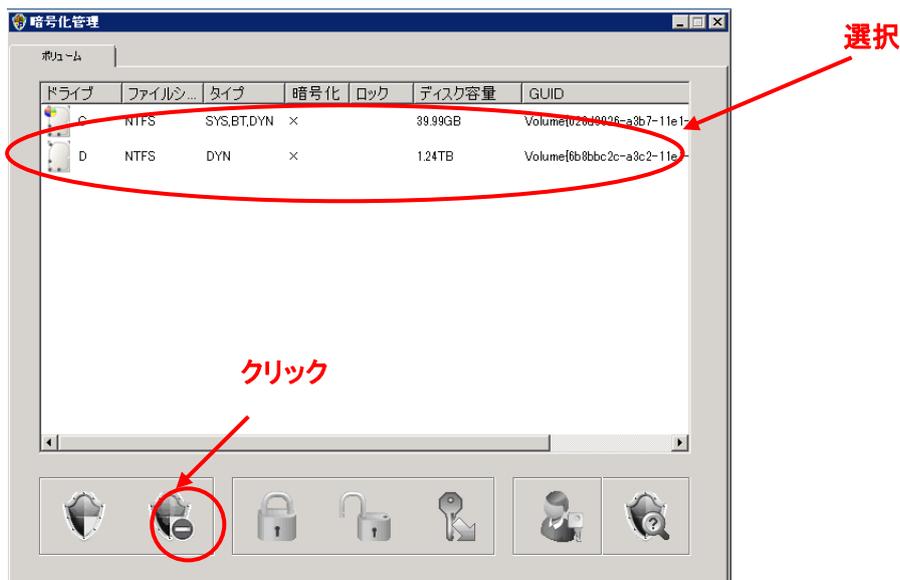
□注意□

キーファイルは暗号化パスワードと同義となりますので、NAS 内の HDD 上に放置せず、USB メモリなどに保管し、厳重に管理することをお勧めします。

■暗号化解除の方法

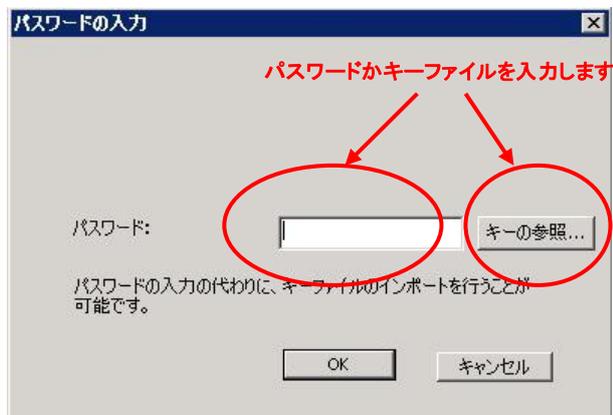
HDD への暗号化処理を解除する場合には以下の手順を参照してください。

①暗号化管理を起動、暗号化解除する対象のドライブを選択し、暗号化解除ボタンをクリックします。

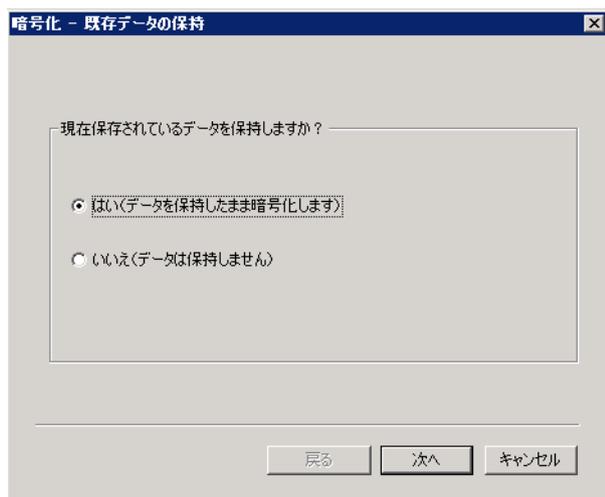


※ このとき、対象の暗号化ドライブがアンロック状態の場合は先にロック処理を行ってください。

②確認アラートが表示されるので、はい(Y)をクリックします。すると、パスワードの入力画面になるので、暗号化パスワード(もしくはキーファイル)を入力し、OK をクリックします。



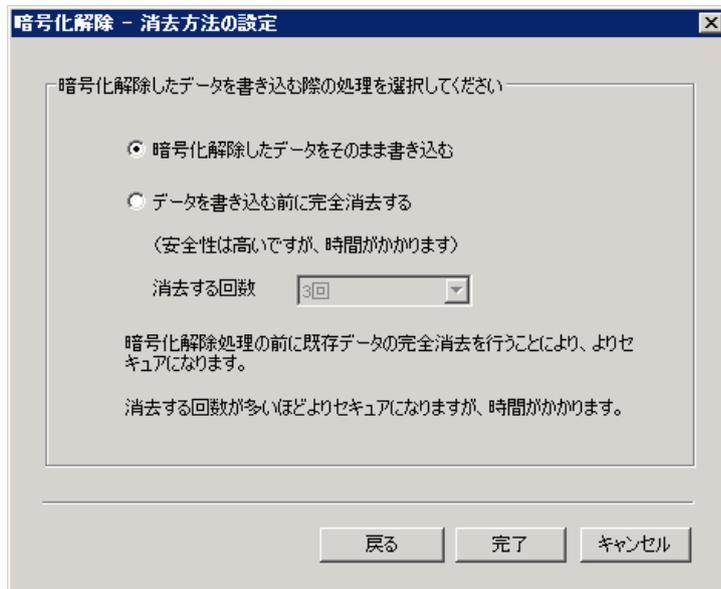
③ 選択したドライブのデータを保持したまま暗号化解除を行うかの確認ダイアログが表示されます。



・現在ボリュームに保存されているデータを平文化し、ドライブに上書き保存する場合は、「はい」を選択して「次へ」をクリックしてください。(④に進んでください)

・現在ボリュームに保存されているデータを消去して、平文化ドライブとする場合は、「いいえ」を選択し、「次へ」をクリックしてください。(⑤に進んでください)

④（「はい」を選択した場合）平文化したデータを書き込む際の処理を選択するダイアログが表示されますので、処理内容を選択して「次へ」をクリックします(⑥に進んでください)



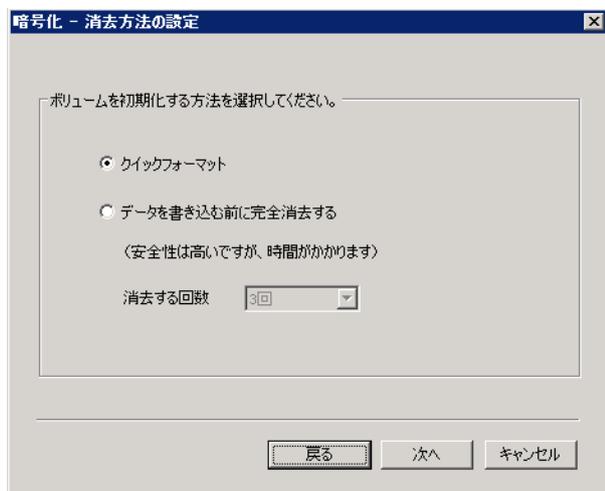
- ・ 暗号化解除したデータをそのまま書き込む:

平文化データを上書きする際にそのままデータを上書きします。暗号化時に保存されていたデータがディスク上に残留する可能性が在ります。

- ・ データを書き込む前に完全消去する:

データを書き込む際に、以前に書き込まれているデータを完全消去します。消去する回数は1回から3回の間で設定可能で、消去回数を重ねることにより、元データの読み出しは、より困難になります。

⑤（「いいえ」を選択した場合）消去方法の設定ダイアログが表示されますので、データの消去方法を選択して「次へ」をクリックします(⑥に進んでください)



- ・ クイックフォーマット

高速にデータ消去ができますが、ハードディスク上に暗号化時に書き込んだ残留データが残る可能性があります。(但し残留データは暗号化されたままです)

- ・ データを書き込む前に完全消去する

既に HDD 上に書き込まれているデータ(暗号化時に書き込まれたデータ)を完全に消去します。残留データを残さないなので、よりセキュアです。

⑥暗号化解除作業が実行されます。

暗号化解除作業が開始されます。既存データの処理内容、ドライブ容量などにより完了するまでの時間は異なります。

データを保持しない設定で暗号化を解除した場合、ボリューム上の既存の共有フォルダは全て削除されますが、共有フォルダ自体の設定はシステム上に残存していますので、必ず再起動を行ってください。

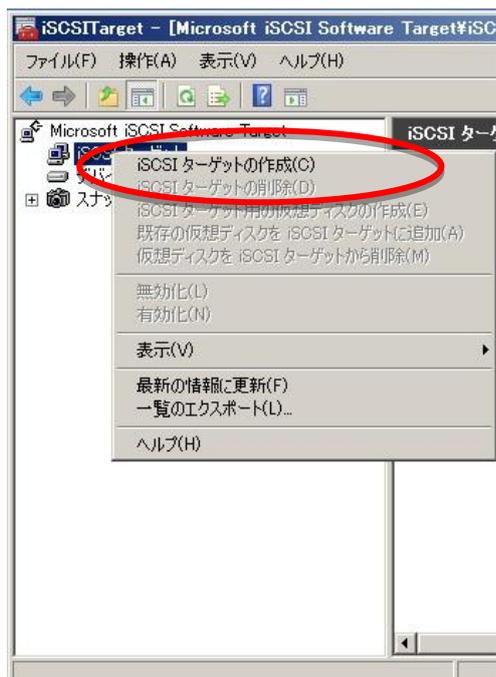
○iSCSIドライブの構成

本製品では iSCSI プロトコルでネットワーク経由でのストレージ提供が可能です。仕組みとしては、本製品内に作成した仮想ディスクファイルをドライブスペースとして提供します。

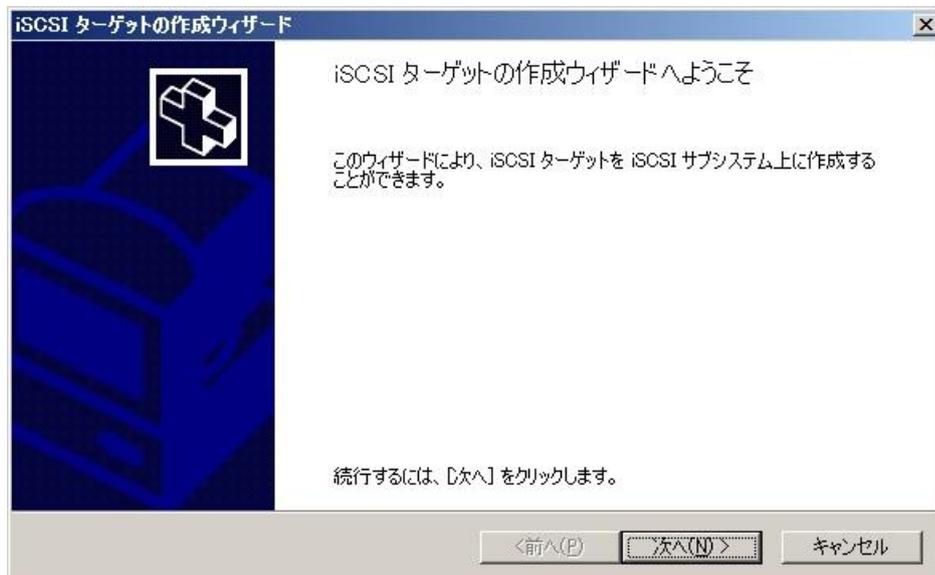
- ① 管理画面上のスタートボタンからすべてのプログラム-管理ツール-Microsoft iSCSI Software Target をクリックし、iSCSI Software Target を起動します。



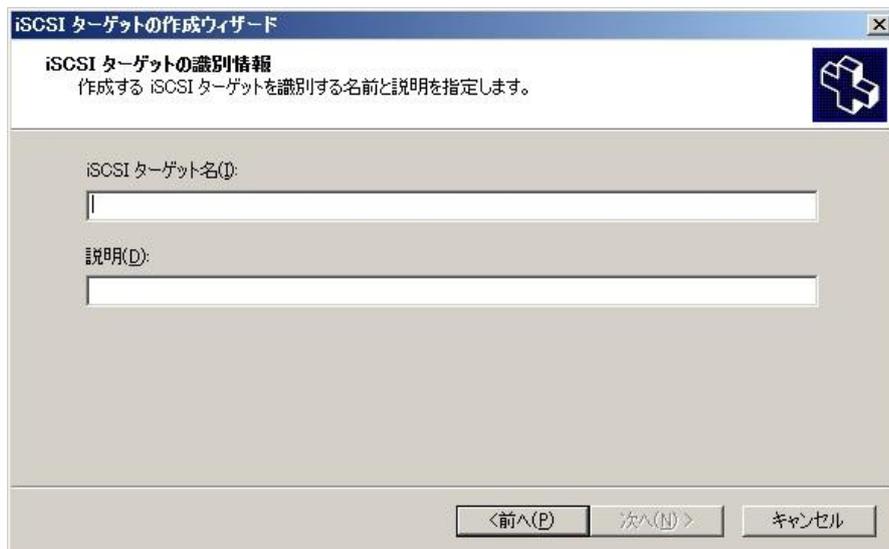
- ② iSCSI ターゲットを右クリックし、iSCSI ターゲットの作成をクリックします。



- ③ iSCSI ターゲットの作成ウィザードが起動しますので、次へをクリックします。



- ④ iSCSI ターゲット名と説明を入力し、次へをクリックします。



⑤ 識別子を入力し、次へをクリックします。

iSCSI ターゲットの作成ウィザード

iSCSI ターゲットの識別子
各 iSCSI ターゲットには、少なくとも 1 つの識別子が必要です。

識別子を使用することにより、アクセスを要求している iSCSI イニシエーターを iSCSI ターゲットが識別できます。通常は、イニシエーターの iSCSI 修飾名 (IQN) ですが、DNS ドメイン名、IP アドレス、および MAC アドレスも使用できます。

IQN 識別子(I): 参照(B)...

DNS ドメイン名、IP アドレス、MAC アドレス、または別の IQN を追加識別子として使用するには、[詳細設定] をクリックします。
詳細設定(A)...

<前へ(P) 次へ(N)> キャンセル

⑥ 完了をクリックします。

iSCSI ターゲットの作成ウィザード

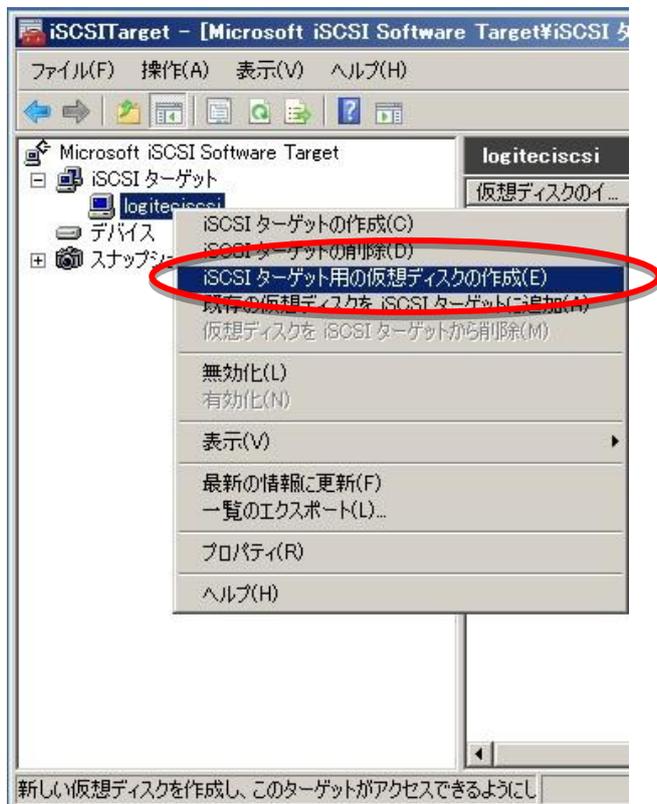
iSCSI ターゲットの作成ウィザードの完了

iSCSI ターゲットの作成ウィザードが完了しました。

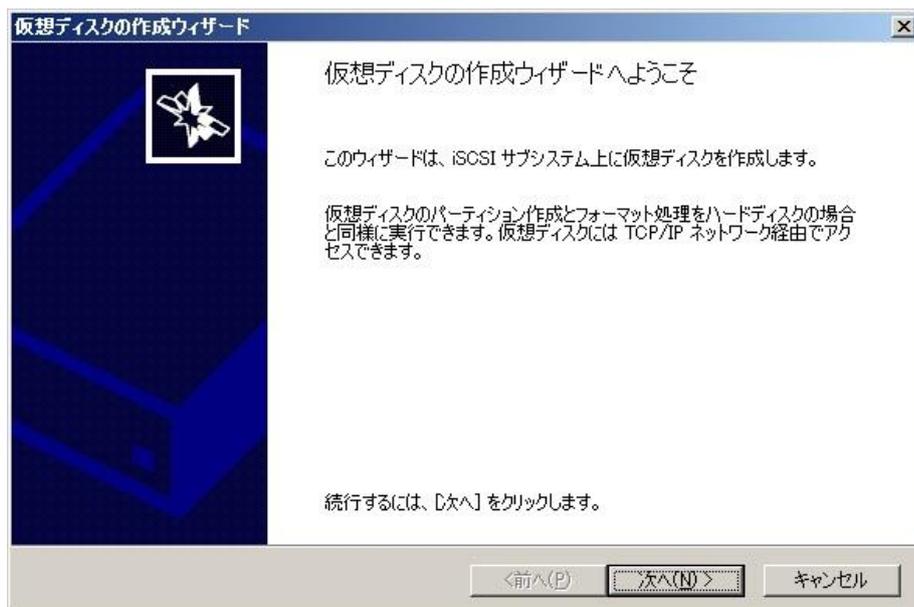
このウィザードを開いて、ターゲットを作成するには、[完了] をクリックします。

<前へ(P) 完了 キャンセル

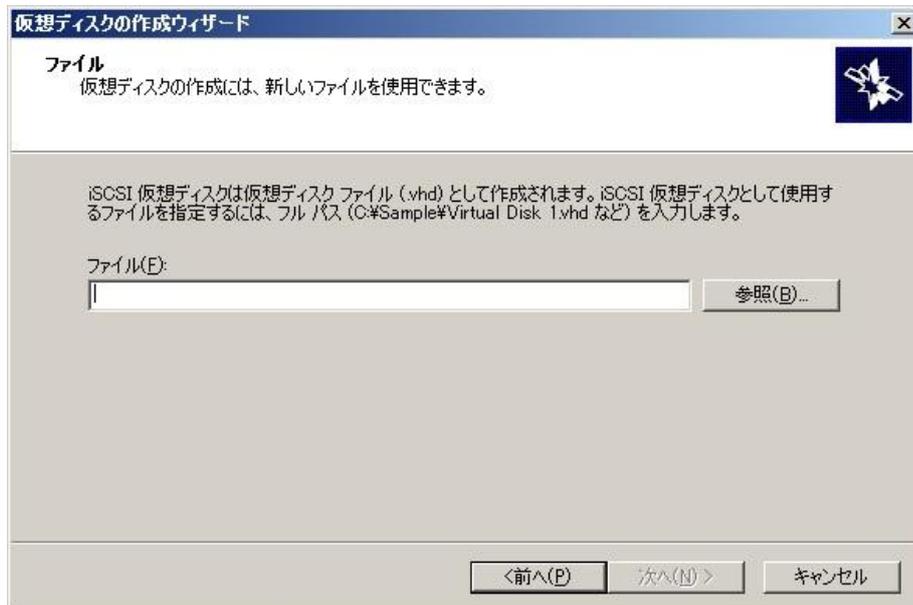
- ⑦ 作成された SCSI ターゲットを右クリックし、iSCSI ターゲット様の仮想ディスクの作成をクリックします。



- ⑧ 仮想ディスクの作成ウィザードが起動しますので、次へをクリックします。



⑨ 仮想ディスクファイルの作成場所を指定します。



⑩ 仮想ディスクで利用する容量を指定します。



⑪ 仮想ディスクの説明を入力します。



⑫ 完了をクリックします。



第4章 共有フォルダの作成・管理

Windows Storage Server 2008R2 は、SMB 接続、NFS 接続で共有リソースへのアクセスを提供し、クライアント-NAS 間でのファイルの受け渡しを行うことができます。

○ファイルサーバ機能とは

NAS 上に保存されたフォルダに対してネットワーク経由でファイルの受け渡しを行うことができる機能です。クライアント OS 毎に標準で採用されているプロトコル(通信規格)が異なるので、アクセスする OS に合わせたプロトコルでの設定が必要になります。本製品でサポートしているプロトコルは以下の通りです。

- ・SMB(CIFS)……WindowsOS、MacOSX との通信をサポート SMB2.1 サポート
- ・NFS……………Linux 系 OS との通信をサポート NFSv3 サポート
- ・FTP
- ・http(WebDAV)

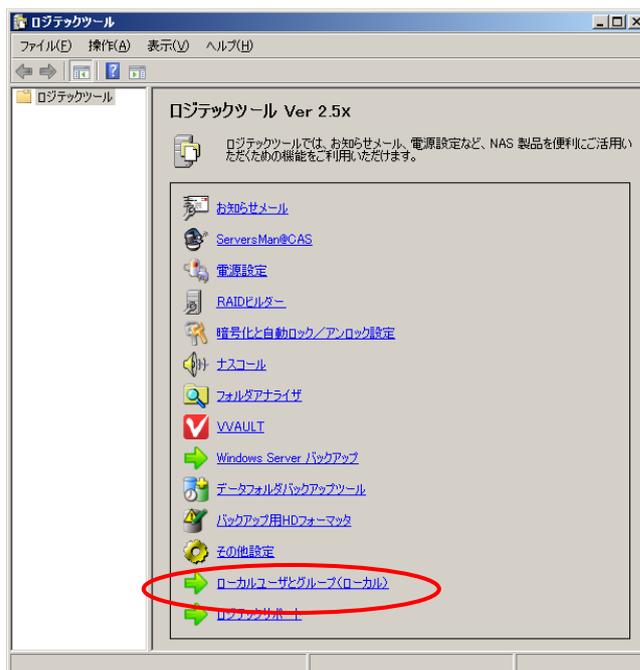
ファイルサーバ機能の特徴としてファイルの受け渡しに「アクセス権」を設定することが可能です。これはネットワーク上の特定のユーザのみにファイルへのアクセスを許可するものです。ユーザの特定には、SMB(CIFS)プロトコルの場合ユーザ名とパスワードが利用され、Windows クライアントの場合、デフォルトではクライアントにログインする際に使用されるログイン名とパスワードが自動的に NAS にアクセスするためのユーザ名、パスワードとして利用されます。これと NAS 側に登録されたユーザ名、パスワードと照らし合わせてユーザを承認します。

注意：本製品に登録可能なユーザアカウントは 50 アカウントまでです。1 つのユーザアカウントを利用できるのは 1 人のユーザのみです。

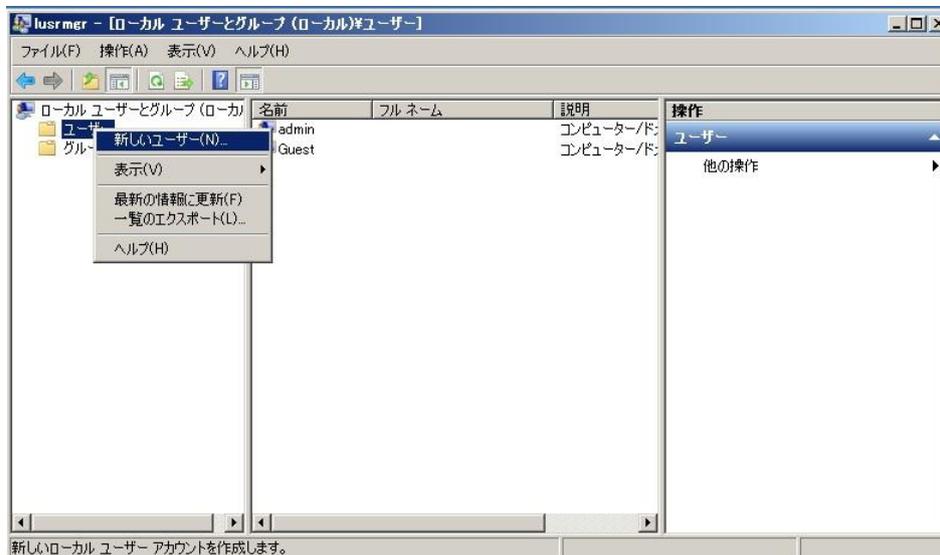
○ユーザの作成

共有フォルダの作成に先立ち、アクセス権の設定に必要なユーザを登録します。

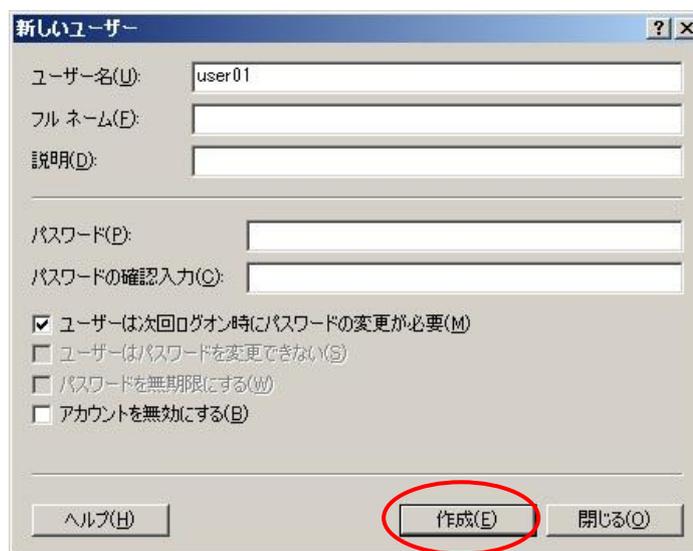
- ① 「ロジテックツール」の「ローカルユーザとグループ(ローカル)」をクリックします。



②ローカルユーザとグループが新しく表示されますので、「ユーザー」の上を右クリックし、新しいユーザー(N)を選択してください。



③新しいユーザー登録の画面が表示されますので、必要事項を入力して「作成」をクリックします。



入力項目:

- ・ユーザー名(U): クライアントログイン名を入力します。利用可能な文字は巻末の設定制限表にてご確認ください。
 - ・フルネーム(E): 任意(NAS の管理用)
 - ・説明(D): 任意(NAS の管理用)
 - ・パスワード(P): クライアントログインパスワードを入力します。
 - ・パスワードの確認入力(C): パスワードと同じフレーズを入力します。
- ※パスワードに: 記号「? [] | ; : ” < > ! ¥ / *」は使用できません。英字の大文字、小文字は、区別しません。全角の文字は使用しないでください。

チェック項目

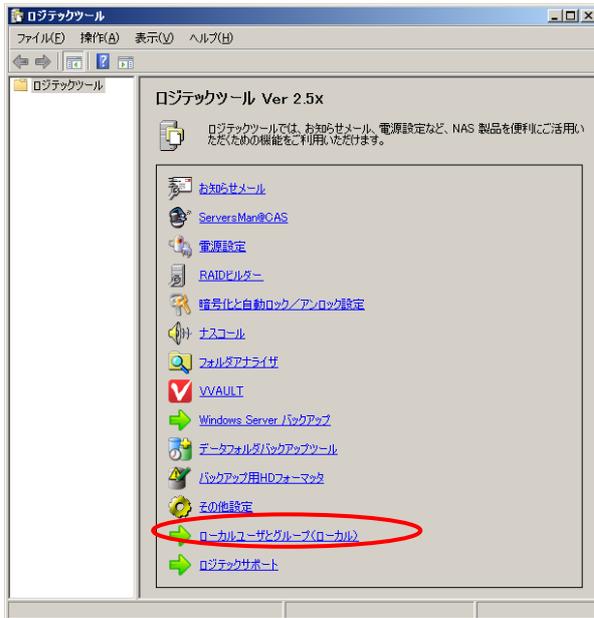
- ・ユーザーは次回ログオン時にパスワードの変更が必要(M)
→ユーザーは次回ログオン時に任意のパスワードを設定します。
- ・ユーザーはパスワードを変更できない(S)
→管理者が設定したパスワードで運用します。
- ・パスワードを無期限にする(W)
→無期限にチェックを入れる事により半永久的に同じパスワードで運用可能です。
- ・アカウントを無効にする(B)
→無効にするにチェックを入れる事により作成したユーザーをロックできます

これで、ユーザの作成は完了です。

○グループの作成

組織で NAS を利用する場合、アクセス権の設定をユーザ毎ではなく、ユーザを束ねたグループ毎に設定することが可能です。グループでアクセス権を設定することで、組織的な移動によるアクセス権の変更が楽に行えます。

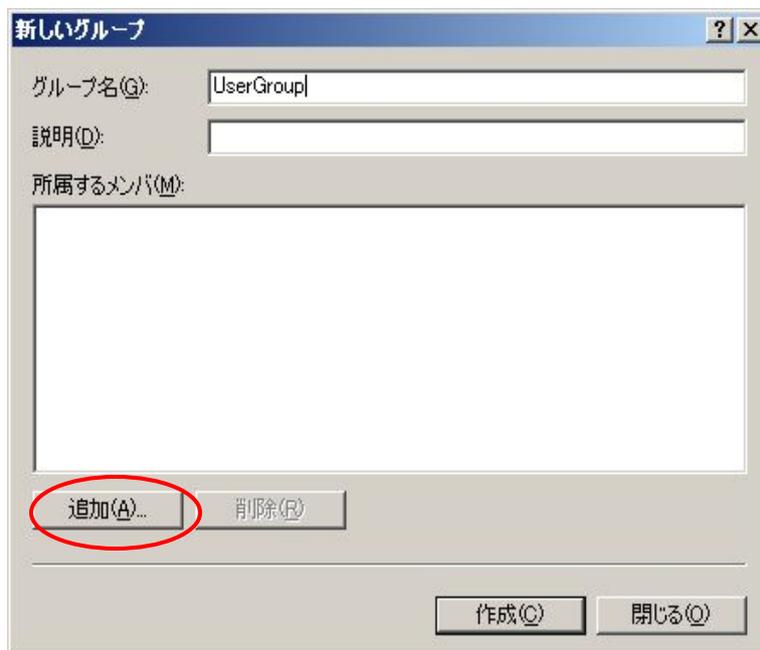
①ロジテックツールのローカルユーザーとグループ(ローカル)をクリックしてください。



②ローカルユーザーとグループが新しく表示されますので、「グループ」の上を右クリックし、新しいグループ(N)を選択してください。

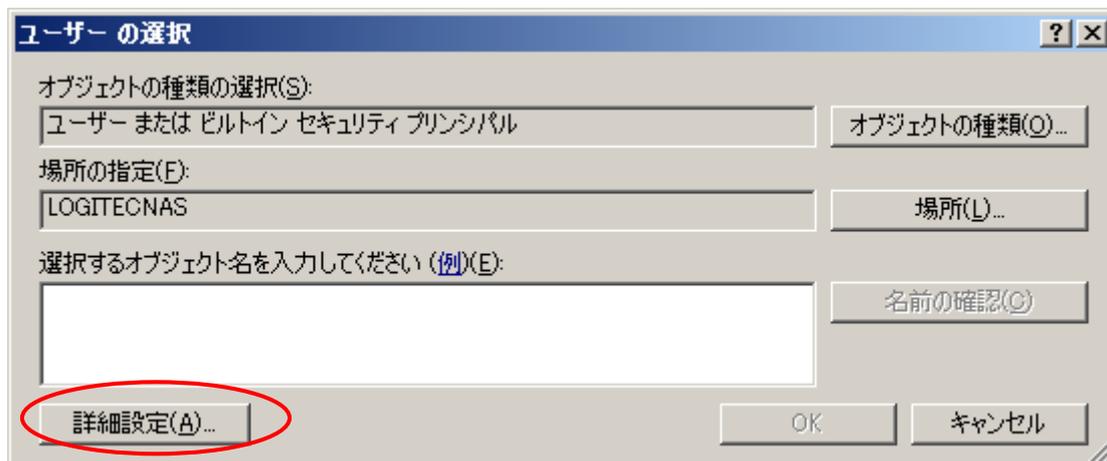


③新しいグループが表示されますので、グループ名、説明(任意)を入力して追加をクリックしてください

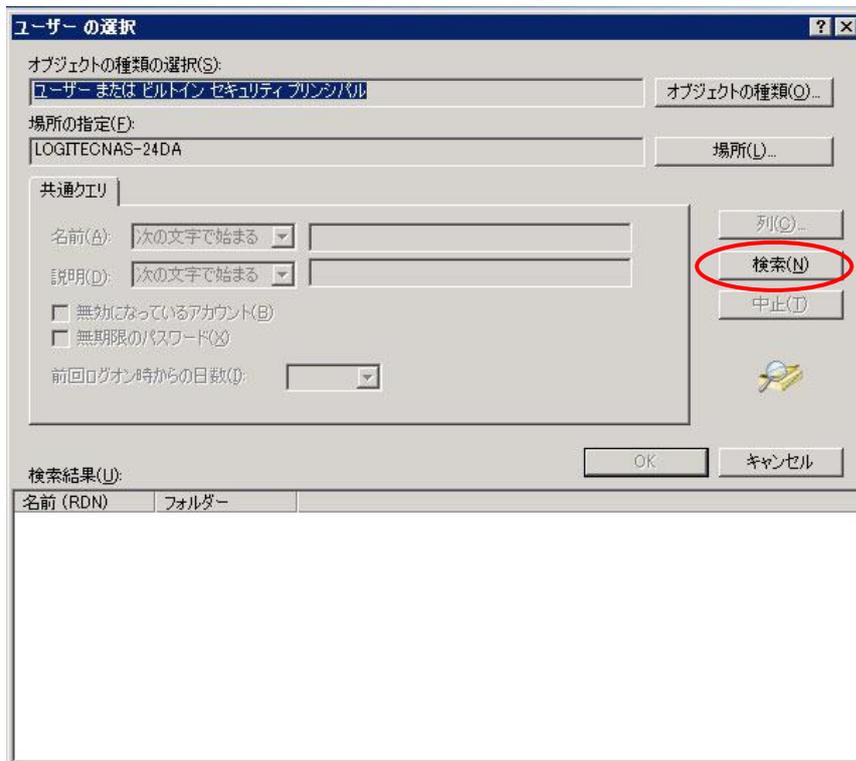


④以下の画面になりますので詳細設定(A)をクリックしてください。

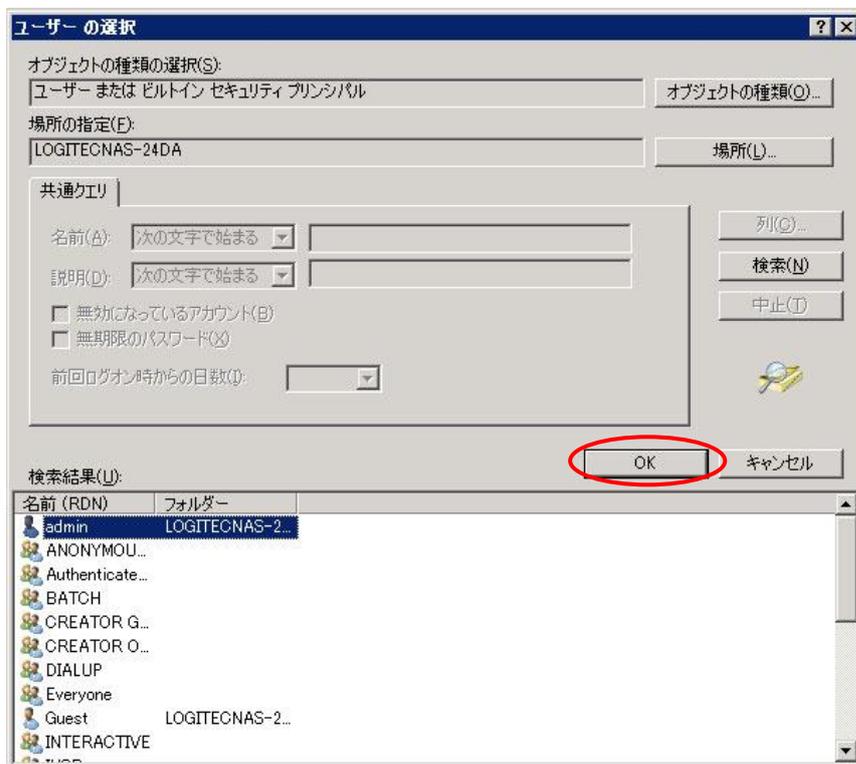
※ActiveDirectory(Windows ドメイン)に参加している場合、場所をクリックして一覧から選択することでドメインユーザーとローカルユーザのどちらからユーザーリストを取得するかを選択することができます。



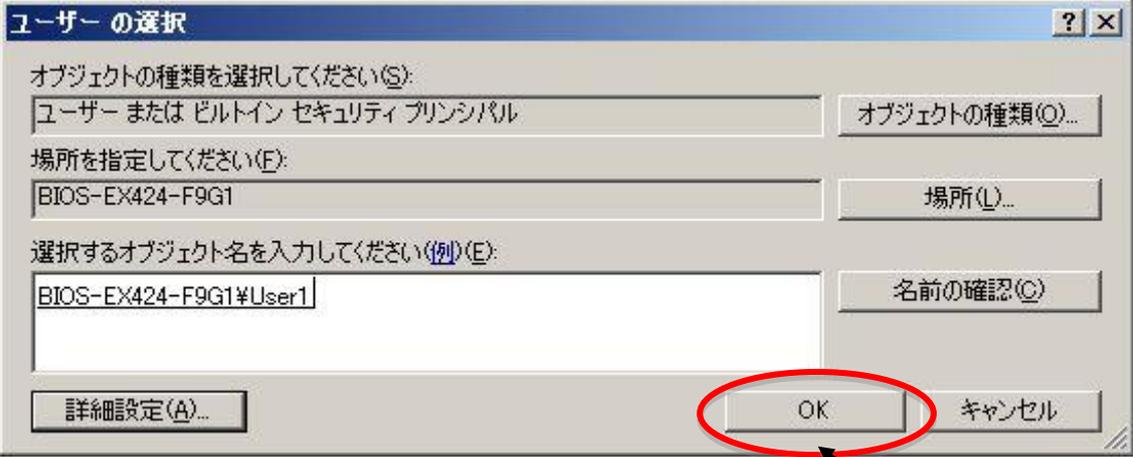
⑤ 検索をクリックしてください



⑥ ユーザの一覧が表示されますので、グループに登録するユーザーを選択し OK をクリックしてください



- ⑦ 選択するオブジェクト名を入力してください(例) (E)にユーザーが表示されます、
複数のユーザをグループ登録する場合は④～⑥を繰り返し(ユーザー分)作業を行ってください。
登録が完了しましたら、OK をクリックしてください



登録が完了したら
クリック

- ⑧ 閉じるをクリックしてください。これでグループの作成は完了です。

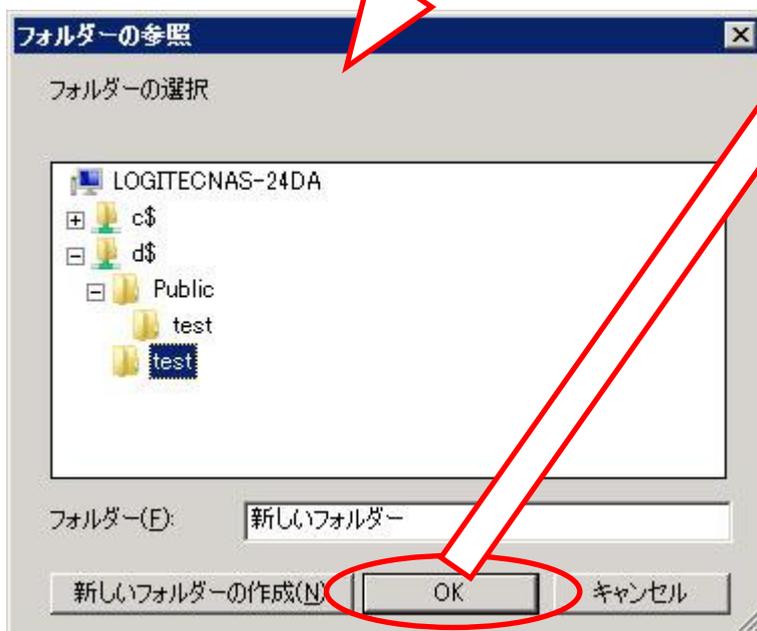
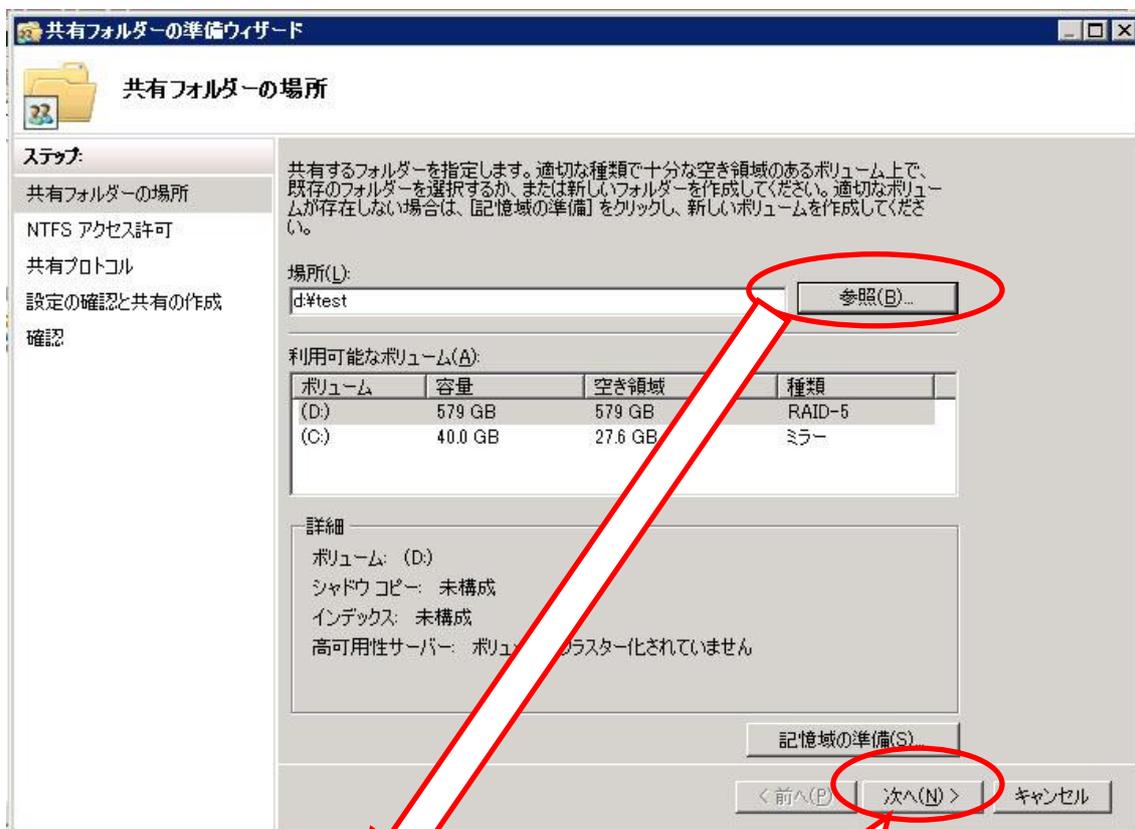


○ 新しい共有フォルダを作成する

① サーバーマネージャーのツリーウィンドウから、役割→ファイルサービス→共有と記憶域の管理をクリックします。共有と記憶域の管理が表示されますので、操作ウィンドウの共有の準備をクリックします。



②共有フォルダの準備ウィザードが表示されます。共有フォルダとするフォルダの場所を指定して次へをクリックします。(フォルダの指定は参照ボタンをクリックし、本製品上の任意のフォルダを指定します)



③NTFS アクセス許可が表示されます。このフォルダに対してのアクセス権を設定します。特に変更が無ければこのまま次へをクリックします。



④共有フォルダのプロトコル（通信規格）を選択し、次へをクリックします。



共有フォルダを公開するクライアント PC に合わせてプロトコルを選択します。

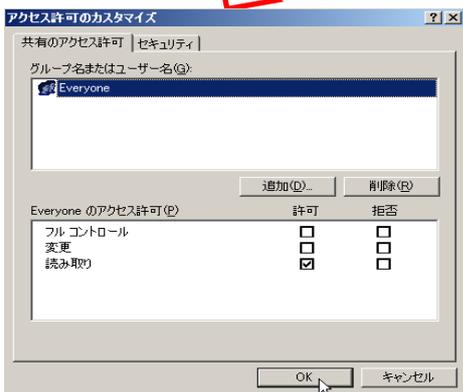
SMB.....WindowsOS、MacOSX との通信をサポート

NFS.....Linux 系 OS との通信をサポート

⑤④で SMB を選択した場合、SMB 設定の画面が表示されます。(NFS のみ選択した場合は⑦に進んでください) 特に変更が無ければ次へをクリックしてください。



⑥SMB アクセス許可の画面になります。共有フォルダのアクセス許可を3種類のテンプレートから選択できます。特に変更が無ければ次へをクリックします。ユーザ毎のアクセス権を設定する必要がある場合は「ユーザーとグループはカスタムの共有アクセス許可を持つ」のラジオボタンを選択してから アクセス許可ボタンをクリックします。



<アクセス許可のカスタマイズ>

追加ボタンをクリックし、アクセス権を設定したいユーザ、グループを選択し、許可内容を設定します。

フルコントロール ファイルに対してすべての操作ができます。

変更 [読み取り]に加えて、ファイルとサブフォルダの追加と削除ができます。また、ファイルの内容を変更できます。

読み取り フォルダ内のファイルとサブフォルダを表示できます。また、ファイルの内容、属性、アクセス許可を表示し、アプリケーションを実行できます。

※アクセス権は共有フォルダ作成後も設定を変更することが可能です。

⑦共有プロトコルに NFS を選択した場合、NFS 認証画面が表示されますので、必要事項を設定し、次へをクリックしてください。



⑧NFS アクセス許可画面が表示されます。NFS でのアクセス許可を設定して次へをクリックしてください。NFS のアクセス権はクライアント PC のホスト名で承認します。

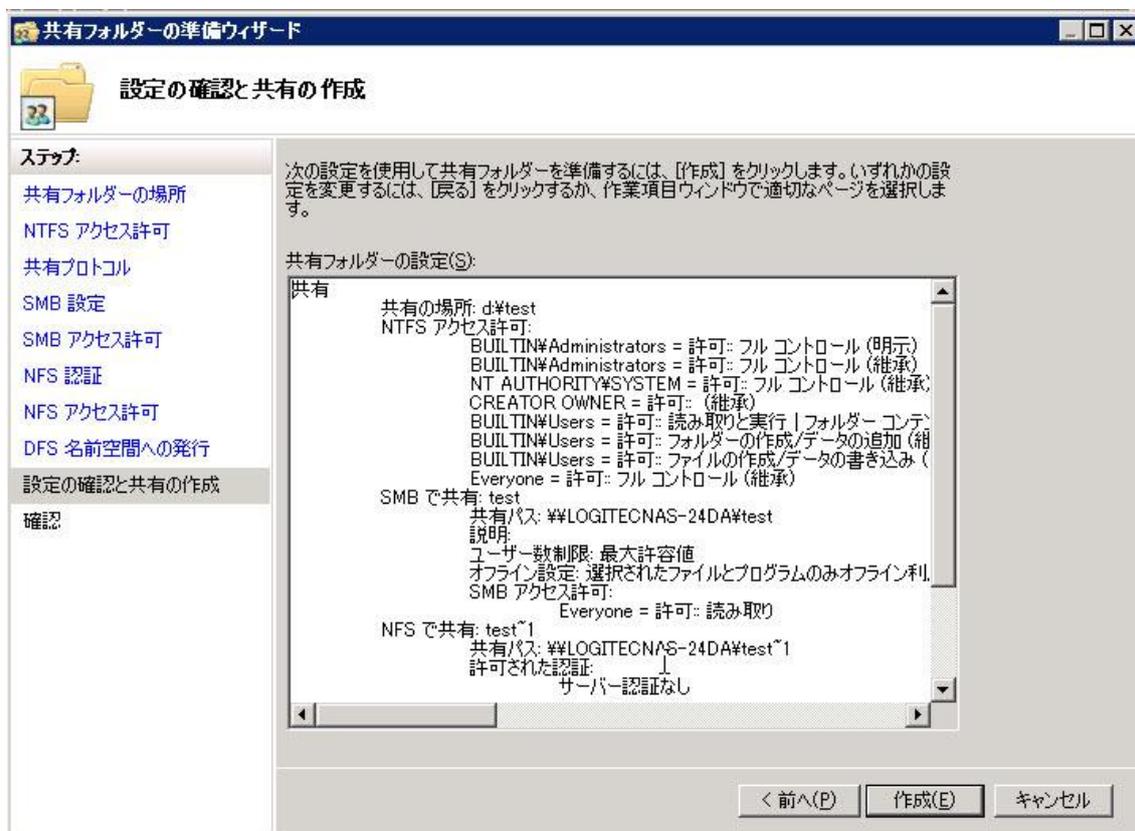


⑨DFS 名前空間への発行画面が表示されます。特に設定の必要がなければ次へをクリックしてください。

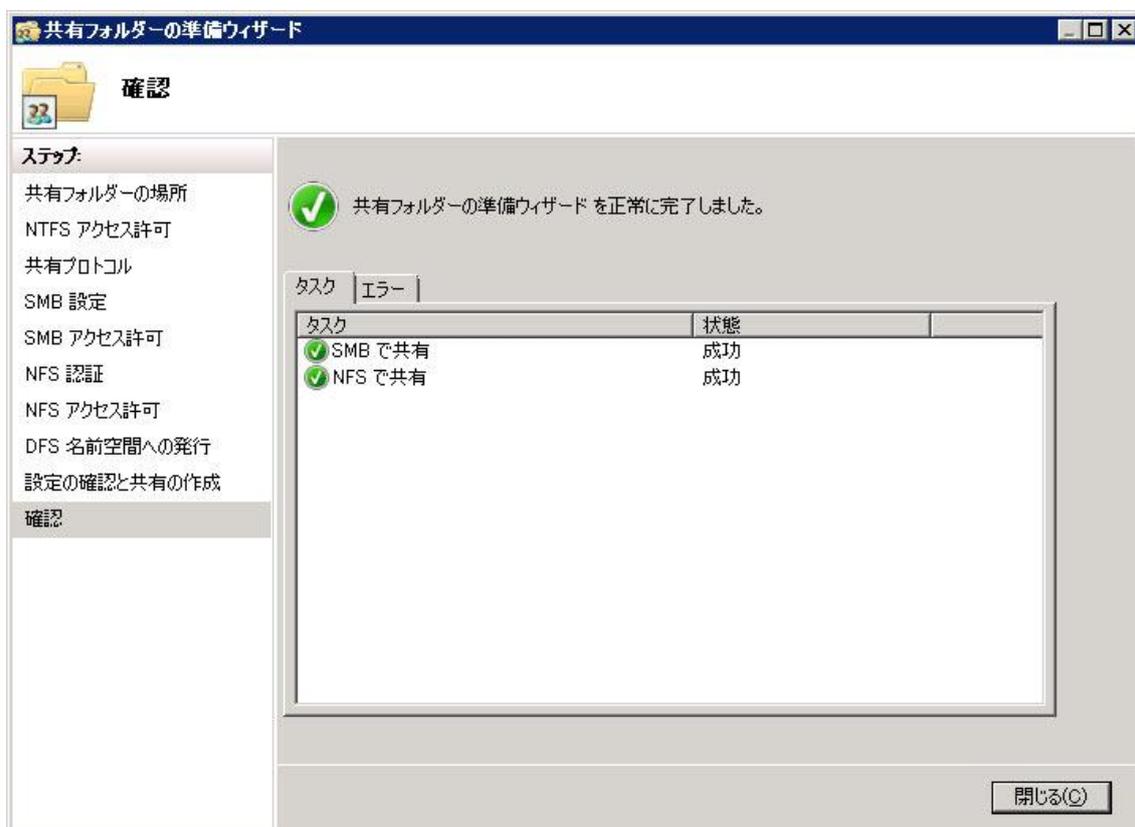


※本製品は出荷時状態で DFS 機能が有効になっておりません。

⑩作成する共有フォルダの設定情報が表示されますので、問題なければ作成をクリックしてください。



⑪作成が完了すると確認画面が表示されます。閉じるをクリックすれば共有フォルダの作成は完了です。



○共有フォルダアクセス権の設定変更(SMB/CIFS)

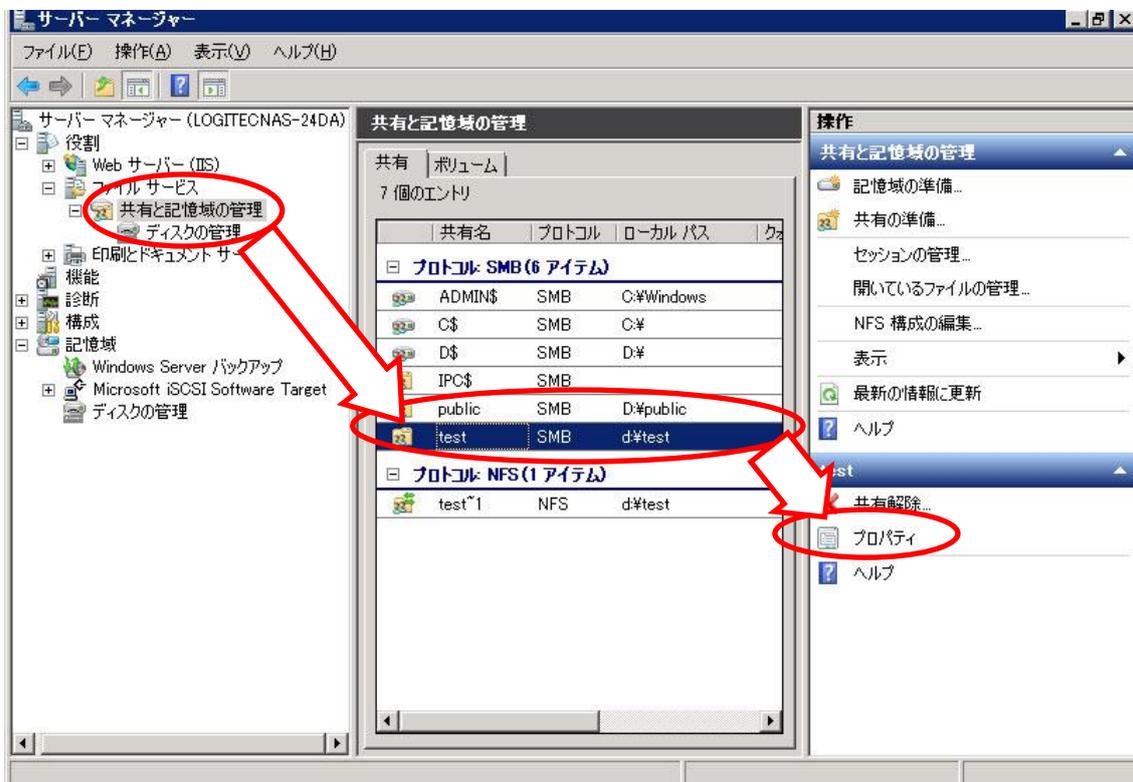
共有したフォルダに共有フォルダのアクセス許可を割り当てることができます。共有フォルダのアクセス許可は次の 3 種類です。これらのアクセス許可は、ローカルまたはドメインのユーザーとグループに追加することが可能です。

共有フォルダのアクセス許可

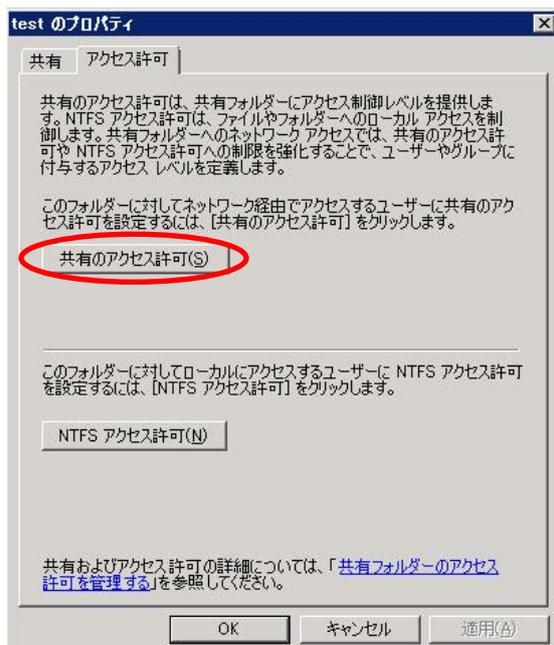
アクセス許可	内容
読み取り	フォルダ内のファイルとサブフォルダを表示できます。また、ファイルの内容、属性、アクセス許可を表示し、アプリケーションを実行できます。
変更	[読み取り]に加えて、ファイルとサブフォルダの追加と削除ができます。また、ファイルの内容を変更できます。
フルコントロール	ファイルに対してすべての操作ができます。

最終的なユーザーのアクセス許可は、NTFS アクセス許可と共有フォルダのアクセス許可の制限の高い方が採用されます。例えば、NTFS アクセス許可が、[読み取り]で、共有フォルダのアクセス許可が [変更]の場合、最終的なアクセス許可は[読み取り]になります。

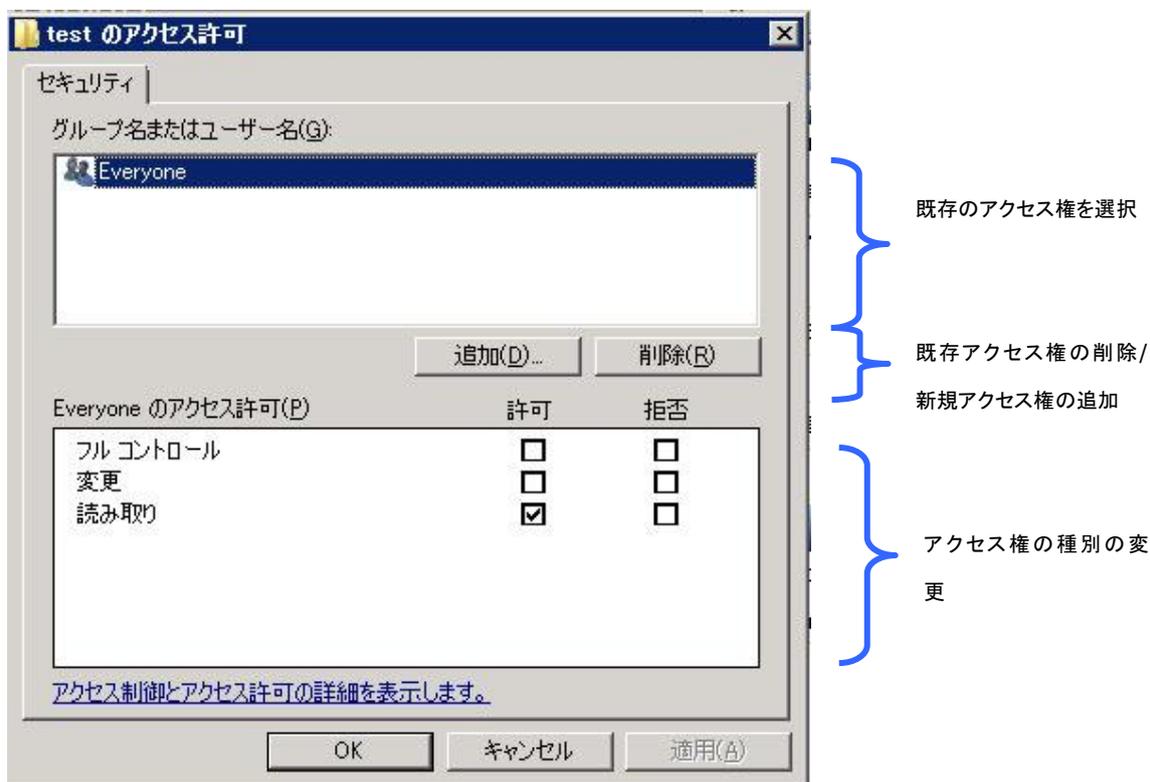
①サーバーマネージャーのツリーウィンドウから、役割→ファイルサービス→共有と記憶域の管理をクリックします。共有と記憶域の管理が表示されますので、設定変更する共有フォルダを選択し、プロパティをクリックします。



②共有フォルダのプロパティが表示されますので、アクセス許可タブの共有アクセスの許可ボタンをクリックします。



③共有フォルダのアクセス許可が表示されます。既存のアクセス権を変更する場合はグループ名またはユーザ名から該当のグループ名/ユーザ名を選択して、[ユーザー名]のアクセス許可エリアでチェックボックスを選択しなおしてください。既存のアクセス権を削除する場合は同じくグループ名/ユーザ名を選択して削除ボタンをクリックします。



新規にアクセス権を設定する場合は追加ボタンをクリックし、ユーザ/グループを追加、設定するアクセス種別を選択してください。

設定が完了したら OK をクリックします。

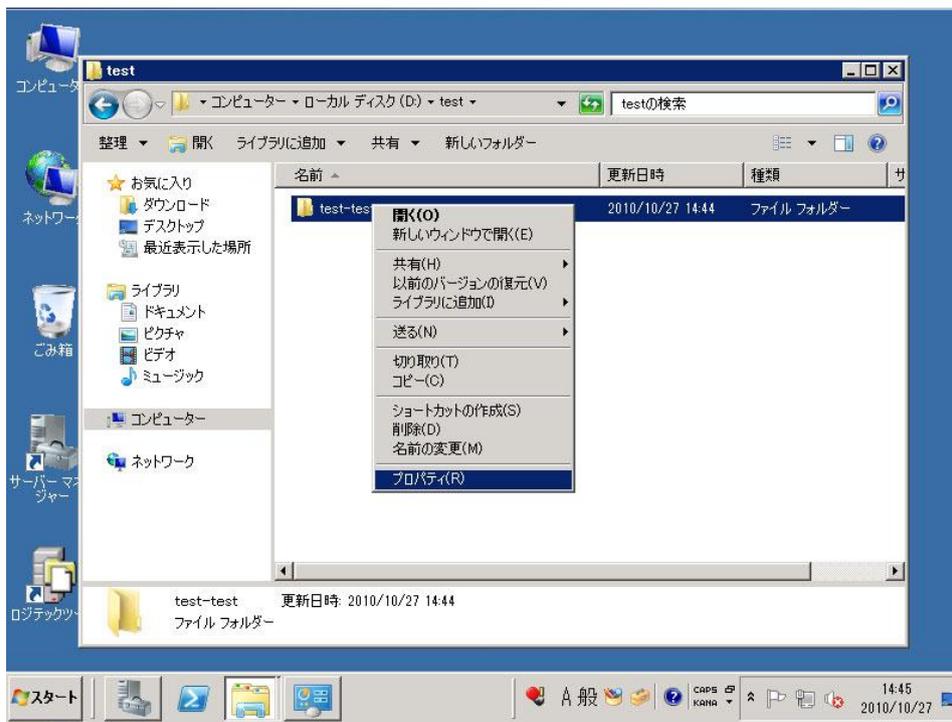
○フォルダアクセス権の設定変更(NTFS)

NTFSでフォーマットしたボリュームのファイルとフォルダにNTFSアクセス許可を割り当てることができます。基本となるアクセス許可は、次の6種類です。これらのアクセス許可は、ローカルまたはドメインのユーザーとグループに追加することが可能です。

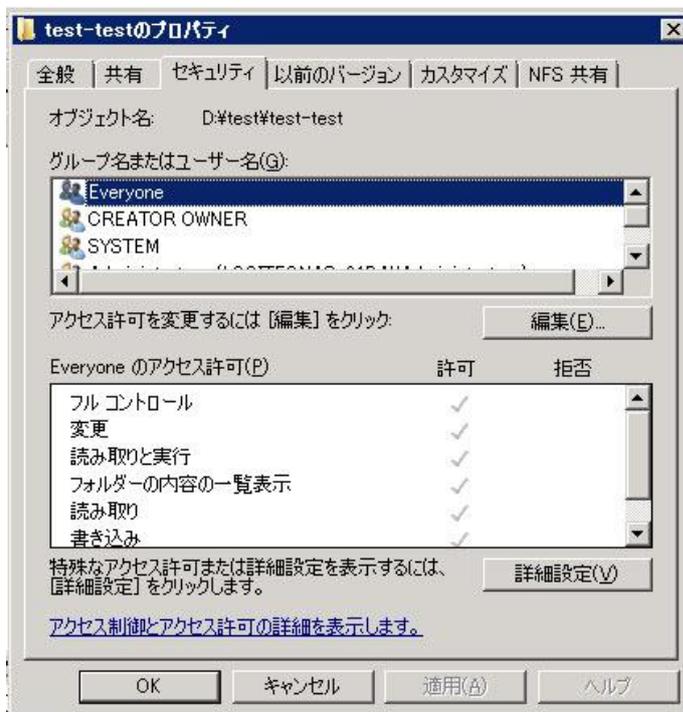
NTFS アクセス許可

アクセス許可	内容
フォルダ内容の一覧表示	フォルダ内のファイルとフォルダを表示できます(フォルダのアクセス許可のみ)。
読み取り	ファイルとサブフォルダの内容、属性、アクセス許可を表示できます。
読み取りと実行	ファイルとサブフォルダの内容、属性、アクセス許可を表示し、アプリケーションを実行できます。
書き込み	ファイルとサブフォルダの内容を表示と変更ができます。
変更	ファイルとサブフォルダの内容を表示と変更できます。また、削除をおこなうことができます。
フルコントロール	ファイルとサブフォルダに対してすべての操作ができます。

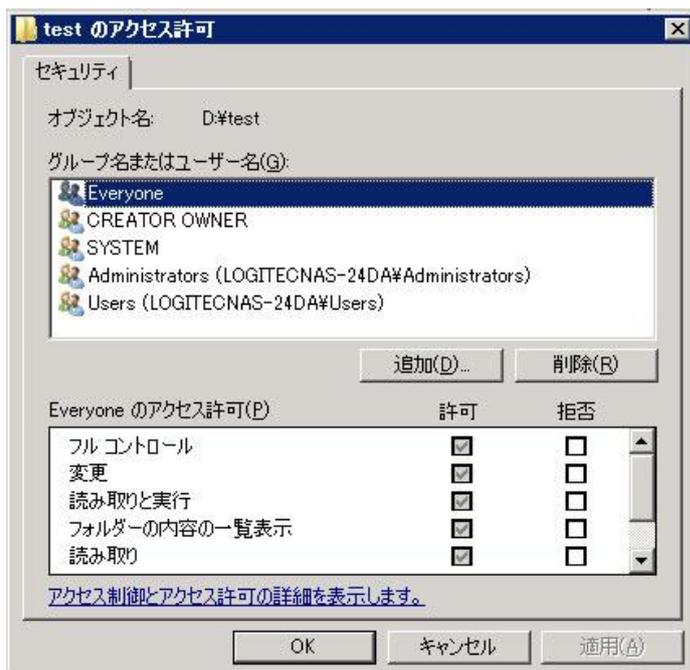
①スタートボタンのマイコンピュータから設定を変更したいフォルダを選択。右クリックでプロパティを選択します。



②該当フォルダのプロパティ画面が表示されますので、セキュリティタブをクリックし、編集ボタンをクリックします。



③フォルダのアクセス許可が表示されますので、既存のアクセス権を変更する場合はグループ名またはユーザ名から該当のグループ名/ユーザ名を選択して、[ユーザー名]のアクセス許可エリアでチェックボックスを選択しなおしてください。既存のアクセス権を削除する場合は同じくグループ名/ユーザ名を選択して削除ボタンをクリックします。



既存のアクセス権を選択

既存アクセス権の削除/新規アクセス権の追加

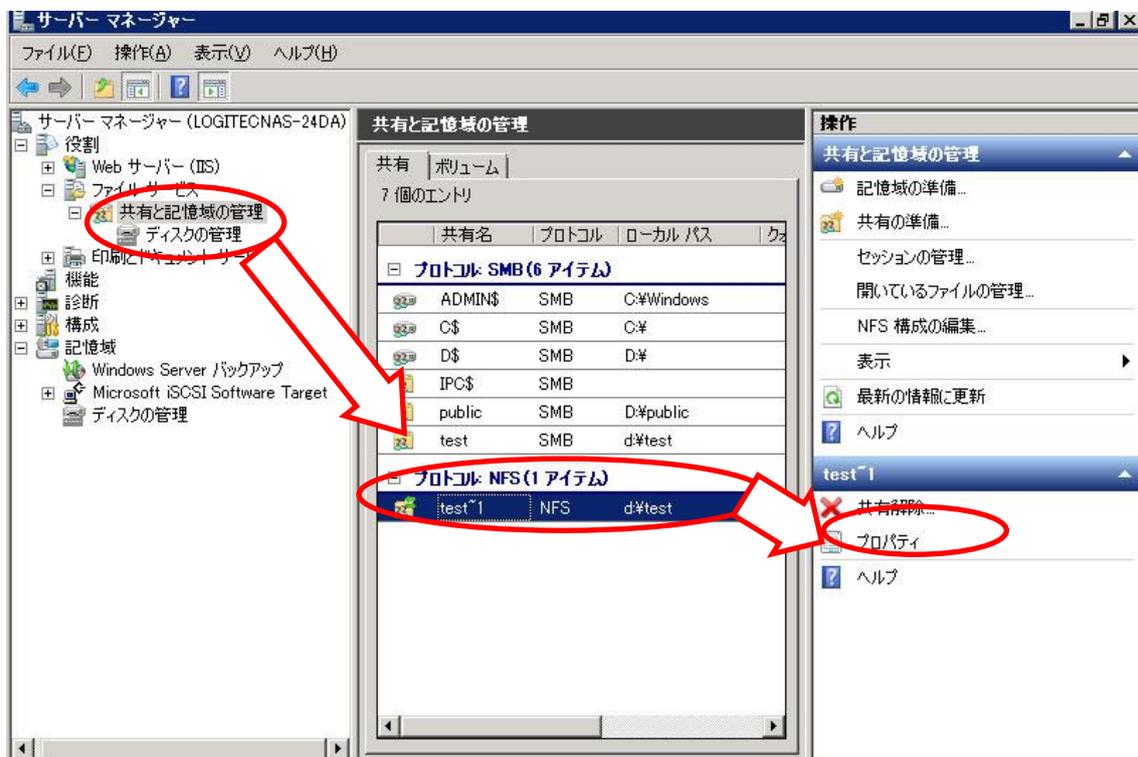
アクセス権の種別の変更

新規にアクセス権を設定する場合は追加ボタンをクリックし、ユーザ/グループを追加、設定するアクセス種別を選択してください。

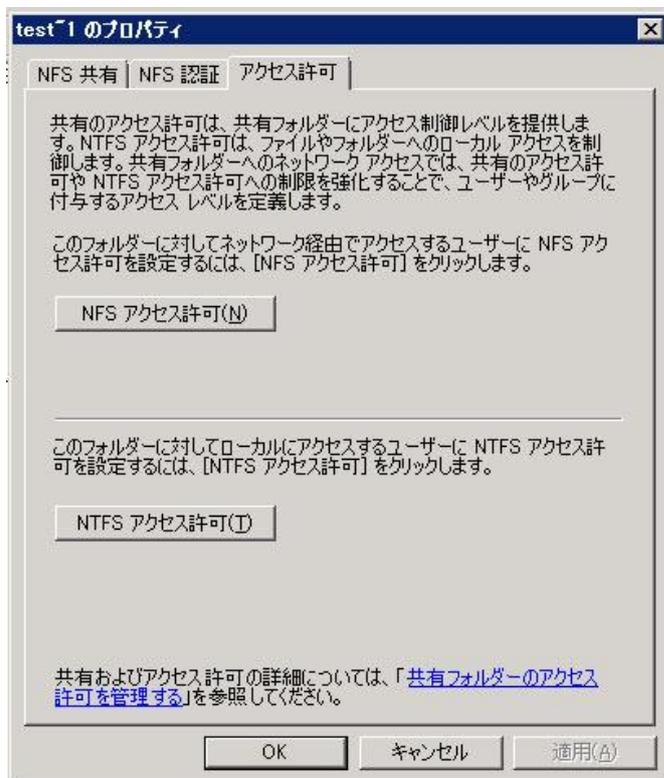
設定が完了したら OK をクリックします。

○共有フォルダアクセス権の設定変更(NFS)

①サーバーマネージャーのツリーウィンドウから、役割→ファイルサービス→共有と記憶域の管理をクリックします。共有と記憶域の管理が表示されますので、設定変更する NFS 共有フォルダを選択し、プロパティをクリックします。



②プロパティが表示されますので、アクセス許可タブを選択し、NFS アクセス許可をクリックしてください。



③共有フォルダのアクセス許可が表示されますので、必要な設定を行い OK をクリックしてください。



○クォータについて

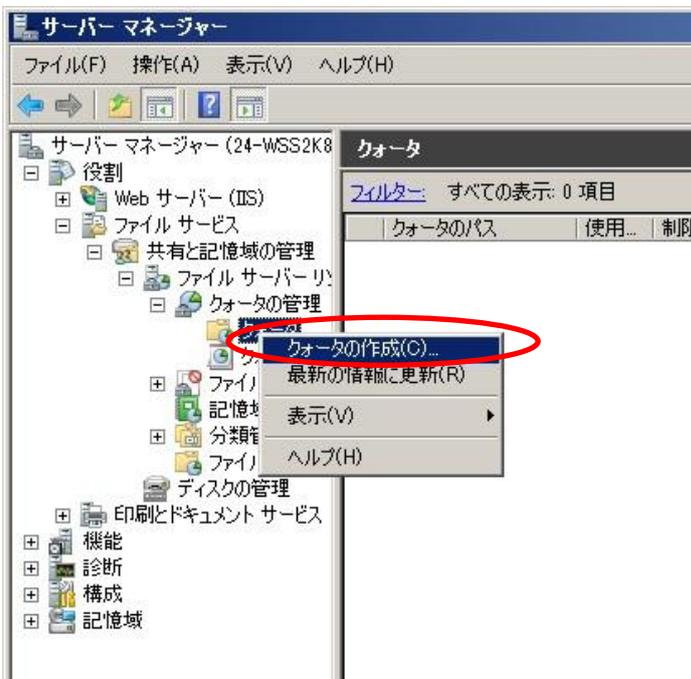
Windows Storage Server 2008R2 には、フォルダクォータ機能が搭載されており、フォルダ単位で利用可能容量の上限値を設定することができます。クォータには FSRM クォータ(フォルダクォータ)と NTFS クォータ(ユーザクォータ)が存在します。二つの違いは次の通りです。

機能	FSRM クォータ	NTFS クォータ
制限対象	フォルダー単位 ボリューム単位	ボリューム上のユーザ単位
使用量の算出	実際のディスク領域	論理ファイルサイズ

○クォータの設定(FSRM クォータ/フォルダクォータ)

FSRM クォータでは、フォルダ単位で利用可能容量の上限値を設定することができます。

- ① サーバーマネージャーのツリーウィンドウから、役割→ファイルサービス→共有と記憶域の管理→ファイルサーバーリソースマネージャー→クォータの管理→クォータを右クリックし、クォータの作成をクリックします。



- ② クォータの作成が表示されます。各項目を設定し、作成をクリックします。これでクォータの設定は完了です。

クォータの作成

クォータのパス(P):

参照(B)...

パスにクォータを作成

既存と新規のサブフォルダーに自動でテンプレート適用とクォータ作成を行う(A)

クォータ プロパティ

クォータのテンプレートからプロパティを使うか、またはカスタム クォータのプロパティを定義することができます。

クォータのプロパティをどのように構成しますか?

クォータのテンプレートからプロパティを取得する(推奨)(T):

100 MB 制限

カスタム クォータのプロパティを定義する(C)

カスタム プロパティ(B)...

クォータ プロパティの概要(S):

- クォータ
 - ソース テンプレート: 100 MB 制限
 - 制限: 100 MB (ハード)
- 通知: 4
 - 警告 (85%): 電子メール
 - 警告 (95%): 電子メール, イベント ログ
 - 発生 (100%): 電子メール, イベント ログ

ヘルプ(H) 作成 キャンセル

[クォータのパス]

FSRM クォータを設定するフォルダを指定します。

[パスにクォータを作成]

クォータのパスで指定したフォルダに対してクォータ制限を適用します。

[既存と新規のサブフォルダーに自動でテンプレート適用とクォータ作成を行う]

クォータのパスで指定したフォルダのサブフォルダに対してクォータ制限を適用します。

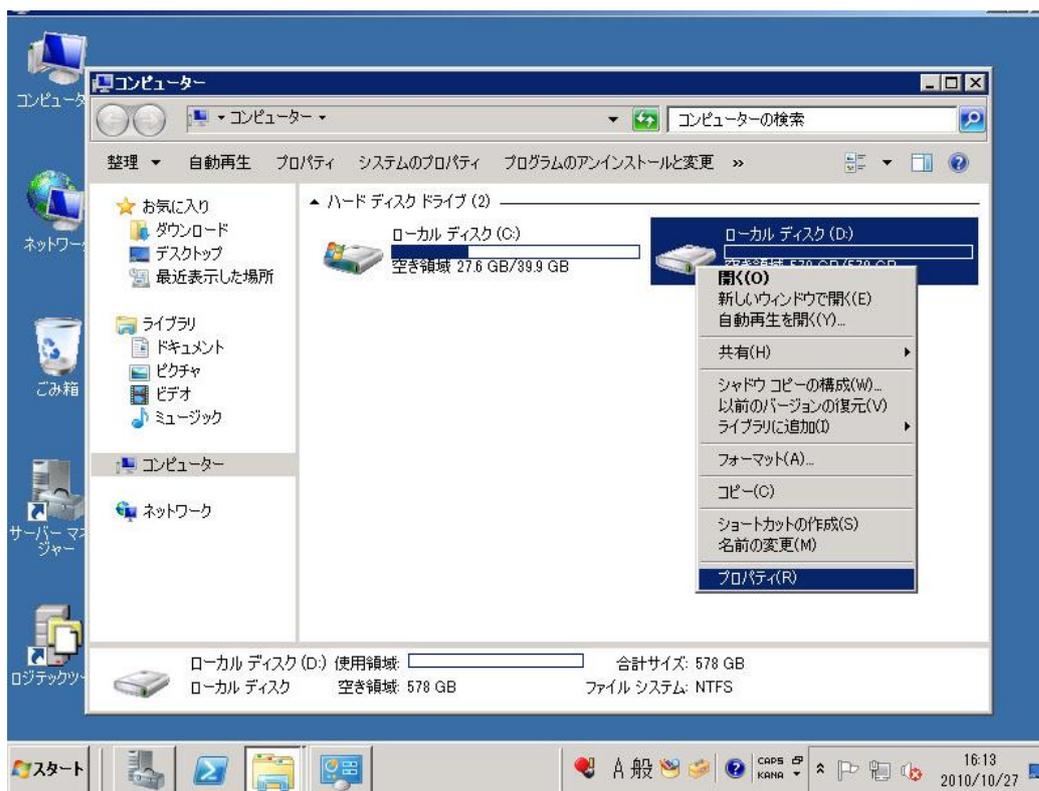
[クォータ プロパティ]

クォータの設定内容をテンプレートから選択します。テンプレートに希望する設定が無い場合はカスタムプロパティを作成します。

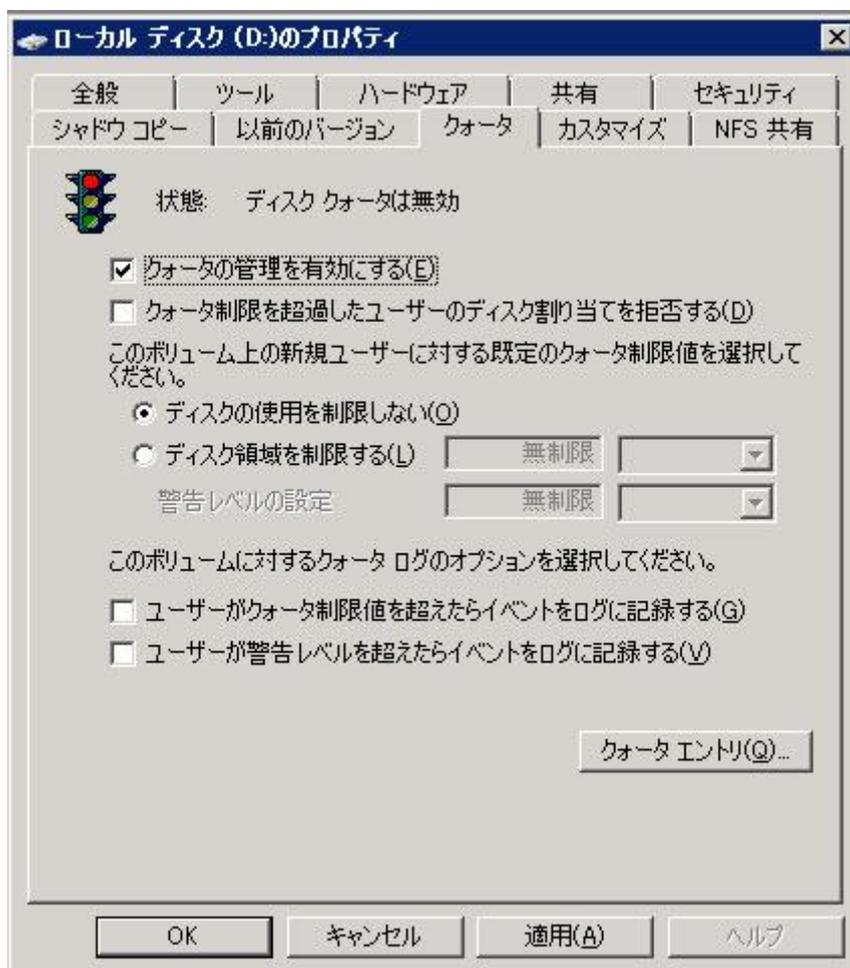
○クォータの設定(NTFS クォータ/ユーザクォータ)

NTFS クォータでは、ボリューム単位でユーザーが使用できるディスクサイズを制限することができます。

- ①管理画面のスタートボタンからマイコンピュータを選択し、クォータの設定をするボリュームを選択し右クリックしプロパティを選択します。



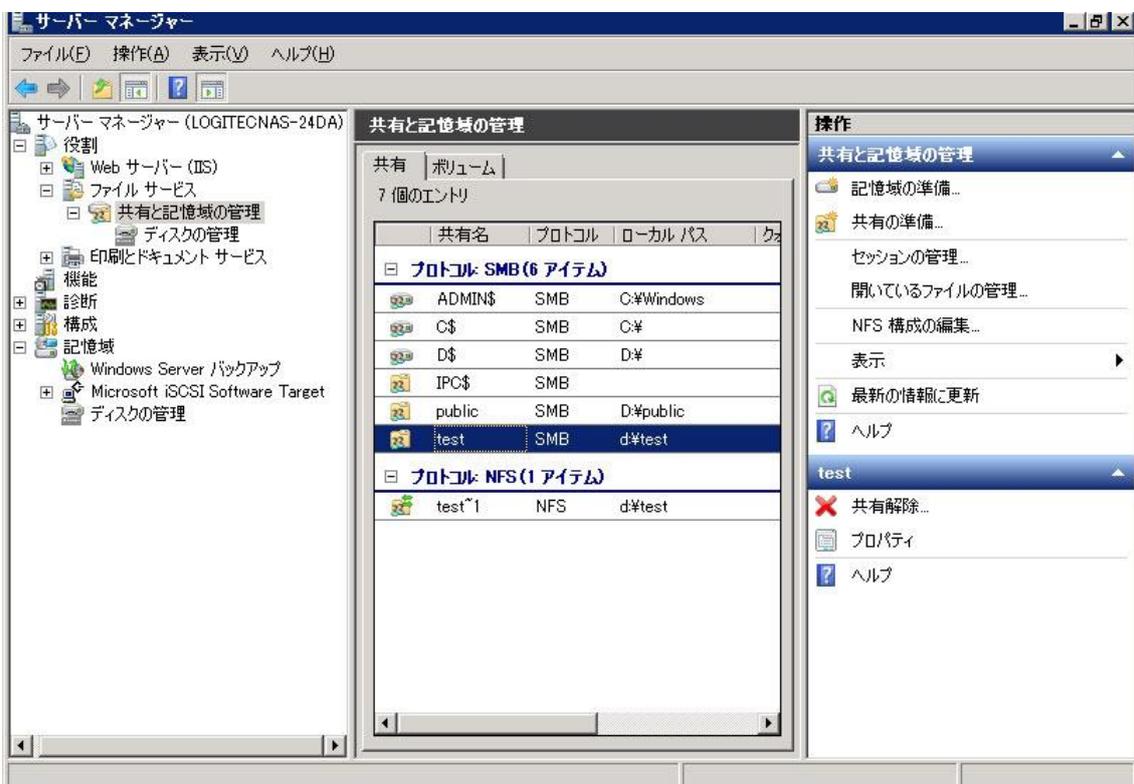
②クォータタブを選択してください。以下の画面が表示されますので必要事項にチェックを入れOKをクリックしてください。



○ユーザー数制限の設定

ユーザー数制限は、共有リソースに一度にアクセスできるユーザー数を制限する機能です。既定では、ユーザー数制限は無制限となっていますが、アクセスするユーザー数が増加した場合には、ファイルサーバーの負荷を軽減するために、ユーザー数制限をおこないます。

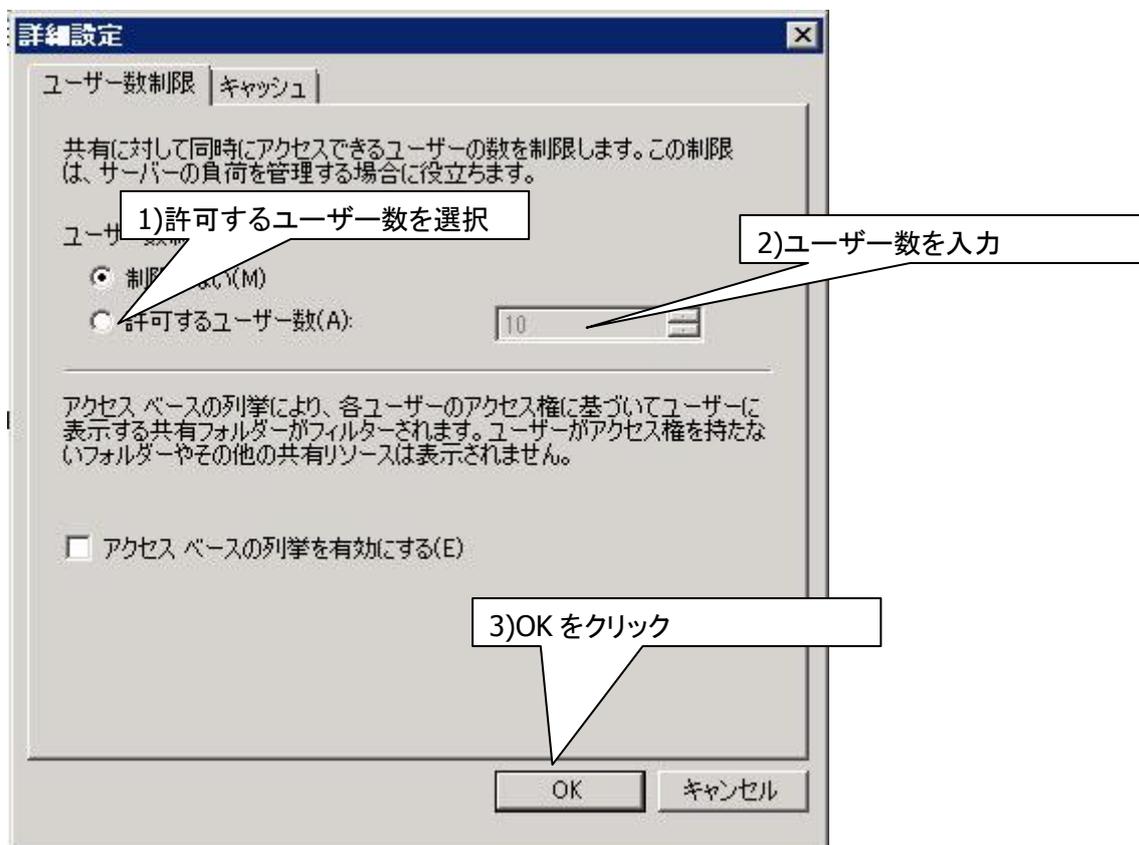
①サーバーマネージャーのツリーウィンドウから役割→ファイルサービス→共有と記憶域の管理をクリックします。共有と記憶域の管理より、該当の共有フォルダを選択し、操作ウィンドウよりプロパティをクリックします。



②[共有フォルダ名]のプロパティが表示されますので、共有タブの詳細設定をクリックします。



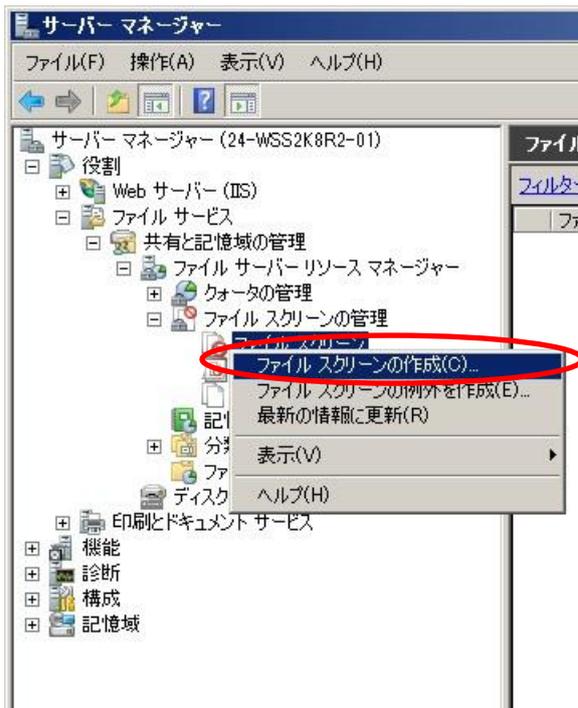
③詳細設定が表示されますので、ユーザ数制限タブで、許可するユーザ数ラジオボタンを選択し、ユーザ数を入力します。設定が完了したら OK をクリックします。



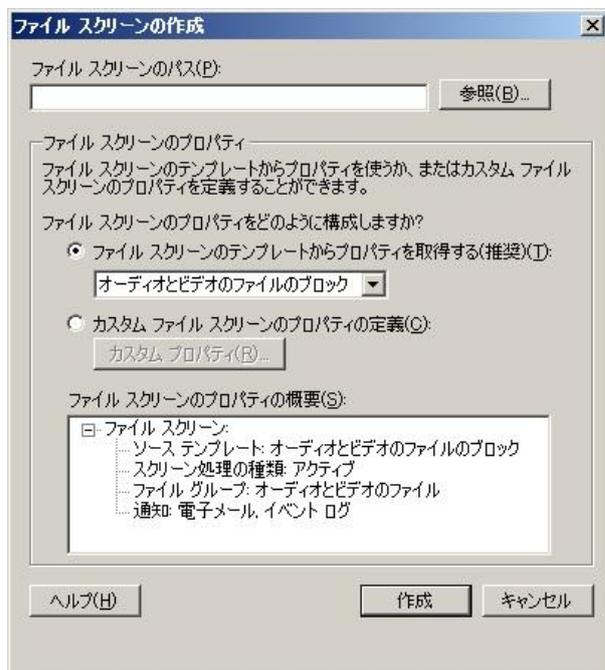
○ファイルスクリーンの管理

ファイルスクリーンの管理を利用すると、ファイル名や拡張子を指定してファイルの保存許可・拒否を設定できます。管理者やイベントログなどで不要なデータの書き込みが無いかを確認できます。

- ① 管理画面にてサーバマネージャを起動し、役割-ファイルサービス-共有と記憶域の管理-ファイルサーバリソースマネージャ-ファイルスクリーンの管理-ファイルスクリーンを右クリックし、ファイルスクリーンの作成をクリックします。



② ファイルスクリーンの作成が起動しますので、各項目を設定し、作成をクリックします。



[ファイルスクリーンのパス]

ファイルスクリーンを設定するフォルダを指定します。

[ファイルスクリーンのプロパティ]

スクリーンするファイルの種類をテンプレートより選択します。希望するテンプレートが無い場合はカスタムプロパティを作成します。

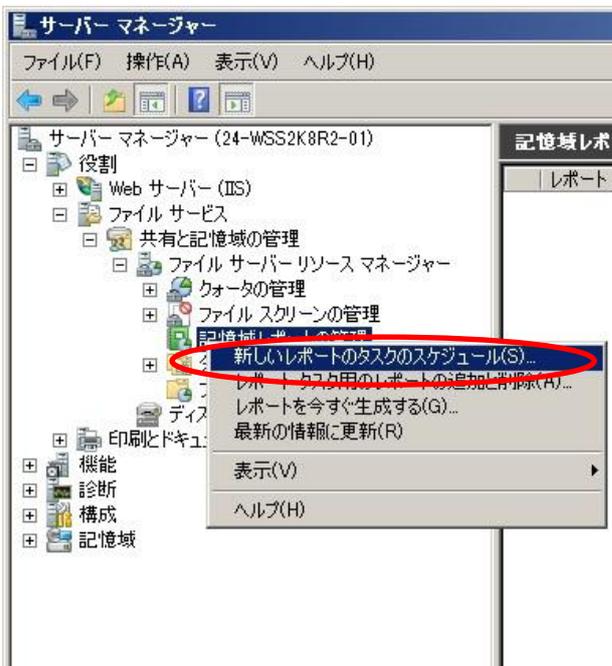
○記憶域レポートの管理

記憶域レポートの管理を構成すると、定期的にディスクの使用状況やクォータ、ファイルスクリーンに関するレポートを作成できます。

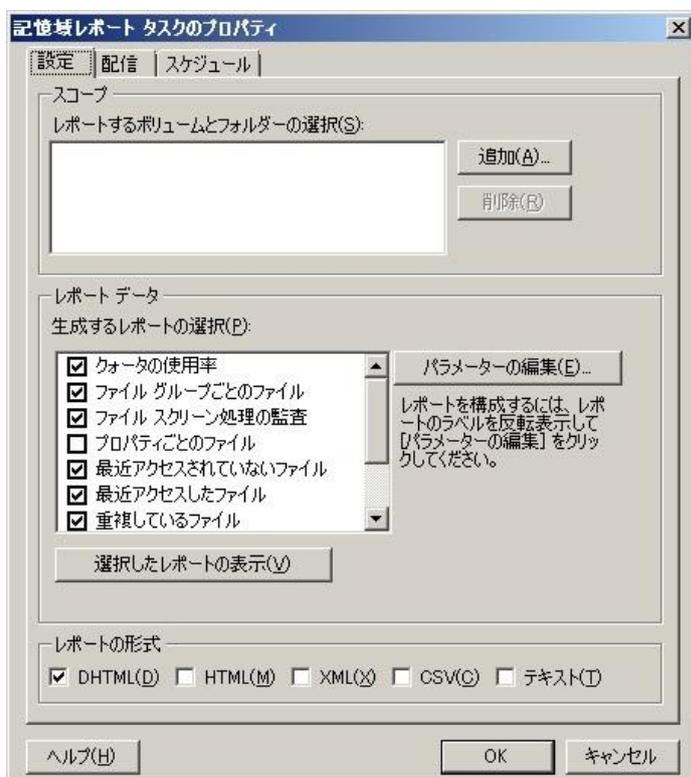
□□□作成できるレポート一覧□□□

- ・クォータの使用率
- ・ファイルグループごとのファイル
- ・ファイルスクリーン処理の監査
- ・最近アクセスされていないファイル
- ・最近アクセスしたファイル
- ・重複しているファイル
- ・所有者ごとのファイル
- ・大きいサイズのファイル

- ① 管理画面にてサーバマネージャを起動し、役割-ファイルサービス-共有と記憶域の管理-ファイルサーバリソースマネージャ-記憶域レポートの管理を右クリックし、新しいレポートのタスクのスケジュールをクリックします。



- ② 記憶域レポートタスクのプロパティが起動します。設定タブで監視するボリューム/フォルダと生成するレポートの種類、形式を選択します。



[スコープ]

追加をクリックし、監視するボリューム/フォルダを選択します。一つのレポートに対して複数のフォルダ/レポートを選択できます。

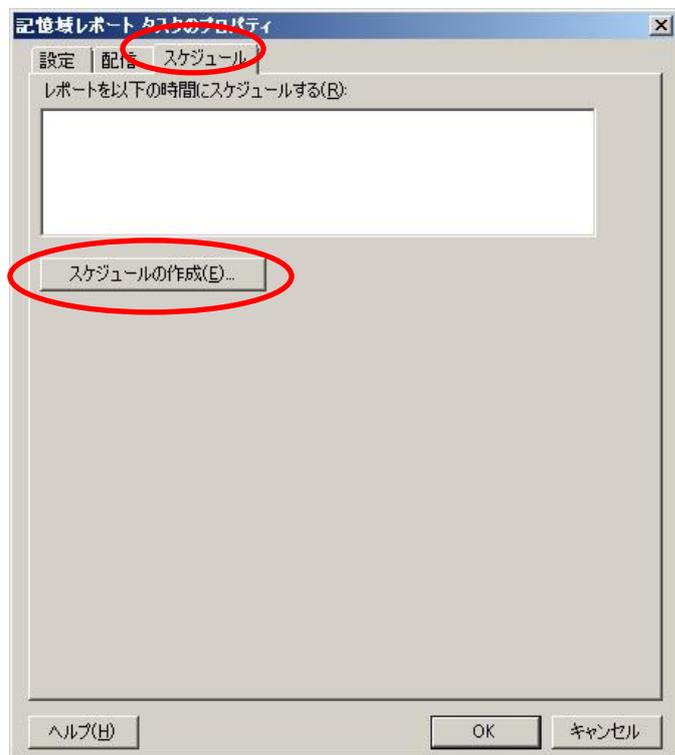
[レポートデータ]

生成するレポートの種類をチェックボックスで選択します。

[レポートの形式]

レポートのファイル形式をチェックボックスで選択します。

- ③ スケジュールタブを選択し、スケジュールの作成ボタンをクリックします。



- ④ スケジュール画面で新規ボタンをクリックし、レポートを作成するスケジュールを設定します。OK をクリックし、記憶域レポートタスクのプロパティで OK をクリックします。

スケジュール

スケジュール

1. 設定日: 2011/01/28, 開始時刻: 9:00 間隔: 毎日

新規(N) 削除(D)

タスクのスケジュール(S): 開始時刻(T):

日単位 9:00 詳細設定(V)...

タスクのスケジュール (日単位)

間隔(E) 1 日に 1 回

複数のスケジュールを表示する(U)

OK キャンセル

[タスクのスケジュール]

スケジュールする間隔の単位を選択します

[開始時刻]

スケジュールを開始する時刻を選択します。

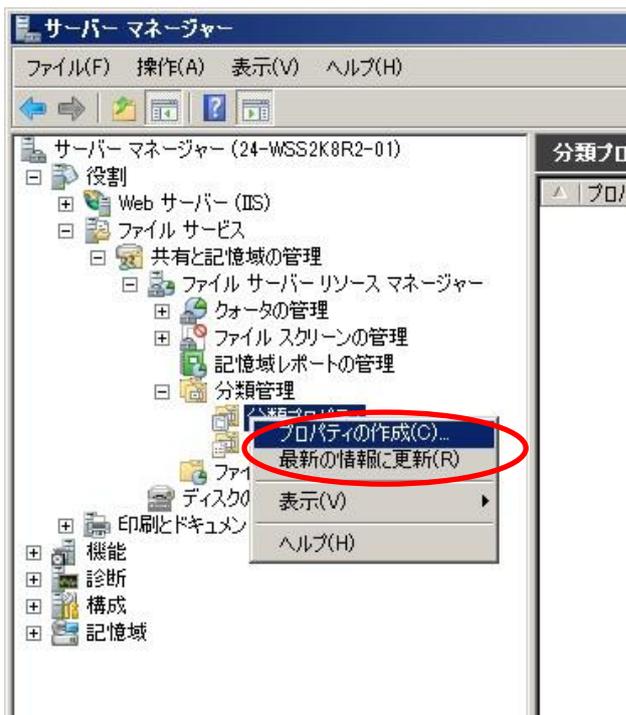
[タスクのスケジュール]

スケジュール間隔の数値を入力します。

○ファイル分類管理(FCI)

ファイル分類管理を利用すると、長期間アクセスの無いファイルを削除したり、特定のキーワードを含むデータを特定のフォルダへの移動を自動的に行うことが可能です。

- ① 管理画面にてサーバマネージャを起動し、役割-ファイルサービス-共有と記憶域の管理-ファイルサーバリソースマネージャ-分類管理-分類プロパティを右クリックし、プロパティの作成をクリックします。



② 分類プロパティの定義の作成が起動します。各項目を設定し、OK をクリックします。

分類プロパティの定義の作成

設定

プロパティ名(N):

説明(D):

プロパティの種類(T)

はい/いいえ

他の分類規則またはファイル内容によって提供される値“はい”は、値“いいえ”を上書きします。

値	説明
はい	
いいえ	

ヘルプ(H) OK キャンセル

[プロパティ名]

プロパティの名前を入力します

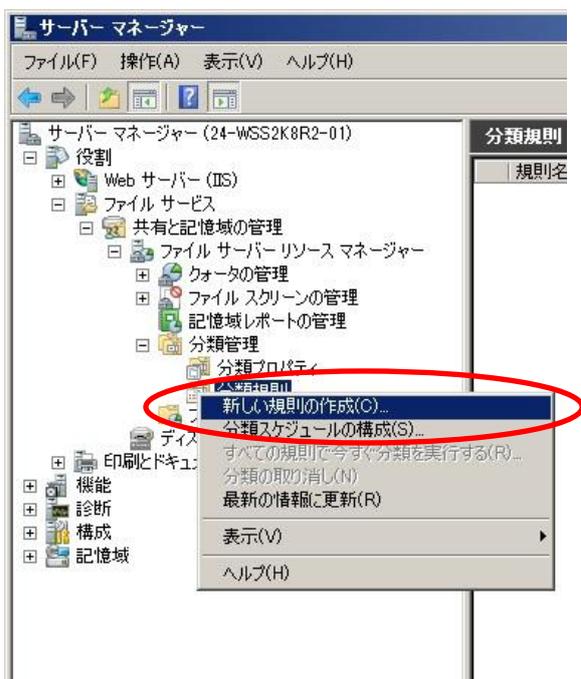
[説明]

プロパティの説明を入力します。

[プロパティの種類]

プロパティの種類を選択します。ファイルに割り当てるプロパティはカスタマイズが可能です。

③ 分類管理-分類規則を右クリックし、新しい規則の作成をクリックします。



④ 分類規則の定義が起動します。規則の選定タブで必要事項を設定します



[規則名]

規則名を入力します。

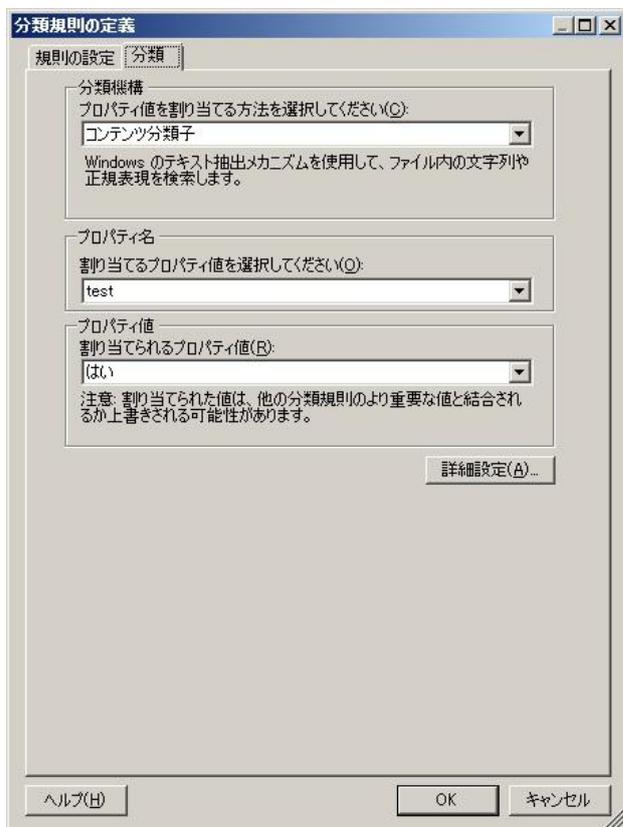
[説明]

規則の説明を入力します。

[スコープ]

分類対象となるフォルダを選択します。複数選択可能です。

⑤ 分類タブをクリックし、必要事項を設定し、OK をクリックします。



[分類機構]

次の二つから選択します

- ・ コンテンツ分類子: ファイルの内容に基づいて指定した条件と一致するもののみを分類します。
- ・ フォルダー分類子: フォルダパスに基づいて分類プロパティを一括設定できます。

[プロパティ名]

分類プロパティで作成した設定を使用します。

[プロパティ値]

プロパティの値を選択します。

○分散ファイルシステム(DFS)について

分散ファイルシステムを利用すると、一つのサーバの内の共有ファイルシステムを複数のサーバに分散させることができます。分散ファイルシステムを利用するにはまず、DFS をインストールし、DFS 名前空間を設定します。

※DFS レプリケーションを設定するには ActiveDirectory 環境下での DFS 名前空間の設定が必要です。また、設定にはドメイン管理者の権限が必要です。

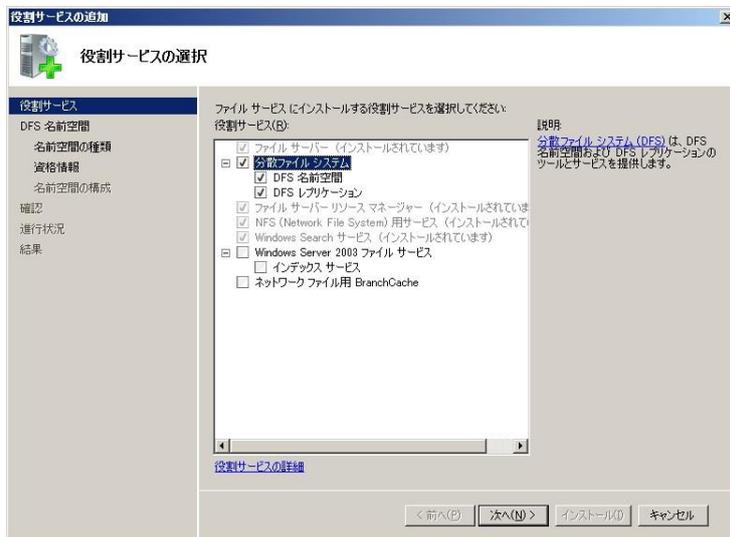
○分散ファイルシステム(DFS)のインストール

※本製品は出荷時状態で DFS サービスがインストールされていません。初回設定時にはインストール作業が必要です。

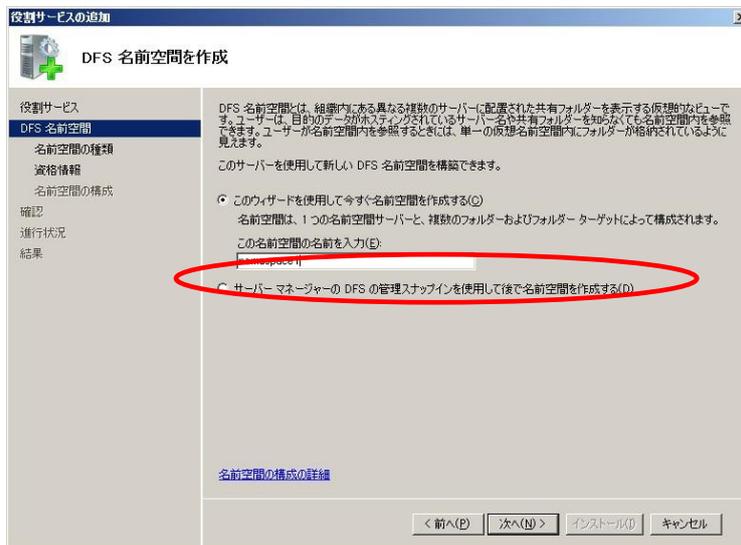
- ① 管理画面のサーバーマネージャーより役割-ファイルサービスを右クリックし、役割サービスの追加をクリックします。



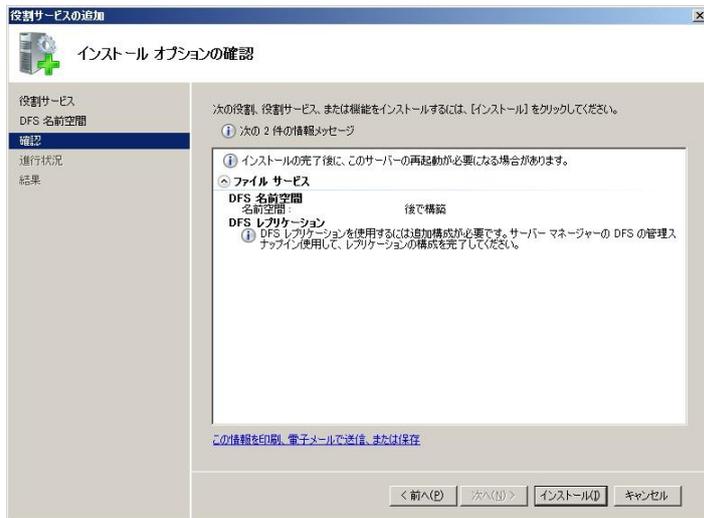
- ② 役割サービスの選択が起動しますので、チェックボックスで必要なサービスにチェックをして次へをクリックします。(レプリケーションも必要な場合は DFS レプリケーションもチェックします)



- ③ 「サーバーマネージャーの DFS の管理スナップインを使用して後で名前空間を作成する」を選択し、次へをクリックします。



④ インストールオプションを確認し、インストールをクリックします。

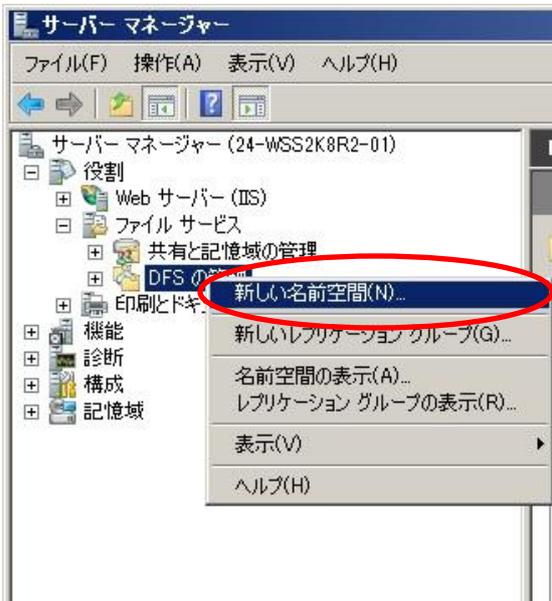


⑤ インストールが完了したら閉じるをクリックします。



○DFS/名前空間の作成

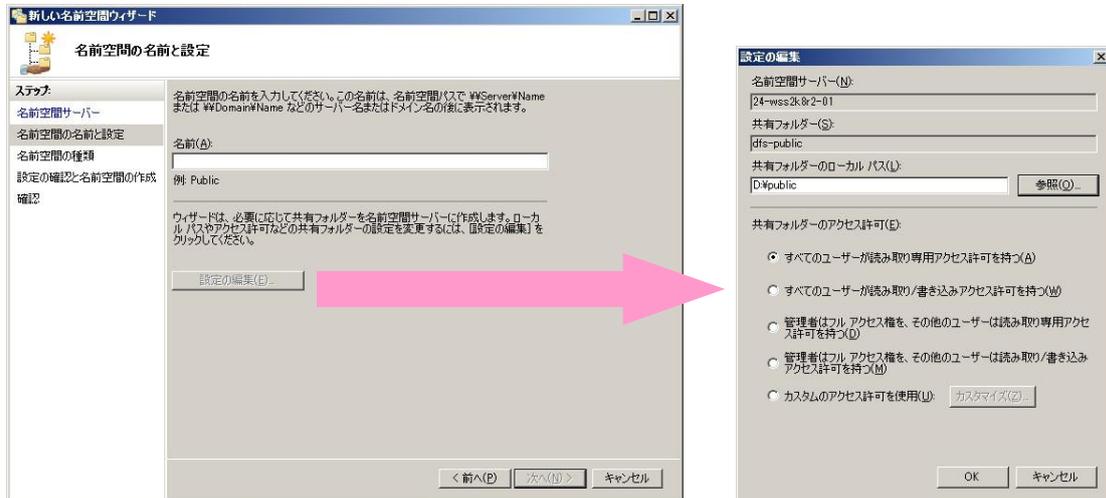
- ① 管理画面のサーバーマネージャーより役割-ファイルサービス-DFS の管理を右クリックし、新しい名前空間をクリックします。



- ② 名前空間をホストするサーバ名を入力します。



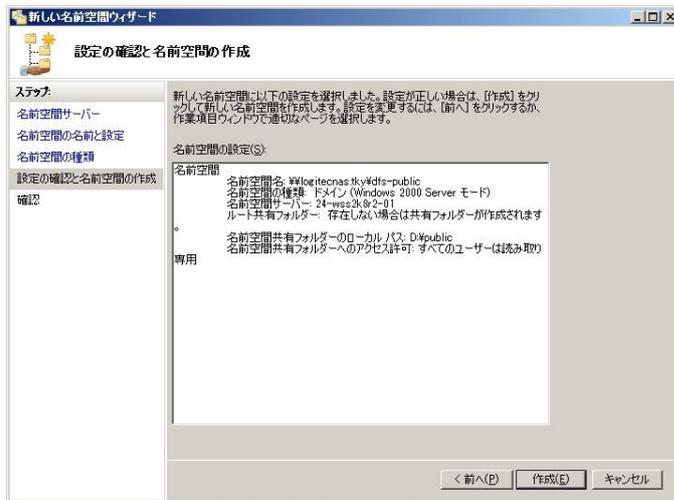
- ③ 名前空間の名前を設定します。また、設定の編集をクリックすれば名前空間の共有フォルダのパスを指定できます。設定が完了したら次へをクリックします。



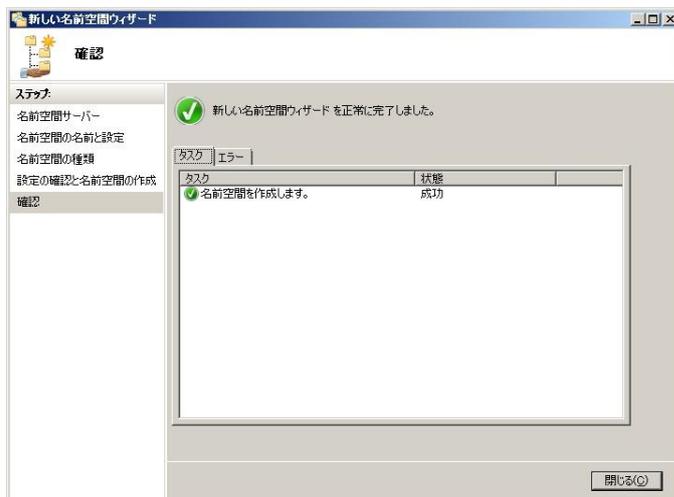
- ④ 名前空間の種類を選択し、次へをクリックします。スタンドアロンの名前空間を選択した場合、ActiveDirectory の構成は不要ですが、レプリケーション機能が利用できないなどの制限が発生します。



- ⑤ 設定内容を確認し、問題なければ作成をクリックし名前空間を作成します。

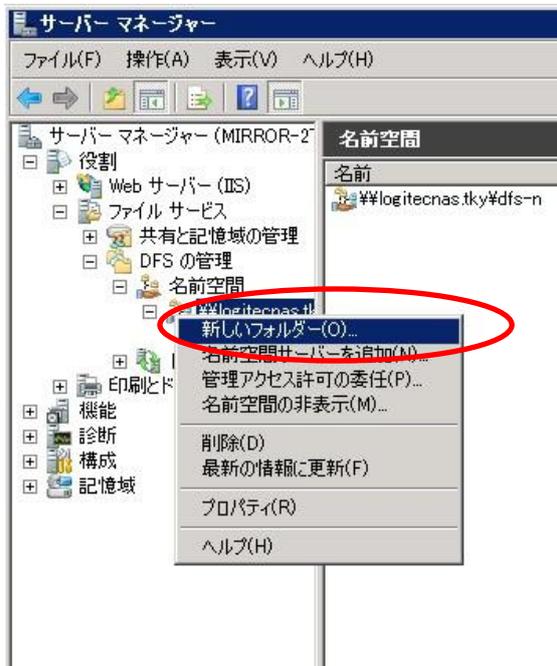


- ⑥ 作業の完了が確認できたら閉じるをクリックします。



○DFS/名前空間へのフォルダの追加

- ① 管理画面のサーバーマネージャーより役割-ファイルサービス-DFS の管理-名前空間-「作成した名前空間」を右クリックし、新しいフォルダーをクリックします。



- ② 新しいフォルダーウィンドウが起動しますので、フォルダの名前を入力し、追加ボタンをクリックします。



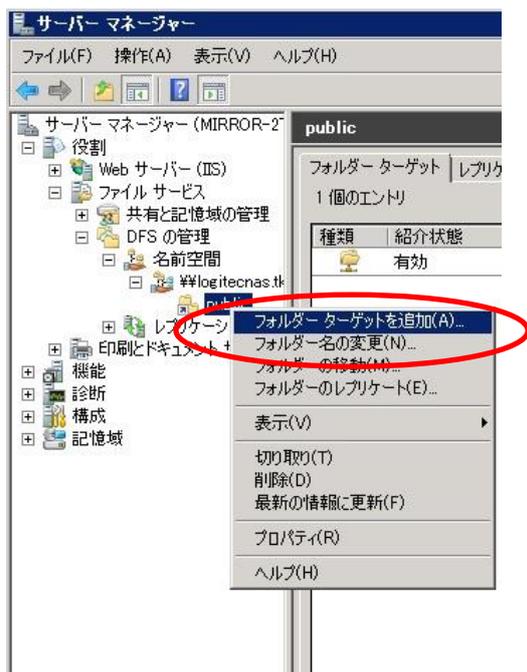
- ③ リンク先のフォルダパスを入力し、設定が完了したら OK をクリックします。②の画面に戻りますので、OK をクリックして完了してください。



ODFS/レプリケーションの設定

※レプリケーションには同一フォルダ内に複数のリンク(フォルダターゲット)が設定されている必要があります。

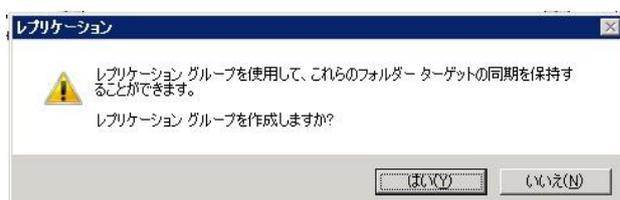
- ① 管理画面のサーバーマネージャーより役割-ファイルサービス-DFS の管理-名前空間-「作成した名前空間」-「作成したフォルダ」を右クリックし、フォルダターゲットを追加をクリックします。



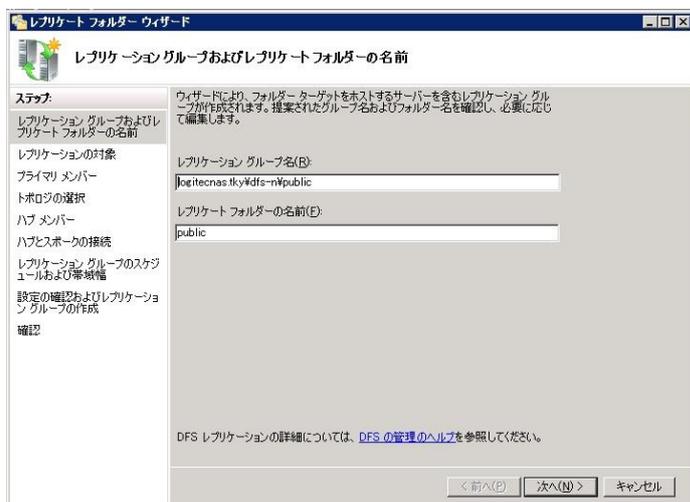
- ② 新しいフォルダターゲットウィンドウが起動しますので、リプリケーションをするリンク(フォルダターゲット)を入力し、OK をクリックしてください。



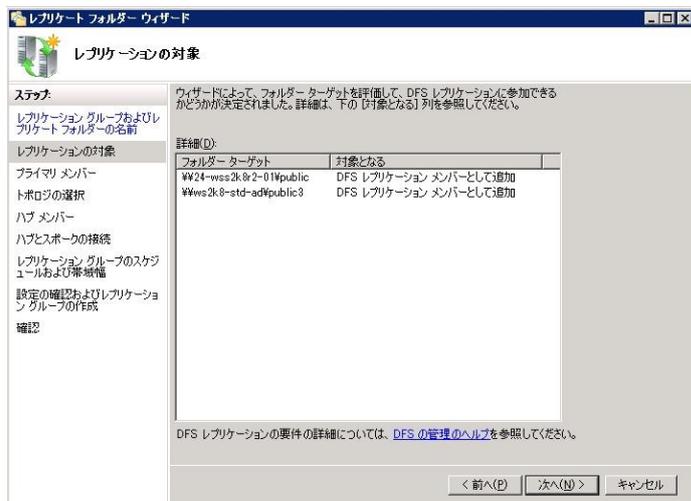
- ③ レプリケーショングループを作成するか確認されますので、はいをクリックしてください。



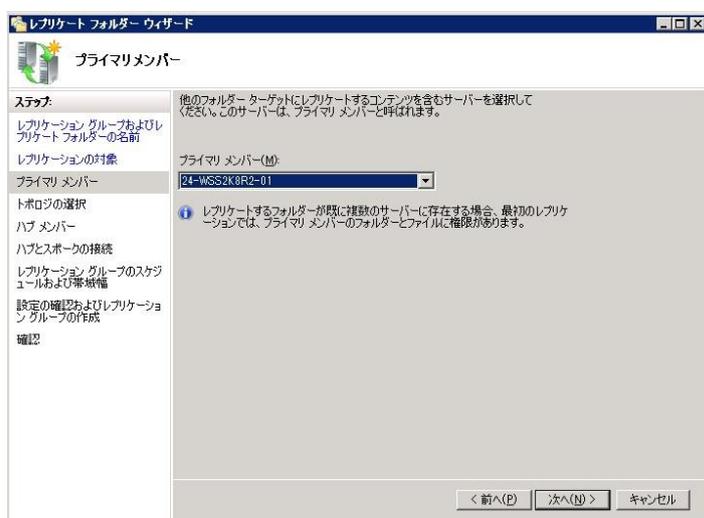
- ④ レプリケートフォルダウィザードが起動します。レプリケーショングループ名、レプリケートフォルダの名前を入力し、次へをクリックします。



⑤ レプリケーションの対象リンク(フォルダターゲット)が表示されますので、次へをクリックします。



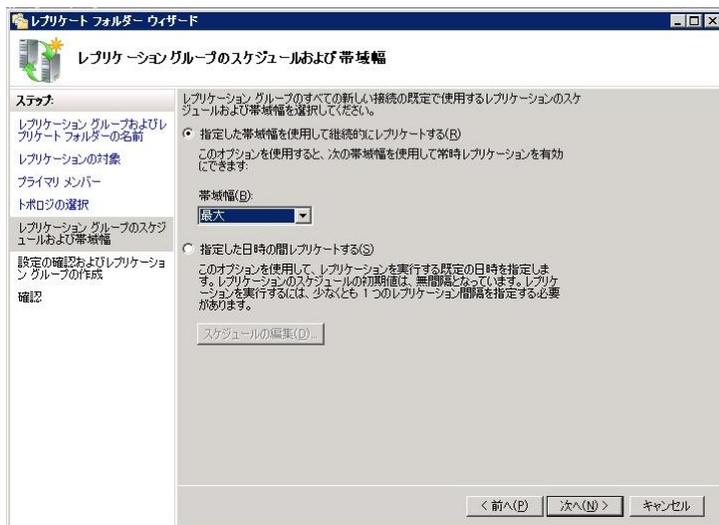
⑥ プライマリメンバーの選択画面になりますので、レプリケートの基盤となるリンク(フォルダターゲット)をプルダウンメニューより選択し、次へをクリックします。



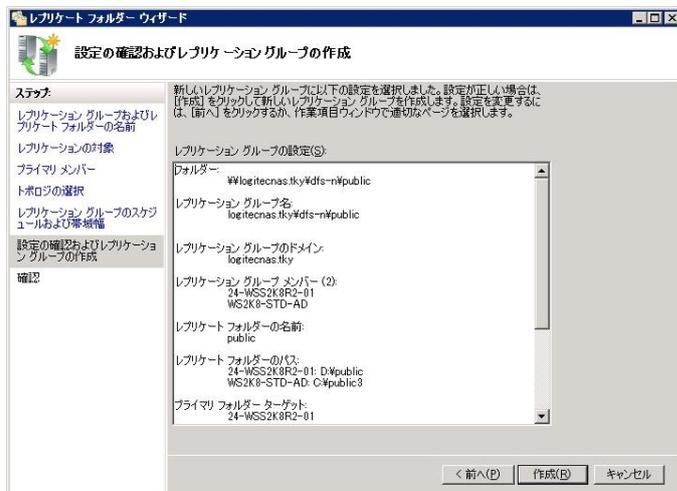
- ⑦ トポロジの選択画面になりますので、リンク(フォルダターゲット)間の論理的接続方法を選択し、次へをクリックします。



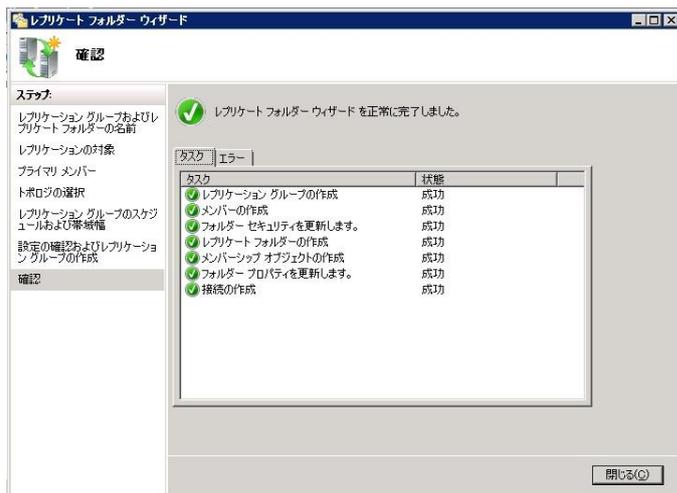
- ⑧ レプリケーショングループのスケジュールおよび帯域幅の設定画面になりますので帯域幅、スケジュールを指定し、次へをクリックします。



⑨ レプリケーション設定の確認画面が表示されますので、内容を確認し、作成をクリックします。



⑩ グループの作成作業が完了したら閉じるをクリックして設定作業を終わります。



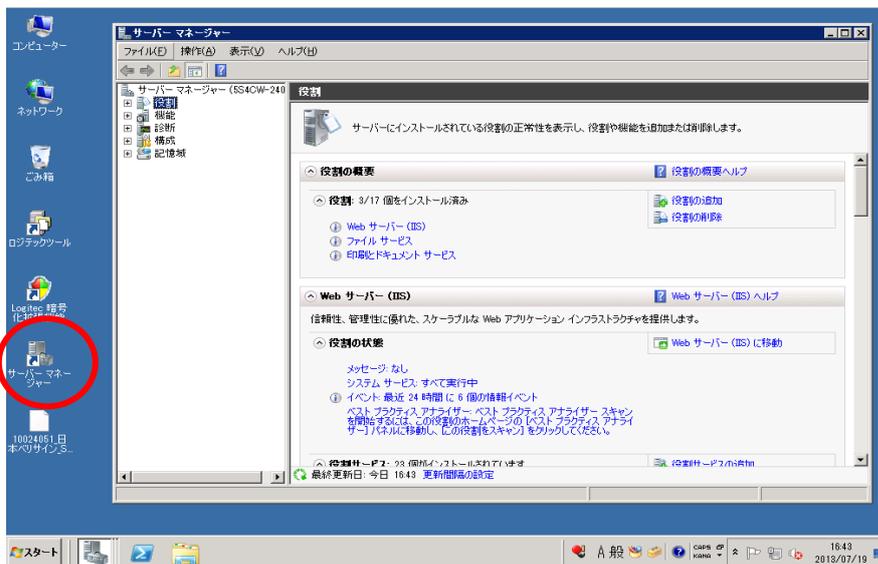
○WebDAV 共有フォルダの利用

WebDAV とは、http を利用したファイル転送プロトコルです。WebDAV を利用することでタブレット等で WebDAV 保存/読込に対応したアプリでデータのやりとりが可能になります。

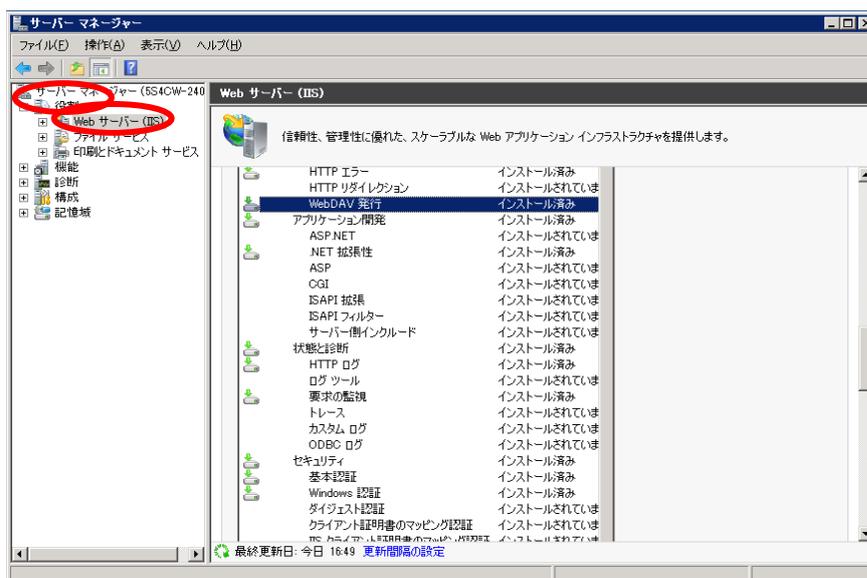
○WebDAV 利用の準備

< 1 > サーバーマネージャーでの役割の追加

① 管理画面上からサーバーマネージャーを起動します。

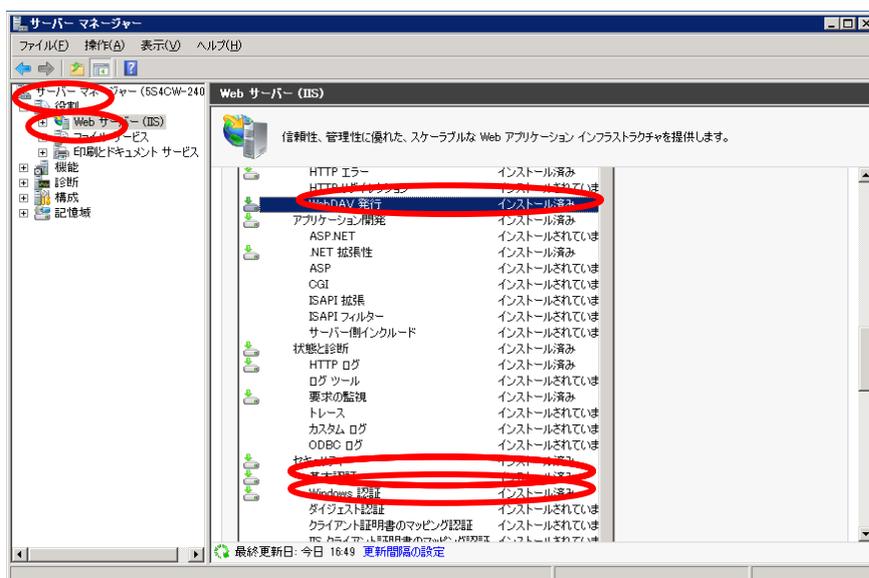


② 役割→Web サーバー (IIS) を選択し、役割サービスの項目を表示します。



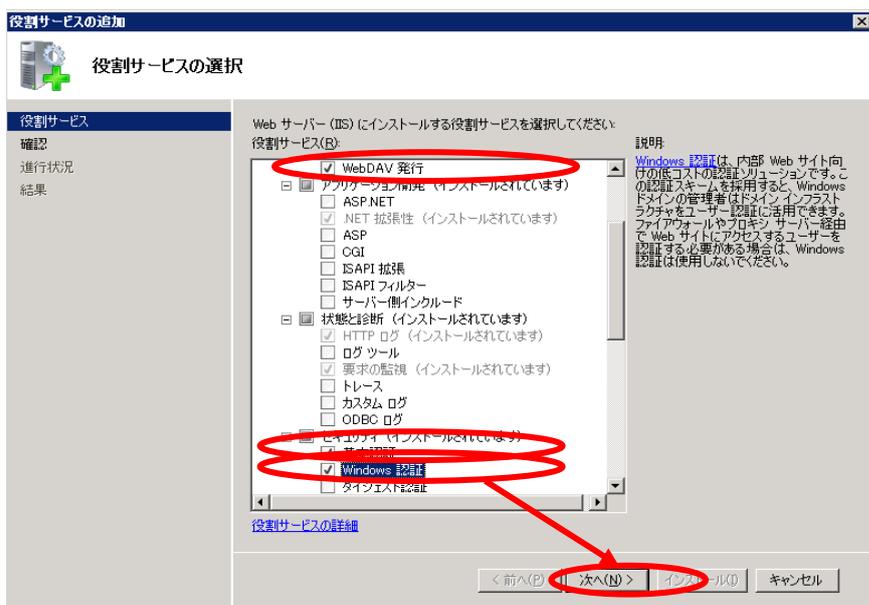
③WebDAV を利用する場合、以下の3つのサービスが必要となりますので、サービスがインストールされていない場合は「役割サービスの追加」をクリックしてサービスを追加します

- ・ Web サーバー>HTTP 基本機能>WebDAV 発行
- ・ セキュリティ>基本認証
- ・ セキュリティ>Windows 認証

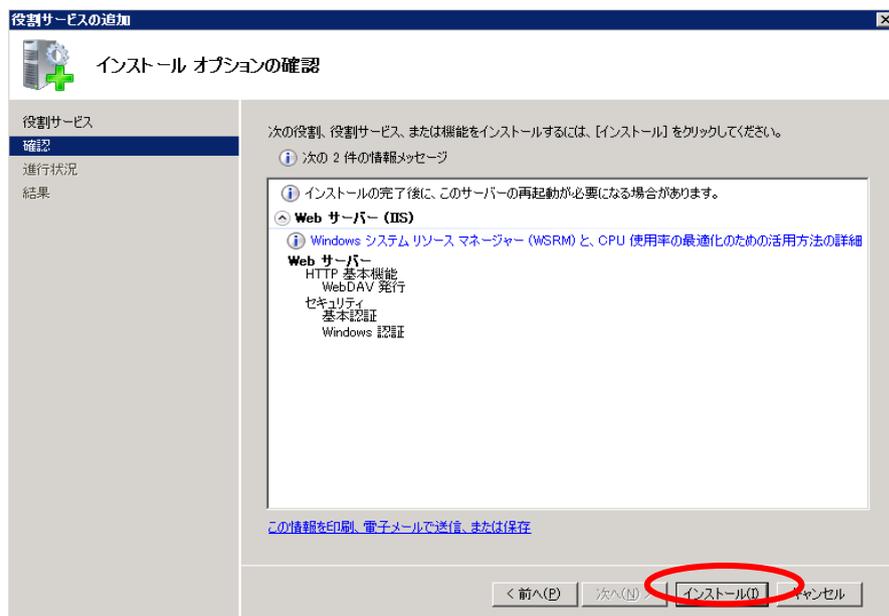


すでに上記3つのサービスがインストールされている場合(状態がインストール済みと表記されている)は<2>ユーザの作成に進んでください

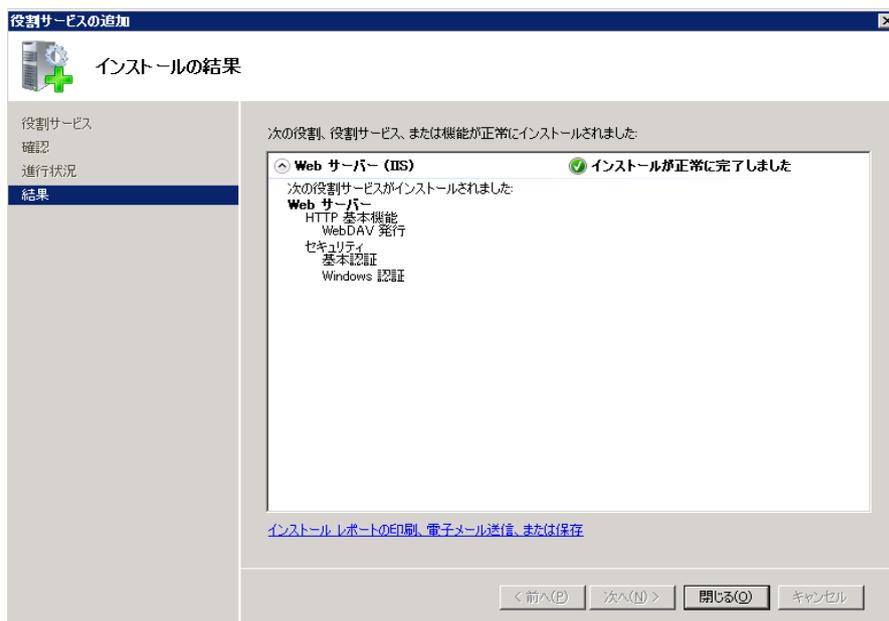
③役割サービスの追加をクリックすると、役割サービスの追加ウィンドウが表示されますので、必要なサービスにチェックを入れて「次へ」をクリックしてください。



④インストール確認画面が表示されますので、「インストール」をクリックしてください



⑤インストール完了画面が表示されますので、「閉じる」をクリックしてください



<2>ユーザーの作成

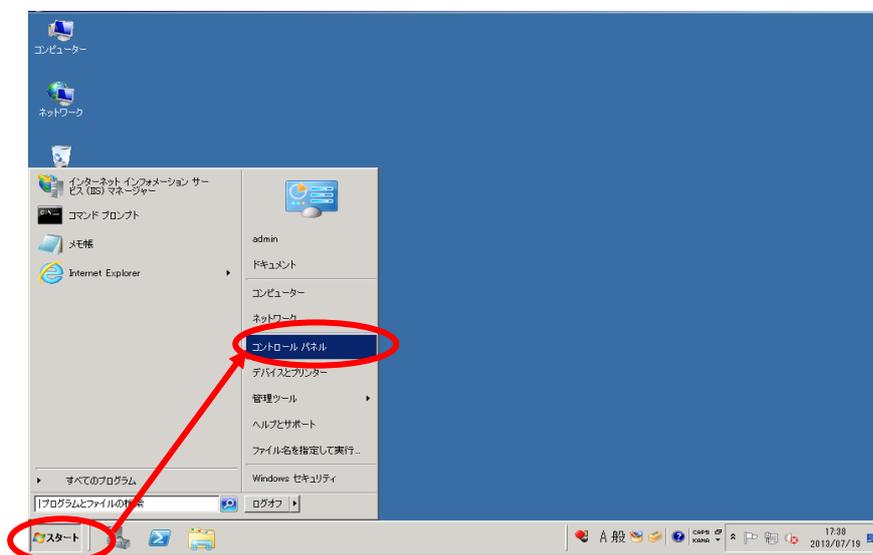
WebDAV でアクセスするユーザを事前に登録しておく必要があります。「第 4 章 ユーザの作成」を参照してユーザを登録してください。

<3>ファイアウォールの設定

WebDAV で http ポートを利用する場合、代表的なポート番号以外を利用することが推奨されます。そこで、利用するポートの利用可能にするためにファイアウォールの設定をします。

①WebDAV で利用するポート番号を決めます。番号は任意ですが、本マニュアルでは例として「8008」番を利用することとします。

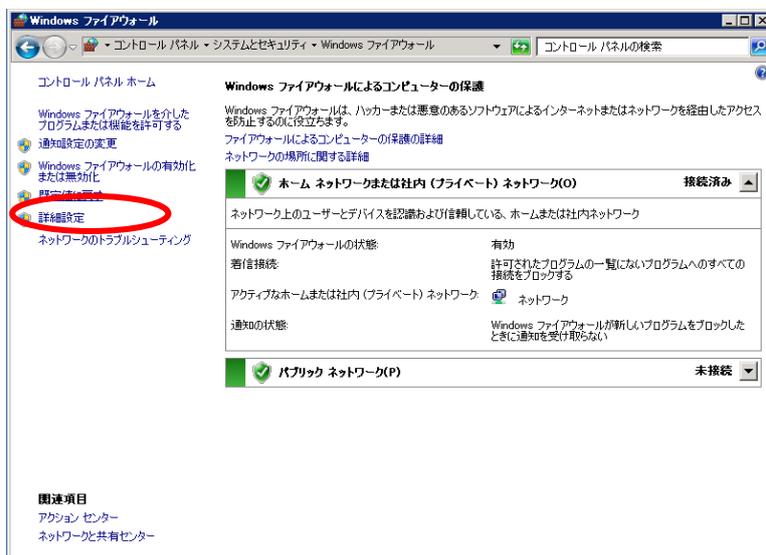
②スタートボタンをクリックし、コントロールパネルを選択します。



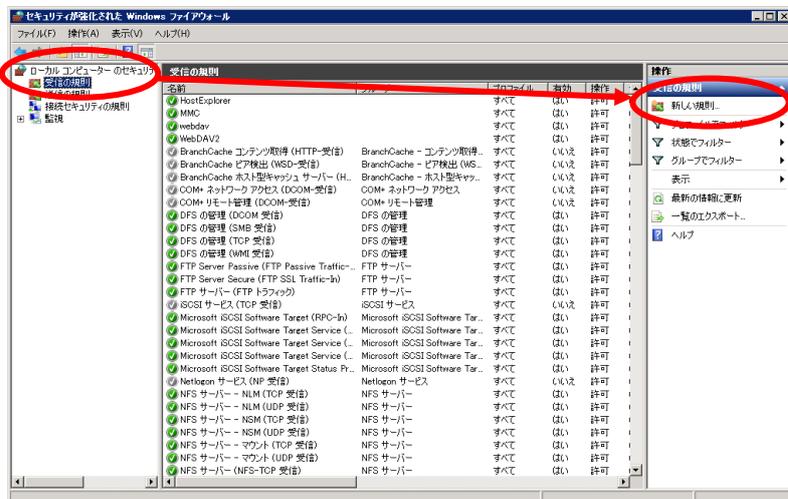
③コントロールパネルが開きますので、システムとセキュリティを選択し、Windows ファイアウォールを選択します。



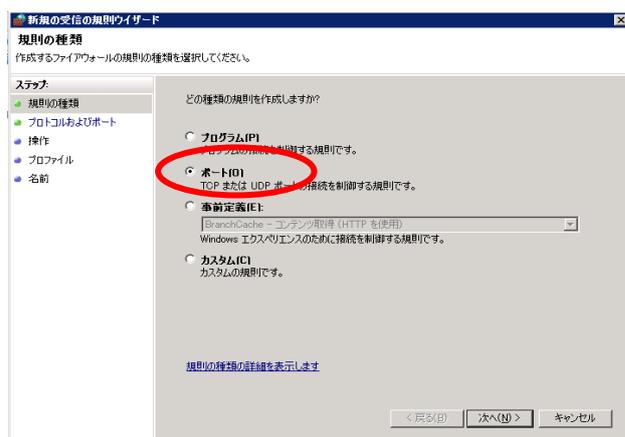
④Windows ファイアウォールが開きますので、詳細設定をクリックします。



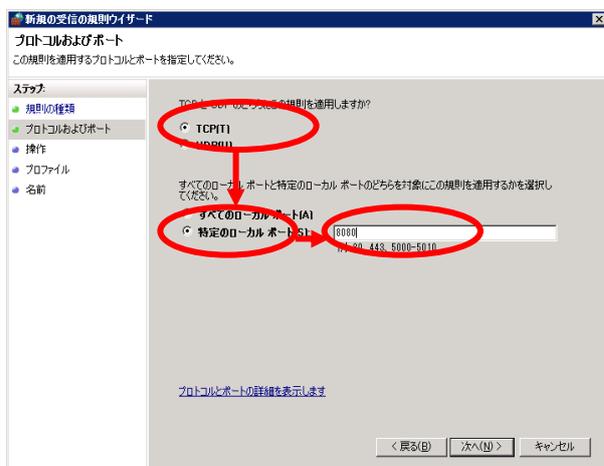
⑤セキュリティが強化された Windows ファイアウォールが表示されますので、「ローカルコンピュータのセキュリティ」→「受信の規則」をクリック、操作より新しい規則をクリックします。



⑥新規の受信の規則ウィザードが表示されますので、規則の種類で「ポート」を選択して「次へ」をクリックします。



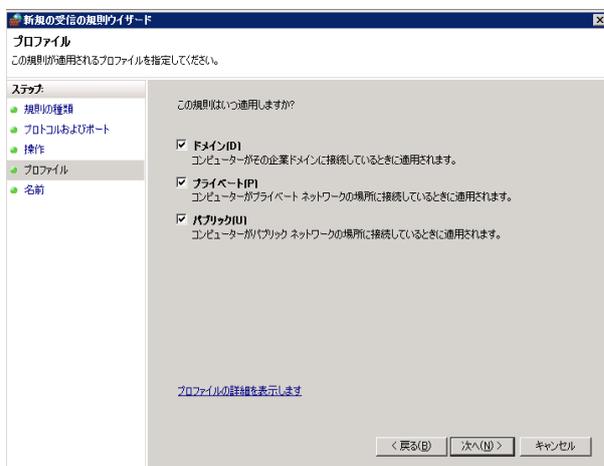
⑦プロトコルおよびポートを指定します。TCP(T) プロトコルのラジオボタンを選択し、特定のローカルポートラジオボタンを選択します。 入力欄には①で決定したポート番号を入力します。



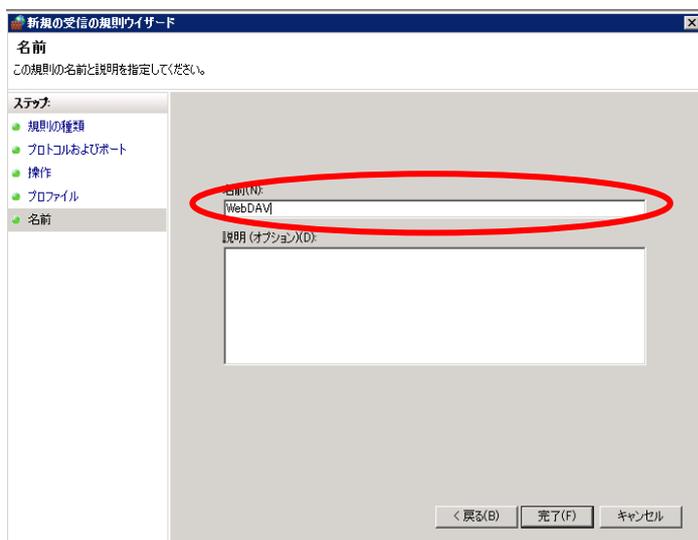
⑧操作を指定します。接続を許可するラジオボタンを選択し、「次へ」をクリックします。



⑩プロファイルを指定します。特にデフォルトのままで問題ありませんので、そのまま「次へ」をクリックします。



- ⑪名前を入力します。名前、説明は任意の文字が入力可能ですが、本マニュアルでは例として「WebDAV」と入力します。入力後「完了」をクリックします。



以上でファイアウォールの設定は完了です。

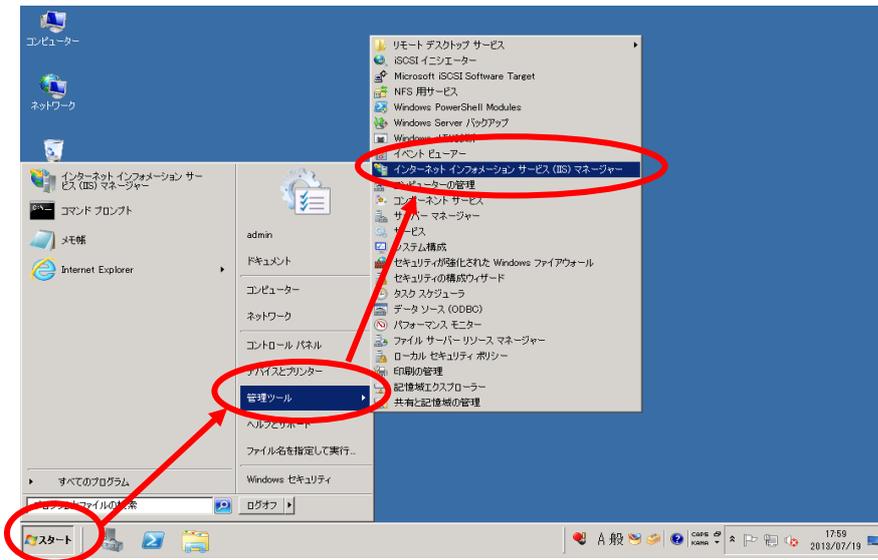
< 4 > WindowsUpdate の実行

本設定はインターネットインフォメーションサービス (以下 IIS) を利用します。また、IIS に関しては Ver7 であることを前提としております。本製品にインストールされている IIS が Ver7 以前の場合、WindowsUpdate にてバージョンアップをしていただきますようお願いいたします。

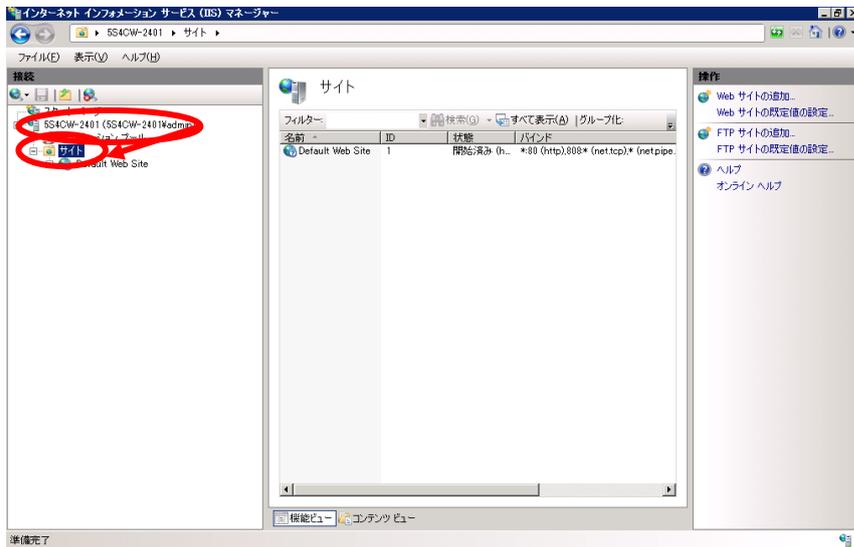
○WebDAV 共有フォルダの作成

準備が完了したところで、実際に WebDAV 共有フォルダを作成します。

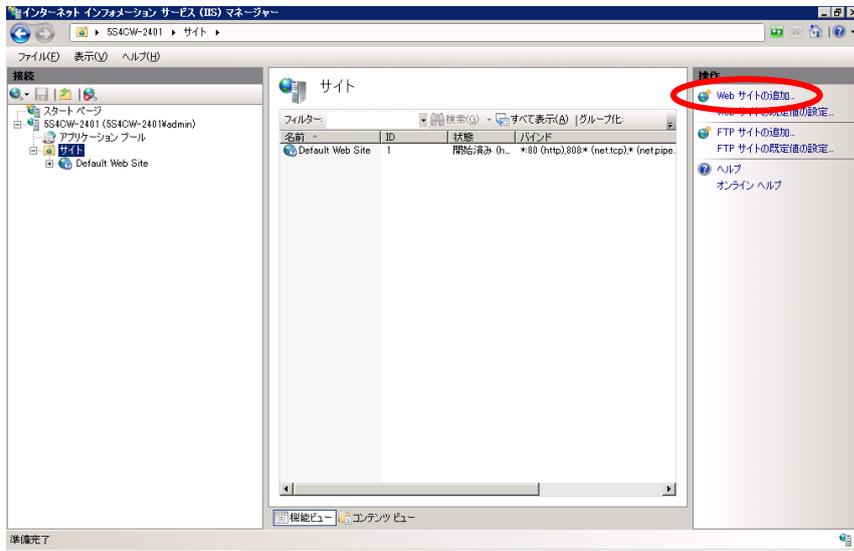
- ① スタートボタンをクリックし、管理ツールをクリック、インターネットインフォメーションサービス (IIS) マネージャーを選択します



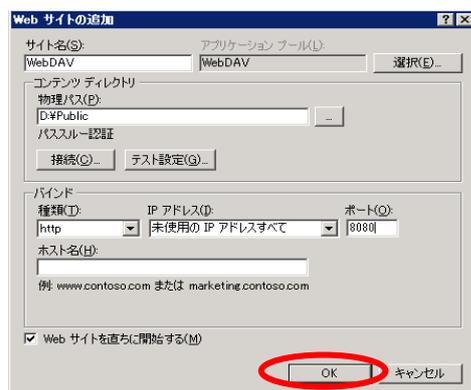
- ② インターネットインフォメーションサービス (IIS) マネージャが開きます。接続内の本製品のホスト名をクリックし、サイトをクリックします。



③操作内の Web サイトの追加をクリックします。

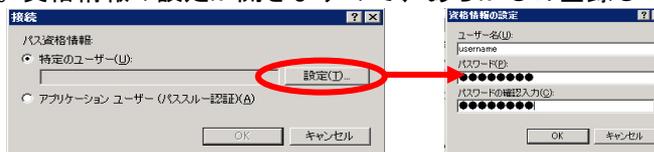


④Web サイトの追加が開きますので、必要事項を入力し、「OK」をクリックします。



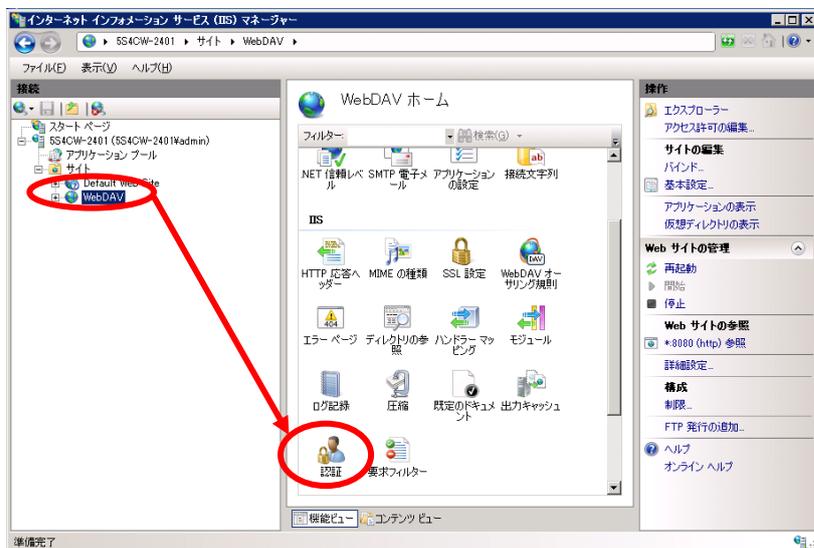
- ・ **サイト名 (S) :**
任意のサイト名を入力します。
- ・ **物理パス (P) :**
WebDAV で共有するフォルダ物理を指定します。パソコンとのデータ共有を行う場合は SMB/CIFS 共有フォルダを同じ物理フォルダを指定します。

・ **接続 :** クリックすると接続ウィンドウが開きますので「特定のユーザ」ラジオボタンをクリックし、「設定」をクリックします。資格情報の設定が開きますので、あらかじめ登録しておいた WebDAV にアクセスするユーザのユーザ名、パスワードを入力して「OK」をクリックします。

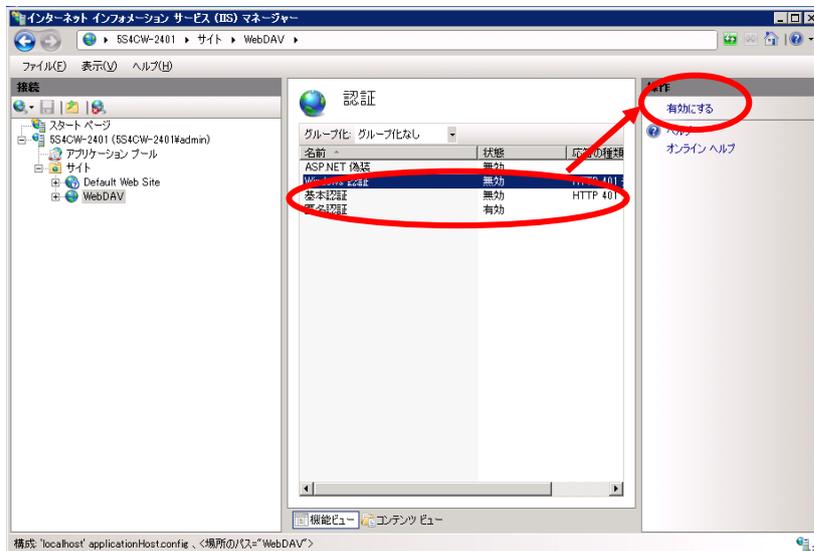


- ・ **テスト設定 :** 接続で設定した内容でアクセス可能かをテストします。
- ・ **種類 :** 特に問題がなければ http でも大丈夫です。
- ・ **IP アドレス :** 特に問題がなければ未使用の IP アドレスすべてを選択します。
- ・ **ポート :** あらかじめ決めておいたポート番号を入力します。
- ・ **ホスト名 :** 特に入力しなくても大丈夫です。
- ・ **Web サイトをただちに開始する :** 特に問題がなければチェックをします。

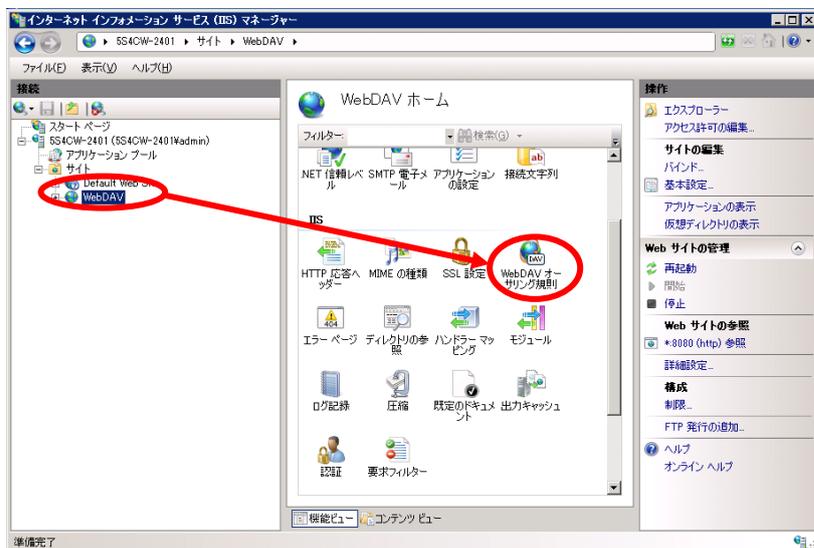
⑤ 接続内の本製品のホスト名→サイト→④で設定したサイト名をクリックします。サイトのホーム画面が表示されますので、認証をクリックします。



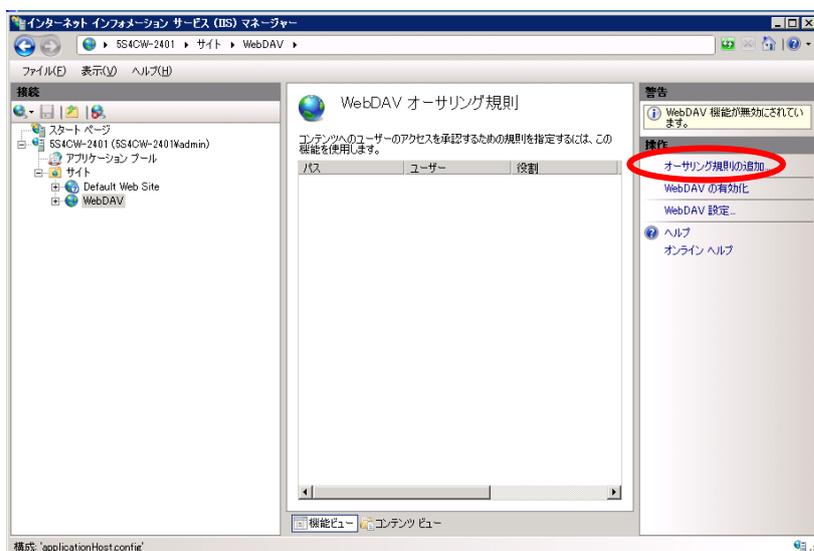
⑥ 認証画面が表示されます。Windows 認証、基本認証の状態が「無効」の場合は操作内の「有効にする」をクリックして認証を有効化します。また、匿名認証が「有効」になっている場合は操作内の「無効にする」をクリックします。



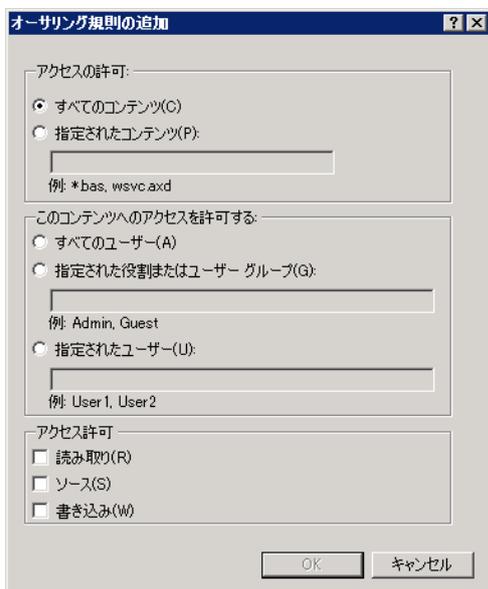
⑦、接続内の本製品のホスト名→サイト→④で設定したホスト名をクリックします。ホーム画面が表示されますので、WebDAV オーサリング規則をダブルクリックします。



⑧ WebDAV オーサリング規則が表示されますので、操作内のオーサリング規則の追加をクリックします。



⑨オーサリング規則の追加画面が表示されますので、必要事項を設定して「OK」をクリックします。



アクセスの許可：

共有するサイト内でアクセス可能なコンテンツを指定したい場合は「指定されたコンテンツ」ラジオボタンをクリックし、コンテンツのを記載します。特に指定しない場合は「すべてのコンテンツ」を指定します。

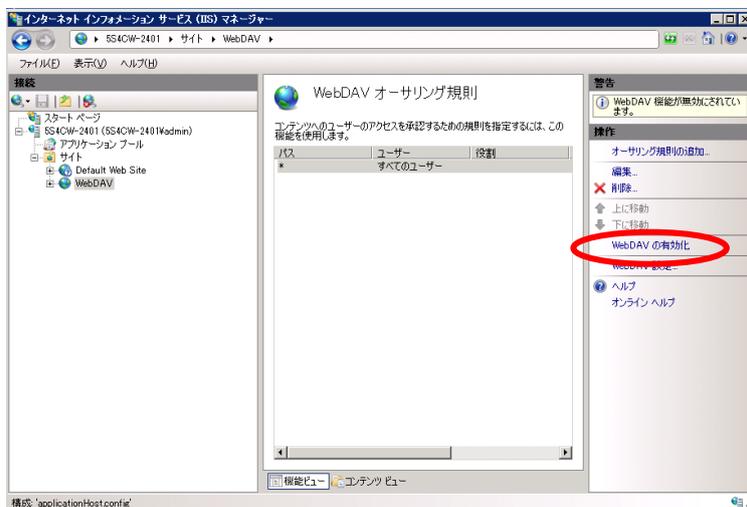
このコンテンツへのアクセスを許可する：

共有するサイトへのアクセス可能なユーザを指定します。特に指定の必要がなければ「すべてのユーザ」を選択します。

アクセス許可：

アクセスの権限を指定します。タブレット等からファイルの読み書きを行うには、読み取り、ソース、書き込みすべてにチェックを入れます。

⑩操作内の WebDAV の有効化をクリックします。



以上で設定は完了です。

第5章 バックアップ・メンテナンス

○RAID エラーアラートの停止

RAID にエラーが発生した場合、製品本体よりビープ音などのアラートが発せられます。これらを停止するにはロジテックツールの RAID ビルダ－より行います。

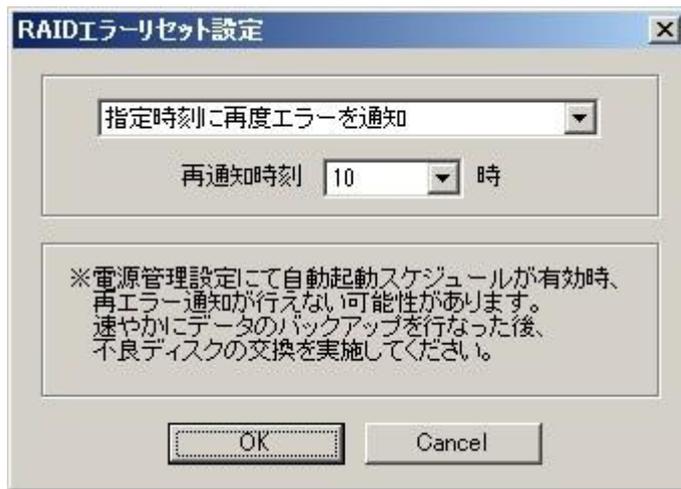
①ロジテックツールの RAID ビルダ－をクリックしてください



②RAID ビルダ－が表示されますので、RAID エラーリセット設定をクリックしてください。



③RAID エラーリセット設定が表示されますので、アラートを停止するモードを選択して OK をクリックします。停止するモードは以下の2パターンから選択可能です



- ・指定時刻に再度エラーを通知: 一時的にアラートを停止しますが、翌日の再通知時刻までにリビルドを開始していない場合は再度アラートを発します。
- ・今後エラーを通知しない: アラートを完全に停止します。新たなエラーが発生するまではアラートは発せられません。

○RAID の再構築(ディスクの交換)

RAID にエラーが発生した場合、RAID ビルダを起動して状態を確認し、メッセージを確認いただき、エラーの発生しているディスクのみ交換してください。

※修復ボタンをクリックする前に「RAID エラーリセット設定」ボタンで、アラートを停止させてください。

※ディスク交換前に「修復」ボタンをクリックしても修復可能な場合もありますが、修復実行後もエラー表示が消えない場合はディスク交換を実施してください。

①RAID ビルダを起動し、状況を確認します。(交換が必要なドライブを特定します。)



交換が必要なドライブが特定できたら、ディスクを交換してください。上図の例では HDD1(上から2番目のドライブ)にエラーが発生しています。(交換方法に関してはハードウェアマニュアルを参照してください)

<各表示及びボタンの説明>

・ ボリュームの状態

ドライブ毎にそのボリュームの状態を表示します。

1) ステータス: 表示内容によってボリュームの以下の状態を示します。

正常(青):ボリュームが正常な状態を示します。ソフトウェア RAID の場合、修復の必要が無い状態です。

エラー(赤):ボリュームに何らかの異常が発生しており、修復の必要がある状態を示しています。

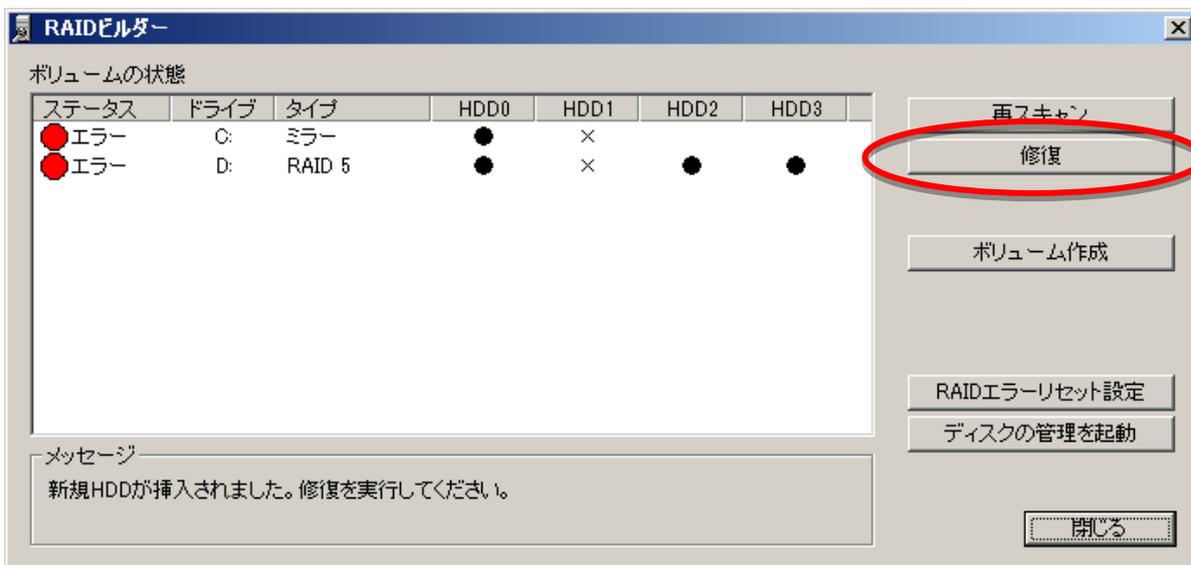
修復中(黄):RAID ビルダの「修復」ボタンまたは[ディスクの管理]より修復の操作を行って、ソフトウェア RAID の再構築を実行していることを示します。

2) ドライブ: そのボリュームに割り当てられたドライブ文字を表示します。

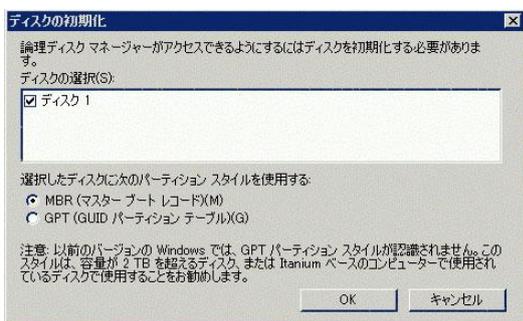
3) タイプ: 該当するドライブの RAID タイプを表示します。

4) HDD0,HDD1,HDD2,HDD3: どのHDDがボリュームにて使用されているかを表示します。ステータスにてエラー表示がされた場合「●」から「x」表示に変わります。

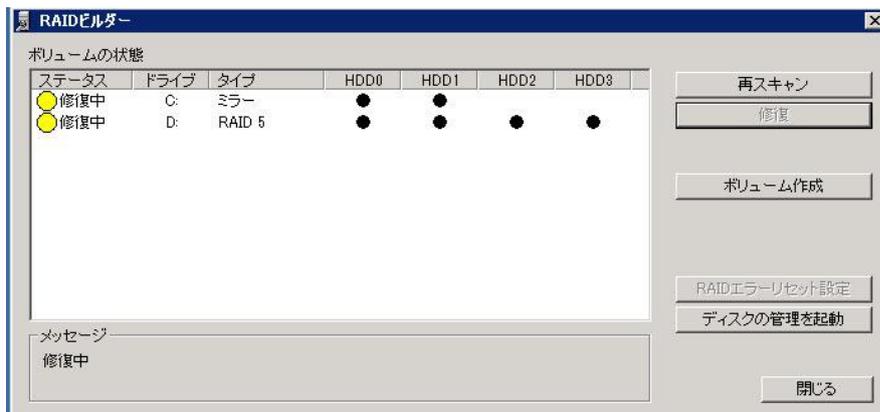
② 交換が必要なドライブを交換します。本製品は電源投入状態でディスク交換(ホットスワップ)可能です。ハードウェアマニュアルのディスク交換手順に従ってディスク交換後、1分ほど経ってから、「再スキャン」をクリックします。すると、RAID ビルダーが以下のようなメッセージ表示になりますので、「修復」ボタンをクリックしてください。



ドライブを交換した際に下のような画面が表示されたら、「キャンセル」をクリックしてください。

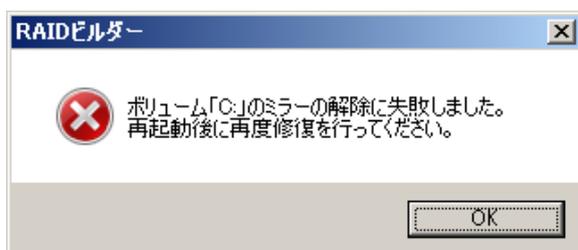


③ 以下のように修復が自動的に始まります。



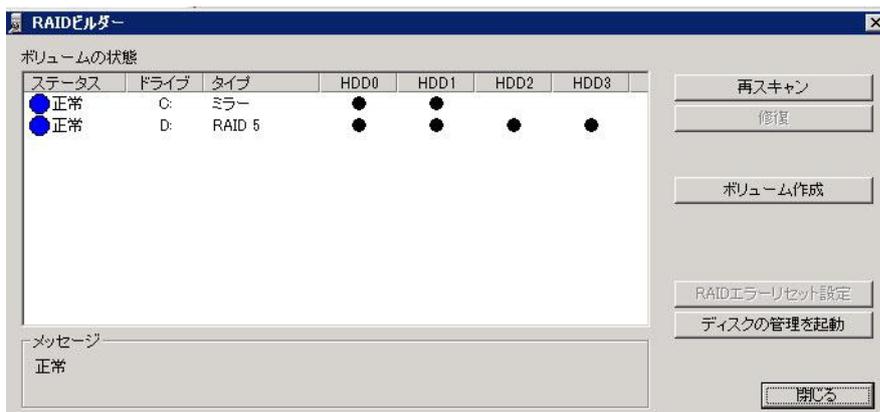
■注意■

システム起動ディスクに障害が発生し、スペアドライブと交換して「修復」ボタンをクリックした場合に下記のメッセージが表示されることがあります。



このメッセージが表示された場合は、システムを再起動して再度「修復」ボタンをクリックしリビルドを開始してください。

④ 修復が終わるとステータスが自動的に「正常」表示に戻り、正常な状態になります。



※ 修復(リビルド)中もデータへのアクセスなどは可能ですが、通常よりもアクセス速度が低下します。ご了承ください。

※ リビルド完了までに必要な時間に関してはハードウェアマニュアルにてご確認ください。

■注意■

- ・ディスク交換の際は、必ず新品のスペアドライブを挿入してください。不良ドライブや使用済みドライブを用いるとドライブの特定ができなくなったり、リビルド時エラーが発生したりする可能性があります。
- ・暗号化ボリュームを修復した際には、必ず「暗号化と自動ロック/アンロック設定」の「暗号化管理」で暗号化ステータスを確認してください。「未完了」となっている場合には再暗号化が必要です。

○データフォルダバックアップツール

「データフォルダバックアップツール」は、WindowsServer2008R2 標準の「Windows Server バックアップ」の制限事項を解消するためのオリジナルのツールです。「データフォルダバックアップツール」は「WindowsServer バックアップ」同様に一回でのバックアップ容量には 2TB までの制限がありますが、バックアップ設定を複数組に作成することが出来るので、フォルダ別にバックアップを設定することで、トータルで 2TB 以上のデータのバックアップが可能です。

＜データフォルダバックアップツールと WindowsServer バックアップの制限事項＞

	データフォルダバックアップツール	WindowsServer バックアップ
システムのバックアップ	×	○
バックアップの複数セット登録	○	×
1 セットでのバックアップ容量	最大 2TB	最大 2TB

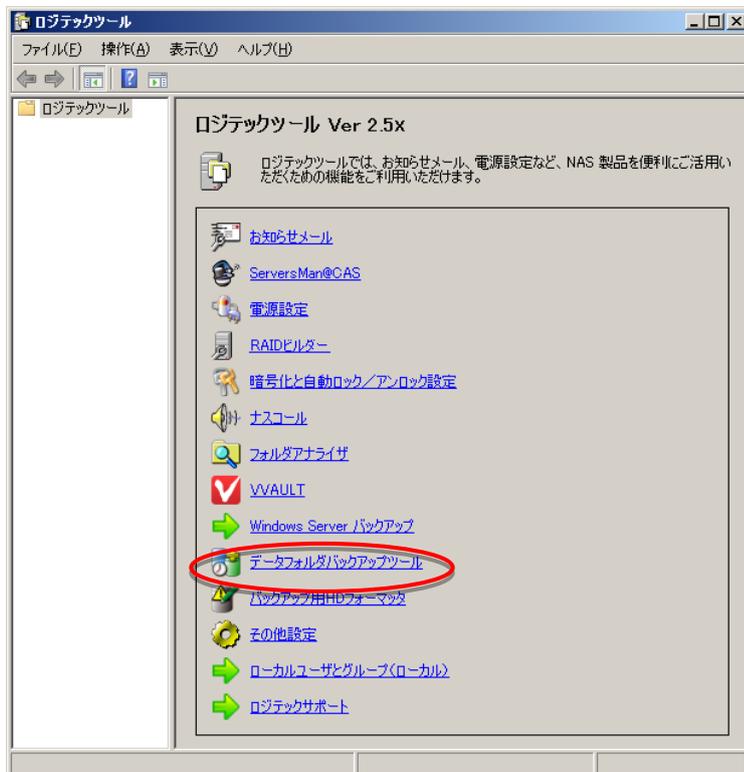
「データフォルダバックアップツール」の制限事項：

- ・ データフォルダバックアップツールは、複数のバックアップ作業を複数同時に実行することができません。データフォルダバックアップツールでは複数のバックアップ設定を登録できますが、同時に実行されないよう、スケジュールを調整してください。
- ・ バックアップ先の指定は、論理ドライブ単位となります。
- ・ 1 つのバックアップ先論理ドライブに対して設定できるバックアップセットは 1 つのみです。複数のバックアップセットを設定しないでください。設定した場合、バックアップデータが消去されてしまいます。複数のバックアップ先ハードディスクをご用意いただき、交換しながら運用していただくことをお勧めいたします。例えば、「DATA-A」フォルダのバックアップ先として論理ドライブ「E:」を指定した場合、「DATA-B」フォルダのバックアップ先として「E:」を指定することはできません。
- ・ バックアップ先論理ドライブは、あらかじめ NAS バックアップ用 HDD フォーマッタでフォーマットしておいてください。

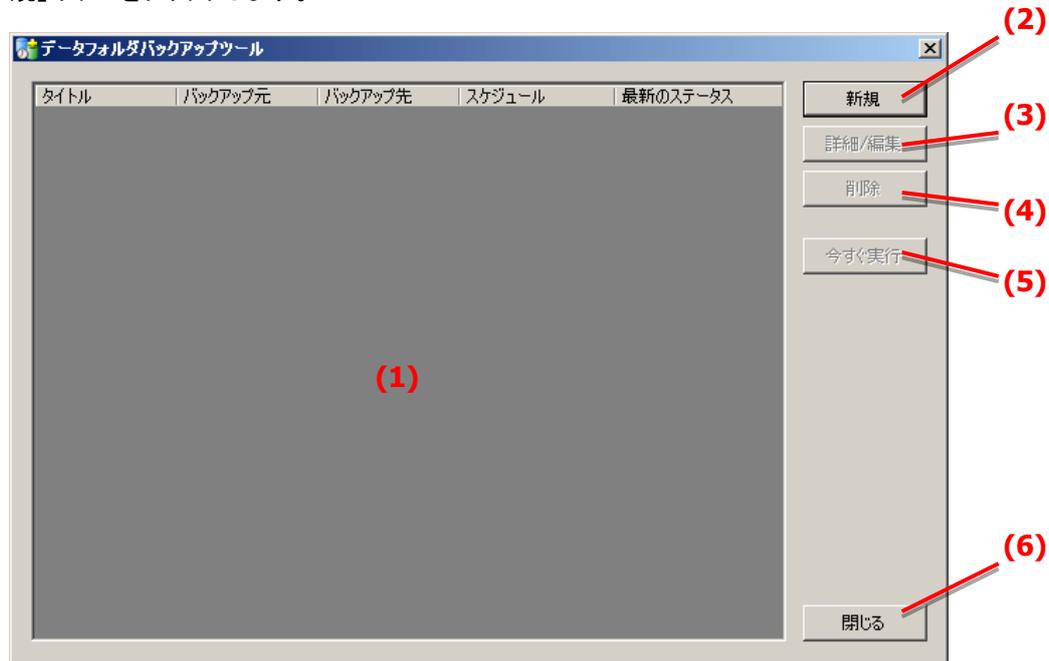
※指定できるのはハードディスクのみです。リムーバブルディスクや共有フォルダは指定できません。

ここでは、D:\PUBLIC 下の二つのサブフォルダ(DATA_A と DATA_B)を、二台の外付けハードディスク(E:と F:)へ分散してバックアップする方法をご説明いたします。

①ロジテックツールメニューで「データフォルダバックアップツール」をクリックしてください。

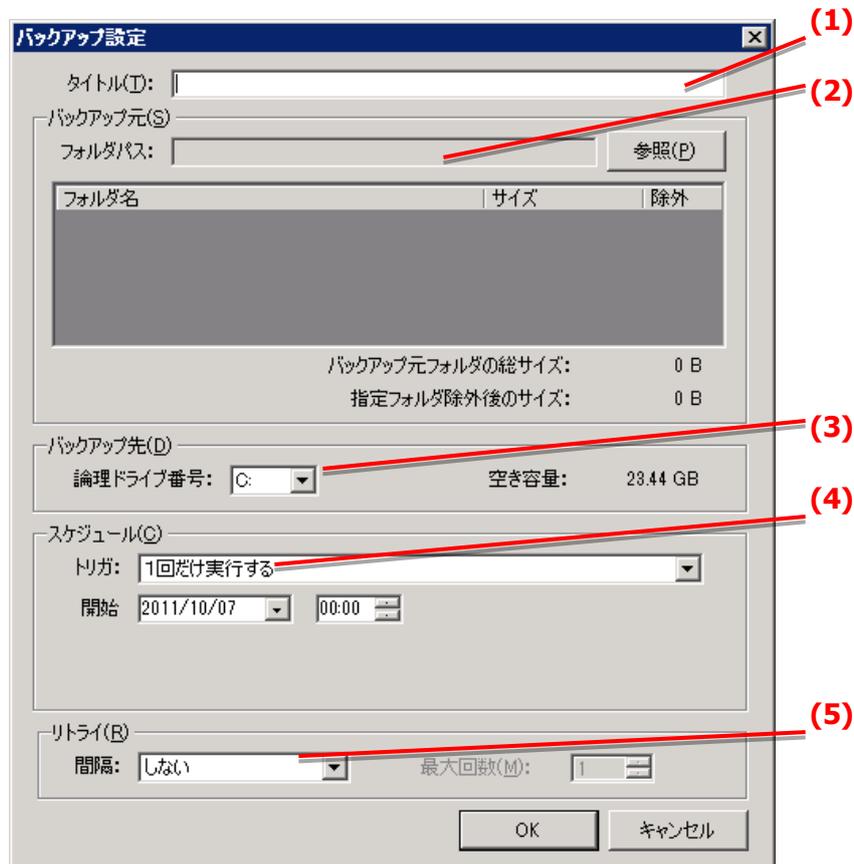


②「データフォルダバックアップツール」が表示されます。ここで、バックアップ設定を追加するために、「新規」ボタンをクリックします。



- (1)バックアップ項目リスト: 登録されているバックアップリストの一覧です。
- (2)「新規」ボタン: バックアップ項目を新規に追加します。
- (3)「詳細／編集」ボタン: 「バックアップ項目リスト」で選択されている項目を編集できます。
- (4)「削除」ボタン: 「バックアップ項目リスト」で選択されている項目を削除します。
- (5)「今すぐ実行」ボタン: 「バックアップ項目リスト」で選択されている項目を開始します。
- (6)「閉じる」ボタン: 「データフォルダバックアップツール」設定ダイアログを閉じます。

- ③「新規」ボタンをクリックすると「バックアップ設定」ダイアログが開きます。
このダイアログボックスで、スケジュールを含むバックアップの設定を行います。



- (1)タイトル: バックアップ設定項目に、任意のタイトルを設定します。
- (2)フォルダパス: 「参照」ボタンをクリックして、バックアップ元となるフォルダのパスを指定します。バックアップ対象から除外するものを指定する事も可能です。
- (3)バックアップ先: バックアップ先の論理ドライブ番号を指定します。バックアップ先として指定するドライブは、あらかじめバックアップ用HDフォーマッタでフォーマットしておいてください。バックアップが実行されると、自動的にコンピュータ名のフォルダがルートフォルダへ作成され、その中にバックアップデータが保存されます。

(4)スケジュール： バックアップを開始するスケジュールを設定します。

トリガ：下記の選択肢から選択できます。

- | | |
|---------------------|-------------------|
| ・1回だけ実行する： | 日付と時刻を指定します。 |
| ・毎日指定時刻に実行する： | 時刻を指定します。 |
| ・指定曜日の指定時刻に実行する： | 実行する曜日と、時刻を指定します。 |
| ・指定月、指定日の指定時刻に実行する： | 実行する日にち、時刻を指定します。 |

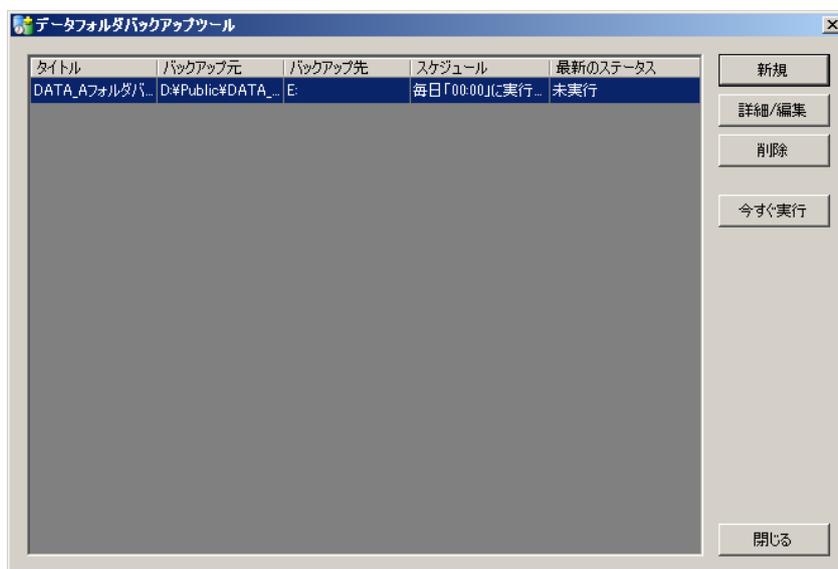
(5)リトライ

バックアップ作業の開始に失敗した場合に、再試行する間隔と回数を指定します。

バックアップ作業は重複して実行することができないため、作業が完了する前に次のバックアップ作業を開始しようとするとう失敗してしまいます。このような場合でも、「スケジュール」とこの「リトライ」の設定を適切に行うことにより、回避が可能です。

各設定が完了したら、「OK」ボタンをクリックします。

④バックアップセットが登録されました。複数のバックアップセットを登録する場合は再度「新規」ボタンをクリックし、バックアップセットを作成してください。



○バックアップ(WindowsServer バックアップ)

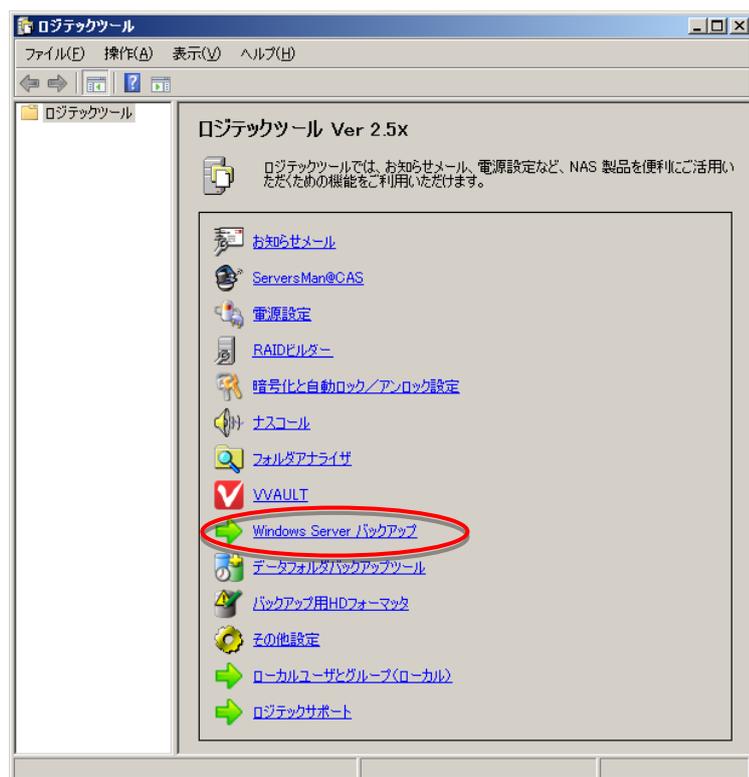
本製品には WindowsServer2008R2 標準の WindowsServer バックアップが標準搭載されています。WindowsServer バックアップは様々な機能が搭載されていますが、ここではシステム・データの保全のための定期バックアップの手順を説明します。

※「Windows Server バックアップ」を活用することにより、システムおよびデータの保全が可能ですが、下記のような制限事項があります。

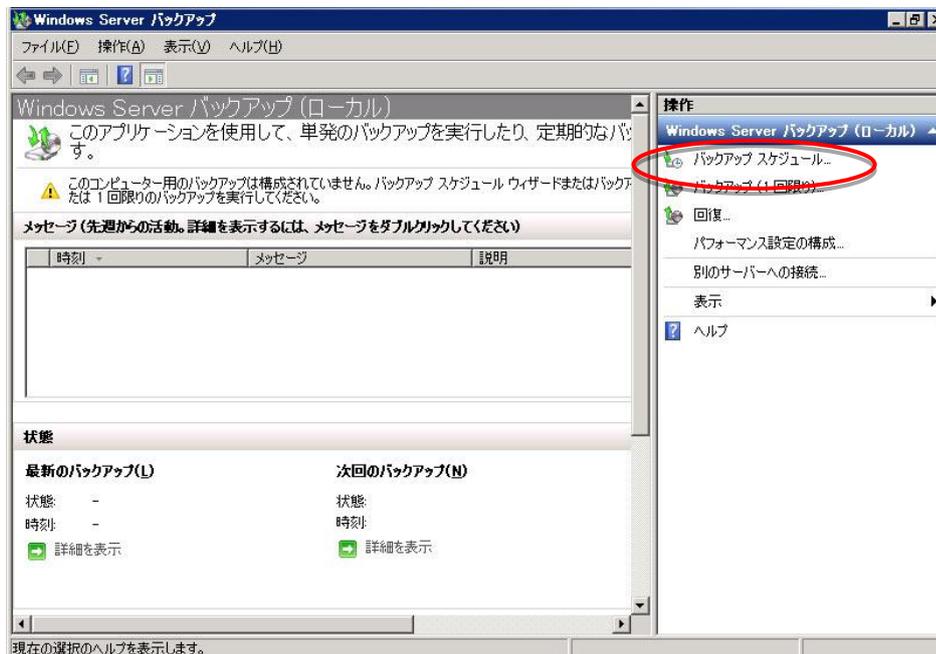
- ・バックアップ設定を一組しか登録できない。
- ・一括でバックアップできる容量に 2TB の制限がある。

これらの制限事項を回避するため、本製品には専用の「バックアップツール」が搭載されていますので、こちらもご活用ください。

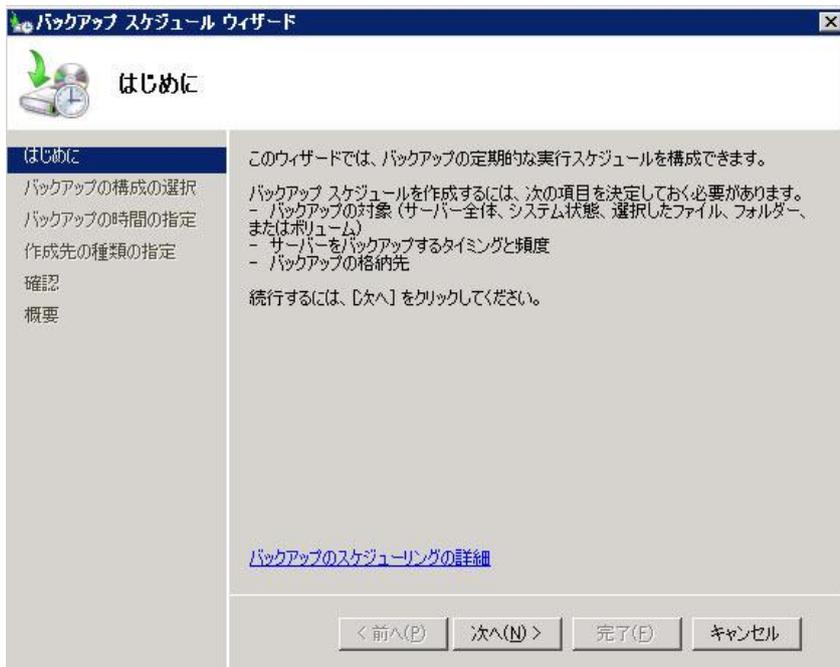
①ロジテックツールの「Windows Server バックアップ」をクリックします。



②「Windows Server バックアップ」が起動しますので、「バックアップスケジュール」をクリックします。



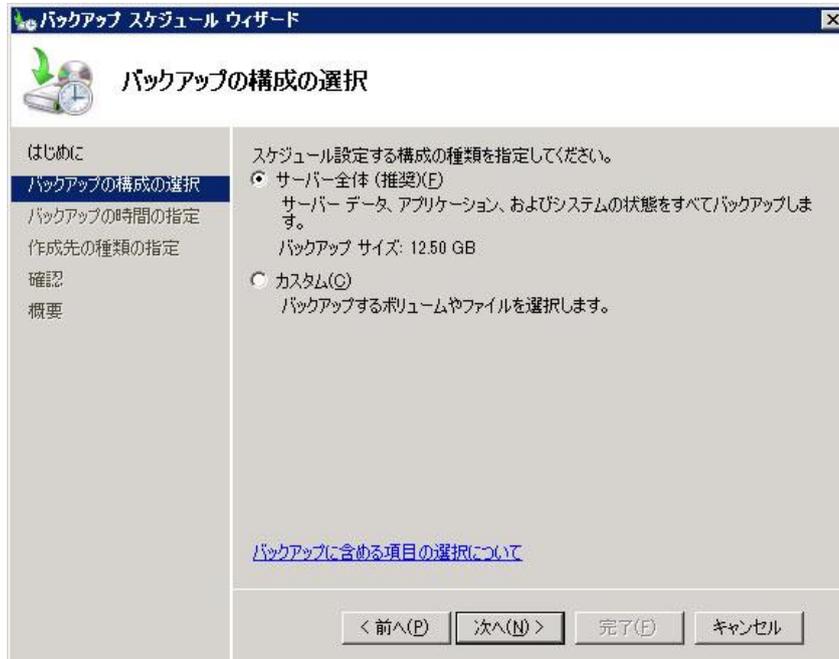
③「バックアップスケジュールウィザード」が表示されますので、「次へ」をクリックします。



④「バックアップ構成の選択」が表示されますので、「サーバー全体」を選択し、「次へ」をクリックします。

※データエリアのみのバックアップを選択する場合は、「カスタム」を選択します。

「カスタム」では、バックアップする項目を選択できます。



★注意★

「Windows Server バックアップ」では 2TB を超えるボリュームをバックアップできません。実際に保存されているデータの合計サイズではなく、容量が 2TB を超えるボリュームをバックアップ元として指定できませんので、ご注意ください。従いまして、データ保存用のボリューム(例えば製品出荷時の D:ドライブ)の容量が 2TB を越えている場合、「サーバー全体」は選択できません。ここでは、「カスタム」を選択してバックアップ元を指定してください。

⑤「バックアップの時間の指定」が表示されますので、バックアップを実行する時刻と1日の実行回数を指定します。

The screenshot shows the 'Backup Schedule Wizard' dialog box with the title 'バックアップ スケジュール ウィザード'. The current step is 'バックアップの時間の指定' (Specify Backup Time). The left sidebar contains a navigation pane with the following items: 'はじめに', 'バックアップの構成の選択', 'バックアップの時間の指定' (selected), '作成先の種類の指定', '確認', and '概要'. The main area contains the following text and controls:

バックアップを実行する頻度と時刻を指定してください。

1日1回(O)
時刻の選択(E): 21:00

1日複数回(M)
選択可能な時刻のいずれかをクリックし、[追加] をクリックしてバックアップ スケジュールに追加します。

指定可能な時間	スケジュールされた
0:00	21:00
0:30	
1:00	
1:30	
2:00	
2:30	
3:00	
3:30	
4:00	
4:30	

Buttons: 追加(A) >, < 削除(B)

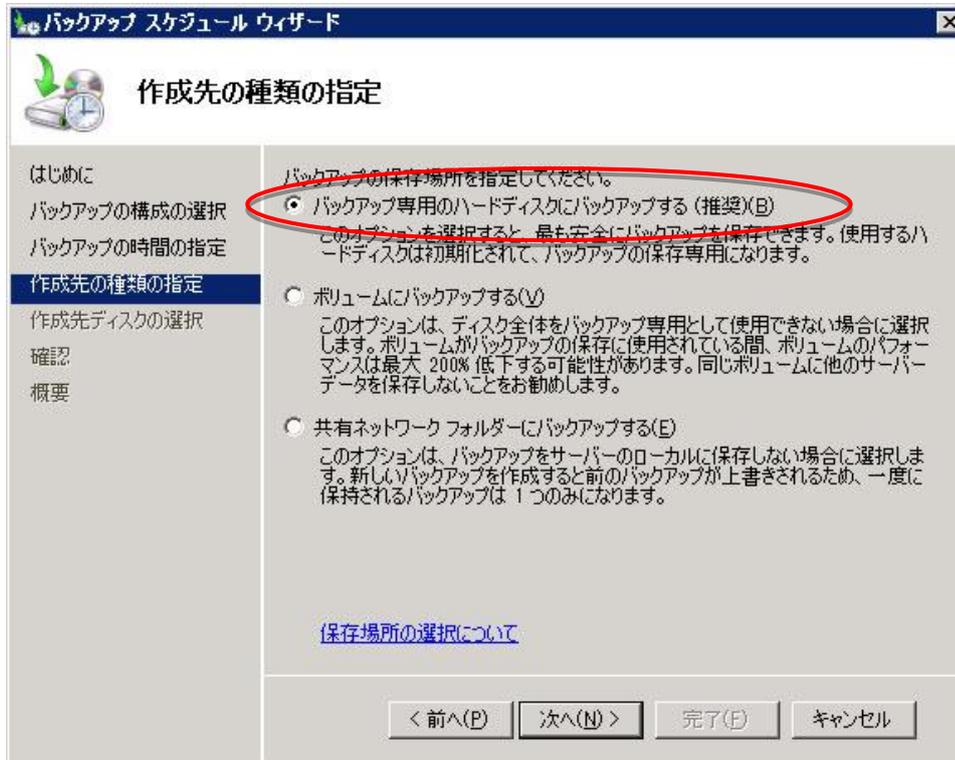
[スケジュール オプションの詳細](#)

Navigation buttons: < 前へ(P), 次へ(N) >, 完了(F), キャンセル

⑥「作成先の種類の指定」が表示されますので、バックアップ先の設定を行います。

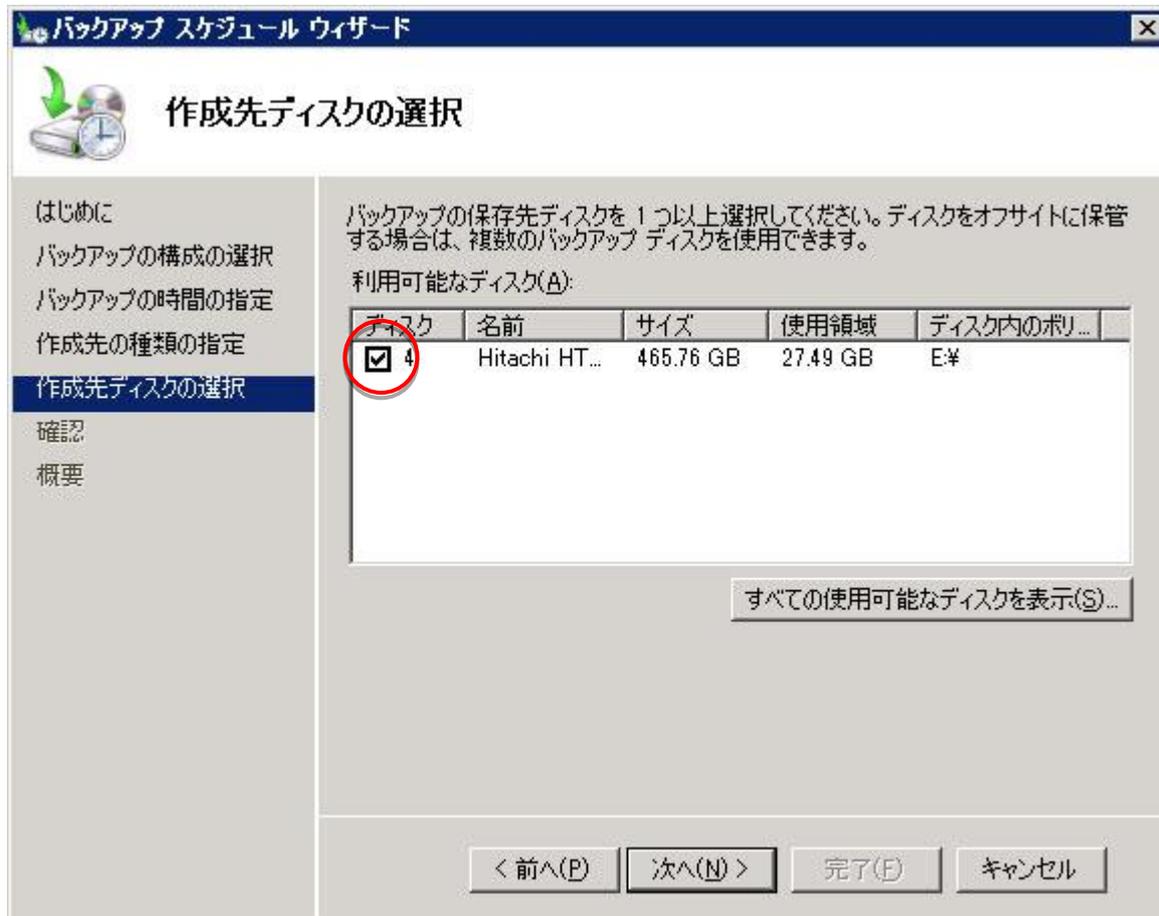
ここでは、「バックアップ専用のハードディスクにバックアップする」を選択します。

※ロジテック製 NAS バックアップユニット利用の際もこのモードを選択してください。

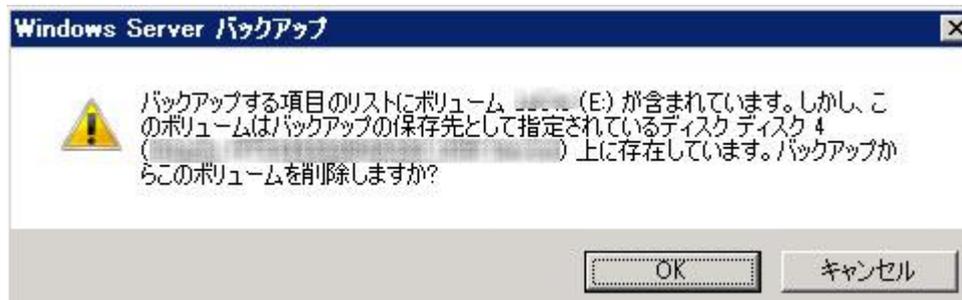


⑦「作成先ディスクの選択」が表示されますので、バックアップの保存先ディスクを選択して「次へ」をクリックします。

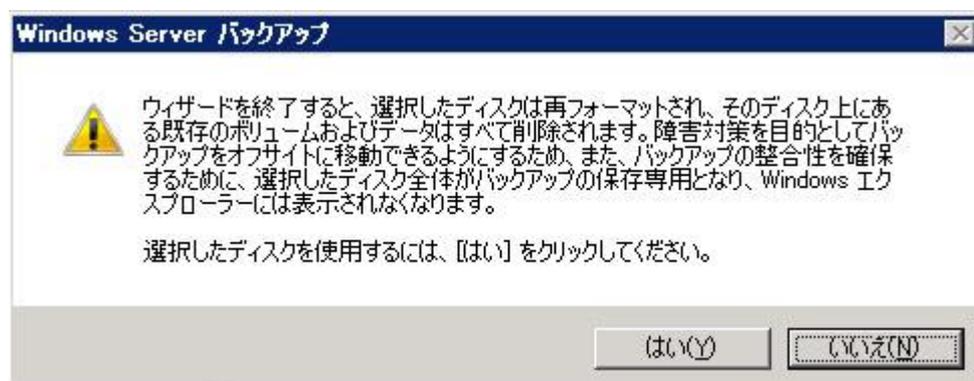
【ご注意】バックアップ先のディスクは自動的にフォーマットされ、既存のデータは消去されます。ご注意ください。



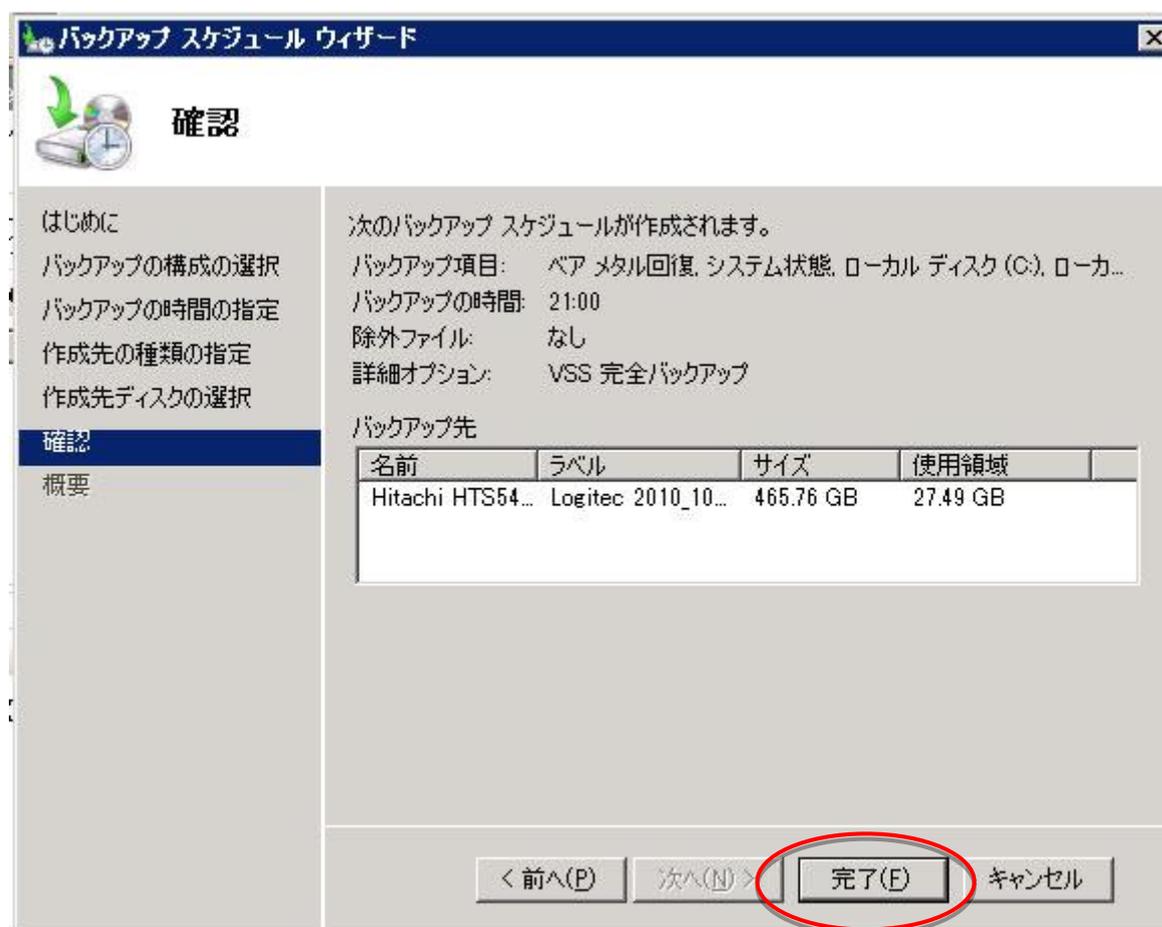
⑧バックアップ先のドライブを、バックアップ元のリストから除外する旨のアラートが表示されますので、「OK」をクリックします。



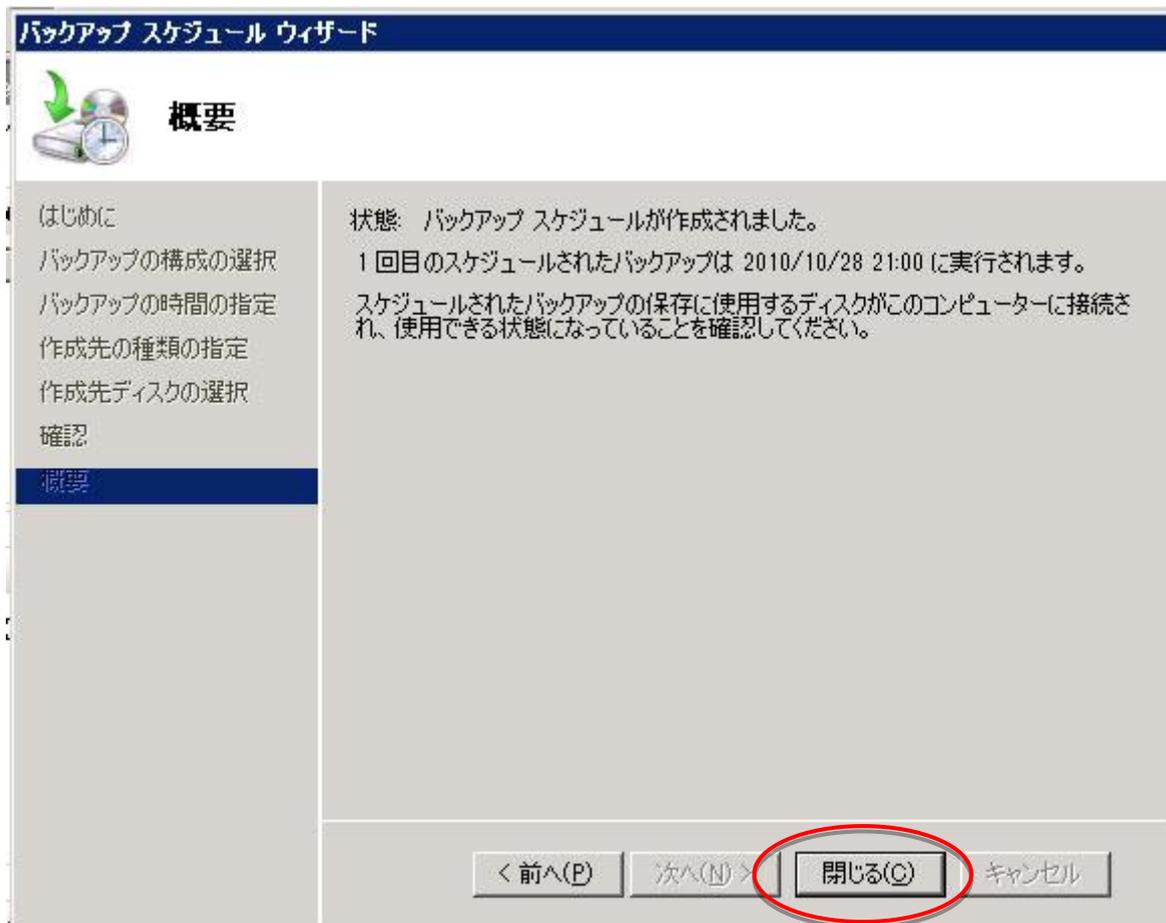
- ⑨バックアップ先のハードディスクがフォーマットされる旨のアラートが表示されますので、内容をご確認の上「はい」をクリックします。



- ⑩バックアップ先のディスクがフォーマットされ、バックアップスケジュールの設定内容が表示されます。
設定に問題が無ければ「完了」をクリックします。



⑪以上でバックアップスケジュールの設定は完了です。「閉じる」をクリックしてウィザードを終了します。



○バックアップ用 HD フォーマッタ

本製品に接続する、USB 外付けハードディスク用の専用フォーマッタです。

<注意>

本製品に **USB 外付けハードディスクを接続した際にはこのフォーマッタであらかじめ HD をフォーマット/パラメータ設定をしてください。本フォーマッタでフォーマットされていない USB 外付けハードディスクでバックアップを行った場合、本製品が正常に動作しない場合があります。**

<フォーマット方法>

①ロジテックツールの「バックアップ用 HD フォーマッタ」をクリックします。



②「Logitec NAS バックアップ用 HD フォーマッタ」が起動します。



1) ターゲットドライブの選択リスト:

接続されている USB 外付けハードディスクの一覧が表示されます。このリストで、フォーマットする対象の HD ユニットを選択します。また、リストには下記の情報が表示されます。

- ・ターゲット名: USB 外付けハードディスクの名称が表示されます。
- ・ドライブ: USB 外付けハードディスクの論理ドライブ名が表示されます。
- ・総容量: USB 外付けハードディスクの総容量です。※1 キロバイト=1,024 バイトの数値です。
- ・パーティション: パーティション形式が表示されます (MBR または GPT)。
- ・対応: 弊社 NAS 製品へ接続した際に発生する問題を回避するための修正が適用されているか否かを示します。

○: フォーマット済みか、またはフォーマットの必要がない状態です。

×: パラメータ設定が必要な状態です。

—: 未フォーマットの状態です。

2) 「フォーマットする」チェックボックス:

パラメータ設定を行う際、対象のハードディスクを論理フォーマットするかどうかを選択します。このチェックボックスを 'ON' にして実行した場合、対象のハードディスクに対して論理フォーマットが行われ、保存されていたデータは全て消去されます。未フォーマットのハードディスクに対して本プログラムを適用する際にご利用ください。

3) ボリュームラベル入力用エディットボックス

「フォーマットする」チェックボックスが 'ON' の場合のみ、有効になります。論理フォーマットを実行する際に付与されるボリュームラベルを指定します。32 文字まで入力可能です。

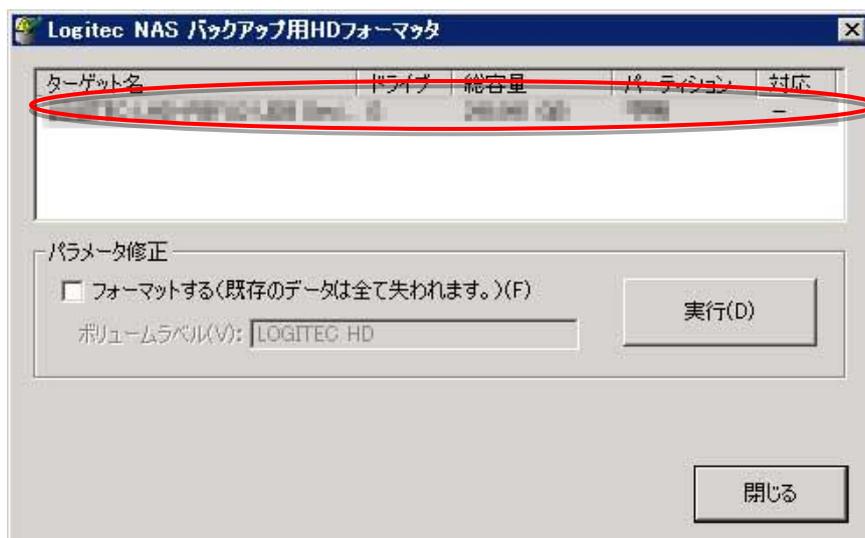
4) 「実行」ボタン

「ターゲットドライブの選択リスト」で選択されているハードディスクユニットに対して、フォーマット/パラメータの設定作業を実行します。論理フォーマットを実行する場合には数分、実行しない場合には数秒で作業は完了します。

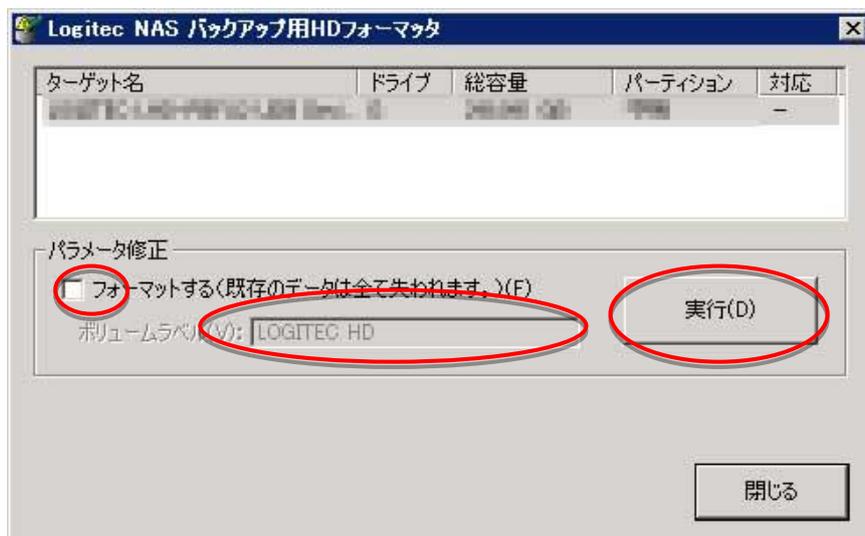
5)「閉じる」ボタン

本プログラムを終了します。本プログラムによるパラメータの修正処理実行中は、クリックしないでください。

③「ターゲットドライブの選択リスト」で、修正を行うハードディスクを選択します。



④論理フォーマットを実行する場合には、「フォーマットする」チェックボックスを'ON'にします。保存されているデータは全て消去されますのでご注意ください。また、論理フォーマットを行う場合には、ボリュームラベルを指定してください。デフォルトでは、'LOGITEC HD'が適用されます。設定を確認の上、間違いがなければ「実行」ボタンをクリックしてください。



⑤実行確認のメッセージボックスが表示されますので、内容をご確認の上、「はい」をクリックして処理を進めてください。



⑥論理フォーマットを行う場合は数分、行わない場合は数秒で作業は完了します。作業の完了をお知らせするメッセージボックスが表示されます。内容をご確認ください。



作業完了後、ターゲットドライブの選択リストの「対応」項目に、○が表示されていることをご確認ください。



以上で作業は完了です。「閉じる」ボタンをクリックして本プログラムを終了してください。

○共有フォルダのシャドウコピー(SCSF)

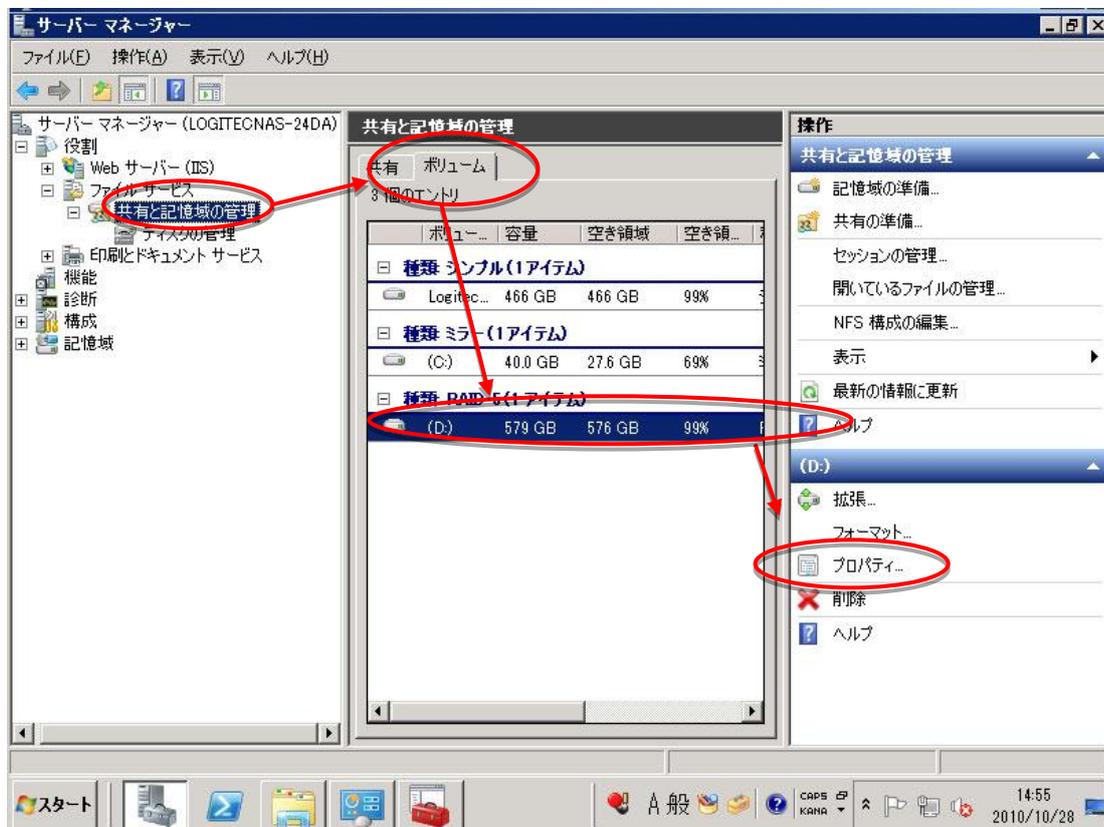
共有フォルダのシャドウコピー(Shadow Copies of Shared Folders : SCSF)は、ボリュームシャドウコピーサービスを使用して、ファイルの任意の時点でのコピー(シャドウコピー)を作成するスナップショット技術です。シャドウコピーは、スケジュールに基づき、最大 64 世代まで作成できます。ユーザーは使い慣れたエクスプローラから、誤って削除したファイルや上書きしたファイルを任意のシャドウコピーを使って、元の状態に復元することができます。

共有フォルダのシャドウコピーには、次の特徴があります。

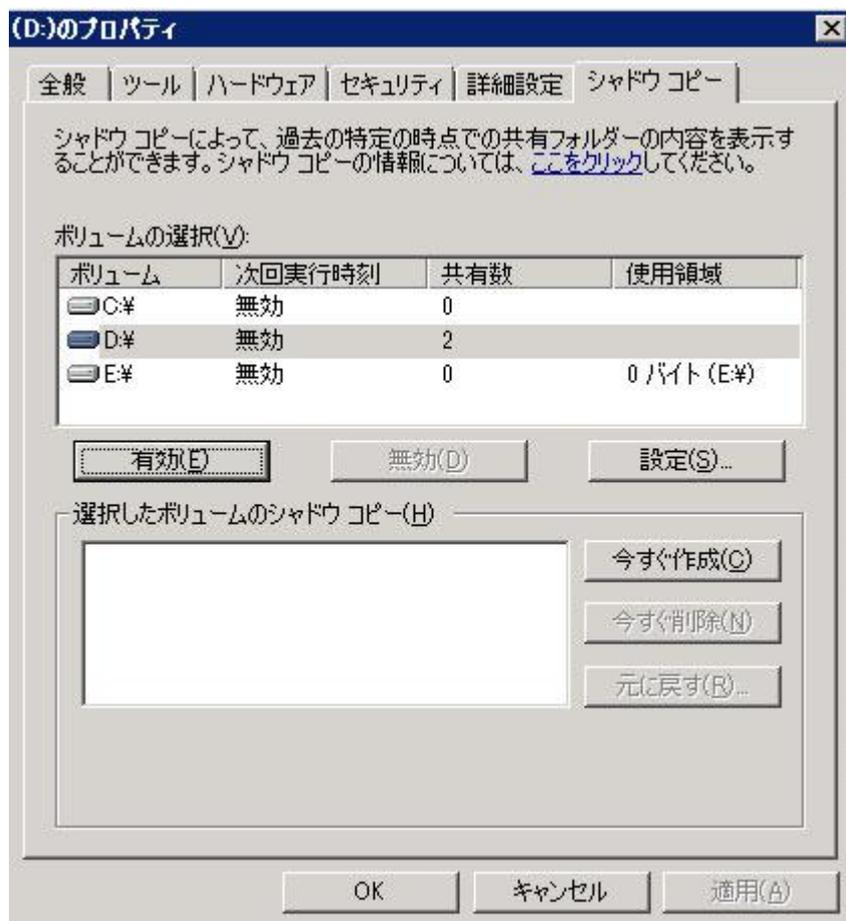
- ・ボリューム単位で有効化する。
- ・NTFSボリュームでのみ使用できる。
- ・あらゆるファイルに対応する。

【memo】シャドウコピークライアントは Microsoft 社の web ページよりダウンロード可能です。
(WindowsXP professional 用、Windows2000(SP3 以降)用)

①サーバーマネージャーのツリーウィンドウから役割→ファイルサービス→共有と記憶域の管理をクリックすると、共有と記憶域の管理が表示されます。ボリュームタブのデータ領域のボリュームをクリックし、プロパティをクリックします。



②プロパティが表示されますので、シャドウコピータブを選択します。



③データボリュームを選択し、有効ボタンをクリックします。シャドウコピーの有効化に関するアラートが表示されますので、「はい」をクリックします

④以上でシャドウコピーの基本設定は完了です。コピーの最大サイズやスケジュールなどの詳細を設定するには設定ボタンをクリックしてください。

○WindowsUpdate

WindowsStorageServer2008R2 は WindowsUpdate 機能でネットワーク経由でシステムのアップデートを行うことで常に最新の状態に保つことができます。システムを最新の状態に保つことでシステムの安定性やセキュリティの向上を図れます。

<注意>

本製品は出荷時状態では WindowsUpdate が有効になっていますが、ダウンロードのみでインストールは自動的に行わない設定になっています。アップデート自体は手動で行うか、自動アップデートに設定してください。

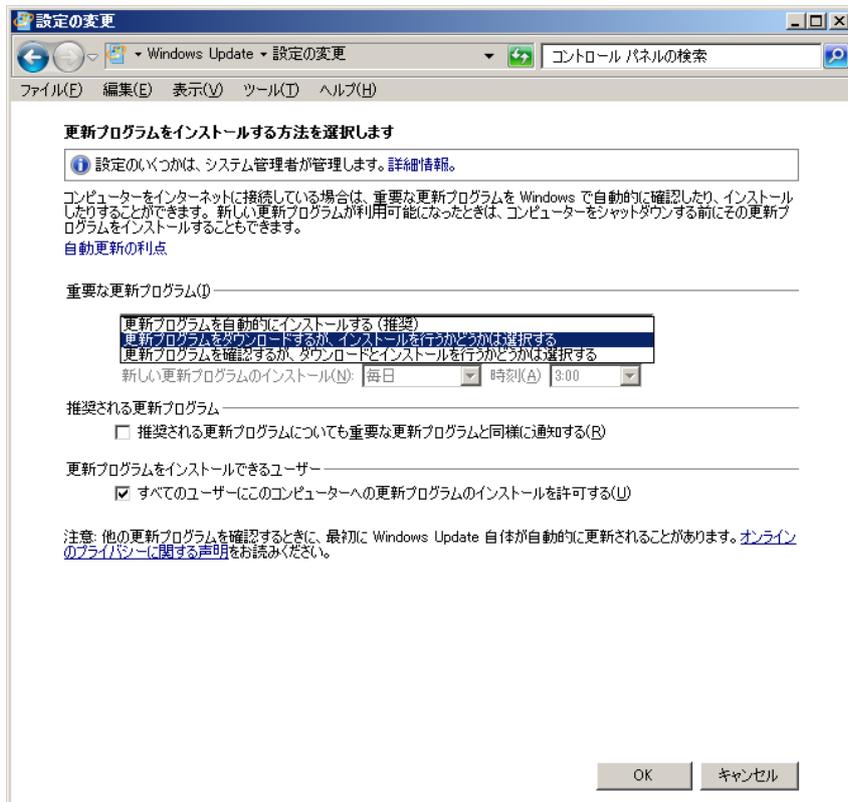
- ① デスクトップ上のマイコンピュータアイコンを右クリックし、プロパティを選択します。
- ② [システム]ウインドウが表示されます。ウインドウ左下の関連項目より「WindowsUpdate」をクリックします。



- ③ WindowsUpdate 画面が表示されますので、「設定の変更」をクリックします。



- ④ 重要な更新プログラムの処理方法を選択できます。必要事項を設定し OK をクリックします。



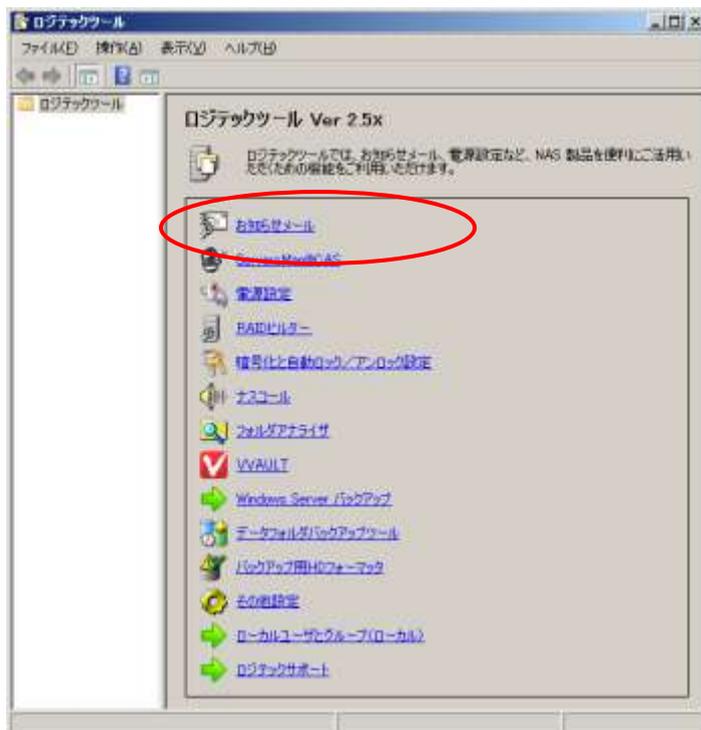
- ・ 更新プログラムを自動的にインストールする
 - ※アップデートファイルによっては再起動を伴います。スケジュールバックアップ等と衝突する場合は調整が必要です。
- ・ 更新プログラムをダウンロードするが、インストールを行うかどうかは選択する: (出荷時)
 - ※RAID リビルド中等は再起動を抑えるため手動インストールを設定することを推奨します。
- ・ 更新プログラムを確認するが、ダウンロードとインストールを行うかどうかは選択する

第6章 その他管理機能・サーバ設定

○お知らせメール設定

本製品を外部ネットワークに接続可能な環境であれば、メール設定を行うことによりメールにて稼動中の本製品に起こっているさまざまな情報を得ることが可能です。

- ①ロジテックツールのお知らせメールをクリックしてください。



②お知らせメールが表示されますので、必要事項を設定し、OK をクリックします。

<基本設定タブ>

1) メールサーバー

- ・ サーバ: メール通知に使用のご利用の SMTP(送信メールサーバー)の IP アドレスまたは FQDN(Fully Qualified Domain Name)で入力します。
- ・ ポート: メール送信時に使用するポートを指定します。一般には'25'が使用されますが、プロバイダー等の制限によりサブミッションポートの指定が必要な場合、使用するポート番号をこの欄に設定してください。詳しくはご契約いただいているプロバイダーにご確認ください。
- ・ 認証: 指定したメールサーバを利用する際に認証が必要な場合は、認証方式を選択し、ユーザ ID、パスワードを入力します。認証方法としては、「SMTP 認証」または「SSL 接続」が選択可能です。
- ・ メールアドレス: 送信するメールの送り元アドレスを指定します(必須)

2) 通知先メールアドレス

メール通知を行うアドレスをメールアドレスの形式で入力してください。同時に通知する送信先を 5 箇所まで設定することができます。

【重要】サーバ(SMTP)及び通知先メールアドレス設定後、適用ボタンを必ずクリックしてください。

3) 有効/無効

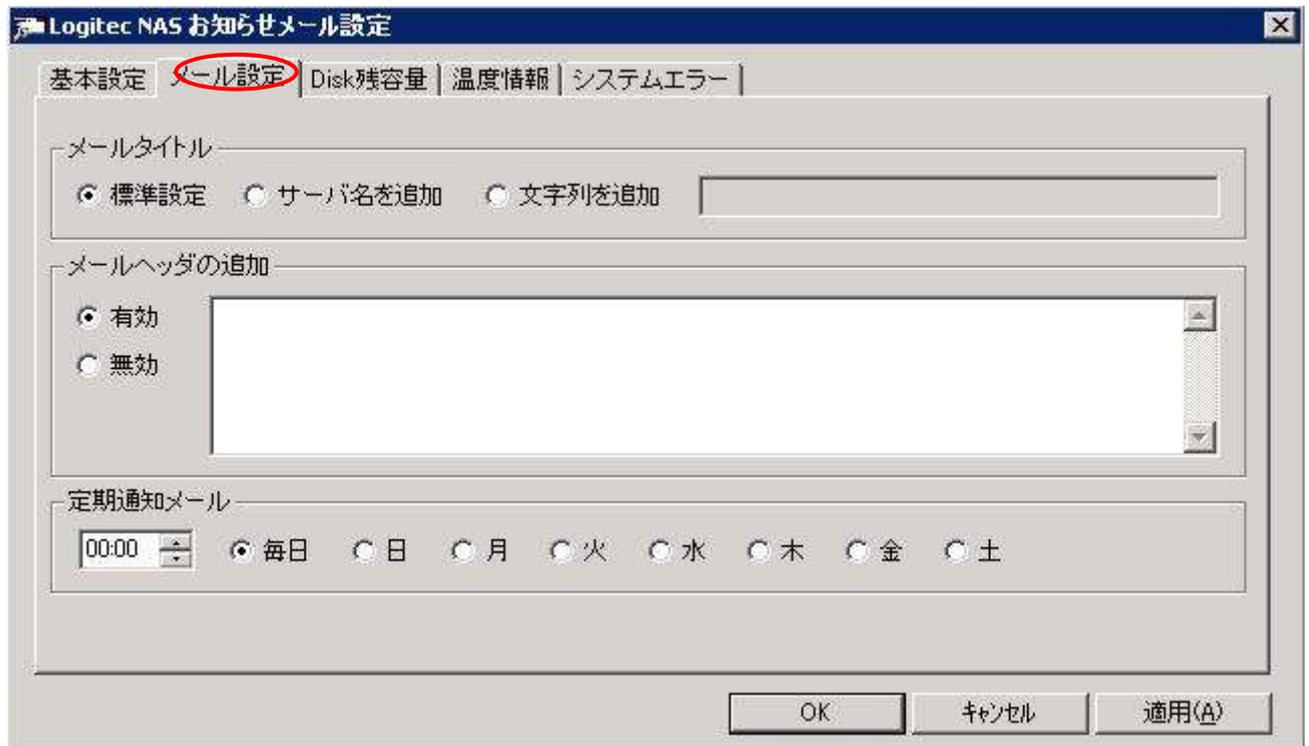
メールにて受け取りたい情報にチェックを入れてください。

- ※ 通知を有効にするのチェックを外してしまうと全ての情報がメールにて受け取れなくなります。
- ※ 全ての項目にチェックを入れてしまうと、多くの情報がメールにて通知がされます。必要情報のみチェックすることをお勧めします。

メール配信できる情報には以下の項目があります

- Disk 残容量:各ドライブの容量が設定値を超えた場合にメールにてお知らせします。Disk 残容量タブで詳細設定が可能です。
- 温度情報:搭載 HDD の温度が危険な温度になった場合にメールにてお知らせします。温度情報タブで詳細設定が可能です。
- 電源エラー:不正な電源 OFF が行われた場合、次回起動時にメールにて通知します。
- S-RAID エラー:ソフトウェア RAID 構成(ミラー及び RAID5)の状態が正常で無い場合にメールにてお知らせします。
- バックアップ:標準機能のバックアップ実行後にてバックアップ結果をメールにてお知らせします。
- システムエラー:システム情報/警告/エラーが発生した時にメールにてお知らせします。システムエラータブで詳細情報を設定できます。
- 定期通知メール:設定した曜日時間にNASから定期的にメールを受け取ることができます。本製品の死活管理に利用可能です。メール設定タブで詳細設定が可能です。
- 暗号化自動ロック/アンロックエラー:暗号化機能が利用可能な場合に設定可能になります。「暗号化と自動ロック/アンロック」機能にて[自動ロック/アンロック]に失敗した場合にメールにてお知らせいたします。
- ServersMan@CAS の通知:ServersMan@CAS で問題が発生した場合やアップデートが検出された場合にメールにてお知らせいたします。

<メール設定タブ>



NAS から送信されるメール題名や内容を編集設定することが可能です。

1)メールタイトル

- ・標準設定:NAS から送信されるメールのタイトルを初期設定で行います
- ・サーバー名を追加:メールタイトルに NAS のコンピューター名を追加できます
- ・文字列を追加:任意の文字列をメールタイトルに追加できます

2)メールヘッダの追加

- ・有効:メール本文に任意の情報文字列を追加できます。(文字列の下に NAS の詳細情報が記載されます)
- ・無効:メール本文はデフォルトのままの情報が記載されます。

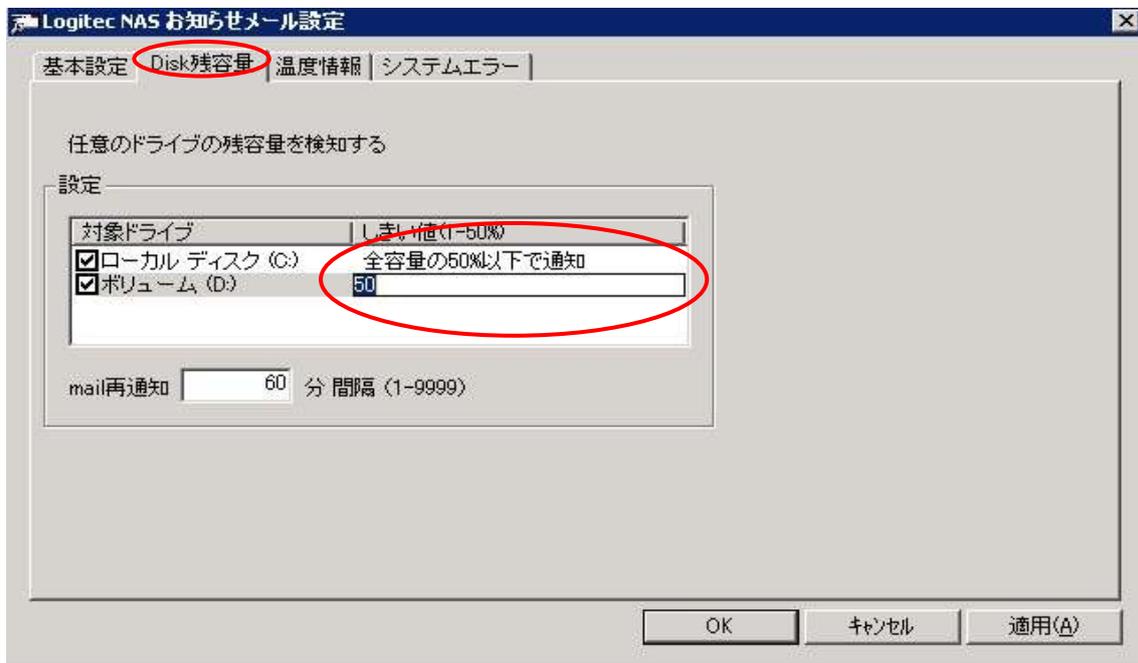
3)定期通知メール

定期通知のスケジュールを毎日から曜日ごとに時間を設定できます。

※基本設定タブの「通知を有効にする」のチェックと「定期通知メール」のチェックを入れないとここでの設定が反映されません。

<Disk 残容量タブ>

各ドライブの残容量検知を行う為の設定です。

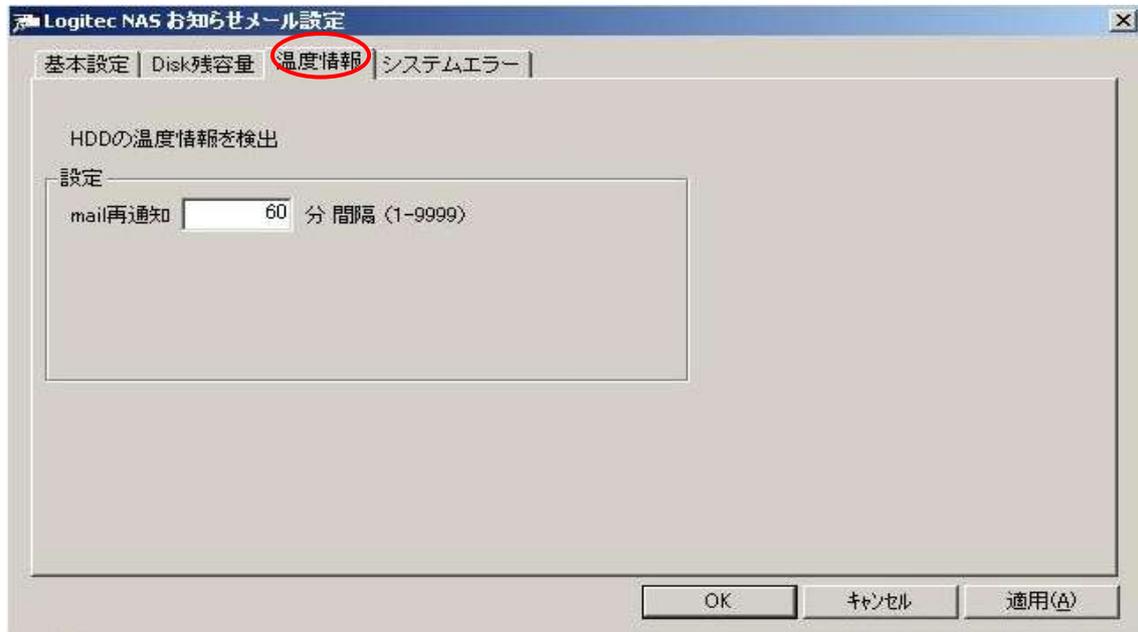


対象ドライブ(CドライブもしくはDドライブ)を選択し、しきい値の下にある「全容量の50%以下で通知」の上をクリックすると数値入力が可能になるので任意の数値を設定後適用ボタンをクリックしてください。

※基本設定タブにて「通知を有効にする」のチェックと「Disk 残容量」にチェックが入っていないとメール通知されません。

<温度情報タブ>

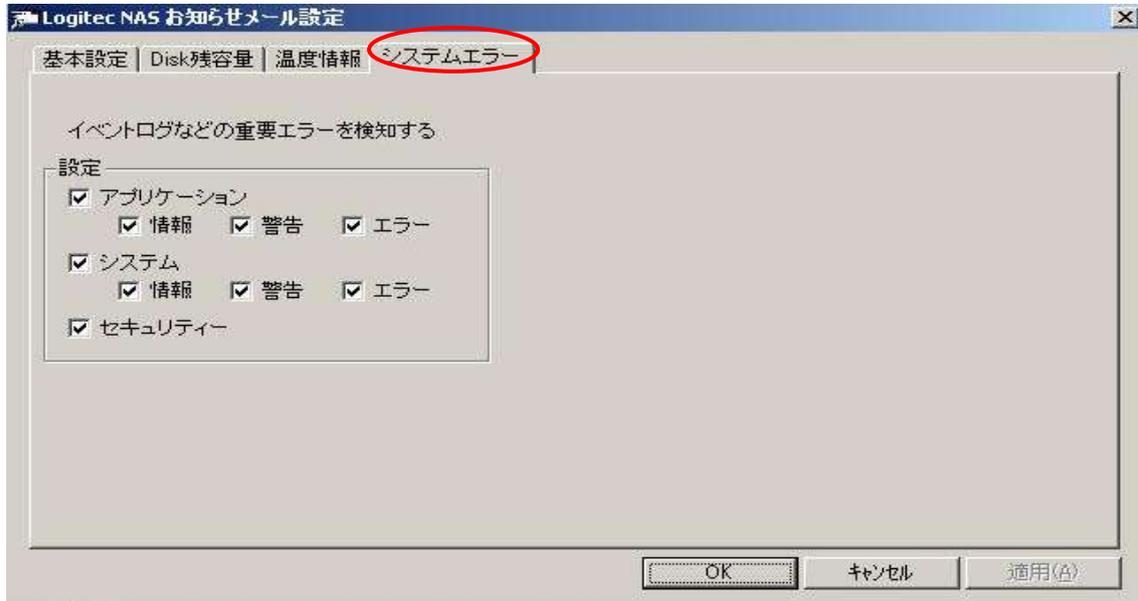
搭載 HDD の温度情報を通知する為の設定です。



- ・ HDD の温度が既定温度(摂氏 59 度)以上になるとメールにて通知されます。
- メール再通知枠内に任意の数値を入力後、適用ボタンを押してください。
- ※ このメールを受け取った際は本体の設置場所が正しいか確認してください

<システムエラータブ>

メールにて通知させたい項目にチェックを入れてから適用をクリックしてください。



- ・ アプリケーション
アプリケーションイベントを取得しメール通知を行う時、このチェックボックスを有効にしてください。
通知が必要なレベルを、情報／警告／エラーより選択し設定します。
- ・ システム
システムイベントを取得しメール通知を行う時、このチェックボックスを有効にしてください。
通知が必要なレベルを、情報／警告／エラーより選択し設定します。
- ・ セキュリティー
セキュリティーイベントを取得しメール通知を行う時、このチェックボックスを有効にしてください。

○電源設定(スケジュール電源管理/パワーボタン設定)

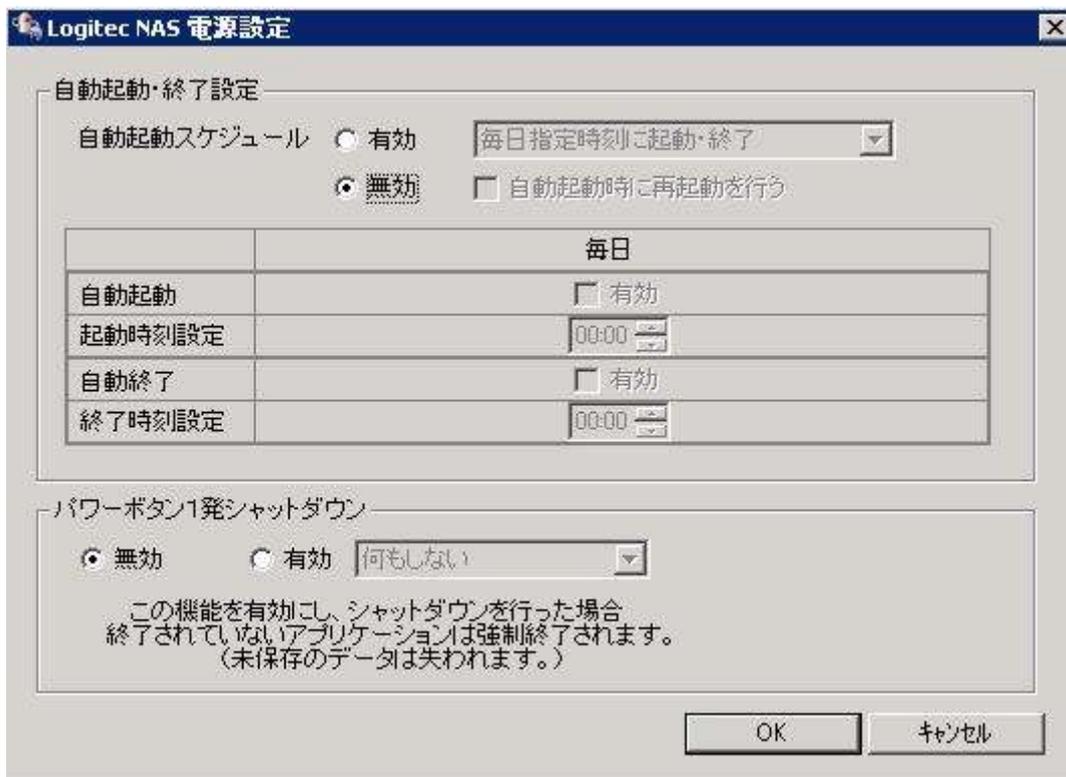
(LSV-5S4CES/5S4CEW/5S4CS2/5S4CW2 シリーズのみ)

環境問題に考慮し ECO(エコ)に NAS を運用することが可能です。NAS を利用しない夜間や休日に NAS の電源を OFF(休止モード)にし、利用する時間帯に自動的に NAS を稼働させる設定が行えます。またパワーボタンでの 1 発終了設定も行うことが可能です。

①ロジテックツールの電源管理をクリックしてください。



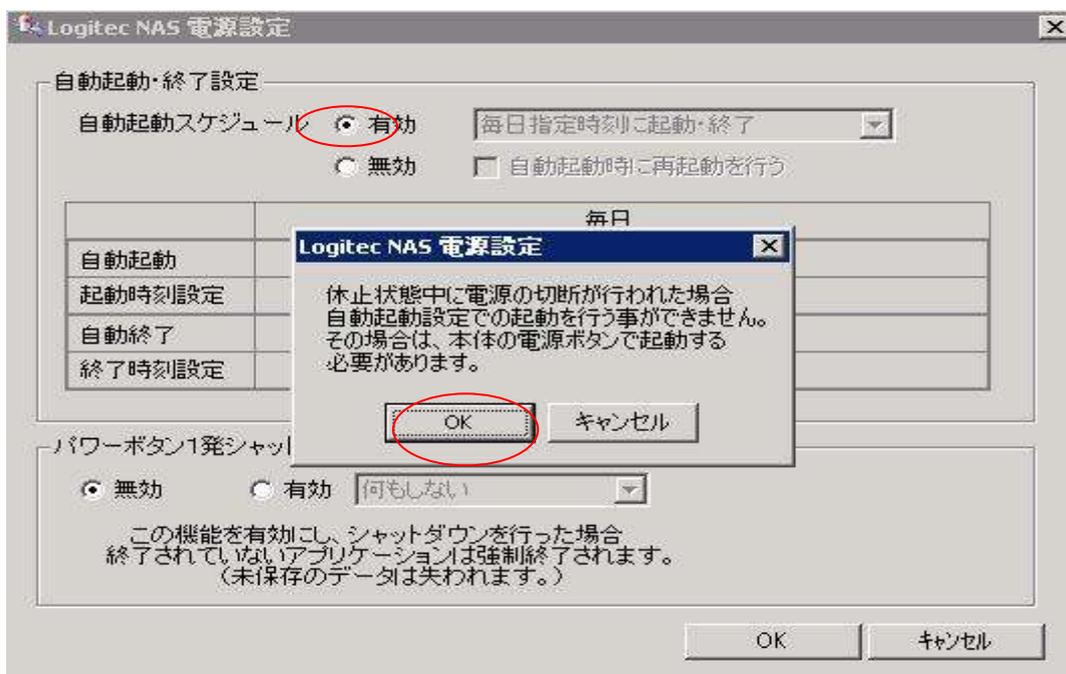
②LogitecNAS 電源設定の画面が表示されます。必要事項を設定し、OK をクリックします。



<自動起動・終了設定>

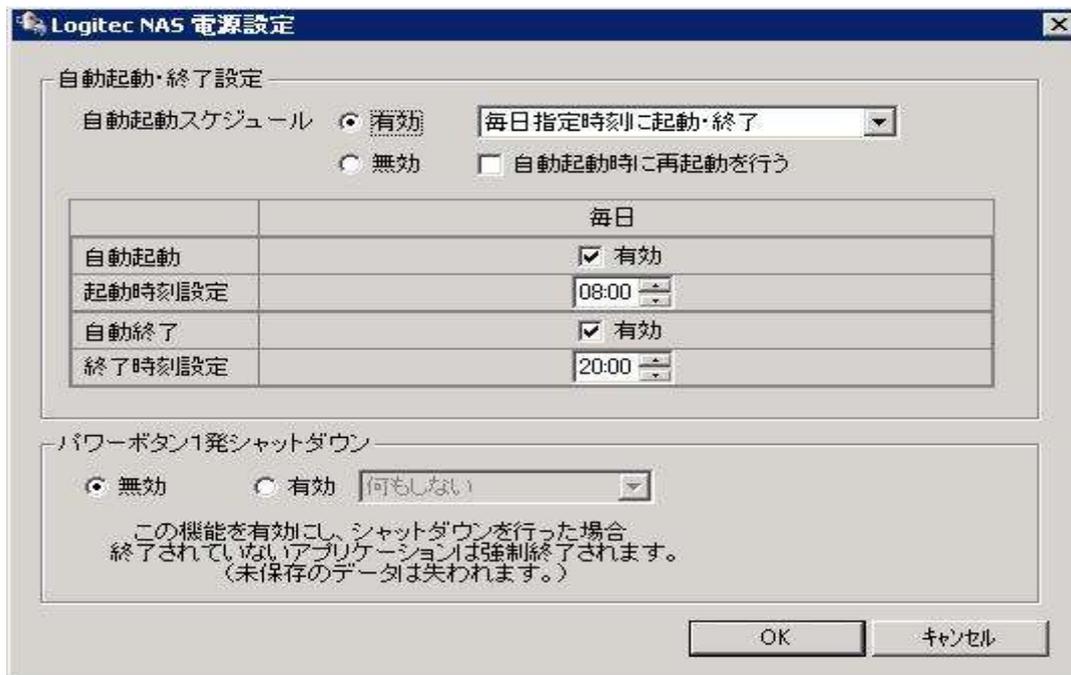
・自動起動スケジュール:有効にすることにより自動起動・自動終了が行えます。プルダウンメニューより自動機をうを毎日行うか、曜日ごとに時刻を変更するかが選択可能です。

※休止状態中に停電・コンセントが抜けた場合自動起動設定での起動はできません



■毎日指定時刻に起動・終了を行う

「有効」にチェックを入れ起動及び終了の時間を設定し「OK」ボタンで画面を閉じます。

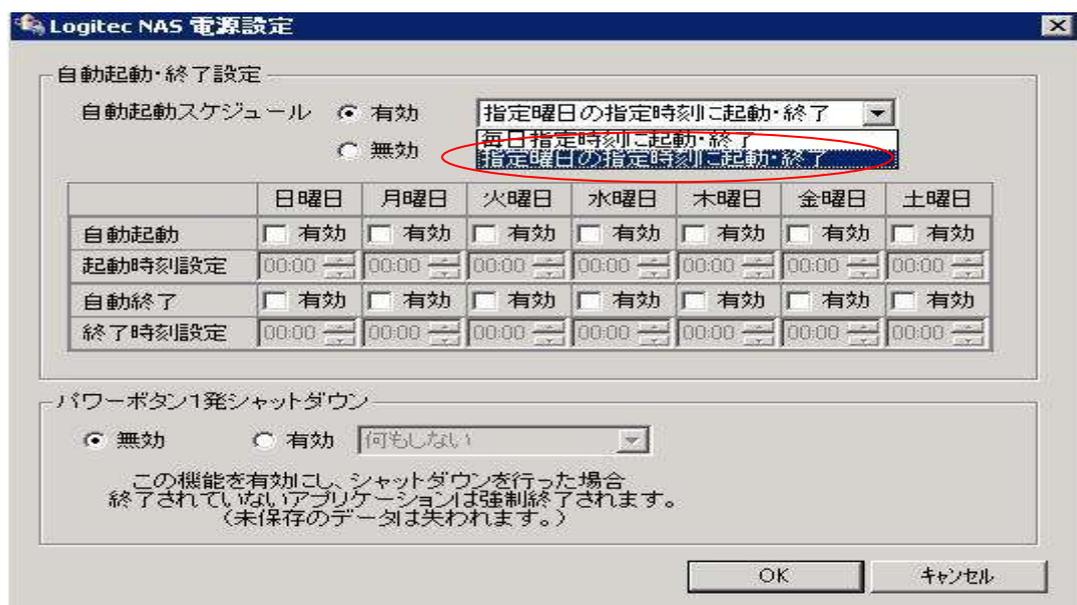


※上記画面の設定では毎日朝8時にNASが起動し夜8時に自動的に終了する設定となります

※自動終了は休止モードでの終了となり、シャットダウンとは異なります。NASにウイルスソフトやバックアップソフトなどリソースを多く消費するアプリケーションをご利用の場合、安定的な動作を行なうために「自動起動時に再起動を行う」にチェックを入れることをお勧めします。

■指定曜日の指定時刻に起動・終了を行う

「毎日指定時刻に起動・終了」の右側にある「▼」をクリックしプルダウンメニューに表示される「指定曜日の指定時刻に起動・終了」を選択



- ・設定したい曜日の自動起動及び自動終了の有効にチェックを入れてください

Logitec NAS 電源設定

自動起動・終了設定

自動起動スケジュール 有効 無効 指定曜日の指定時刻に起動・終了

自動起動時に再起動を行う

	日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
自動起動	<input type="checkbox"/> 有効	<input checked="" type="checkbox"/> 有効	<input type="checkbox"/> 有効				
起動時刻設定	00:00	08:00	08:00	08:00	08:00	08:00	00:00
自動終了	<input type="checkbox"/> 有効	<input checked="" type="checkbox"/> 有効	<input type="checkbox"/> 有効				
終了時刻設定	00:00	20:00	20:00	20:00	20:00	20:00	00:00

パワーボタン1発シャットダウン

無効 有効 何もしない

この機能を有効にし、シャットダウンを行った場合
終了されていないアプリケーションは強制終了されます。
(未保存のデータは失われます。)

OK キャンセル

- ・次に各曜日にて NAS を起動させたい時間及び終了させたい時間を設定し「OK」ボタンで閉じます。

※上記画面では月～金まで朝 8 時に起動し夜 8 時に終了する設定となります。(土日は起動・終了しない設定)

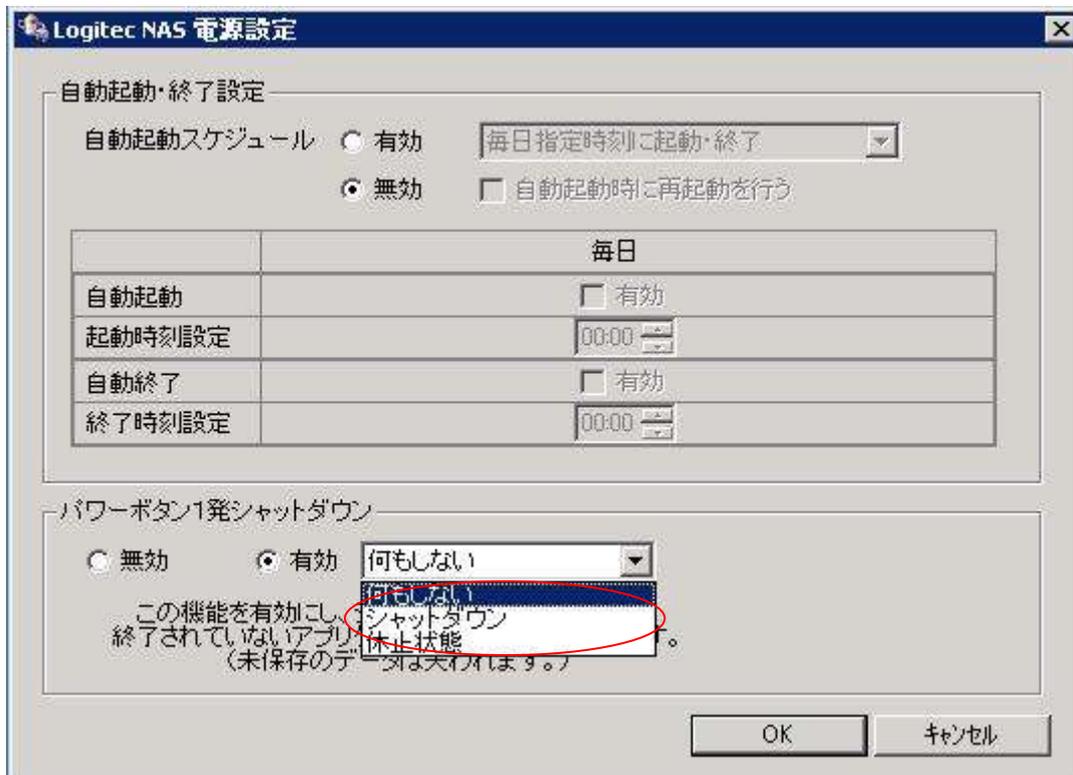
※ここでも NAS の使用環境により「自動起動時に再起動を行う」のチェックの有無を選択可能です。(チェックを入れると全ての有効にチェックを入れた曜日に対して適用されます)

注意！

NASにデータ転送中やNASにて動作しているアプリケーションも強制的に終了されますので御注意ください。

<パワーボタン1発シャットダウン>

・有効に設定することにより管理画面にアクセスすることなく NAS 前面にあるパワーボタンから簡単に NAS のシャットダウンを行うことが可能となります。



・有効に設定後右側にあるプルダウンメニューから動作を選択してください。

- ①何もしない: 有効に設定しても「何もしない」を選択すると電源ボタンを押しても NAS は終了しません
- ②シャットダウン: 電源ボタンを押すとシャットダウンが開始され、NAS の電源が安全に切れます。
- ③休止状態: 電源ボタンを一度押しすると休止モードとして自動的に電源が切れます。

注意！！

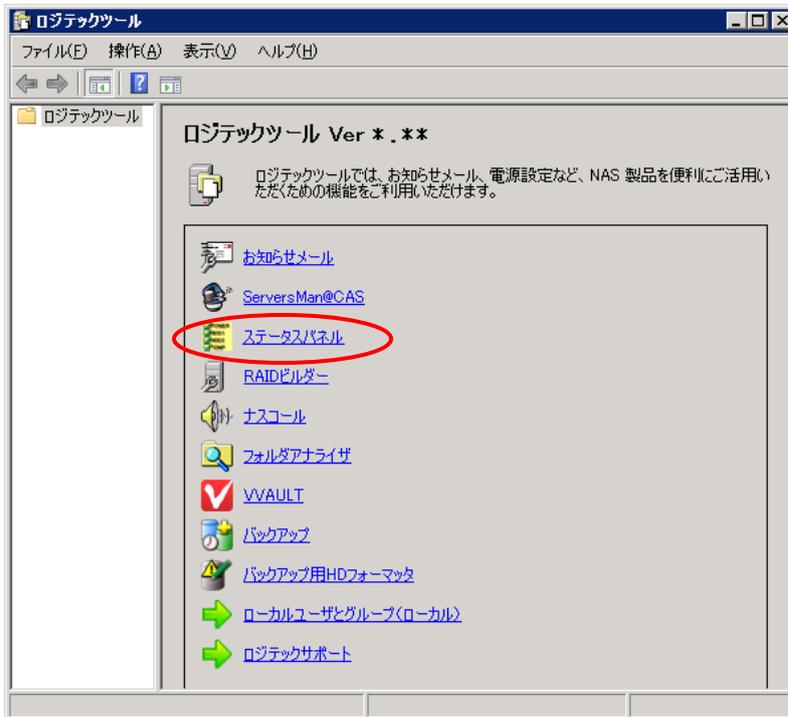
※パワーボタン1発シャットダウンを無効にしても、電源ボタンを5秒以上長押ししてしまうと、有効・無効問わず NAS は強制的に電源が OFF になり NAS 内にインストールされている Windows に悪影響を与えてしまう場合がありますのでご注意ください。

※この機能を有効にし、電源ボタンにてシャットダウンを行った場合終了されていないアプリケーションは強制的に終了され、データ転送もキャンセルされますので御注意ください。

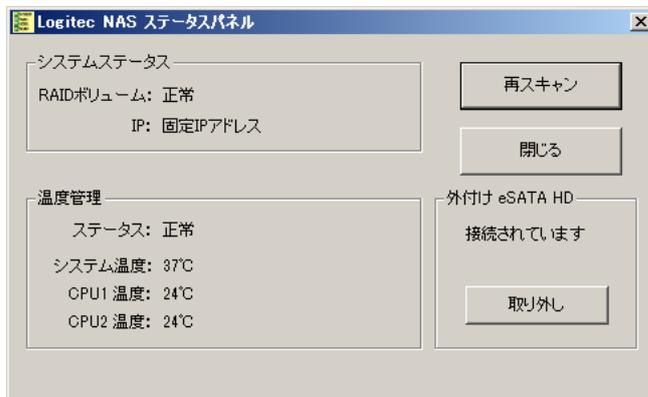
○ステータスパネル(LSV-5S4MS/5S4MW/5S4R1S/5S4R1W シリーズのみ)

本製品の各種状況を確認できます。

①ロジテックツールのステータスパネルをクリックします。



②ステータスパネルのウィンドウが表示されます。



<システムステータスエリア>

・RAID ボリューム: RAID ボリュームの状態を表示します。

- 「正常」 RAID ボリュームは正常に稼動しています。
- 「エラー」 RAID ボリュームで異常を検出しました。
- 「修復中」 RAID ボリュームは再構築中です。

・IP: LAN1 ポートの情報を表示します。

- 「固定 IP アドレス」 固定 IP アドレスが登録されています。
- 「DHCP」 DHCP サーバーより IP アドレス取得済みです。
- 「AUTOIP」 DHCP サーバーより IP アドレスが取得できなかったため、AUUT IP が設定されています。
- 「未接続」 ネットワークケーブルが接続されていません。

<温度管理エリア>

・ステータス: システム温度の状態を表示しています。

- 「正常」 システムの温度は 60°C未満です。特に問題ありません。
- 「60°Cを超えています」 システムの温度が 60°Cを超えています。環境に問題が無いか注意してください。
- 「70°Cを超えています」 システムの温度が 70°Cを超えています。設置環境などを改善してください。

・システム温度: システムの温度を表示します。

- ・CPU1 温度: CPU の温度を表示します。
- ・CPU2 温度: CPU の温度を表示します。

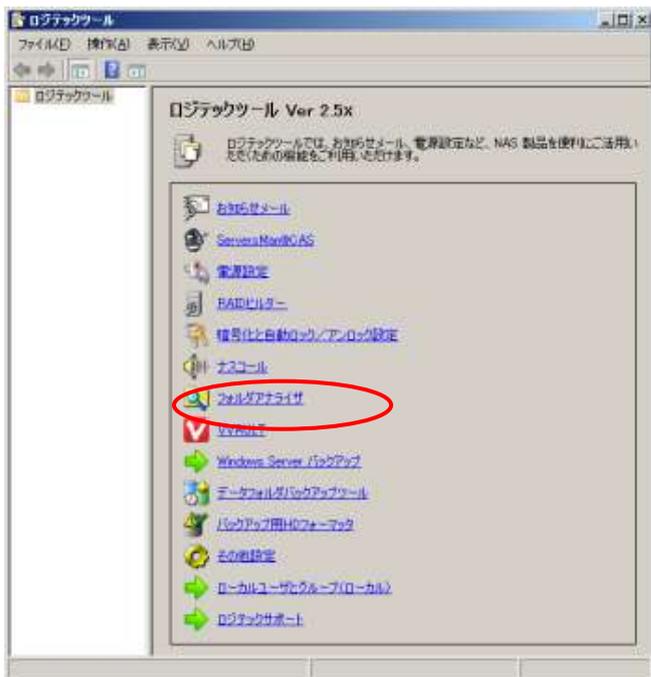
<外付け eSATA HD エリア>

・[取り外し]ボタン eSATA HD を本体から取り外す際に使用します。

○フォルダアナライザ

ドライブ内に保存されているフォルダやファイルのサイズやドライブにおける占有度の割合を確認することが可能です。また各ドライブの使用状況も確認することが可能です。残容量が少なくなった際のファイルの整理に活用できます。

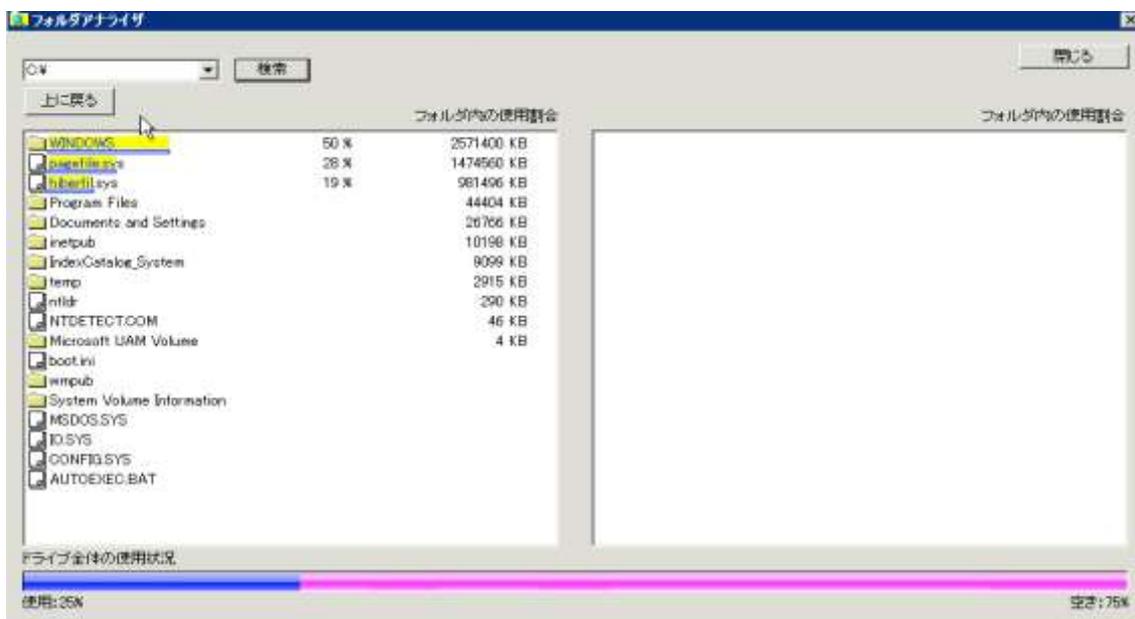
①ロジテックツールのフォルダアナライザをクリックします。



②フォルダアナライザのウィンドウが表示されます。確認したいドライブを選択して、検索ボタンをクリックしてください



③ドライブ内のフォルダやファイルが表示され、フォルダ容量や、ドライブ使用量全体に対するの割合が数値及び棒グラフで表示可能になります。

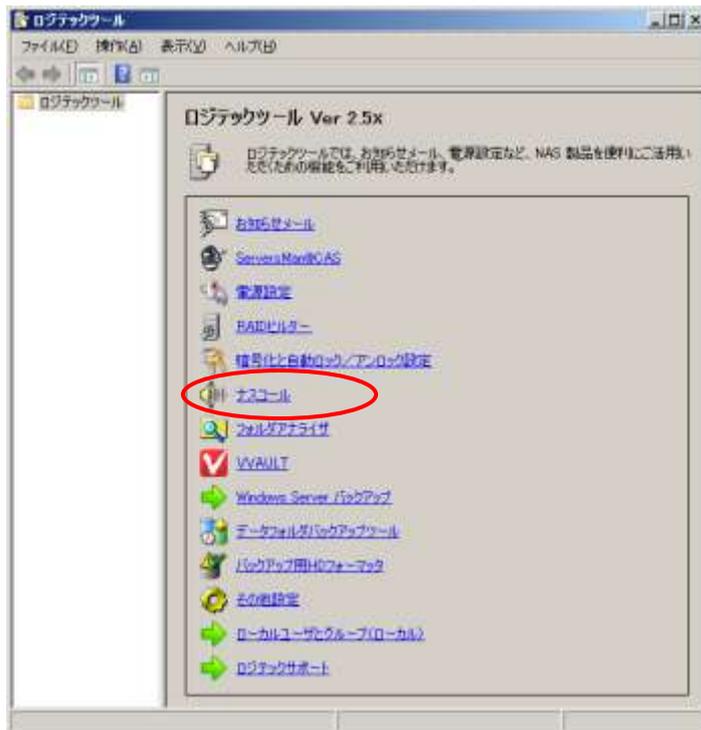


- ・ リスト内のディレクトリを選択すると、そのディレクトリ内のリストが右側に表示されます。
- ・ 画面左上の「上に戻る」ボタンを押すと、左側にリスト表示されるディレクトリを親ディレクトリに移動することができます。
- ・ 画面右上の「閉じる」ボタンを押すことにより、フォルダアナライザを終了できます。

○ナスコール

ロジテック NAS 製品を複数台お持ちの場合、リモートにて操作している製品を特定するときに便利な機能です。

- ①ロジテックツールのナスコールをクリックします。



- ②リモート操作を行っている NAS からブザーが鳴り NAS を特定することが可能です。また、ナスコールを実行するとご利用の NAS の前面液晶パネルに「Nas Calling!!」のメッセージが表示されます。

前面液晶パネル

Nas Calling!!

ナスコール機能は LogitechHostExplorer から利用できます。



「ナスコール」ボタンをクリックすると選択された NAS からブザーが鳴り NAS を特定することが可能です。また、ナスコールを実行するとご利用の NAS の前面液晶パネルに「NasCalling!!」のメッセージが表示されます。

○その他設定

その他設定の項目は、通常は変更する必要のない特別な設定の変更を行うための機能です。

①ロジテックツールの「その他設定」をクリックします。



②その他設定ダイアログが開きます。



1)AXIS Camera Companion への応答設定

・AXIS 社製ネットワークカメラ管理ツール「AXIS Camera Companion」への応答の設定が可能です。通常は初期設定のまま「応答する」でご利用ください。

2)NAS 障害発生時のリレーコントロール設定

本製品の障害発生時、PATLITE 社製リレーユニット'PHC-100A'を制御(リレー接点を ON にする)して障害を通知することが可能です。

■NAS 障害発生時のリレーコントロール機能を利用する:

本機能をご利用になる場合には、このチェックボックスを'ON'に設定します。また本機能はロジテックツールの「お知らせメール設定」に連動していますので、「お知らせメール設定」の「通知を有効にする」チェックボックスも'ON'に設定しておいてください。

■利用する COM ポート:

リレーユニットを接続する COM ポートを選択します。利用可能な COM ポートのみリストに表示されます。

■コントロールするリレー接点 No.:

「監視する障害」で選択されているイベントが発生した際、'ON'にする接点番号を指定します。

■監視する障害:

監視する障害の項目をチェックボックスで指定します。

>RAID ステータス異常:

お知らせメール設定の「S-RAID エラー」に連動し、RAID ボリュームの異常を検出の際に通知します。

>HDD 温度の異常:

お知らせメール設定の「温度情報」に連動し、搭載 HDD の温度が異常な場合に通知します。

>Disk 残容量:

お知らせメール設定の「Disk 残容量」に連動し、データエリアの空き容量がお知らせメール設定で指定した'閾値'を下回った場合に通知します。

>電源エラー:

お知らせメール設定の「電源エラー」に連動し、システム起動時、前回の電源 OFF が不正であると検出された場合に通知されます。

>LAN ポート 1 の接続断:

LAN ポート 1 のネットワークに接続の切断が検出された場合に通知されます。

>LAN ポート 2 の接続断:

LAN ポート 2 のネットワークに接続の切断が検出された場合に通知されます。

POINT

「監視する障害」を複数選択した場合で、障害発生通知時にどの障害で通知されたかを確認するには、アプリケーションログ内の情報を確認する必要があります。

アプリケーションログ内の、ソース:「LUCTLSVS」、イベント ID:「1002」に記録されたイベントが、通知原因を示すものです。

■「テスト」ボタン:

リレー接点のコントロールをテストします。このボタンをクリックすると、「コントロールするリレー接点 No.」で選択された接点を「ON」にします。接点を OFF にする場合は、「リレーユニットのリセット」ボタンをクリックします。

■「リレーユニットのリセット」ボタン

このボタンをクリックすると、リレーユニットの接点をすべて「OFF」にします。

■「閉じる」ボタン:

本ボタンをクリックする事により、設定の変更が反映されます。

ご注意:

本機能は「お知らせメール設定」と連動しています。本機能をご利用になる前に、「お知らせメール設定」の下記チェックボックスを「ON」に設定しておいてください。

<ロジックツール「お知らせメール設定」の「基本設定」タブ>

- ・通知を有効にする
- ・Disk 残容量
- ・電源エラー
- ・S-RAID エラー
- ・温度情報

○アプリケーションのインストール

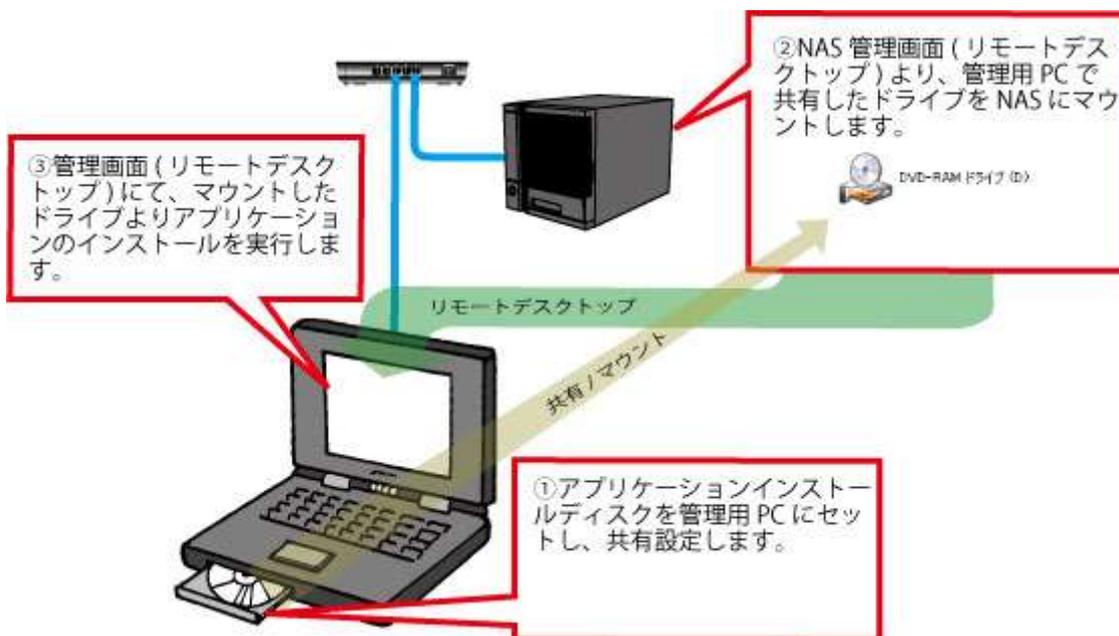
ウイルスチェックソフトなど、運用する上で必要なソフトウェアを本製品にインストールする際は、インストールするアプリケーションが WindowsStorageServer2008R2 に対応している必要があります。

- ※ 対応、非対応はアプリケーション製造元にご確認ください。
- ※ アプリケーションをインストールして不具合が発生した場合は、弊社では責任を負いかねますので、予めご了承ください。

インストールは管理画面(リモートデスクトップ)から行うリモートインストールと、コンソールを直接 NAS に接続してインストールするダイレクトインストールの2パターン存在します。

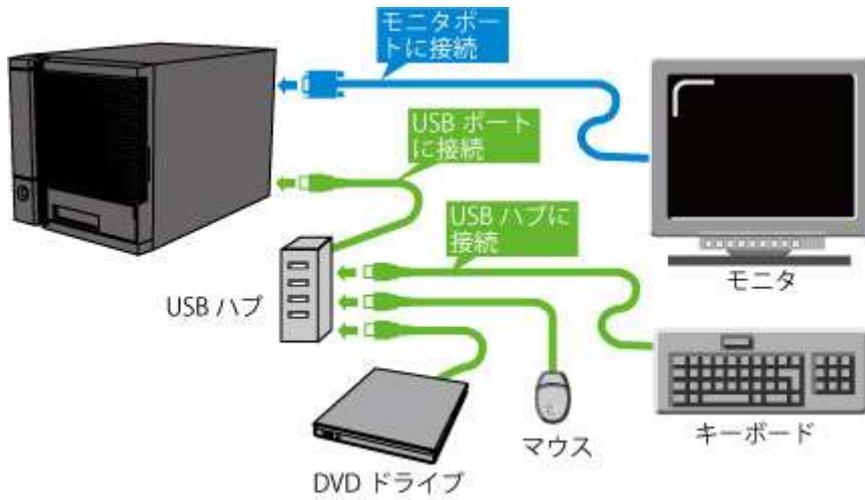
<リモートインストール>

管理用 PC の CD-ROM(DVD) を共有化し、本製品の管理画面より共有された CD-ROM(DVD) にアクセスします。



<ダイレクトインストール>

本製品の USB ポートに USB ハブを介して、CD-ROM(DVD)ドライブ、マウス、キーボードを VGA ポートにモニタを接続してインストールメディアよりインストールを行ってください。



アプリケーション自体のインストール手順は、アプリケーションの製造メーカーのマニュアルをご確認ください。

○プリントサーバー機能

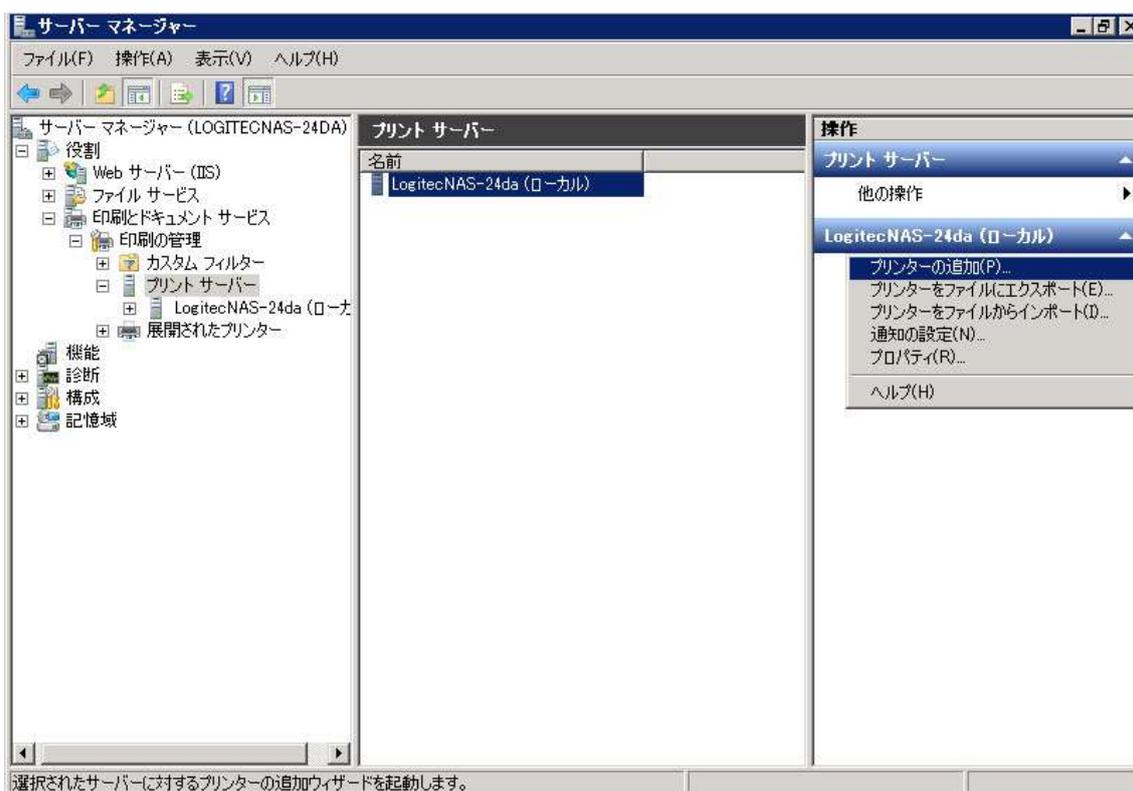
Windows Storage Server 2008R2 は、Windows クライアントに対して、本製品に接続した USB 接続のプリンタを共有プリンタとして提供します。

[印刷の管理]コンソール(PMC)は、プリンタの追加や印刷データの操作などのプリンタの管理タスクを実行することができます。

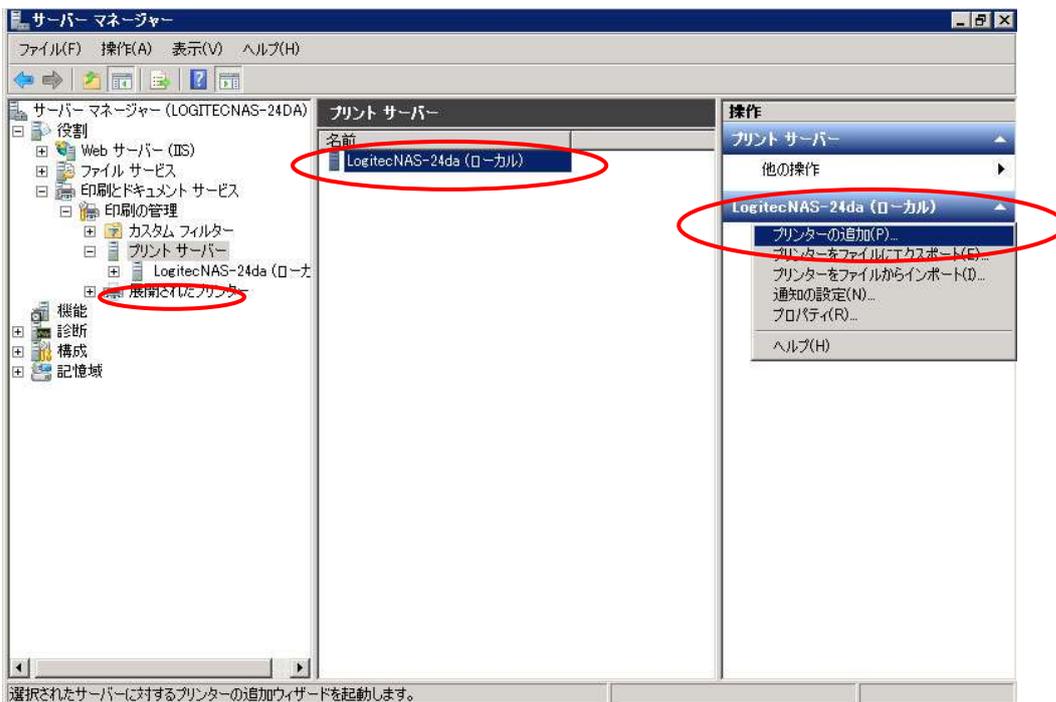
<新しい共有プリンタを作成する>

※本作業の前に本製品にプリンタを接続し、ドライバをインストールしてください。ドライバのインストールに関してはプリンタ付属のマニュアルをご参照ください。

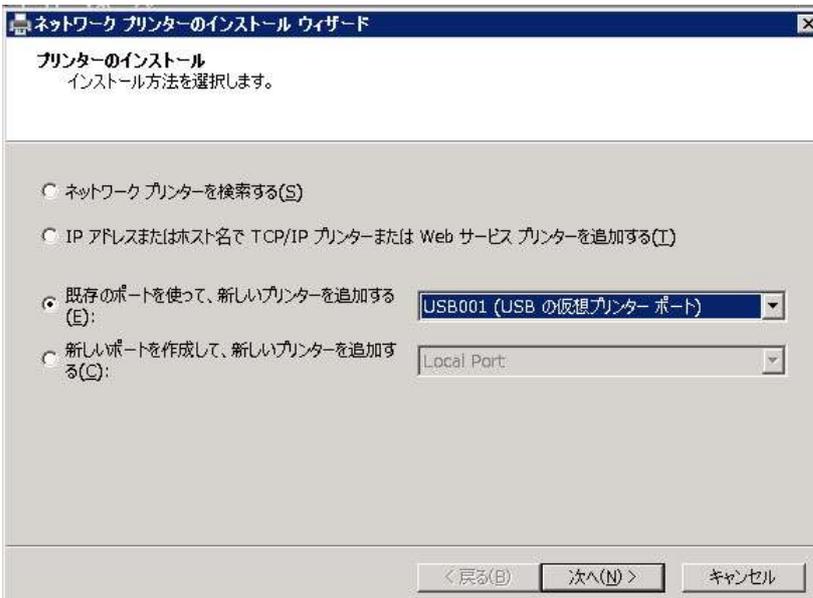
①サーバーマネージャーのツリーウィンドウから役割→印刷とドキュメントサービス→印刷の管理をクリックします。



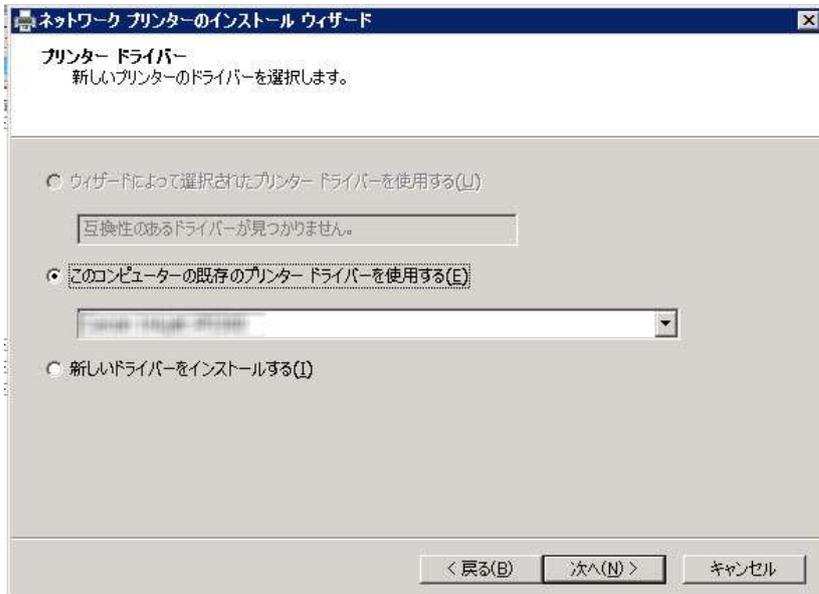
②印刷の管理が表示されます。プリントサーバーをクリックし、本製品を選択した後に操作ウィンドウの他の操作をクリックし、プルダウンメニューからプリンタの追加をクリックします。



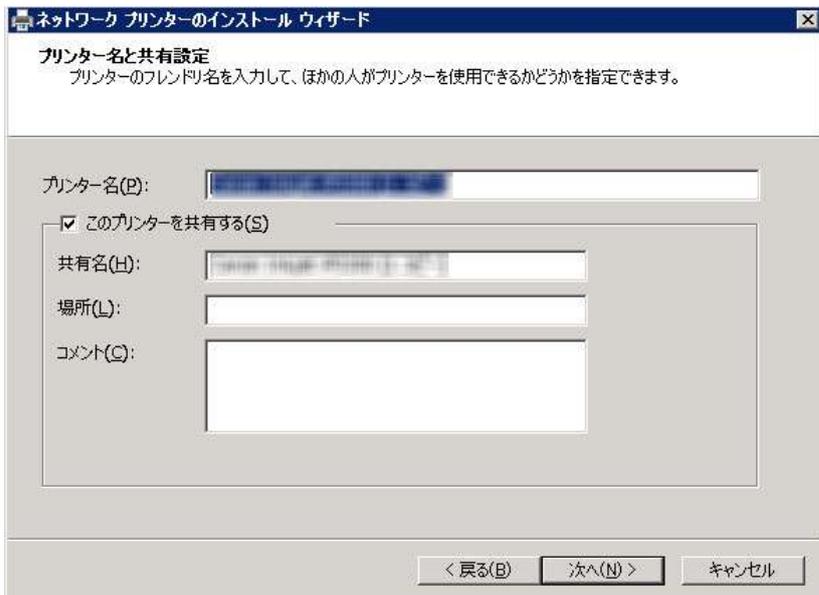
③ネットワークプリンタのインストールウィザードが表示されます。登録するプリンタの接続されているポートを選択し、次へボタンをクリックします。



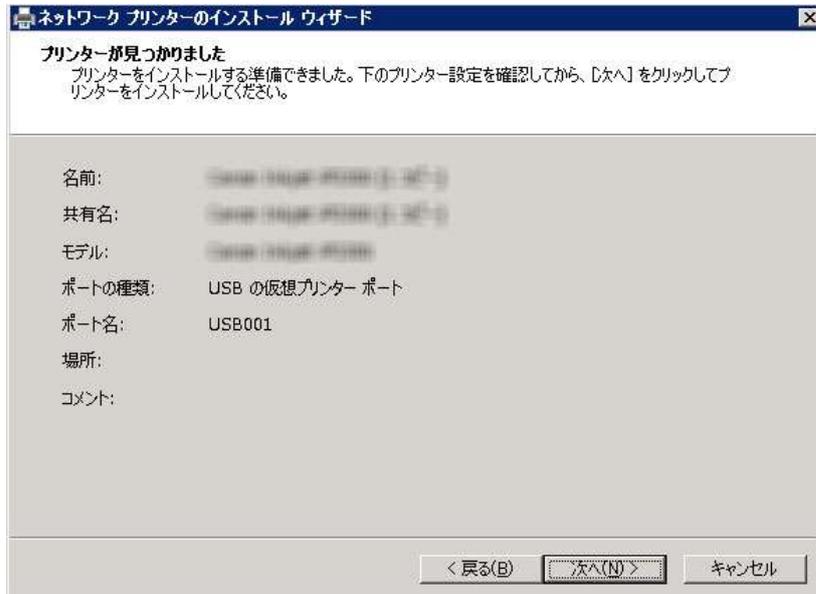
④ プリンタドライバを選択し、次へをクリックします。



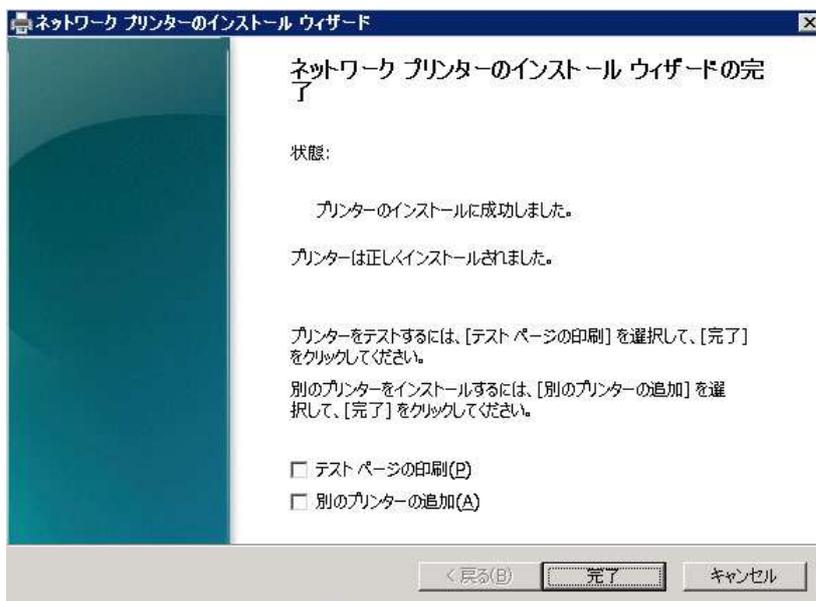
⑤ プリンタ名と共有名の設定画面が表示されますので、必要事項を入力の上次へをクリックします。



⑥ プリンタの設定情報が表示されますので、問題なければ次へをクリックしてください。



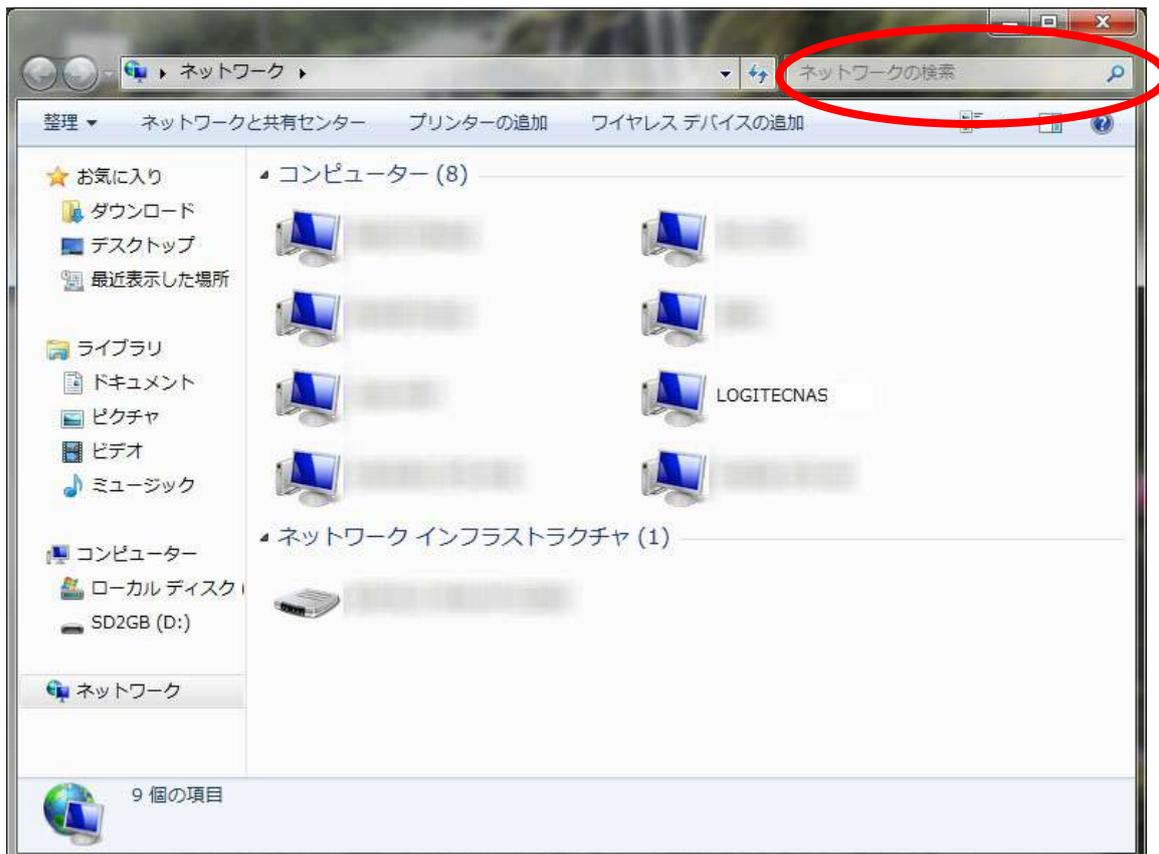
⑦ インストール処理後ネットワークプリンタのインストールウィザードの完了画面になりますので、完了をクリックしてください。



第7章 各 OS から共有フォルダへのアクセス

○Windows8.1/8/7/Vista からのアクセス(SMB 共有)

- ①「スタート」ボタンをクリックし、ネットワークを選択します。(Windows8 の場合では、「検索チャーム」に“ネットワーク”と入力して起動します。)



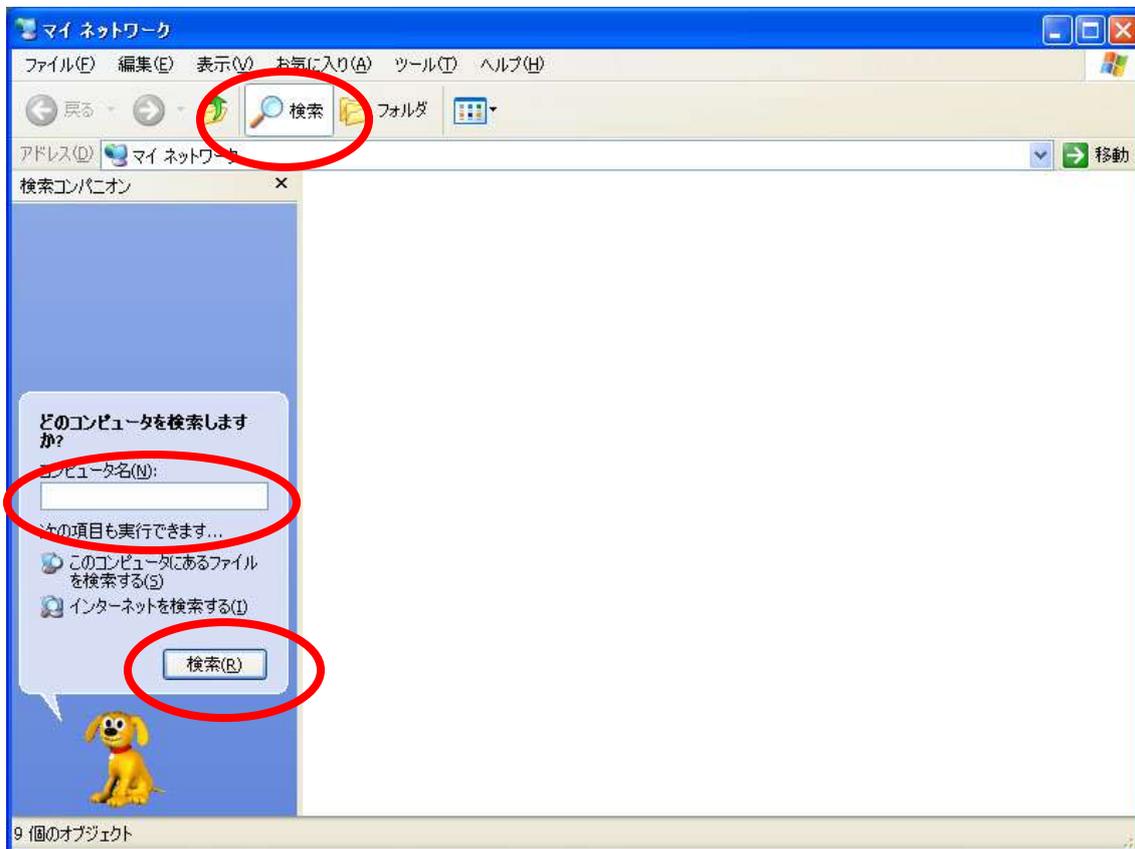
- ②コンピューターの一覧に本製品のサーバー名が表示されない場合は右上のネットワークの検索テキストボックスに本製品のサーバ名か IP アドレスを入力して Enter を押します。
- ③見つかったコンピューターのアイコンをダブルクリックすると共有フォルダが現れます。

■■■■【注意】■■■■

ネットワーク探索、ファイル共有が無効の場合、本製品を検出できない場合があります。ネットワークと共有センターで有効化してください。

○WindowsXP からのアクセス(SMB 共有)

- ①「スタート」ボタンをクリックし、「マイネットワーク」をクリック、マイネットワークウィンドウを開きます。



- ②ツールバーの「検索」をクリックし、検索コンパニオンの「コンピュータ名」の欄に本製品の IP アドレスかサーバー名を入力します。
- ③「検索(R)」をクリックし見つかったコンピュータのアイコンをダブルクリックすると共有フォルダが現れます。

○Windows2000 からのアクセス(SMB 共有)

- ①「マイネットワーク」をダブルクリックし、ウインドウを開きます。
- ②ツールバー「検索」をクリックし、検索ウインドウを開きます。



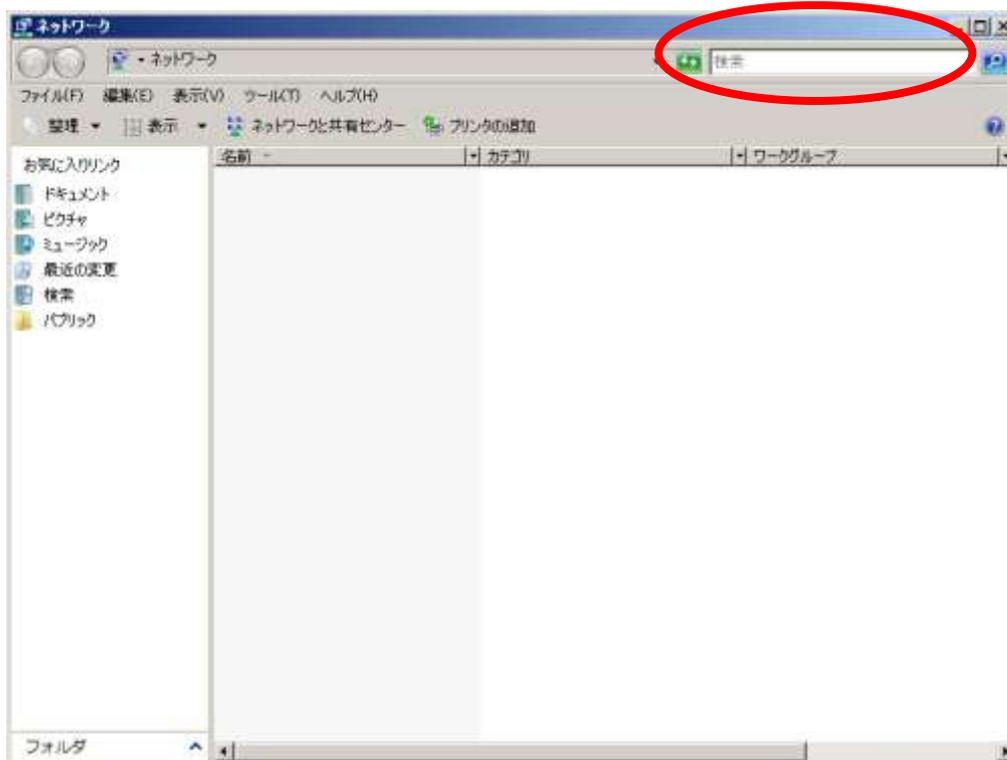
- ③「コンピューター名(M)」の欄に本製品の IP アドレスかサーバー名を入力し、「検索開始(S)」をクリックします。
- ④見つかったコンピュータのアイコンをダブルクリックすると、共有フォルダが現れます。

○Windows(Storage)Server2008(R2)からのアクセス(SMB 共有)

※WindowsStorageServer2008(R2)の場合はリモートデスクトップ管理画面にアクセスしてください。

①「スタート」ボタンをクリックし、「ネットワーク」をクリック、ネットワークウインドウを開きます。

②右上の「検索」欄に 本製品の IP アドレスかサーバー名を入力します。

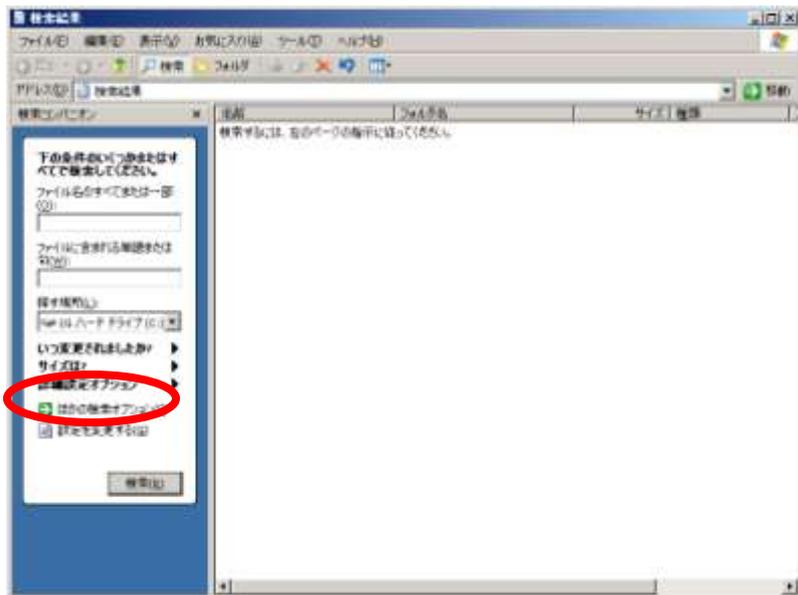


③ 検索欄の右隣の  ボタンをクリックし見つかったコンピュータのアイコンをダブルクリックすると共有フォルダが現れます。

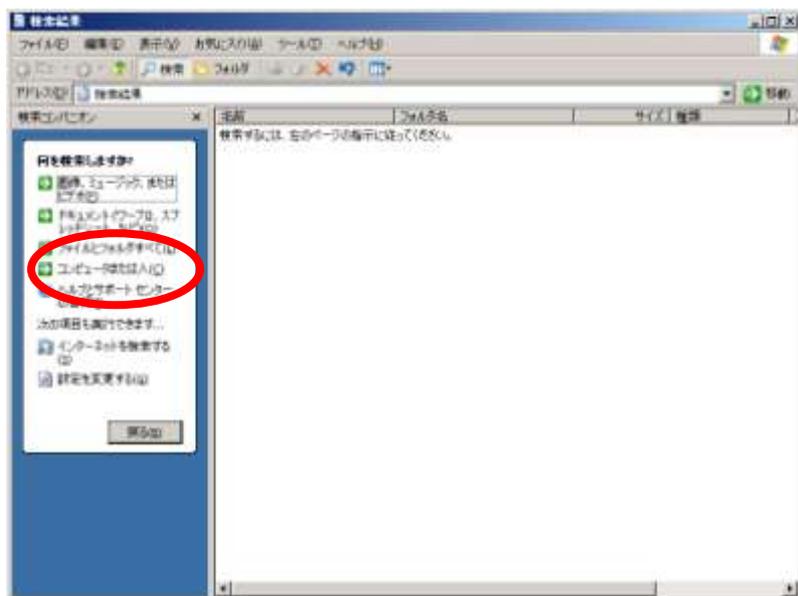
○Windows(Storage)Server2003(R2)からのアクセス(SMB 共有)

※WindowsStorageServer2003 の場合はリモートデスクトップ画面にアクセスしてください。

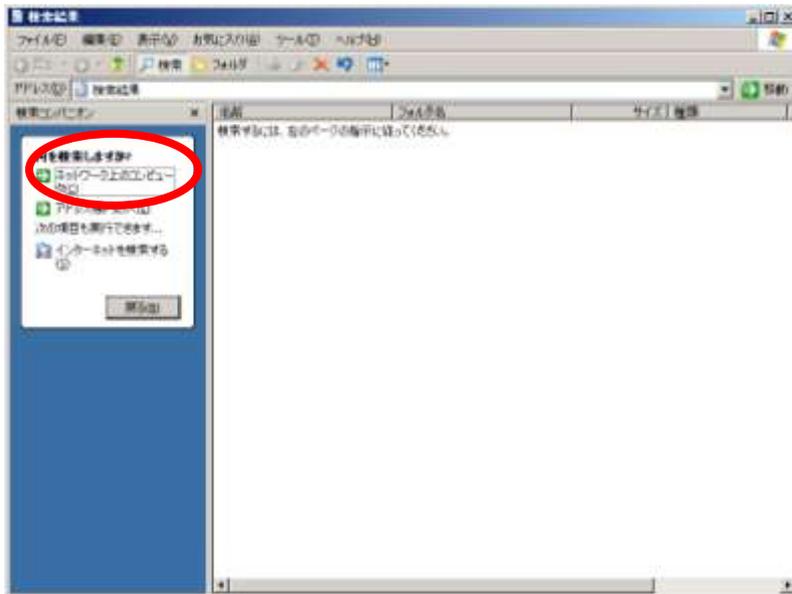
- ①「スタート」ボタンをクリックし、「検索(S)」をクリック、検索結果ウインドウを開き、「ほかの検索オプション(S)」をクリックします



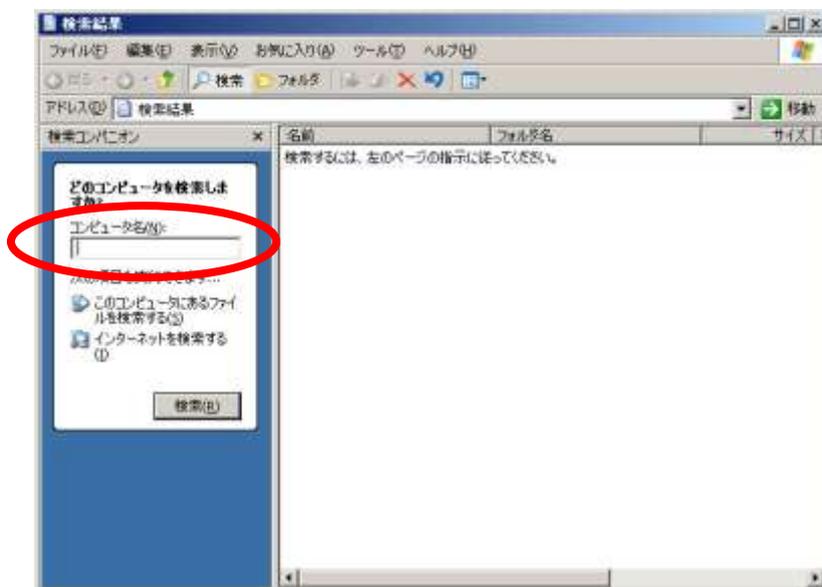
- ② 検索コンパニオンより「コンピュータ又は人」をクリックします



③次に検索コンパニオンより「ネットワーク上のコンピュータ」をクリックします。



④コンピュータ名の欄に 本製品の IP アドレスかサーバー名を入力し、検索ボタンをクリックすると共有フォルダが現れます。



○MacOS X からのアクセス(SMB 共有)

- ①「移動」から「サーバーへ接続」を選択し、ウインドウを開きます。
- ②以下の画面が表示されます。サーバアドレス欄に本製品の IP アドレスかサーバー名を入力し、「接続」をクリックします。(例: smb://<サーバー名または IP アドレス>)



- ③ユーザー名とパスワードを求めてきますので、特に本製品にユーザー登録していなければ guest を選択します。
- ④共有ボリューム選択画面が現れますので、利用したいボリュームを選択します。

○Linux からのアクセス(NFS 共有)

Linux からのディスク共有は、NFS 形式で提供しますので、Linux のシェルコマンドラインより mount コマンドで本製品の共有フォルダをマウントさせます。
コマンドラインはバージョンなどにより異なりますので OS のマニュアルで確認願います。

例> RedHat6.2 の場合

```
mount -t nfs logitecnas:/public /mnt
```

logitecnas: 本製品のサーバー名

public: 本製品の NFS 共有ボリューム名

付 録

○トラブルシューティング

- 管理画面へアクセスできない場合がある/アクセスが非常に遅い
 - 同セグメントのEthernet上に本製品と同じホスト名(サーバー名)のデバイスがありませんか？
もし、ある場合はホスト名(サーバ名)を変更してください。

- いつまで経ってもシステムが起動しない
 - ディスクアクセスが無くいつまでもシステムが起動しない場合は、前面の電源スイッチで電源を5秒以上長押しし、一旦OFFにした後、再度10秒程時間をおいてから電源をONにしてください。

- パスワードを忘れてしまった
 - ユーザパスワードの場合、管理者が管理画面でユーザー項目のローカルユーザーメニューの中のパスワード設定でパスワードを再登録してください。
 - 管理者のパスワードを忘れた場合は、管理画面にアクセスできなくなります。修正するには、添付のリカバリーメディアでシステムを出荷時状態にリカバリーしていただくか、お客様にてデータをバックアップ後弊社にお送りいただき、出荷時状態にてお戻し致します。(有償)
※ この作業はオンサイト保守の対象外となりますので、管理者パスワードの管理には充分ご注意ください。

- フォルダ/ファイルが削除できない
 - フォルダ/ファイルの属性の「読み取り専用」にチェックがついていませんか？
ついている場合はチェックをはずしてください。
 - 削除しようとしているフォルダは共有ボリュームではないですか？
共有ボリュームの場合は共有設定を解除してからフォルダを削除してください。

7.設定制限表

		本製品推奨値	8.1/8/7/Vista	XP	Win2000	Server2003	MacOSX10.5.2～	Linux (RedHat6.2)	
サーバー名	最大文字数	半角15文字※2							
	使用可能文字数	英字(大文字小文字の区別無し)、数字、マイナス。 (下線利用可能だがMS製DNSサーバーを利用しない限り、標準文字以外の文字を含む名前を使用すると別のユーザーがこのサーバーを見つけることが出来なくなる)							
	その他制限事項	使用できない文字「`~!@#\$%^&*()=+[]{} :;"/<>/?」							
アカウント名	最大文字数	半角20文字							
	使用可能文字	英字(大文字小文字区別無し)、数字、ドット、下線、マイナス、全角日本語							
	その他制限事項	全角文字は機種依存文字を使用しないこと							
パスワード	最大文字数	50文字まではOKであることを確認							
	使用可能文字	英字(大文字小文字の区別あり)、数字、記号、スペース							
	その他制限事項	全角文字使用不可、adminパスワード省略不可							
コメント	最大文字数	半角256文字							
	使用可能文字	英字(大文字小文字の区別あり)、数字、ドット、下線、マイナス、スペース、全角日本語							
	その他制限事項	全角文字は機種依存文字を使用しないこと							
グループ名	最大文字数	半角256文字							
	使用可能文字	英字(大文字小文字の区別無し)、数字、ドット、下線、マイナス、スペース、全角日本語							
	その他制限事項	使用できない文字「¥/[]:;<+=:,*@」 ※先頭を英字、数字、ドット、下線、全角日本語にすること(先頭にスペースを入れても削除されてしまう)							
共有フォルダ	最大文字数	OSに依存	半角80文字/ 全角40文字				※3		
	使用可能文字	英字(大文字小文字の区別無し)、数字、ドット、下線、マイナス、スペース、全角日本語							
	その他制限事項	使用できない文字「¥/[]:;<+=:,*@」使用不可							
フォルダ名	最大文字数	OSに依存	半角・全角222文字	半角・全角221文字	半角・全角222文字	(smb:半角255文字)	半角255文字		
	使用可能文字	OSに依存	英字(大文字小文字の区別無し)、数字、一部記号、スペース、全角日本語					英字(大文字小文字の区別無し)、数字、一部記号、スペース	
	その他制限事項	OSに依存	機種依存文字使用不可、半角記号「¥/;:,*?<>」使用不可					全角未対応、半角記号「!*,? \$&()<>」使用不可	
ファイル名	最大文字数	OSに依存	半角・全角230文字	半角・全角229文字	半角・全角230文字	(smb:半角251文字)	半角251文字		
	使用可能文字	OSに依存	英字(大文字小文字の区別無し)、数字、一部記号、スペース、全角日本語					英字(大文字小文字の区別無し)、数字、一部記号、スペース	
	その他制限事項	OSに依存	機種依存文字使用不可、半角記号「¥/;:,*?<>」使用不可					全角未対応、半角記号「!*,? \$&()<>」使用不可	
1ファイル容量上限		OSに依存							
フォルダ階層数		OSに依存							
登録可能共有フォルダ		無制限							
登録可能アカウント数		50							
登録可能グループ数		無制限							

※1:Linuxでの共有はアカウント名/パスワードで管理しないので対象外。

※2:作成は半角20文字まで可能ですが、最大半角12文字以内で作成しないとネットワークから参照不可。

※3:管理画面アクセス不可のため直接作成は不可(Windowsクライアントにて作成が必要)